国際ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科

専門教育科目

講義科目名称：国際コミュニケーション学科ゼミナール　　授業コード：2011

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	国専：必修
担当教員			
国際コミュニケーション学科専任教員			
Subject Code：E21A01			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	立派な社会人になるための知識とマナーの習得、コミュニケーション能力向上のための演習を実施し、就職や今後の人生に備えて学習を積み重ねます。プロジェクト型学習（PBL：Project Based Learning）、グループ活動を多く取り入れ、ひとつの目標に向かって仲間と協力しあうこと、PDCAサイクルをまわすことも学びます。 (授業目標) ○A：グループワークで各メンバーの理解が深まるよう、主体的に責任を果たすことができる。 ◎B：グループ討議や、討議結果のプレゼンテーションなどにより、自分の主張を分りやすく伝えることができる。 E：分析加工した情報を効果的に伝える資料として作成できる。
授業計画	1　産学連携プロジェクト①(高橋)(グループワーク：グループに分かれての課題解決) グループを作成し、それぞれで課題を発見する グループ毎の課題を決定する 浮き彫りになった課題に対して、解決するための方策をグループで考える① 2　TOITA Fesキックオフ／避難訓練(3学科共通) TOITA Fesについての概要説明 避難訓練を実施する 3　産学連携プロジェクト②(高橋)（プレゼンテーション） 課題成果発表会 グループ毎にプレゼンテーションを行い選考を行う。 4　産学連携プロジェクト③(高橋)／地域探索プロジェクト「戸板の歩き方」①(ボテフ)(グループワーク：グループに分かれての課題解決) 浮き彫りになった課題に対して方策をグループで考え解決する② 大学または近郊で紹介したい場所や授業などを選択し、紹介することでより地域を理解する① 5　産学連携プロジェクト④(高橋)／地域探索プロジェクト「戸板の歩き方」③(ボテフ)(プレゼンテーション) 成果発表会。グループ毎にプレゼンテーションを行う 6　戸板祭（産学連携プロジェクト／地域探索プロジェクト）振り返り(高橋) 戸板祭（産学連携プロジェクト／地域探索プロジェクト）の振り返りを行い、反省点や今後の改善点を明確にする 7　PBL（ボテフ）（グループワーク：グループに分かれての課題解決）(WebClassを通じて資料を提出する) プロジェクト型学習（PBL：Project Based Learning） 8　PBL（ボテフ）（グループワーク：グループに分かれての課題解決）(WebClassを通じて資料を提出する) プロジェクト型学習（PBL：Project Based Learning） 9　PBL（ボテフ）（グループワーク：グループに分かれての課題解決）(WebClassを通じて資料を提出する) プロジェクト型学習（PBL：Project Based Learning） 10　特別講演（菊池桃子客員教授）（3学科共通） 女性の働き方・キャリア 11　ICT特別講義（別宮） 情報の扱い方など、社会人として再度学ぶべきことを確認する 12　民法講座（ゲスト講師）（3学科共通） 民法に関する講義を聞く 13　英語／ICT資格試験講座（ボテフ） 英語とICT資格対策として問題演習を行う 14　PROG テスト PROGテストを実施する 15　短大2年間の振り返り（別宮） 短大生活2年間を振り返り、社会人としてどのような人生を歩むのかを考える。
到達目標・基準	○A：グループメンバーとしての発言ができる。 ◎B：用意したスライドを活用してプレゼンテーションができる。 E：ICTを活用して情報を収集することができる。
事前・事後学習	事前：各回のテーマとなる内容についてリサーチしてくる。特にPBLに関しては、プロジェクトの進捗状況を確認し、グループ内でのタスクを整理しておく。（約60分） 事後：次回までに進めておくべきことをリストアップし、必要に応じて更なるリサーチを行う。（約60分）
指導方法	各回の内容に応じて、講義、演習などさまざまな方法で実施します。 フィードバックの方法：WebClassを使用して授業内で評価を行い指導する場合と、後日評価内容に従って指導

	する場合がある。
成績評価の方法・基準	Ａ：グループによるPBLの過程を評価する。 Ｂ：PBLの最終プレゼンテーションを評価する。 Ｅ：ICTを活用して作成された資料を評価する。 授業での発言やプレゼンテーション作成時の貢献度 40% プレゼンテーション 40% 課題 20%
テキスト	なし
参考書	授業で指示する。
履修上の注意	掲示される授業に関する指示に従い、毎回きちんと受講して下さい。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション
ＩＣＴの活用	WebClass

講義科目名称：Freshman English：Basic（S）　　授業コード：2022

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	国専：必修
担当教員			
森田千草			
Subject Code：E12A02			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	この授業では、基礎的な英語コミュニケーション能力の養成を目指す。英語運用力を向上させるために、話されたり書かれたりした英語を正確に理解する訓練を行う。また、自分の言いたいことを伝えるために、正確な文法知識を身につける。最終的に、自分自身や身近な話題について英語でスピーチやプレゼンテーションができるようになることを目指す。 (授業目標) ◎B：場面に応じた適切な語彙や表現を用いて、英語で十分に意思疎通を図ることができる。 ○E：80語程度の英語を用いて、聞き手に向かって分かりやすいスピーチやプレゼンテーションをすることができる。
授業計画	1　オリエンテーション 授業の進め方とテキストの説明を行う。 2　Unit 1 College Life (I)　(グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習) 大学生活に関する会話文の聞き取りや文章の読解を行う。文の強勢やポーズ、品詞について学ぶ。 3　Unit 2 College Life (II)　(グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習) 大学生活(履修登録)に関する会話文の聞き取りや文章の読解を行う。英語のリズム、自動詞と他動詞について学ぶ。 4　Unit 3 Hobbies　(グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習) 趣味に関する会話の聞き取りや文章の読解を行う。イントネーション、5文型について学ぶ。 5　Unit 4 Romance　(グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習) 恋愛に関する会話の聞き取りや文章の読解を行う。消える音、現在形と過去形について学ぶ。 6　Unit 5 Transportation　(グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習) 格安航空券に関する会話の聞き取りや文章の読解を行う。消える音、未来を表す表現について学ぶ。 7　Unit 6 Business　(グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習) インド料理店の経営者に関する会話の聞き取りや文章の読解を行う。消える音、進行形について学ぶ。 8　Unit 7 Society　(グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習) グローバル自立支援革命に関する会話の聞き取りや文章の読解を行う。つながる音、完了形について学ぶ。 9　Unit 8 Health　(グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習) アキレス腱断裂に関する会話の聞き取りや文章の読解を行う。つながる音、助動詞について学ぶ。 10　Unit 9 The Environment　(グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習) アルミ缶リサイクルに関する会話の聞き取りや文章の読解を行う。つながる音、受動態について学ぶ。 11　Unit 10 Medicine　(グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習) 代替医療に関する会話の聞き取りや文章の読解を行う。音の同化、不定詞について学ぶ。 12　Unit 11 Finance　(グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習) 金融界の二大巨頭に関する会話の聞き取りや文章の読解を行う。音の同化、分詞について学ぶ。 13　Unit 12 Shopping　(グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習) スマート・ショッピングに関する会話の聞き取りや文章の読解を行う。弱形と強形、動名詞について学ぶ。 14　Unit1－12のまとめ Unit 1-12で学んだ語彙や表現、文法の復習をする。また、Final Presentationの原稿の作成と口頭練習を行う。 15　Final Presentation　(プレゼンテーション：与えられたトピックについて1分間のプレゼン発表会) これまで扱ったトピックの中から1つ選び、1分間のプレゼンテーションを行う。
到達目標・基準	◎B：　大学生にとって身近な話題についての会話を聞き取ることができる。 ○E：　自分の生活や趣味について50語程度の英語にまとめ、人前で伝えることができる。
事前・事後学習	事前学習：分からない語彙や表現を調べる。(約30分) 事後学習：語彙や表現、文法を復習し、授業で扱った英文をスムーズに読めるようになるまで音読する。(約60分)
指導方法	ディクテーションやロールプレイングなどさまざまな演習を行うことにより、基本的なリスニング力とスピーキング力の養成を目指す。また、300語程度で書かれた英文の読解や問題演習を通して、コミュニケーションに必要な基本的な語彙や文法知識を身につける。毎回確認のための小テストを実施する。 フィードバックの方法：①小テストの実施とその採点評価、②小テストの採点評価についての質疑対応、③1分間プレゼンテーションの実施とそれに対するコメント

成績評価の方法・基準	◎B： 授業貢献度や統一単語テストの成績、プレゼンテーションの完成度で評価する。 ○E： 小テストや定期試験の成績で評価する。 授業への貢献度 20% 小テスト 15% 統一単語テスト 20% プレゼンテーション 15% 定期試験 30%
テキスト	Power-Up English 〈Pre-Intermediate〉, JACET Listening Study Group, 南雲堂, 2015.
参考書	授業中に指示する。
履修上の注意	ペアやグループでの演習を中心に授業を進めるため、積極的に参加する姿勢を求める。確認のための小テストを毎回実施する。また授業の際には必ず英和辞典(携帯電話・スマートフォンの使用は認めない)を持参すること。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：Freshman English：Basic（R）　　授業コード：2024

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	国専：必修
担当教員			
高橋大樹			
Subject Code：E12A02			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	英語でのアウトプットのために必要な重要文法事項を解説しながら、主にスピーキングとリスニングの練習を繰り返していきます。ほぼ毎回、口頭でのボキャブラリーテストを行います。自分の言いたいことを正確に伝えるためには正しい英文を身につけることが重要ですので、英語の一文やスピーチの暗唱を実施し、英語運用が少しでもスムーズになるよう指導します。 (授業目標) ◎B：英語でのコミュニケーション力を高めて、積極的に英語を運用し、スムーズな意思疎通を図ることができる。 ○E：リスニング力とスピーキング力を高めて、50words程度の正確な英語を話すことができる。
授業計画	1　オリエンテーション 授業概略説明、e-learningの使用について 2　Unit1: Welcome to the "Big Apple"（ペアワーク：各ペアで会話を発表する） Getting Ready, Conversation, Breaking Down the Grammar「現在形」 3　Unit1: Welcome to the "Big Apple"（e-learning:小テストで前回授業の理解度を測る） Grammar Checking, Reading, Wrap-Up Writing 4　Unit2: What's the Boss like?（ペアワーク：各ペアで会話を発表する） Getting Ready, Conversation, Breaking Down the Grammar「代名詞」 5　Unit2: What's the Boss like?（e-learning:小テストで前回授業の理解度を測る） Grammar Checking, Reading, Wrap-Up Writing 6　Unit3: Masa's First Day on the Job（ペアワーク：各ペアで会話を発表する） Getting Ready, Conversation, Breaking Down the Grammar「前置詞」 7　Unit3: Masa's First Day on the Job（e-learning:小テストで前回授業の理解度を測る） Grammar Checking, Reading, Wrap-Up Writing 8　Unit4: Summer Fun（ペアワーク：各ペアで会話を発表する） Getting Ready, Conversation, Breaking Down the Grammar「過去形」 9　Unit4: Summer Fun（e-learning:小テストで前回授業の理解度を測る） Grammar Checking, Reading, Wrap-Up Writing 10　Unit5: Hotel Guest Satisfaction（ペアワーク：各ペアで会話を発表する） Getting Ready, Conversation, Breaking Down the Grammar「可算名詞・不可算名詞」 11　Unit5: Hotel Guest Satisfaction（e-learning:小テストで前回授業の理解度を測る） Grammar Checking, Reading, Wrap-Up Writing 12　Unit6: Brainstorming（ペアワーク：各ペアで会話を発表する） Getting Ready, Conversation, Breaking Down the Grammar「進行形」 13　Unit6: Brainstorming（e-learning:小テストで前回授業の理解度を測る） Grammar Checking, Reading, Wrap-Up Writing 14　Unit7: Glad to be of Service（ペアワーク：各ペアで会話を発表する） Getting Ready, Conversation, Breaking Down the Grammar「WH疑問文」, Wrap-Up Writing 15　Final Presentation（プレゼンテーション：全員が必ず発表する） これまでに学習した文法や英文をもとにスピーチを行う
到達目標・基準	◎B：英語コミュニケーション力を高め、英語で自己紹介など簡単なコミュニケーションをとることができる。 ○E：スピーキング力を向上させて疑問詞を使用した質問文を使うことができ、30words程度の分量で自分の意見を話すことができる。
事前・事後学習	事前学習：授業時に出された指示に従い行うこと。授業内で扱う単語や文法の予習をあらかじめ調べる。（30分） 事後学習：授業内で行ったリスニングの復習並びにプレゼンテーションの準備を行う。e-learningソフトを使用して、小テストを実施するのでその準備を行う。（60分）
指導方法	話す力と聴く力をバランスよくつけるために教科書を2冊毎回使用します。単語力をつけることが、英語力アップのためにはとても大切なので、ほぼ毎回単語テストをします。英語を話すことに慣れるためにプレゼンテーションやスピーチも行います。 授業課題のフィードバックの方法：①小テストの実施（e-learning）　②授業後における質疑対応
成績評価の方法・基準	◎B：授業への貢献度、統一単語テスト、プレゼンテーションで評価します。 ○E：小テスト、定期試験で評価します。 授業への貢献度 20% 小テスト 15%

	統一単語テスト 20% プレゼンテーション 15% 定期試験 30%
テキスト	Robert Hickling et al. English Missions! Basic, 金星堂、2019. 桐原書店編集部、HyperListening 10-minutes English Listening Training Elementary 3rd Edition, 桐原書店、2012.
参考書	授業中に指示します。
履修上の注意	毎回の授業で分からないところがあったら、その場ですぐに質問すること。また、分からない単語は事前に辞書で確認しましょう。ミスを恐れずに積極的に英語を使ってください。なお、毎回授業には必ず辞書を持参すること。
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、プレゼンテーション
ＩＣＴの活用	教科書付属のe-learningソフト

講義科目名称：Freshman English：Basic (U)　　授業コード：2021

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	国専：必修
担当教員			
Peter Davies			
Subject Code：E12A02			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	This course is designed to help students communicate fluently and confidently in English. It develops language skills through the use of vocabulary , grammar, topics and images. Learners will begin the topic with a video introduction to each Unit. There will be exercises in speaking, listening, reading and writing. Students must practice using the language and grammar with each other in pair work and role play situations. To attain an A grade in this class students will be expected to show a high level of understanding of the language and grammar learnt and be able to demonstrate effective usage with each other and the teacher. (Goals) ◎B: This course is designed to help students improve their English language ability so they can communicate more confidently and fluently. ○E: Students can make a presentation in about 90 words.
授業計画	1 Introduction to the text and course.classroom language, behavior and expectations.. (All students Pair work, interview). Lesson A. Getting to know you. Asking for personal information. Giving personal information. Asking follow up questions to create conversation. 2 Unit 1.People (All students. Pair work, dialogue, listen and repeat.) Lesson B. Appearance Simple present tense. Describing appearance using be/have 3 Unit 2 Actions (All students. Pair work dialogue, listen and repeat) Lesson A. Actions. Present continuous tense. 4 Unit 2 Behavior (All students. Pair work dialogue.) Lesson B. Feelings and gestures. Present continuous tense. Subject and Object pronouns 5 Unit 3. Shopping (All students listen an repeat pronunciation and intonation) Lesson A. At the market. Count and noncount nouns 6 Unit 3 (All students group work, discussion, negotiation and agreement.) Lesson B. Lets go shopping. Quantifiers with affirmative and negative statements. 7 Unit 4. Vacation (All students pair work giving advice.) Lesson A. Weather. Connecting ideas with but, or and so. 8 Unit 4 (All students listening for gist and detail.) Lesson B. Traveling. Possessive adjectives. Possessive pronouns; belong to. 9 Unit 5. Heroes (Group work agreeing and disagreeing, giving an opinion.) Lesson A .Pioneers. The simple past tense with be. _ed endings, regular verbs. 10 Unit 5 (All students pair work question and answer) Lesson B. Personal heroes. The simple past affirmative and negative statements. 11 Unit 6. The Mind (Group work expressing degrees of certainty) Lesson A. Memory. The simple past. Affirmative and negative statements (irregular verbs). 12 Unit 6 (All students pair work interview classmate) Lesson B. Sleep. The simple past tense; question forms. 13 Notebook check Notebooks will be checked for completed writing tasks and vocabulary list. Example written exercises in preparation for final test in week 16. 14 Key points of Units 1 to 3 (All students pair work peer editing) Key grammar and vocabulary quiz 15 Key points of Units 4 to 6 (All students pair work peer editing and marking) Key grammar and vocabulary quiz.
到達目標・基準	The students will need to demonstrate a continued effort in class and to maintain a notebook with

	each lessons grammar and new vocabulary. Students need to demonstrate a basic usage of language for simple communication tasks. ◎Ｂ: Students will be able to study and practice useful vocabulary and grammar and learn how to use it to communicate effectively. ○Ｅ: Students can make a presentation in about 55 words.
事前・事後学習	Some exercises from the text will be set as homework to do before class.(30 mins) After class, students will be expected to review the key language and grammar at the end of each unit in preparation for the Unit quiz. (60 mins) Students will also keep a notebook for writing assignments and for new vocabulary.
指導方法	Lessons are taught in English only. Students are expected to work in pairs and small groups. Each unit in the text is divided between two lessons. There is a speaking, listening, reading and writing element in each lesson. Fun tasks and activities will provide students the chance to practice using the target language. All students will receive ongoing personal feedback in class about their participation. Students will check, mark and receive scores of all quizzes and tests in class. Any writing assignment will be collected, edited and returned with grade.
成績評価の方法・基準	◎Ｂ: Participation, Vocabulary Test, Presentation ○Ｅ: Quiz, Final Exam Participation 20% Quiz 15% Vocabulary Test 20% Presentation 15% Final Exam 30%
テキスト	World Link 1. Developing English Fluency, 3rd Edition. Nancy Douglas, 2016. CENGAGE Learning 5-Minute Quizzes for the TOEIC Test: Listening 3. (MACMILLAN LANGUAGEHOUSE, 2010)
参考書	Students will need a dictionary, Japanese / English / Japanese and need a notebook.
履修上の注意	Students are expected to participate in all activities and be prepared to work in pairs and small groups. Try your best and don't be shy. Enjoy the chance to practice communicating in English.
アクティブ・ラーニング	Pair work, practice conversation and role play. Listen and repeat, intonation and pronunciation. Group work discussion, negotiation and consensus. Listening for gist and detail. Peer checking and marking of quizzes and unit reviews.
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：Freshman English：Basic（T）　　授業コード：2023

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	国専：必修
担当教員			
玉川　明日美			
Subject Code：E12A02			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	この授業は、英語コミュニケーション力、特に話すこと聴くことの基礎を学ぶ授業です。テキストにおける各ユニットのWarming-Up, Listening, Vocabularyのセクションに沿って授業を進めます。毎回確認のための単語テストを行います。人前で英語を話すことができるようになるために、ペアワーク、ロールプレイ、スピーチも行います。 (授業目標) ◎B：長い会話文の主旨を一度で理解し内容を正確に把握することができる。 ○E：正確な英語の発音・イントネーションで70words程度の分量で自分の考えを話すことができる。
授業計画	1　Unit 1: Nice to meet you! (ペアワーク) Meeting and greeting people 2　Unit 1: Nice to meet you! (ペアワーク) Listening Clinics: Sentence Stress 3　Unit 2: Could you say that again? (ペアワーク) Language for the classroom 4　Unit 2: Could you say that again? (ペアワーク) Listening Clinics: Weak Forms 5　Unit 3: I've lived here all my life (ペアワーク) Talking about family history and neighborhoods 6　Unit 3: I've lived here all my life (ペアワーク) Listening Clinics: Linking Sounds 7　Unit 4: Do you have a reservation? (ペアワーク) Checking into a hotel 8　Unit 4: Do you have a reservation? (ペアワーク) Listening Clinics: Sentence Stress 9　Unit 5: I'd like a coffee please (ペアワーク) Ordering some food and drink 10　Unit 5: I'd like a coffee please (ペアワーク) Listening Clinics: Weak forms 11　Unit 6: Can I try this on? (ペアワーク) Shopping for clothes 12　Unit 6: Can I try this on? (ペアワーク) Listening Clinics: Linking Sounds 13　Unit 7: When would you like to fly? (ペアワーク) Buying an airline ticket 14　Unit 7: When would you like to fly? (ペアワーク) Listening Clinics: Mixed Sounds 15　Final Speech (スピーチ) Final Speech of Daily Life
到達目標・基準	◎B：短い会話文を聴き、おおまかな内容を理解することができる。 ○E：40words程度の分量で自分の考えを話すことができる。
事前・事後学習	事前学習：単語テストの勉強と、翌週の授業範囲の単語等の意味を調べた上で、英文を音読する。（約30分） 事後学習：単語の復習並びに授業で扱った英文をスムーズに読めるまで音読する。（約60分）
指導方法	単語力をつけるために、毎回単語テストをします。英語を話すことに慣れるためにペアワーク、ロールプレイ等を行います。 毎回の授業における気づきや振り返り、課題等を自己評価シートに記録させ、習熟度を段階的にかつ具体的に自己分析していきながら、英語力の向上を目指します。自己評価シートは、一人一人にコメントをした上で、翌週授業時に返却します。
成績評価の方法・基準	◎B：授業への貢献度・統一単語テスト・プレゼンテーションで評価します。 ○E：小テスト・定期試験で評価します。 授業への貢献度 20% 小テスト 15% 統一単語テスト 20% プレゼンテーション 15% 定期試験 30%

テキスト	Chris Cleary. TOP-UP Listening 1. (abax, 2014)
参考書	
履修上の注意	毎回授業には必ず辞書を持参すること。なお、分からない単語は授業前に辞書で確認しておくこと。
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、スピーチ
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：Freshman English：Intermediate（S）　　授業コード：2032

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：必修
担当教員			
森田千草			
Subject Code：E12A03			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	この授業では、基礎的な英語コミュニケーション能力の養成を目指す。英語運用力を向上させるために、話されたり書かれたりした英語を正確に理解する訓練を行う。また、自分の言いたいことを伝えるために、正確な文法知識を身につける。最終的に、自分自身や身近な話題について英語でスピーチやプレゼンテーションができるようになることを目指す。 (授業目標) ◎B：場面に応じた適切な語彙や表現を用いて、英語で十分に意思疎通を図ることができる。 ○E：150語程度の英語を用いて、聞き手に向かって分かりやすいスピーチやプレゼンテーションをすることができる。
授業計画	1　オリエンテーション / Unit 13 Careers （グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習） 授業の進め方とテキストの説明を行う。 就職活動に関する会話文の聞き取りや文章の読解を行う。notの短縮形の聞き取り、形容詞と副詞について学ぶ。 2　Unit 14 Art （グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習） 芸術に関する会話文の聞き取りや文章の読解を行う。be動詞と助動詞の短縮形の聞き取り、名詞と代名詞について学ぶ。 3　Unit 15 Culture （グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習） 日本の祭りに関する会話文の聞き取りや文章の読解を行う。疑問詞の聞き取り、前置詞について学ぶ。 4　Unit 16 Population （グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習） 少子化に関する会話の聞き取りや文章の読解を行う。展開を予測しながら聞く方法や疑問詞について学ぶ。 5　Unit 17 Disasters （グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習） 災害に関する会話の聞き取りや文章の読解を行う。無声音化や有声音化、いろいろな否定について学ぶ。 6　Unit 18 Travel （グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習） 旅行に関する会話の聞き取りや文章の読解を行う。紛らわしい音、名詞構文と無生物主語構文について学ぶ。 7　Unit 19 Sports （グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習） スポーツに関する会話の聞き取りや文章の読解を行う。数量表現、比較表現(原級・比較級・最上級)について学ぶ。 8　Unit 20 Life （グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習） 生活の質に関する会話の聞き取りや文章の読解を行う。数量表現、いろいろな比較表現について学ぶ。 9　Unit 21 Entertainment （グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習） TVなどの娯楽に関する会話の聞き取りや文章の読解を行う。知っているつもりの英語、関係代名詞について学ぶ。 10　Unit 22 Language （グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習） 日本語における借用語に関する会話の聞き取りや文章の読解を行う。通じているつもりの英語、関係副詞について学ぶ。 11　Unit 23 Science （グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習） 科学の目的に関する会話の聞き取りや文章の読解を行う。アメリカ英語の特徴、仮定法(仮定法過去・仮定法過去完了)について学ぶ。 12　Preparation for TOEIC IP Review TOEIC Listening & Reading Sections 13　Unit 24 Technology （グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習） 言語ロボットに関する会話の聞き取りや文章の読解を行う。アメリカ英語の特徴、いろいろな仮定表現について学ぶ。 14　Unit 13-24のまとめ Unit 13-24で学んだ語彙や表現、文法の復習をする。また、Final Presentationの原稿の作成と口頭練習を行う。 15　Final Presentation （プレゼンテーション：与えられたトピックについて1分間のプレゼン発表会） これまで扱ったトピックの中から1つ選び、1分間のプレゼンテーションを行う。
到達目標・基準	◎B：　身近な話題についての会話を聞き取ることができる。 ○E：　文化やスポーツについて90語程度の英語にまとめ、人前で伝えることができる。
事前・事後学習	事前学習：分からない語彙や表現を調べる。（約30分） 事後学習：語彙や表現、文法を復習し、授業で扱った英文をスムーズに読めるようになるまで音読する。（約60分）
指導方法	ディクテーションやロールプレイングなどさまざまな演習を行うことにより、基本的なリスニング力とスピー

	キング力の養成を目指す。また、300語程度で書かれた英文の読解や問題演習を通して、コミュニケーションに必要な基本的な語彙や文法知識を身につける。毎回確認のための小テストを実施する。 フィードバックの方法: ①小テストの実施とその採点評価、②小テストの採点評価についての質疑対応、③1分間プレゼンテーションの実施とそれに対するコメント
成績評価の方法・基準	◎Ｂ： 授業貢献度やTOEICの成績、プレゼンテーションの完成度で評価する。 ○Ｅ： 小テストや定期試験の成績で評価する。 授業への貢献度 20% 小テスト 15% TOEIC 20% プレゼンテーション 15% 定期試験 30%
テキスト	Power-Up English <Pre-Intermediate>, JACET Listening Study Group, 南雲堂, 2015.
参考書	授業中に指示する。
履修上の注意	ペアやグループでの演習を中心に授業を進めるため、積極的に参加する姿勢を求める。確認のための小テストを毎回実施する。また授業の際には必ず英和辞典(携帯電話・スマートフォンの使用は認めない)を持参すること。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：Freshman English：Intermediate（R）　　授業コード：2034

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：必修
担当教員			
高橋大樹			
Subject Code：E12A03			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	英語でのアウトプットのために必要な重要文法事項を解説しながら、主にスピーキングとリスニングの練習を繰り返していきます。ほぼ毎回、口頭でのボキャブラリーテストを行います。自分の言いたいことを正確に伝えるためには正しい英文を身につけることが重要ですので、英語の一文やスピーチの暗唱を実施し、英語運用が少しでもスムーズになるよう指導します。 (授業目標) ◎B：英語でのコミュニケーション力を高めて、積極的に英語を運用し、スムーズな意思疎通を図ることができる。 ○E：リスニング力とスピーキング力を高めて、70words程度の正確な英語を話すことができる。
授業計画	1　Unit8: Socializing wih Co-Workers（ペアワーク：各ペアで会話を発表する） Getting Ready, Conversation, Breaking Down the Grammar「動名詞・不定詞」 2　Unit8: Socializing with Co-Workers（e-learning:小テストで前回授業の理解度を測る） Grammar Checking, Reading, Wrap-Up Writing 3　Unit9: Vacation Spots（ペアワーク：各ペアで会話を発表する） Getting Ready, Conversation, Breaking Down the Grammar「未来形」 4　Unit9: Vacation Spots（e-learning:小テストで前回授業の理解度を測る） Grammar Checking, Reading, Wrap-Up Writing 5　Unit10: Sports Talk（ペアワーク：各ペアで会話を発表する） Getting Ready, Conversation,Breaking Down the Grammar「比較級・最上級」 6　Unit10: Sports Talk（e-learning:小テストで前回授業の理解度を測る） Grammar Checking, Reading, Wrap-Up Writing 7　Unit11: Tour Day（ペアワーク：各ペアで会話を発表する） Getting Ready, Conversation, Breaking Down the Grammar「助動詞」 8　Unit11: Tour Day（e-learning:小テストで前回授業の理解度を測る） Grammar Checking, Reading, Wrap-Up Writing 9　Unit12: Party Time!（ペアワーク：各ペアで会話を発表する） Getting Ready, Conversation, Breaking Down the Grammar「現在完了形」 10　Unit12: Party Time!（e-learning:小テストで前回授業の理解度を測る） Grammar Checking, Reading, Wrap-Up Writing 11　Unit13: Office Meeting（ペアワーク：各ペアで会話を発表する） Getting Ready, Conversation, Breaking Down the Grammar「関係詞」 12　Unit13: Office Meeting（e-learning:小テストで前回授業の理解度を測る） Grammar Checking, Reading, Wrap-Up Writing 13　Unit14: A Bit of History（ペアワーク：各ペアで会話を発表する） Getting Ready, Conversation, Breaking Down the Grammar「受動態」 14　Unit14: A Bit of History（e-learning:小テストで前回授業の理解度を測る） Grammar Checking, Reading, Wrap-Up Writing 15　Final Presentation（プレゼンテーション：全員が必ず発表する） これまでに学習した文法や英文をもとにスピーチを行う
到達目標・基準	◎B：英語コミュニケーション力を高め、英語で自己紹介など簡単なコミュニケーションをとることができる。 ○E：スピーキング力を向上させて疑問詞を使用した質問文を使うことができ、40words程度の分量で自分の意見を話すことができる。
事前・事後学習	事前学習：授業時に出された指示に従い行うこと。授業内で扱う単語や文法の予習をあらかじめ調べる。（30分） 事後学習：授業内で行ったリスニングの復習並びにプレゼンテーションの準備を行う。e-learningソフトを使用して、小テストを実施するのでその準備を行う。（60分）
指導方法	話す力と聴く力をバランスよくつけるために教科書を2冊毎回使用します。単語力をつけることが、英語力アップのためにはとても大切なので、ほぼ毎回単語テストをします。英語を話すことに慣れるためにプレゼンテーションやスピーチも行います。 授業課題のフィードバックの方法：①小テストの実施（e-learning）　②授業後における質疑対応
成績評価の方法・基準	◎B：授業への貢献度、統一単語テスト、プレゼンテーションで評価します。 ○E：小テスト、定期試験で評価します。 授業への貢献度 20% 小テスト 15%

	TOEIC 20% プレゼンテーション 15% 定期試験 30%
テキスト	Robert Hickling et al. English Missions! Basic, 金星堂、2019. 桐原書店編集部、HyperListening 10-minutes English Listening Training Elementary 3rd Edition, 桐原書店、2012.
参考書	授業中に指示します。
履修上の注意	毎回の授業で分からないところがあったら、その場ですぐに質問すること。また、分からない単語は事前に辞書で確認しましょう。ミスを恐れずに積極的に英語を使ってください。なお、毎回授業には必ず辞書を持参すること。
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、プレゼンテーション
ＩＣＴの活用	教科書付属のe-learningソフト

講義科目名称：Freshman English：Intermediate (U)　　授業コード：2031

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：必修
担当教員			
Peter Davies			
Subject Code：E12A03			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	This course aims to help students communicate fluently and confidently in English.It develops language skills through the use of vocabulary,grammar,topics and images. Each unit begins with a video introduction exercise. Students aiming for A/S grade results will have to demonstrate effective use of the language and grammar and confidence in speaking. Accurate listening skills will also be required in addition to high scores in quizzes and the final test.They should be able to explain ten cultural differences between Japan and the U.S.A. (Goals) ◎B：This course is designed to help students improve their English language ability so they can communicate more confidently and fluently. ○E：Students can make a presentation in about 200 words.
授業計画	1 Unit 7 (All students pair work) Lesson A. My neighborhood. Prepositions of place. 2 Unit 7 (All students pair work, question and answer, listening for gist and detail.) Lesson B. Big cities. Questions and answers with How much/How many. 3 Unit 8 (All students pair work, dialogue). Lesson A. Sports. Verb + infinitive. Verb + noun 4 Unit 8 (All students, pair work interview). Lesson B. Personality. How often...? Frequency expressions. 5 Unit 9 (All students pair work, listen and repeat, pronunciation and intonation). Lesson A. Habits. Like to /Would like to 6 Unit 9 (All students, pair work, dialogue). Lesson B. Goals. The future with be going to. 7 Unit 10 (All students, pair work, listen and repeat/ role play). Lesson A. The body. Imperatives. 8 Unit 10 (All students , pair work,dialogue). Lesson B. Stress. When clauses. 9 Unit 11 (All students , group discussion). Lesson A. Talented people. Using can for ability. 10 Unit 11 (All students, pair work interview). Lesson B. Risk. Connecting ideas with because and so. 11 Unit 12 (All students, group work, discussion and consensus). Lesson A. At the movies. The present continuous as future. 12 Preparation for TOEIC IP Review TOEIC Listening & Reading Sections 13 Units 7 to 9 (All students peer edit results). Key grammar and vocabulary quiz. Notebooks will be collected and checked 14 Units 10 to 12 (All students peer edit results). Key grammar and vocabulary quiz. Notebooks will be graded. 15 Workbook exercises Vocabulary and grammar. Reading and writing. Preparation for the final test.
到達目標・基準	The students will be expected to participate to the best of their ability and understand the basics of the language and grammar studied. They should be able to use the basic structures to communicate with each other and be able to explain three cultural differences between Japan and the United States of America. ◎B：Students will be able to study and practice useful vocabulary and grammar and learn how to use it to communicate effectively. ○E：Students can make a presentation in about 120 words.

事前・事後学習	Some exercises from the text will be set as homework to do before class.(30 mins) After class, students will be expected to review the key language and grammar at the end of each unit in preparation for the Unit quiz.(60 mins) Students will also keep a notebook for writing assignments and for new vocabulary.
指導方法	Lessons are taught in English only. Students are expected to work in pairs and small groups.Each unit in the text is divided between two lessons.There is a speaking, listening, reading and writing element in each lesson. Fun tasks and activities will provide students the chance to practice using the target language. All students will receive ongoing personal feedback about their participation in class. Students will peer edit and receive scores of quizzes in class. Any writing assignments will be collected,marked and returned with grade and comment.
成績評価の方法・基準	◎Ｂ: Participation, Vocabulary Test, Presentation ○Ｅ：Quiz, Final Exam Participation 20% Quiz 15% TOEIC 20% Presentation 15% Final Exam 30%
テキスト	World Link 1. Developing English Fluency, 3rd Edition. Nancy Douglas, 2016. CENGAGE Learning 5-Minute Quizzes for the TOEIC Test: Listening 3. (MACMILLAN LANGUAGEHOUSE, 2010)
参考書	Students will need a dictionary, Japanese / English / Japanese and need a notebook.
履修上の注意	Students are expected to participate in all activities and be prepared to work in pairs and small groups. Try your best and don`t be shy. Enjoy the chance to practice communicating in English.
アクティブ・ラーニング	Pair work, practice conversation. Role play. Group work, discussion, consensus, opinions. Peer checking.
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：Freshman English：Intermediate（T）　　授業コード：2033

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：必修
担当教員			
玉川　明日美			
Subject Code：E12A03			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	この授業は、英語コミュニケーション力、特に話すこと聴くことの応用を学ぶ授業です。テキストにおける各ユニットのWarming-Up, Listening, Vocabularyのセクションに沿って授業を進めます。毎回確認のための単語テストを行います。人前で英語を話すことができるようになるために、ペアワーク、ロールプレイ、スピーチも行います。 (授業目標) ◎B：長い会話文の主旨を一度で理解し内容を正確に把握することができる。 ○E：正確な英語の発音・イントネーションで100words程度の分量で自分の考えを話すことができる。
授業計画	1　Unit 8: Now here's the weather（ペアワーク） Following a news broadcast 2　Unit 8: Now here's the weather（ペアワーク） Listening Clinics: Dropped Sounds 3　Unit 9: You have six messages（ペアワーク） Understanding messages 4　Unit 9: You have six messages（ペアワーク） Listening Clinics: Sentence Stress 5　Unit 10: Is there a bank near here?（ペアワーク） Asking for and following directions 6　Unit 10: Is there a bank near here?（ペアワーク） Listening Clinics: Weak Forms 7　Unit 11: How long did you work there?（ペアワーク） Doing a basic job interview 8　Unit 11: How long did you work there?（ペアワーク） Listening Clinics: Linking Sounds 9　Unit 12: Room service, how can I help you?（ペアワーク） Ordering food for delivery 10　Unit 12: Room service, how can I help you?（ペアワーク） Listening Clinics: Helping Sounds 11　Unti 13: When's the last train to New York?（ペアワーク） Asking questions and getting information Listening Clinics: Shared Sounds 12　Preparatin for TOEIC IP Review TOEIC Listening & Reading Sections 13　Unti 14: Passport please（ペアワーク） Coming through customs and Immigration 14　Unti 14: Passport please（ペアワーク） Listening Clinics: Dropped Sounds 15　Final Speech（スピーチ） Final Speech of Cultural Difference
到達目標・基準	◎B：短い会話文を聴き、おおまかな内容を理解することができる。 ○E：60words程度の分量で自分の考えを話すことができる。
事前・事後学習	事前学習：単語テストの勉強と、翌週の授業範囲の単語等の意味を調べた上で、英文を音読する。（約30分） 事後学習：単語の復習並びに授業で扱った英文をスムーズに読めるまで音読する。（約60分）
指導方法	単語力をつけるために、毎回単語テストをします。英語を話すことに慣れるためにペアワーク（ロールプレイ）等を行います。 毎回の授業における気づきや振り返り、課題等を自己評価シートに記録させ、習熟度を段階的にかつ具体的に自己分析していきながら、英語力の向上を目指します。自己評価シートは、一人一人にコメントをした上で、翌週授業時に返却します。
成績評価の方法・基準	◎B：授業への貢献度・TOEIC・プレゼンテーションで評価します。 ○E：小テスト・定期試験で評価します。 授業への貢献度 20% 小テスト 15% TOEIC 20% プレゼンテーション 15%

	定期試験 30%
テキスト	Chris Cleary. TOP-UP Listening 1. (abax, 2014)
参考書	
履修上の注意	毎回授業には必ず辞書を持参すること。なお、分からない単語は授業前に辞書で確認しておくこと。
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、スピーチ
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：Freshman English Writing：Basic (U)　　授業コード：2041

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	国専：必修
担当教員			
佐藤美保			
Subject Code：E12A04			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	使えるための英語表現力を身につけられるよう、学生にとって身近なテーマに関する英文を読むことで、リスニング力からリーディング力、およびライティング力を学習できる授業構成となっている。また、単語テストを毎回行うことで単語力アップを図る。TOEICリーディング対策も行う。 （授業目標） ○D：日本人と外国人との国の違いによって生じる意見の相違を学び、異文化理解を深める。一定のテーマについての知識を深める。 ◎E：一定のテーマについて、90語程度の英語の文章を書くことができる。
授業計画	1　Orientation Self Introduction 2　Cultural shock Cultural differences Group discussion 3　Preparation for TOEIC IP Review TOEIC Listening & Reading Sections 4　Gum: something to chew on (1) Chewing for a better grade Group discussion 5　Gum: something to chew on (2) A sticky problem Pair work 6　Reviews on Unit 1 and 2 Articles, Present simple questions 7　Today's technology (1) Profcasts Group discussion 8　Today's technology (2) CD vs Vinyl Pair work 9　Urban life (1) World's apart Group discussion 10　Urban life (2) Living in the city Pair work 11　Reviews Unit 3 Present simple and present progressive 12　Reviews Unit 4 Adverbs of frequency 13　They body beautiful (1) Beautiful people have better lives Pair work 14　They body beautiful (1) Big labels small prices Pair work 15　Writing a final essay Write a final essay of at least 55 words
到達目標・基準	○D：イギリス人、アメリカ人、台湾人、メキシコ人の国民性、いずれかについて英語で書くことができる。 現代のテクノロジーの一つであるMP3について、自分の意見を書くことができる。 ◎E：一定のテーマについて、55語程度の英語の文章を書くことができる。
事前・事後学習	事前の学習については授業時に出された指示に従い行うこと、翌週の授業で扱う単語・熟語をきちんと辞書で調べること。（約40分） 事後学習については単語の復習およびプレゼンテーションの準備を行うこと。（約60分）
指導方法	まず各課に出てくる重要単語を学び、話題への理解と単語力の強化を目指す。その後、実際のテキストを英文和訳にこだわらず、大切な情報を迅速に読み取り、要点を要約できるよう指導する。その後、内容把握のための練習問題を解き、ライティングの練習や基本的な文法事項を確認することで、英語力、単語力、読解力、そして思考力を身につけられるような授業を行う。 フィードバックの方法：①小テストの実施とその結果についてのコメント・質疑対応②ライティング課題の提出と課題に対するコメント

成績評価の方法・基準	○D：授業貢献度と統一単語テストの成績で評価する。 ◎E：ライティング課題の完成度、小テストと定期試験の成績で評価する。 授業への貢献度 20% 小テスト 15% 統一単語テスト 20% ライティング課題 15% 定期試験 30%
テキスト	Essential Reading 2, Jackie McAvoy　　Macmillan Language House Everyday Vocabulary Quizzes、佐藤誠司　　南雲堂
参考書	授業の時で指示する。
履修上の注意	毎週予習として単語テストの準備をし、それを踏まえて分からない箇所に関しては授業の際に必ず質問するなど、積極的に授業に参加すること。また、復習として確認テストをすること。毎回授業には必ず辞書を持参すること。なお、プリントを使用しての授業も行うので、休んだ場合は、プリントを使用したかどうか必ず確認すること。
アクティブ・ラーニング	グループディスカッション、ペアワーク
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：Freshman English Writing：Basic (S)　　授業コード：2042

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	国専：必修
担当教員			
Ivan Botev			
Subject Code：E12A04			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	この授業では、これまでに習った英文法の基礎を身につけ、その知識をもとに正しい英文を書くことを学ぶ。文法、文構造を理解することでさらに難しい英文を読むことに慣れ親しみ、新しい語彙を習得することを目指す。ライティング活動を中心に授業を展開し、自分の考えや意見を表現するスキルを身につけるとともに、絵本や最新の新聞と雑誌記事を読み、書かれている内容のポイントを早くつかむ読解力を身につける。 (授業目標) B：英語でのコミュニケーション能力、特にライティング能力を高めて、問題なく意思疎通を図ることができる。 ○D：日常生活で使用する英語表現を身につけ、適切に使用することができる。 ◎E：一定のテーマについて、80語程度の英語の文章を書くことができる。
授業計画	1　オリエンテーション、授業の目標、評価基準についての説明 授業の主旨、テキストの説明とミニテストを実施し、ライティング力のチェックを行う 2　文型、文法のポイントの確認　(ペアワーク：各ペアで会話を発表する) 中高で習った英語の文型を確認、復習する 確認クイズ 3　Preparation for TOEIC IP Review TOEIC IP Listening & Reading Sections 4　絵本から学ぶ英語１　(ペアワーク：各ペアで会話を発表する) 単語クイズ 肯定／否定、平叙／疑問／命令などの文の種類を学ぶ 5　絵本から学ぶ英語２ 単語クイズ 名詞、動詞、形容詞、副詞を学ぶ 確認クイズ 6　絵本から学ぶ英語３　(ペアワーク：各ペアで会話を発表する) 単語クイズ 名詞の種類と冠詞、代名詞を学ぶ① 確認クイズ 7　絵本から学ぶ英語４ 単語クイズ 名詞の種類と冠詞、代名詞を学ぶ② 8　雑誌記事から学ぶ英語１　(ペアワーク：各ペアで会話を発表する) 単語クイズ 現在、過去、未来の時制を学ぶ① 確認クイズ 9　雑誌記事から学ぶ英語２ 単語クイズ 現在、過去、未来の時制を学ぶ② 10　雑誌記事から学ぶ英語３　(ペアワーク：各ペアで会話を発表する) 単語クイズ 前置詞を学ぶ① 確認クイズ 11　雑誌記事から学ぶ英語４ 単語クイズ 前置詞を学ぶ② 新聞記事を読む 12　新聞記事を読む１　(ペアワーク：各ペアで会話を発表する) 単語クイズ 助動詞を学ぶ① 確認クイズ 13　新聞記事を読む２ 単語クイズ 助動詞を学ぶ② 14　新聞記事を読む３　(ペアワーク：各ペアで会話を発表する) 単語クイズ 進行形を学ぶ① 確認クイズ 15　新聞記事を読む４ 単語クイズ 進行形を学ぶ②
到達目標・基準	B：授業で学んだ関係代名詞の文をもとに、主語と述語を意識して、自分の家族について書くことができる。 ○D：授業で学んだ時制をもとに、将来の夢、目標についての英文を書くことができる。

	◎Ｅ：一定のテーマについて、50語程度の英語の文章を書くことができる。
事前・事後学習	事前学習：新出単語を調べ、意味のわからない部分を調べておく。（およそ45分） 事後学習：授業冒頭に行われる単語テストに向けて、自主学習を行う。（およそ45分）
指導方法	授業のはじめに単語テストを行う。その後、テキストの文法項目を学習する。その文法をもとに英作文を行う。授業の最後に学生の理解度を確認する復習クイズを行い、授業の復習に役立てる。 フィードバックの方法: 1. 小テストの実施と採点評価、2. リアクションペーパーにコメントを記載し返却、3. 採点評価やコメントに関する質疑対応など
成績評価の方法・基準	○Ｄ：授業への貢献度・統一単語テストで評価します。 ◎Ｅ：ライティング課題・小テスト・定期試験で評価します。 授業への貢献度 20% 小テスト 15% 統一単語テスト20% ライティング課題 15% 定期試験 30%
テキスト	Straight Paths: Essentials of English Grammar and Writing、早川聖司他著、南雲堂、2016年 必要に応じてプリントを配布する。
参考書	授業中に指示する。
履修上の注意	教科書で扱われている単語は、高校卒業までに習った基礎単語ですが、授業中にライティング活動を行うため辞書を必ず持参してください。携帯アプリの辞書を授業中に使用するのを禁止します。教員の板書を携帯のカメラで撮る学生が増えつつありますが、英語のスペルは眺めているだけでは覚えられず、自分で実際に書いて覚えますので、ノートをとってください。授業中の居眠り・私語・無用な出入り・携帯電話の操作行為が認められた場合、減点対象とします。また、テキスト、辞書等の忘れ物も授業への取り組みの妨げとなるので、あまりに度重なる場合は減点対象とします。英語に苦手意識がある学生で授業以外の学習方法について聞きたい学生や、授業、英語学習に関する質問がある学生は遠慮なく相談してください。
アクティブ・ラーニング	ペアワーク
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：Freshman English Writing：Basic (T)　　授業コード：2043

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	国専：必修
担当教員			
Peter Davies			
Subject Code：E12A04			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	This course is a first step for students to develop and master academic writing skills.It is designed to help students form basic sentences.There will be activities and exercises on sentence structure, grammar, vocabulary, spelling and editing. A/S grade goals are for students to actively participate in all classes and can show a high level of understanding through written work.Students must get test scores in the top 10% of the class. (Goals) ○D: There will be activities and exercises on grammar, vocabulary, spelling and editing. ◎E: Students can write an essay in about 70 words.
授業計画	1 Introduction to course and texts (Pair Work) Classroom language, behavior and expectations. Getting to know each other activities and name cards. 2 Unit 1 Sentences and word order. 3 Unit 1 Sentences and punctuation. 4 Unit 2 Learn about Nouns 5 Unit 2 Pair work, edit and check your classmates writing. (Pair Work, Peer Editing) Writing about your friends 6 Unit 3 Simple present tense 7 Unit 3 Review test Units 1 to 3. Peer marked in class. (Pair Work, Peer Editing) Writing about activities 8 Unit 4 Adjectives 9 Unit 4 Pair work, peer editing. (Pair Work, Peer Editing) Writing about places 10 Unit 5 Verbs. Simple present of to be. 11 Unit 5 Writing about two cities 12 Unit 6 Pronouns 13 Unit 6 Writing about people and their jobs 14 Peer editing of written exercises. Review quiz Units 1 to 6, peer marked in class. (Pair Work, Peer Editing) Notebook check and grading. 15 Free writing on a topic of choice. Return of notebooks and reflection on key points learnt.
到達目標・基準	Goals for the students include participation to the best of their ability and to show a basic understanding, demonstrated through written work in each unit. C grades will be considered for the lowest half of test results. ○D: To help advanced learners to improve writing skills and to increase their vocabulary. ◎E: Students can write an essay in about 40 words.
事前・事後学習	Some reading exercises and puzzles will be set for homework to complete or complement each unit before class.(45 mins) Students will keep a notebook for additional writing tasks and new vocabulary after class.(45 mins)
指導方法	The lessons will be taught in English only and students will work in pairs at times.Each unit covers a different topic and key vocabulary is introduced. Each Unit provides exercises on spelling and peer editing.Unit quizzes checked, marked and graded. Note books collected, checked and graded. Continuous personal feedback regarding participation in class.
成績評価の方法・基準	○D: Participation, Vocabulary Test ◎E: Essay Writing, Quiz, Final Exam

	Participation 20% Quiz 15% Vocabulary Test 20% Essay Writing 15% Final Exam 30%
テキスト	Great Writing Foundations. Keith S. Folse. Cengage. 2014
参考書	A dictionary and a notebook.
履修上の注意	All classes will be taught in English. Students are expected to participate in all activities and to work in pairs at times.
アクティブ・ラーニング	Pair work. Peer editing.
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：Freshman English Writing：Basic (R)　　授業コード：2044

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	国専：必修
担当教員			
森田千草			
Subject Code：E12A04			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	この授業では、英語運用力、特にリーディングとライティングの基礎力を養うことを目的とする。身近な最近の話題についての会話文や文章を読み、英語の語彙力と読解力の向上を図る。また、様々な場面で使用される重要表現を学び、実用的かつ実践的なライティングスキルを習得する。 (授業目標) ○D：まとまった内容の英文を読み、その内容に関する知識を深めることができる。 ◎E：身近な話題について、50語程度の英語の文章を正確に書くことが出来る。
授業計画	1　オリエンテーション 授業の進め方やテキストについて概説する。 2　Unit 1 be動詞　(グループワーク：パッセージの内容をグループでまとめ発表) be動詞について学ぶ。会話文とパッセージの内容理解、問題演習を通して文法知識の定着を図る。さらに学んだ文法知識を用いて英作文を行う。 3　Unit 2 現在形　(グループワーク：パッセージの内容をグループでまとめ発表) 現在形について学ぶ。会話文とパッセージの内容理解、問題演習を通して文法知識の定着を図る。さらに学んだ文法知識を用いて英作文を行う。 4　Unit 3 過去形　(グループワーク：パッセージの内容をグループでまとめ発表) 過去形について学ぶ。会話文とパッセージの内容理解、問題演習を通して文法知識の定着を図る。さらに学んだ文法知識を用いて英作文を行う。 5　Unit 4 代名詞　(グループワーク：パッセージの内容をグループでまとめ発表) 代名詞について学ぶ。会話文とパッセージの内容理解、問題演習を通して文法知識の定着を図る。さらに学んだ文法知識を用いて英作文を行う。 6　Unit 5 前置詞　(グループワーク：パッセージの内容をグループでまとめ発表) 前置詞について学ぶ。会話文とパッセージの内容理解、問題演習を通して文法知識の定着を図る。さらに学んだ文法知識を用いて英作文を行う。 7　Unit 6 進行形　(グループワーク：パッセージの内容をグループでまとめ発表) 命令文について学ぶ。会話文とパッセージの内容理解、問題演習を通して文法知識の定着を図る。さらに学んだ文法知識を用いて英作文を行う。 8　Unit 7 名詞と冠詞　(グループワーク：パッセージの内容をグループでまとめ発表) 名詞と冠詞について学ぶ。会話文とパッセージの内容理解、問題演習を通して文法知識の定着を図る。さらに学んだ文法知識を用いて英作文を行う。 9　Unit 8 助動詞　(グループワーク：パッセージの内容をグループでまとめ発表) 助動詞について学ぶ。会話文とパッセージの内容理解、問題演習を通して文法知識の定着を図る。さらに学んだ文法知識を用いて英作文を行う。 10　Unit 9 提案と命令　(グループワーク：パッセージの内容をグループでまとめ発表) 提案と命令の表現を学ぶ。会話文とパッセージの内容理解、問題演習を通して文法知識の定着を図る。さらに学んだ文法知識を用いて英作文を行う。 11　Unit 10 未来形　(グループワーク：パッセージの内容をグループでまとめ発表) 未来形について学ぶ。会話文とパッセージの内容理解、問題演習を通して文法知識の定着を図る。さらに学んだ文法知識を用いて英作文を行う。 12　Unit 11 疑問文と付加疑問文　(グループワーク：パッセージの内容をグループでまとめ発表) 疑問文と付加疑問文について学ぶ。会話文とパッセージの内容理解、問題演習を通して文法知識の定着を図る。さらに学んだ文法知識を用いて英作文を行う。 13　Unit 12 形容詞　(グループワーク：パッセージの内容をグループでまとめ発表) 形容詞について学ぶ。会話文とパッセージの内容理解、問題演習を通して文法知識の定着を図る。さらに学んだ文法知識を用いて英作文を行う。 14　Unit 1-12のまとめ Unit 1-12で学んだ語彙や表現、文法事項の確認を行う。 15　Final Essay　(ペアワーク：お互いの英作文を添削する) 前学期に学んだ文法事項や重要表現を用いて、与えられたトピックについての短いエッセイを書く。
到達目標・基準	○D：身近な話題について書かれた英文を読み、その概要を理解することができる。 ◎E：自分自身について、30語程度の英語の文章を書くことができる。
事前・事後学習	事前学習：本文中の分からない語句を調べ、テキストの設問に取り組む。(45分) 事後学習：語句や表現、文法を復習し、会話文やパッセージの音読を行う。(45分)
指導方法	身近な最近の話題に関する会話文や文章の読み、文中に出てきた重要な語句や表現、基本的な文法事項の確認を行う。また、学んだ語彙や表現を用いて実際に英文を書く訓練を行う。 フィードバックの方法：①小テストの実施とその採点評価、②小テストの採点評価についての質疑対応、③ライティング課題の提出と課題に対するコメント

成績評価の方法・基準	○D：授業貢献度と統一単語テストの成績で評価する。 ◎E：ライティング課題の完成度、小テストと定期試験の成績で評価する。 授業への貢献度 20% 小テスト 15% 統一単語テスト 20% ライティング課題 15% 定期試験 30%
テキスト	Grammar Plus（大学英語『グラマープラス』）, Andrew A. Bennett and Toru Komiya, 成美堂, 2013.
参考書	授業中に指示する。
履修上の注意	ペアやグループでの演習を中心に授業を進めるため、積極的に参加する姿勢を求める。確認のための小テストを適宜実施する。また授業の際には必ず英和辞典(携帯電話・スマートフォンの使用は認めない)を持参すること。
アクティブ・ラーニング	グループワーク
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：Freshman English Writing：Intermediate (U)　授業コード：2051

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：必修
担当教員			
佐藤美保			
Subject Code：E12A05			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	Freshman English Writing: Basicで学んだ使えるための英語表現力をさらにアップするため、学生にとって身近なテーマに関する英文を読むことで、リスニング力からリーディング力、およびライティング力を学習できる授業構成となっている。また、単語テストを毎回行うことで単語力アップを図る。 （授業目標） ○D：日本人と外国人との国の違いによって生じる意見の相違を学び、異文化理解を深める。一定のテーマについての知識を深める。 ◎E：一定のテーマについて、200語程度の英語の文章を書くことができる。
授業計画	1　The Piracy business (1) Big labels small prices Group discussion 2　The Piracy business (2) Copy cats Pair work 3　Accessories of life (1) Doing without Group discussion 4　Accessories of life (2) First generation gadgets Pair work 5　Fashion (1) Fusion? Confusion! Group discussion 6　Fashion (2) Splitting hairs Pair work 7　Reviews Unit 7 and 8 Possibility/necessity in the past, Used to 8　Cybernauts (1) Virtual reality Group discussion 9　Cybernauts (2) A worldwide audience Pair work 10　Skincare (1) Marked for life Group discussion 11　Skincare (2) Are you metrosexual? Pair work 12　Reviews Unit 9 and 10 The infinitive or gerund, Future plans and predicitions 13　From cover to cover (1) What's that you're reading? 14　From cover to cover (2) A sudden death Pair work 15　Writing a final essay Write a final essay of at least 120 words
到達目標・基準	○D：アメリカと日本の服装の違いについて英語で書くことができる。スキンケアの大切さについて理解し、自分の意見を書くことができる。 ◎E：一定のテーマについて、120語程度の英語の文章を書くことができる。
事前・事後学習	事前の学習については授業時に出された指示に従い行うこと、翌週の授業で扱う単語・熟語をきちんと辞書で調べること。（約40分） 事後学習については単語の復習並びに最終プレゼンテーションの準備をすること。（約60分）
指導方法	まず各課に出てくる重要単語を学び、話題への理解と単語力の強化を目指す。その後、実際のテキストを英文和訳にこだわらず、大切な情報を迅速に読み取り、要点を要約できるよう指導する。その後、内容把握のための練習問題を解き、ライティングの練習や基本的な文法事項を確認することで、英語力、単語力、読解力、そして思考力を身につけられるような授業を行う。

	フィードバックの方法: ①小テストの実施とその結果についてのコメント・質疑対応②ライティング課題の提出と課題に対するコメント
成績評価の方法・基準	○D: 授業貢献度とTOEICの成績で評価する。 ◎E: ライティング課題の完成度、小テストと定期試験の成績で評価する。 授業への貢献度 20% 小テスト 15% TOEIC 20% ライティング課題 15% 定期試験 30%
テキスト	Essential Reading 2, Jackie McAvoy　　Macmillan Language House Everyday Vocabulary Quizzes、佐藤誠司　　南雲堂
参考書	授業の際に指示する
履修上の注意	毎週予習として単語テストの準備をし、それを踏まえて分からない箇所に関しては授業の際に必ず質問するなど、積極的に授業に参加すること。また、復習として確認テストをすること。毎回授業には必ず辞書を持参すること。なお、プリントを使用しての授業も行うので、休んだ場合は、プリントを使用したかどうか必ず確認すること。
アクティブ・ラーニング	グループディスカッション、ペアワーク
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：Freshman English Writing：Intermediate (S)　授業コード：2052

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：必修
担当教員			
Ivan Botev			
Subject Code：E12A05			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	この授業では、これまでに習った英文法の基礎を身につけ、その知識をもとに正しい英文を書くことを学ぶ。文法、文構造を理解することでさらに難しい英文を読むことに慣れ親しみ、新しい語彙を習得することを目指す。ライティング活動を中心に授業を展開し、自分の考えや意見を表現するスキルを身につけるとともに、最新の新聞や雑誌記事を読み、書かれている内容のポイントを早くつかむ読解力を身につける。 (授業目標) 　B：英語でのコミュニケーション能力、特にライティング能力を高めて、問題なく意思疎通を図ることができる。 ○D：日常生活で使用する英語表現を身につけ、適切に使用することができる。 ◎E：一定のテーマについて、150語程度の英語の文章を書くことができる。
授業計画	1　児童文学を読む１ 単語クイズ 現在完了形、継続・完了・経験の表現を学ぶ 確認クイズ 2　児童文学を読む２　（ペアワーク：各ペアで会話を発表する） 教科書にはこのユニットがありませんが、プリントを配布します 過去完了形を学ぶ 確認クイズ 3　児童文学を読む３ 単語クイズ 動名詞と不定詞の使い分けを学ぶ 確認クイズ 4　児童文学を読む４　（ペアワーク：各ペアで会話を発表する） 単語クイズ 動名詞と不定詞の使い分けを学ぶ 雑誌記事を読む 5　雑誌記事を読む１ 単語クイズ 比較級・最上級の作り方を学ぶ 確認クイズ 6　雑誌記事を読む２　（ペアワーク：各ペアで会話を発表する） 単語クイズ 不規則変化の比較級・最上級、同等比較を学ぶ 新聞記事を読む 7　雑誌記事を読む３ 単語クイズ 過去、未来、完了の受動文を学ぶ 確認クイズ 8　雑誌記事を読む４　（ペアワーク：各ペアで会話を発表する） 単語クイズ 異なった文型の受動文を学ぶ 雑誌記事を読む 9　新聞記事を読む１ 単語クイズ 条件文を学ぶ 確認クイズ 10　新聞記事を読む２　（ペアワーク：各ペアで会話を発表する） 単語クイズ 条件文を学ぶ 新聞記事を読む 11　新聞記事を読む３ 単語クイズ 関係代名詞を学ぶ 確認クイズ 12　新聞記事を読む４　（ペアワーク：各ペアで会話を発表する） 単語クイズ 関係代名詞を学ぶ 雑誌記事を読む 13　説明文を読む１ 助動詞２ 単語クイズ 接続詞を学ぶ 確認クイズ 14　説明文を読む２　（ペアワーク：各ペアで会話を発表する） 単語クイズ

	接続詞を学ぶ 新聞記事を読む 15　英文法、英作文の確認をし作文活動を行う これまでに習った英文法、英作文の確認を行い、まとまった文章を書く練習を行う。
到達目標・基準	Ｂ：授業で学んだ英文をもとに、尊敬する人物について、主語と述語を意識して書くことができる。 ◎Ｄ：授業で学んだ英文をもとに、好きな国について、自分で英文を書くことができる。 ○Ｅ：一定のテーマについて、90語程度の英語の文章を書くことができる。
事前・事後学習	事前学習：新出単語を調べ、意味のわからない部分を調べておく。（およそ45分） 事後学習：授業冒頭に行われる単語テストに向けて、自主学習を行う。（およそ45分）
指導方法	単語テストを行う。その後、テキストの文法項目を学習する。その文法をもとに英作文を行う。授業の最後に学生の理解度を確認するクイズを行い、授業の復習に役立てる。 フィードバックの方法: 1. 小テストの実施と採点評価、2. リアクションペーパーにコメントを記載し返却、3. 採点評価やコメントに関する質疑対応など
成績評価の方法・基準	○Ｄ：授業への貢献度・統一単語テストで評価します。 ◎Ｅ：ライティング課題・小テスト・定期試験で評価します。 授業への貢献度 20% 小テスト 15% TOEIC 20% ライティング課題 15% 定期試験 30%
テキスト	Straight Paths: Essentials of English Grammar and Writing、早川聖司他著、南雲堂、2016年 必要に応じてプリントを配布する。
参考書	授業中に指示する。
履修上の注意	教科書で扱われている単語は、高校卒業までに習った基礎単語ですが、授業中にライティング活動を行うため辞書を必ず持参してください。 携帯アプリの辞書を授業中に使用するのを禁止します。教員の板書を携帯のカメラで撮る学生が増えつつありますが、英語のスペルは眺めているだけでは覚えられず、自分で実際に書いて覚えますので、ノートをとってください。英語に苦手意識がある学生で授業以外の学習方法について聞きたい学生や、授業、英語学習に関する質問がある学生は遠慮なく相談してください。授業中の居眠り・私語・無用な出入り・携帯電話の操作行為が認められた場合、減点対象とします。また、テキスト、辞書等の忘れ物も授業への取り組みの妨げとなるので、あまりに度重なる場合は減点対象とします。
アクティブ・ラーニング	ペアワーク
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：Freshman English Writing：Intermediate (T)　授業コード：2053

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：必修
担当教員			
Peter Davies			
Subject Code：E12A05			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	This course is a follow on from last semester for students to develop and master academic writing skills.It is designed to help students form basic paragraphs.There will be activities and exercises on sentence structure, grammar, vocabulary, spelling and editing. The goals for A/S grade are the same as in the first semester. (Goals) ○D: There will be activities and exercises on grammar, vocabulary, spelling and editing. ◎E: Students can write an essay in about 100 words.
授業計画	1 Unit 7 The conjunction. Vocabulary and spelling. 2 Unit 7 (Pair Work, Peer Editing) Write about your schedule. Peer editing. 3 Unit 8 Articles : a, an, the.... 4 Unit 8 Writing about food preparation. 5 Unit 9 Prepositions. Vocabulary and spelling. 6 Unit 9 Writing about tourism in Tokyo. 7 Unit 10 Using and, but and so. Vocabulary and spelling. 8 Unit 10 (Pair Work, Peer Editing) Writing about a job or hobby. Peer editing. 9 Unit 11 Simple past tense. 10 Unit 11 Writing about an important event in the past. 11 Unit 12 Using before, after, when,if. Vocabulary and spelling. 12 Unit 12 Writing about an important day in your life. 13 Unit 13 Adverbs. Vocabulary and spelling. 14 Peer editing of written exercises. Notebook check and grading. 15 Free writing on a topic of choice. Return of notebooks and reflection on key points learnt.
到達目標・基準	The goals for the students are the same as in the first semester. ○D: To help advanced learners to improve writing skills and to increase their vocabulary. ◎E: Students can write an essay in about 60 words.
事前・事後学習	Some reading exercises and puzzles will be set for homework to complete or complement each unit before class.(45 mins) Students will keep a notebook for additional writing tasks and new vocabulary after class.(45 mins)
指導方法	The lessons will be taught in English only and students will work in pairs at times.Each unit covers a different topic and key vocabulary is introduced. Each Unit provides exercises on spelling and peer editing. All students will have continuous personal feedback of participation in class. Note books will be checked and graded , results and comments given to students. Short review test will be peer edited in class.

成績評価の方法・基準	○Ｄ: Participation, Vocabulary Test ◎Ｅ: Essay Writing, Quiz, Final Exam Participation 20% Quiz 15% TOEIC 20% Essay Writing 15% Final Exam 30%
テキスト	Great Writing Foundations. Keith S. Folse. Cengage. 2014
参考書	A dictionary and a notebook.
履修上の注意	All classes will be taught in English. Students are expected to participate in all activities and to work in pairs at times.
アクティブ・ラーニング	Pair work. Peer editing.
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：Freshman English Writing：Intermediate (R)　授業コード：2054

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：必修
担当教員			
森田千草			
Subject Code：E12A05			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	この授業では、英語運用力、特にリーディングとライティングの基礎力を養うことを目的とする。身近な最近の話題についての会話文や文章を読み、英語の語彙力と読解力の向上を図る。また、様々な場面で使用される重要表現を学び、実用的かつ実践的なライティングスキルを習得する。 (授業目標) ○D：まとまった内容の英文を読み、その内容に関する知識を深めることができる。 ◎E：大学生にとって身近な話題について、70語程度の英語の文章を正確に書くことが出来る。
授業計画	1　前期の復習 前期に学んだ語彙や表現、文法を復習する。 2　Unit 13 比較　(グループワーク：パッセージの内容をグループでまとめ発表) 比較について学ぶ。会話文とパッセージの内容理解、問題演習を通して文法知識の定着を図る。さらに学んだ文法知識を用いて英作文を行う。 3　Unit 14 副詞　(グループワーク：パッセージの内容をグループでまとめ発表) 副詞について学ぶ。会話文とパッセージの内容理解、問題演習を通して文法知識の定着を図る。さらに学んだ文法知識を用いて英作文を行う。 4　Unit 15 不定詞　(グループワーク：パッセージの内容をグループでまとめ発表) 不定詞について学ぶ。会話文とパッセージの内容理解、問題演習を通して文法知識の定着を図る。さらに学んだ文法知識を用いて英作文を行う。 5　Unit 16 動名詞　(グループワーク：パッセージの内容をグループでまとめ発表) 動名詞について学ぶ。会話文とパッセージの内容理解、問題演習を通して文法知識の定着を図る。さらに学んだ文法知識を用いて英作文を行う。 6　Unit 17 接続詞　(グループワーク：パッセージの内容をグループでまとめ発表) 接続詞について学ぶ。会話文とパッセージの内容理解、問題演習を通して文法知識の定着を図る。さらに学んだ文法知識を用いて英作文を行う。 7　Unit 18 受動態　(グループワーク：パッセージの内容をグループでまとめ発表) 受動態について学ぶ。会話文とパッセージの内容理解、問題演習を通して文法知識の定着を図る。さらに学んだ文法知識を用いて英作文を行う。 8　Unit 19 語形　(グループワーク：パッセージの内容をグループでまとめ発表) 語形について学ぶ。会話文とパッセージの内容理解、問題演習を通して文法知識の定着を図る。さらに学んだ文法知識を用いて英作文を行う。 9　Unit 20 形容詞節　(グループワーク：パッセージの内容をグループでまとめ発表) 形容詞節について学ぶ。会話文とパッセージの内容理解、問題演習を通して文法知識の定着を図る。さらに学んだ文法知識を用いて英作文を行う。 10　Unit 21 副詞節　(グループワーク：パッセージの内容をグループでまとめ発表) 副詞節について学ぶ。会話文とパッセージの内容理解、問題演習を通して文法知識の定着を図る。さらに学んだ文法知識を用いて英作文を行う。 11　Unit 22 条件節　(グループワーク：パッセージの内容をグループでまとめ発表) 条件節について学ぶ。会話文とパッセージの内容理解、問題演習を通して文法知識の定着を図る。さらに学んだ文法知識を用いて英作文を行う。 12　Unit 23 名詞節　(グループワーク：パッセージの内容をグループでまとめ発表) 名詞節について学ぶ。会話文とパッセージの内容理解、問題演習を通して文法知識の定着を図る。さらに学んだ文法知識を用いて英作文を行う。 13　Unit 24 現在完了形　(グループワーク：パッセージの内容をグループでまとめ発表) 現在完了形について学ぶ。会話文とパッセージの内容理解、問題演習を通して文法知識の定着を図る。さらに学んだ文法知識を用いて英作文を行う。 14　Unit 13-24のまとめ Unit 13-24で学んだ語彙や表現、文法事項の確認を行う。 15　Final Essay　(ペアワーク：お互いの英作文を添削する) 前学期に学んだ文法事項や重要表現を用いて、与えられたトピックについての短いエッセイを書く。
到達目標・基準	○D：身近な話題について書かれた英文を読み、その概要を理解することができる。 ◎E：自分の身近な話題について、40語程度の英語の文章で書くことができる。
事前・事後学習	事前学習：本文中の分からない語句を調べ、テキストの設問に取り組む。(45分) 事後学習：語句や表現、文法を復習し、会話文やパッセージの音読を行う。(45分)
指導方法	身近な最近の話題に関する会話文や文章の読み、文中に出てきた重要な語句や表現、基本的な文法事項の確認を行う。また、学んだ語彙や表現を用いて実際に英文を書く訓練を行う。 フィードバックの方法：①小テストの実施とその採点評価、②小テストの採点評価についての質疑対応、③ライティング課題の提出と課題に対するコメント

成績評価の方法・基準	○D：授業貢献度とTOEICの成績で評価する。 ◎E：ライティング課題の完成度、小テストと定期試験の成績で評価する。 授業への貢献度 20% 小テスト 15% TOEIC 20% ライティング課題 15% 定期試験 30%
テキスト	Grammar Plus（大学英語『グラマープラス』）, Andrew A. Bennett and Toru Komiya, 成美堂, 2013.
参考書	授業中に指示する。
履修上の注意	ペアやグループでの演習を中心に授業を進めるため、積極的に参加する姿勢を求める。確認のための小テストを適宜実施する。また授業の際には必ず英和辞典(携帯電話・スマートフォンの使用は認めない)を持参すること。
アクティブ・ラーニング	グループワーク
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：Sophomore English：Basic(U)　　授業コード：2061

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	国専：必修
担当教員			
Peter Davies			
Subject Code：E22A06			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	This course is to help students communicate more fluently and confidently.It develops English language skills through the use of vocabulary, grammar, topics and images.Each unit is introduced with a video exercise. Goals for grade A/S include active participation in all class activities demonstrating a high level of understanding and use of target language. Students will need to gain a top 10% score in the final test. (Goals) ◎B: This course is designed to help students improve their English language ability so they can communicate more confidently and fluently. ○E: Students can make a presentation in about 320 words.
授業計画	1 Introduction to the course and text. (All students pair work question and answer). Classroom language, behavior and expectations.Getting to know each other and name cards. 2 Unit 1 (All students listen and watch for gist and detail). Lesson A. People Video, Afghanistan`s first boarding school for girls. Simple present tense v present continuous. 3 Unit 1 (All students pair work question and answer, listen for gist). Review of simple past tense. Question stress. Listening for gist. 4 Unit 2 (All students listen and repeat, intonation and pronunciation). Lesson A. Foods we like. Video, Fresh, frozen or canned. Healthy eating habits. 5 Unit 2 (All students Pair work dialogue, listen for detail). Make predictions. Check predictions. Listening for detail. 6 Unit 2 (All students listen and repeat). The comparative form of adjectives. Sentence stress and rhythm 7 Unit 2 (All students pair work question and answer making/responding to suggestions). The superlative form of adjectives. Making suggestions. Responding to suggestions. 8 Unit 2 (All students group work) Describing changes to a restaurant. Creating a menu. Making plans to go out and eat. 9 Unit 3 (All students watch and listen for gist and detail). Mysteries. Video, The luckiest unlucky man ever to live. Predictions. Listening for gist and detail. 10 Unit 3 (All students listen and repeat pronunciation). Stative verbs. Dropped syllables. 11 Unit 3 (All students group work). Talking about possibility. Talking about intuition. 12 Unit 3 (All students pair work). Explanation. Investigating proof. Understanding and using visual aids. 13 Unit 3 (All students group work describe an explanation to a mystery). Modules of present possibility. Describing an explanation to a mystery. 14 Units 1 to 3 (All students pair work peer edit quiz). Key vocabulary and grammar quiz. 15 Units 1 to 3 (All students group work review and evaluation). Notebook check and grade.
到達目標・基準	Goals for the students include participation in all class activities to the best of their ability, being able to demonstrate a basic level of understanding and language use. Achieving a score of 60-70% in the final test.

	◎Ｂ: Students will be able to study and practice useful vocabulary and grammar and learn how to use it to communicate effectively. ○Ｅ: Students can make a presentation in about 190 words.
事前・事後学習	Some exercises from the text will be set as homework to do before class.(30 mins) After class, students will be expected to review the key language and grammar at the end of each unit in preparation for the Unit quiz.(60 mins) Students will also keep a notebook for writing assignments and for new vocabulary.
指導方法	All students receive ongoing personal feedback in class about participation. Students will check, mark and receive scores of all quizzes and review tests in class. Written assignments will be collected edited and returned with grade and comment. Lessons are taught in English only. Students are expected to work in pairs and small groups.Each unit in the text is divided between two lessons.There is a speaking, listening, reading and writing element in each lesson. Fun tasks and activities will provide students the chance to practice using the target language.
成績評価の方法・基準	◎Ｂ: Participation, Vocabulary Test, Presentation ○Ｅ: Quiz, Final Exam Participation 20% Quiz 15% Vocabulary Test 20% Presentation 15% Final Exam 30% Final Exam 30%
テキスト	World Link 2. Developing English Fluency. 3rd Edition. Nancy Douglas. CENGAGE Learning 2016
参考書	Students will need a dictionary, Japanese / English / Japanese and need a notebook.
履修上の注意	Students are expected to participate in all activities and be prepared to work in pairs and small groups. Try your best and don`t be shy. Enjoy the chance to practice communicating in English.
アクティブ・ラーニング	Group work, pair work. discussion and role play. Peer checking.
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：Sophomore English：Basic(S)　　授業コード：2062

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	国専：必修
担当教員			
玉川　明日美			
Subject Code：E22A06			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	この授業は、英語コミュニケーション力、特に話すこと聴くことの基礎を学ぶ授業です。テキストにおける各ユニットのWarming-Up, Listening, Speaking, Vocabularyのセクションに沿って授業を進めます。毎回確認のための単語テストを行います。人前で英語を話すことができるようになるために、ペアワーク、ロールプレイ、スピーチも行います。 (授業目標) ◎Ｂ：長い会話文の主旨を一度で理解し内容を正確に把握することができる。 ○Ｅ：正確な英語の発音・イントネーションで250words程度の分量で自分の考えを話すことができる。
授業計画	1　Unit 0: What's your major? (ペアワーク) Looking over the course 2　Unit 1: I like action movies (ペアワーク) Talking about likes and dislikes 3　Listening Features and Speaking Strategies (1) (ペアワーク) Linking,Sentence Stress Confirmation: Classroom English, asking for repetition 4　Unit 2: How much is that? (ペアワーク) Fluency with money and prices 5　Unit 3: Is that your cousin? (ペアワーク) Describing your family 6　Listening Features and Speaking Strategies (2) (ペアワーク) Weak vowels, Sentence stress Confirmation: asking questions, repeating key information 7　Unit 4: How was your weekend? (ペアワーク) Talking about thing you did 8　Unit 5: What do you do? (ペアワーク) Describing occupations 9　Listening Features and Speaking Strategies (3) (ペアワーク) Disappearing sounds, sentence stress Involvement: asking questions Confirmation: using examples 10　Unit 6: I get to work at eight (ペアワーク) Describing your daily routines 11　Unit 7: It's in front of the lamp (ペアワーク) Describing location, objects in a room 12　Listening Features and Speaking Strategies (4) (ペアワーク) Weak vowels, Guessing meaning through patterns Confirmation: repeating key information Shadowing 13　Preparation for Final Presentation Composition of Final Presentation 14　Final Presentation (スピーチ) Final Presentation of Japanese Tradition 15　Final Presentation (スピーチ) Final Presentation of Japanese Tradition
到達目標・基準	◎Ｂ：短い会話文を聴き、おおまかな内容を理解することができる。 ○Ｅ：150words程度の分量で自分の考えを話すことができる。
事前・事後学習	事前学習：単語テストの勉強と、翌週の授業範囲の単語等の意味を調べた上で、英文を音読する。（約30分） 事後学習：単語の復習並びに授業で扱った英文をスムーズに読めるまで音読する。（約60分）
指導方法	単語力をつけるために、毎回単語テストをします。 英語を話すことに慣れるためにペアワーク（ロールプレイ）等を行います。
成績評価の方法・基準	◎Ｂ：授業への貢献度・統一単語テスト・プレゼンテーションで評価します。 ○Ｅ：小テスト・定期試験で評価します。 授業への貢献度 20% 小テスト 15% 統一単語テスト 20%

	プレゼンテーション 15% 定期試験 30%
テキスト	Chris Cleary. Communication Spotlight: Speaking Strategies & Listening Skills. (abax, 2013) Tomoko Yabukoshi. LISTENING UPGRADE FOR THE TOEIC TEST. (KINSEIDO, 2018)
参考書	
履修上の注意	毎回授業には必ず辞書を持参すること。なお、分からない単語は授業前に辞書で確認しておくこと。
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、スピーチ
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：Sophomore English：Basic(R)　　授業コード：2064

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	国専：必修
担当教員			
高橋大樹			
Subject Code：E22A06			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	英語を使ってどのような行動がどの程度できるのかを常に意識しながら、英語を学習します。使用するテキストに掲載されている例文や練習問題は実生活を反映した対話や表現になっています。文法を正しく使ってスピーキングとリスニングの力を向上できるように授業を展開します。 (授業目標) ◎B：英語でのコミュニケーション力を高めて、積極的に英語を運用し、意思疎通を図ることができる。 ○E：リスニング力とスピーキング力を高めて、80words程度の正確な英語を話すことができる。
授業計画	1　Unit1: I'm an education major.(1)（ペアワーク：各ペアで会話を発表する） 場所を確認したり、自分の専攻について話す 2　Unit1: I'm an education major.(2)（e-learning:小テストで前回授業の理解度を測る） 場所を確認したり、自分の専攻について話す 3　Unit2: She looks like your twin!(1)（ペアワーク：各ペアで会話を発表する） 人数を確認したり、友人について詳しく説明する 4　Unit2: She looks like your twin!(2)（e-learning:小テストで前回授業の理解度を測る） 人数を確認したり、友人について詳しく説明する 5　Unit3: Have you ever been there?(1)（ペアワーク：各ペアで会話を発表する） どのような場所かを詳しく説明したり、経験を尋ねる 6　Unit3: Have you ever been there?(2)（e-learning:小テストで前回授業の理解度を測る） どのような場所かを詳しく説明したり、経験を尋ねる 7　Unit4: How was your weekend?(1)（ペアワーク：各ペアで会話を発表する） 週末や休暇の感想を尋ね、会話を広げる工夫をする 8　Unit4: How was your weekend?(2)（e-learning:小テストで前回授業の理解度を測る） 週末や休暇の感想を尋ね、会話を広げる工夫をする 9　Unit5: I'd like the grilled salmon, please.(1)（ペアワーク：各ペアで会話を発表する） レストランでの注文のやりとりをし、メニューについて質問する 10　Unit5: I'd like the grilled salmon, please.(2)（e-learning:小テストで前回授業の理解度を測る） レストランでの注文のやりとりをし、メニューについて質問する 11　Unit6: Hiking is my favorite way to relax.(1)（ペアワーク：各ペアで会話を発表する） 余暇に何をするかを尋ね、夢中になっているものについて語る 12　Unit6: Hiking is my favorite way to relax.(2)（e-learning:小テストで前回授業の理解度を測る） 余暇に何をするかを尋ね、夢中になっているものについて語る 13　Unit7: Who's the guy sitting on that bench?(1)（ペアワーク：各ペアで会話を発表する） スポーツについての会話を行い、興味のあるスポーツについて話す 14　Unit7: Who's the guy sitting on that bench?(2)（e-learning:小テストで前回授業の理解度を測る） スポーツについての会話を行い、興味のあるスポーツについて話す 15　Final Presentation（プレゼンテーション：全員が必ず発表する） これまで学習した文法や英文をもとにペアでの会話を発表する
到達目標・基準	◎B：英語コミュニケーション力を高め、過去形や現在形、未来形を使い分けてコミュニケーションをとることができる。 ○E：スピーキング力とリスニング力を向上させてこれからの予定について50words程度の分量で自分の意見を話すことができる。
事前・事後学習	事前学習：授業時に出された指示に従い行うこと。単語や文法の予習をあらかじめ調べておくこと。(30分) 事後学習：リスニングの復習並びにプレゼンテーションの準備を行うこと。e-learningソフトを使用して、小テストを実施するのでその準備を行う。(60分)
指導方法	スピーキング力とリスニング力をバランスよくつけるために教科書を2冊毎回使用します。単語力をつけることが、英語力アップのためにはとても大切なので、ほぼ毎回単語の小テストをします。英語を話すことに慣れるためにペアワークやグループワークを使用した発表も行います。授業課題のフィードバックの方法：①小テストの実施（e-learning)　②授業後における質疑対応
成績評価の方法・基準	◎B：授業への貢献度、統一単語テスト、プレゼンテーションで評価します。 ○E：小テスト、定期試験で評価します。

	授業への貢献度 20% 小テスト 15% 統一単語テスト 20% プレゼンテーション 15% 定期試験 30%
テキスト	Shigeyo Yamamoto, et al. Taking Action: Communication with Fluency and Accuracy (Kinsei-do, 2018) 桐原書店編集部編、HyperListening 10-minute English Listening Training Pre-Intermediate (桐原書店、2016)
参考書	授業中に指示します。
履修上の注意	毎回の授業で分からないところがあったら、その場ですぐに質問すること。また、分からない単語は事前に辞書で確認しましょう。ミスを恐れずに積極的に英語を使ってください。なお、毎回授業には必ず辞書を持参すること。
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、プレゼンテーション
ＩＣＴの活用	教科書付属のe-learningソフト

講義科目名称：Sophomore English：Basic(T)　　授業コード：2063

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	国専：必修
担当教員			
Ivan Botev			
Subject Code：E22A06			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	この授業は、英語コミュニケーション力、特に話すこと聴くことの基礎を学ぶ授業である。テキストの各ユニットは、国際社会で生きて行くうえで理解を深めることが大切な、多文化の日常生活についてまとめられている。自然な英会話を行えるようになるために、会話やアクティブラーニングなどを行う。また、新しく学ぶ単語の習得のため毎回単語クイズを行う。 ◎B：ある程度の長さの会話文を聴き、重要な表現を正確に聴き取り英文の内容を一度で理解することができる。 D：外国と日本の文化・習慣の違いを見つめ直し、異文化理解を深める。 ○E：正確な英語の発音・イントネーションで150words程度の分量で自分の考えを話すことができる。
授業計画	1　オリエンテーション、授業の目標、評価基準についての説明 オリエンテーション、英語力確認テスト 2　Welcome to English Firsthand 1 （ペアワーク：各ペアで会話を発表する） Find someone who... リスニング・会話練習を通して実用英語を学ぶ 3　It's nice to meet you. 単語クイズ Introductions and personal information リスニング・会話練習を通して実用英語を学ぶ 4　What are they talking about? （ペアワーク：各ペアで会話を発表する） 単語クイズ Descriptions of people and family リスニング・会話練習を通して実用英語を学ぶ 5　When do you start? 単語クイズ Schedules and routines リスニング・会話練習を通して実用英語を学ぶ 6　Where does this go? （ペアワーク：各ペアで会話を発表する） 単語クイズ Locations リスニング・会話練習を通して実用英語を学ぶ 7　How do I get there? 単語クイズ Giving directions リスニング・会話練習を通して実用英語を学ぶ 8　What happened? （ペアワーク：各ペアで会話を発表する） 単語クイズ Past experiences リスニング・会話練習を通して実用英語を学ぶ 9　I'd love that job. 単語クイズ Jobs and skills リスニング・会話練習を通して実用英語を学ぶ 10　What's playing? （ペアワーク：各ペアで会話を発表する） 単語クイズ Entertainment and opinions リスニング・会話練習を通して実用英語を学ぶ 11　What are you going to do? 単語クイズ Future plans and activities リスニング・会話練習を通して実用英語を学ぶ 12　How much is this? （ペアワーク：各ペアで会話を発表する） 単語クイズ Shopping リスニング・会話練習を通して実用英語を学ぶ 13　How do you make it? 単語クイズ Giving instructions リスニング・会話練習を通して実用英語を学ぶ 14　Listen to the music. （ペアワーク：各ペアで会話を発表する） 単語クイズ Expressing opinions リスニング・会話練習を通して実用英語を学ぶ 15　TED TALKS Arianna Huffington: How to succeed? Get more sleep

	単語クイズ TED TALKSを見て、内容を理解する リスニング・会話練習を通して実用英語を学ぶ
到達目標・基準	◎Ｂ：職業や年次行事に関する短い会話文を聴き、おおまかな内容を理解することができる。適切な英会話表現を使い自　　分の生活に関する質問に応答したり、レストランで注　　文することができる。 Ｄ：日本と海外の休暇の取り方に関する違いを英語で理解することができる。 ○Ｅ：正確な英語の発音・イントネーションで90words程度の分量で自分の考えを話すことができる。
事前・事後学習	事前学習：単語テストの勉強と、翌週の授業範囲の単語等の意味を調べた上で、英文を音読する。（約30分） 事後学習：単語の復習並びに授業で扱った英文をスムーズに読めるまで音読する。（約60分）
指導方法	単語力をつけるために、毎回単語クイズを行う。英語を話すことに慣れるためにペアワーク、ロールプレイ等を行う。 フィードバックの方法: 1. 小テストの実施と採点評価、2. リアクションペーパーにコメントを記載し返却、3. 採点評価やコメントに関する質疑対応など
成績評価の方法・基準	◎Ｂ：授業への貢献度・統一単語テスト ○Ｅ：小テスト・定期試験で評価します。 授業への貢献度 20% 小テスト 15% 統一単語テスト 20% プレゼンテーション 15% 定期試験 30%
テキスト	English Firsthand 1 (4th Edition), Pearson. M. Helgesen, S. Brown, J. Whiltshier. ISBN 9789813130227.
参考書	授業で指示します。
履修上の注意	教科書で扱う単語のなかには、新しく学ぶ単語もあるので、事前に辞書で調べて予習すること。なお、授業中に携帯アプリの使用は禁止します。教員の板書を携帯のカメラで撮る学生が増えつつありますが、単語のスペルは自分で繰り返しノートに書くことで覚えることができますので、ノートをとりましょう。 授業中の居眠り・私語・無用な出入り・携帯電話の操作行為が認められた場合、減点対象とします。また、テキストなどの忘れ物も授業への取り組みの妨げとなるので、あまりに度重なる場合は減点対象とします。授業に関して、授業以外の英語学習についてアドバイスが必要な学生、英語学習について質問のある学生は遠慮なく話しかけてください。
アクティブ・ラーニング	ペアワーク
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：Sophomore English：Intermediate(U)　　授業コード：2071

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	国専：必修
担当教員			
Peter Davies			
Subject Code：E22A07			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	The aim of this course is to help improve students communication and confidence in using English.It follows on from the work done in the first semester.The expectations for A/S grade are the same as in the first semester. (Goals) ◎B: Each lesson will cover a different topic that provides context for learning about the English language and other cultures. ○E: Students can make a presentation in about 450 words.
授業計画	1 Unit 4 (All students, pair work. Listen and watch for gist and detail). Trends. Lifestyle trends. Student trends in the United States. 2 Unit 4 (All students, Pair work interview, Listen for gist.). Infer information. Make and check predictions. Listen for details. 3 Unit 4 (All students pair work , agree/disagree. Listen and repeat, unstressed sounds). Quantity expressions. Disagreeing. Unstressed of. 4 Unit 4 (All students, group work). Giving advice. Making decisions and giving opinions. Giving advice with , could, should, ought to and had better. 5 Unit 5 (All students listen and watch for gist and detail. Pair work discussion. Unit 4 quiz). Out and about. Video, Bicycle anecdotes from Amsterdam. Doing chores and running errands. 6 Unit 5 (All students ,pair work, role play). Making appointments. Requests with modal verbs and mind. 7 Unit 5 (All students listen and repeat). Reduced forms , could you, would you. Skim reading for main idea. Scanning for details. 8 Unit 5 (All students pair work, peer marking quiz Unit 5). My neighborhood. Get around, get to. Modifiers, really, very and pretty. 9 Unit 6 (All students watch and listen for gist and detail). Goals. Video, Young entrepreneurs. Applying to college. 10 Unit 6 (All students listen for detail. Peer edit writing). Summarize. Listen for details. 11 Unit 6 (All students, group discussion. Listen and repeat). Plans and decisions with going to and will. Reduced form of going to. 12 Preparation for TOEIC IP Review TOEIC Listening & Reading Sections 13 Unit 6 (All students, pair work). After graduation. Predictions with going to and will. 14 Units 4 to 6 (Peer editing). Key vocabulary and grammar quiz. 15 Units 4 to 6 (Peer editing). Notebook check and grade.

到達目標・基準	The expectations for the students will be the same as in the first semester. ◎B: Lessons cover different topics that provide context for learning about language and culture. ○E: Students can make a presentation in about 270 words.
事前・事後学習	Some exercises from the text will be set as homework to do before class.(30 mins) After class, students will be expected to review the key language and grammar at the end of each unit in preparation for the Unit quiz.(60 mins) Students will also keep a notebook for writing assignments and for new vocabulary.
指導方法	Lessons are taught in English only. Students are expected to work in pairs and small groups.Each unit in the text is divided between two lessons.There is a speaking, listening, reading and writing element in each lesson. Fun tasks and activities will provide students the chance to practice using the target language. Students receive feed back about participation in class. Students will peer edit and receive marks for all quizzes and tests in class. Any written assignment will be collected and returned with grade and comment.
成績評価の方法・基準	◎B: Participation, Vocabulary Test, Presentation ○E：Quiz, Final Exam Participation 20% Quiz 15% TOEIC 20% Presentation 15% Final Exam 30%
テキスト	World Link 2. Developing English Fluency. 3rd Edition. Nancy Douglas. CENGAGE Learning 2016
参考書	Students will need a dictionary, Japanese / English / Japanese and need a notebook.
履修上の注意	Students are expected to participate in all activities and be prepared to work in pairs and small groups. Try your best and don`t be shy. Enjoy the chance to practice communicating in English.
アクティブ・ラーニング	Discussion, opinion, negotiation and consensus. Peer checking.
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：Sophomore English：Intermediate(S)　　授業コード：2072

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	国専：必修
担当教員			
玉川　明日美			
Subject Code：E22A07			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	この授業は、英語コミュニケーション力、特に話すこと聴くことの応用を学ぶ授業です。テキストにおける各ユニットのWarming-Up, Listening, Speaking, Vocabularyのセクションに沿って授業を進めます。毎回確認のための単語テストを行います。人前で英語を話すことができるようになるために、ペアワーク、ロールプレイ、スピーチも行います。 (授業目標) ◎Ｂ：長い会話文の主旨を一度で理解し内容を正確に把握することができる。 ○Ｅ：正確な英語の発音・イントネーションで350words程度の分量で自分の考えを話すことができる。
授業計画	1　Unit 8: I liked science in school (ペアワーク) Talking about school subjects you liked 2　Unit 9: It's easy to make! (ペアワーク) Giving instructions, describing how to cook 3　Listening Features and Speaking Strategies (5) (ペアワーク) Blend sounds, Weak vowels Paraphrasing Compensation: asking for help & circumlocution 4　Unit 10: What are you doing? (ペアワーク) Describing current actions 5　Unit 11: What are you going to do? (ペアワーク) Talking about the future 6　Listening Features and Speaking Strategies (6) (ペアワーク) Sentence stress, Casual English Confirmation: repetition & paraphrasing Involvement: asking questions 7　Unti 12: It's red in the middle (ペアワーク) Describing foods, fruits and vegetables 8　Unit 13: How long is it? (ペアワーク) Fluency with large numbers 9　Listening Features and Speaking Strategies (7)　(ペアワーク) Sentence stress, Understanding tone groups Compensation: asking for help & circumlocution Management: hesitation devices, thinking sounds 10　Unit 14: Turn right at the lights (ペアワーク) Giving directions, describing neghborhoods 11　Unit 15: What time does class start? (ペアワーク) Asking for information 12　Preparation for TOEIC IP Review TOEIC Listening & Reading Sections 13　Listening Features and Speaking Strategies (8)　(ペアワーク) Vowel, Blended sounds Shadowing, ASking about meaning 14　Final Presentation (スピーチ) Final Presentation of Daily Life 15　Final Presentation (スピーチ) Final Presentation of Daily Life
到達目標・基準	◎Ｂ：短い会話文を聴き、おおまかな内容を理解することができる。 ○Ｅ：210words程度の分量で自分の考えを話すことができる。
事前・事後学習	事前学習：単語テストの勉強と、翌週の授業範囲の単語等の意味を調べた上で、英文を音読する。(約30分) 事後学習：単語の復習並びに授業で扱った英文をスムーズに読めるまで音読する。(約60分)
指導方法	単語力をつけるために、毎回単語テストをします。 英語を話すことに慣れるためにペアワーク（ロールプレイ）等を行います。
成績評価の方法・基準	◎Ｂ：授業への貢献度・TOEIC・プレゼンテーションで評価します。 ○Ｅ：小テスト・定期試験で評価します。 授業への貢献度 20% 小テスト 15%

	TOEIC 20% プレゼンテーション 15% 定期試験 30%
テキスト	Chris Cleary. Communication Spotlight: Speaking Strategies & Listening Skills. (abax, 2013) Tomoko Yabukoshi. LISTENING UPGRADE FOR THE TOEIC TEST. (KINSEIDO, 2018)
参考書	
履修上の注意	毎回授業には必ず辞書を持参すること。なお、分からない単語は授業前に辞書で確認しておくこと。
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、スピーチ
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：Sophomore English：Intermediate(T)　　授業コード：2073

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	国専：必修
担当教員			
Ivan Botev			
Subject Code：E22A07			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	この授業は、前期に続きさらに高度な英語コミュニケーション力、特に話すこと聴くことを学ぶ授業である。テキストの各ユニットは、国際社会で生きて行くうえで理解を深めることが大切な、多文化の日常生活についてまとめられている。自然な英会話を行えるようになるために、会話とリスニングの練習を繰り返し行い、スピーチ、プレゼンテーションも行う。また、新しく学ぶ単語の習得のため毎回単語クイズを行う。 ◎B：ある程度の長さの会話文を聴き、重要な表現を正確に聴き取り英文の内容を一度で理解することができる。 B：文化の違いや多様性について、対話を通して経験し、スムーズにコミュニケーションをとれるようになる。 D：外国と日本の文化・習慣の違いを見つめ直し、異文化理解を理解することができる。 ○E：正確な英語の発音・イントネーションで200words程度の分量で自分の考えを話すことができる。
授業計画	1 Have you two met? Introductions and relationships リスニング・会話練習を通して実用英語を学ぶ 2 You must be excited! 単語クイズ Feelings and emotions リスニング・会話練習を通して実用英語を学ぶ 3 Where should I go? （ペアワーク：各ペアで会話を発表する） 単語クイズ Making recommendations リスニング・会話練習を通して実用英語を学ぶ 4 I love that! 単語クイズ Will for predictions and immediate decisionsを学ぶ リスニング・会話練習を通して実用英語を学ぶ 5 Types of Clothing 1 （ペアワーク：各ペアで会話を発表する） 単語クイズ Sharing opinions リスニング・会話練習を通して実用英語を学ぶ 6 What's your excuse? 単語クイズ Giving excuses and requests リスニング・会話練習を通して実用英語を学ぶ 7 TED TALKS: Diana Reiss （ペアワーク：各ペアで会話を発表する） 単語クイズ TED TALKSをみて、内容を理解する リスニング・会話練習を通して実用英語を学ぶ 8 What's it like there? 単語クイズ Your culture リスニング・会話練習を通して実用英語を学ぶ 9 Do you remember when...? （ペアワーク：各ペアで会話を発表する） 単語クイズ Talking about the past リスニング・会話練習を通して実用英語を学ぶ 10 Let's have a get-together! 単語クイズ Making plans リスニング・会話練習を通して実用英語を学ぶ 11 What should I do? （ペアワーク：各ペアで会話を発表する） 単語クイズ Asking for advice リスニング・会話練習を通して実用英語を学ぶ 12 Preparation for TOEIC IP Review TOEIC Listening & Reading Sections 13 Tell me a story. （ペアワーク：各ペアで会話を発表する） 単語クイズ Telling stories リスニング・会話練習を通して実用英語を学ぶ 14 In my opinion... 単語クイズ Agreeing and disagreeing リスニング・会話練習を通して実用英語を学ぶ 15 It's my dream! （ペアワーク：各ペアで会話を発表する）

	単語クイズ Talking about dreams and goals ディスカッション・会話練習を通して実用英語を学ぶ
到達目標・基準	◎Ｂ：コミュニケーション能力 　Ｄ：知識・理解 ○Ｅ：技能・表現 Ｂ：職業や年次行事に関する短い会話文を聴き、おおまかな内容を理解することができる。 Ｂ：ペアワーク、ロールプレイを通し、適切な英会話表現を使い自分の生活に関する質問に応答したり、レストランで注文することができる。 Ｄ：日本と海外の休暇の取り方に関する違いを英語で理解することができる。 Ｅ：正確な英語の発音・イントネーションで120words程度の分量で自分の考えを話すことができる。
事前・事後学習	事前学習：単語テストの勉強と、翌週の授業範囲の単語等の意味を調べた上で、英文を音読する。（約30分） 事後学習：単語の復習並びに授業で扱った英文をスムーズに読めるまで音読する。（約60分）
指導方法	単語力をつけるために、毎回単語クイズを行う。 英語を話すことに慣れるためにペアワーク、ロールプレイ等を行う。
成績評価の方法・基準	◎Ｂ：授業への貢献度・TOEIC・プレゼンテーションで評価します。 ○Ｅ：小テスト・定期試験で評価します。 授業への貢献度 20% 小テスト 15% TOEIC 20% プレゼンテーション 15% 定期試験 30%
テキスト	English Firsthand 2 (4th Edition), Pearson. M. Helgesen, S. Brown, J. Whiltshier. ISBN 9789813130234.
参考書	授業で指示します。
履修上の注意	教科書で扱う単語のなかには、新しく学ぶ単語もあるので、事前に辞書で調べて予習すること。なお、授業中に携帯アプリの使用は禁止します。教員の板書を携帯のカメラで撮る学生が増えつつありますが、単語のスペルは自分で繰り返しノートに書くことで覚えることができますので、ノートをとりましょう。授業中の居眠り・私語・無用な出入り・携帯電話の操作行為が認められた場合、減点対象とします。また、テキストなどの忘れ物も授業への取り組みの妨げとなるので、あまりに度重なる場合は減点対象とします。授業に関して、授業以外の英語学習についてアドバイスが必要な学生、英語学習について質問のある学生は遠慮なく話しかけてください。
アクティブ・ラーニング	ペアワーク
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：Sophomore English：Intermediate(R)　　授業コード：2074

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	国専：必修
担当教員			
高橋大樹			
Subject Code：E22A07			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	英語を使ってどのような行動がどの程度できるのかを常に意識しながら、英語を学習します。使用するテキストに掲載されている例文や練習問題は実生活を反映した対話や表現になっています。文法を正しく使ってスピーキングとリスニングの力を向上できるように授業を展開します。 (授業目標) ◎B：英語でのコミュニケーション力を高めて、積極的に英語を運用し、意思疎通を図ることができる。 ○E：リスニング力とスピーキング力を高めて、100words程度の正確な英語を話すことができる。
授業計画	1　Unit8: You should go back to your dorm and rest. (1) (ペアワーク：各ペアで会話を発表する) 相手の様子をみて体調を尋ね、～したほうがいいと助言する 2　Unit8: You should go back to your dorm and rest. (2) (e-learning:小テストで前回授業の理解度を測る) 相手の様子をみて体調を尋ね、～したほうがいいと助言する 3　Unit9: I was caught in a traffic jam. (1) (ペアワーク：各ペアで会話を発表する) 交通手段について話し、交通の状況について説明する 4　Unit9: I was caught in a traffic jam. (2) (e-learning:小テストで前回授業の理解度を測る) 交通手段について話し、交通の状況について説明する 5　Unit10: It's about seven minutes by bike. (1) (ペアワーク：各ペアで会話を発表する) 自分の住まいについて説明し、住まいの環境を説明する 6　Unit10: It's about seven minutes by bike. (2) (e-learning:小テストで前回授業の理解度を測る) 自分の住まいについて説明し、住まいの環境を説明する 7　Unit11: What are you going to do? (1) (ペアワーク：各ペアで会話を発表する) 休暇の過ごし方を尋ね、会話を展開する 8　Unit11: What are you going to do? (2) (e-learning:小テストで前回授業の理解度を測る) 休暇の過ごし方を尋ね、会話を展開する 9　Unit12: What's the most interesting place to visit? (1) (ペアワーク：各ペアで会話を発表する) おすすめの場所や行き方について尋ね、行先を検討する 10　Unit12: What's the most interesting place to visit? (2) (e-learning:小テストで前回授業の理解度を測る) おすすめの場所や行き方について尋ね、行先を検討する 11　Unit13: I'm looking for a suit that looks good. (ペアワーク：各ペアで会話を発表する) 店で店員に探している商品を伝え、商品を手に取って会話を広げる工夫をする 12　Preparation for TOEIC IP Review TOEIC Listening & Reading Sections 13　Unit14: I want to work for a company where... (1) (ペアワーク：各ペアで会話を発表する) これからの仕事内容や職場の様子について話す 14　Unit14: I want to work for a company where... (2) (e-learning:小テストで前回授業の理解度を測る) これからの仕事内容や職場の様子について話す 15　Final Presentation (プレゼンテーション：全員が必ず発表する) これまで学習した文法や英文をもとにペアでの会話を発表する
到達目標・基準	◎B：英語コミュニケーション力を高め、過去形や現在形、未来形を使い分けてコミュニケーションをとることができる。 ○E：スピーキング力とリスニング力を向上させてこれからの予定について60words程度の分量で自分の意見を話すことができる。
事前・事後学習	事前学習：授業時に出された指示に従い行うこと。単語や文法の予習をあらかじめ調べておくこと。(30分) 事後学習：リスニングの復習並びにプレゼンテーションの準備を行うこと。e-learningソフトを使用して、小テストを実施するのでその準備を行う。(60分)
指導方法	スピーキング力とリスニング力をバランスよくつけるために教科書を2冊毎回使用します。単語力をつけることが、英語力アップのためにはとても大切なので、ほぼ毎回単語の小テストをします。英語を話すことに慣れるためにペアワークやグループワークを使用した発表も行います。授業課題のフィードバックの方法：①小テス

	トの実施（e-learning）　②授業後における質疑対応
成績評価の方法・基準	◎Ｂ：授業への貢献度、統一単語テスト、プレゼンテーションで評価します。 ○Ｅ：小テスト、定期試験で評価します。 授業への貢献度 20% 小テスト 15% TOEIC 20% プレゼンテーション 15% 定期試験 30%
テキスト	Shigeyo Yamamoto, et al. Taking Action: Communication with Fluency and Accuracy (Kinsei-do, 2017) 桐原書店編集部編、HyperListening 10-minute English Listening Training Pre-Intermediate（桐原書店、2016）
参考書	授業中に指示します。
履修上の注意	毎回の授業で分からないところがあったら、その場ですぐに質問すること。また、分からない単語は事前に辞書で確認しましょう。ミスを恐れずに積極的に英語を使ってください。なお、毎回授業には必ず辞書を持参すること。
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、プレゼンテーション
ＩＣＴの活用	教科書付属のe-learningソフト

講義科目名称：Sophomore English Writing：Basic(U)　　授業コード：2081

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	国専：必修
担当教員			
佐藤美保			
Subject Code：E22A08			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	使えるための英語表現力を身につけられるよう、学生が興味を持ちそうなテーマについての英文を読むことで、リーディング力、およびライティング力を学習できる授業構成となっている。また、単語テストを毎回行うことで単語力アップを図る。 （授業目標） ○D：日本人と外国人との国の違いによって生じる意見の相違を学び、異文化理解を深める。一定のテーマについての知識を深める。 ◎E：授業で学んだテーマについて、320語程度の英語の文章を書くことができる。
授業計画	1 Orientation Self Introduction 2 Personality (1) Is it in your blood? Group discussion 3 Personality (2) Horoscopes Pair work 4 Punishment (1) An unpunished crime Group discussion 5 Punishment (2) The Death of Ikemefuna Pair work 6 Reviews on Unit 1 Articles 7 Reviews on Unit 2 Present simple questions 8 Extensive reading (1) Simply read Group discussion 9 Extensive reading (2) What is extensive reading? Pair work 10 Money (1) The good life? Group discussion 11 Money (2) Money matters Pair work 12 Reviews Unit 3 Present simple and present progressive 13 Reviews Unit 4 Adverbs of frequency 14 Love The six styles of love Group discussion 15 Writing a final essay Write a final essay of at least 190 words
到達目標・基準	○D：少なくとも、自分の血液型や星座の特性について英語で書くことができる。罰には効果的な罰とそうではない罰があることを理解する。 ◎E：授業で学んだテーマについて、190語程度の英語の文章を書くことができる。
事前・事後学習	事前の学習については授業時に出された指示に従い行うこと、翌週の授業で扱う単語・熟語をきちんと辞書で調べること。（約40分） 事後学習については単語の復習並びに最終プレゼンテーションの準備をすること。（約50分）
指導方法	まず各課に出てくる重要単語を学び、話題への理解と単語力の強化を目指す。その後、実際のテキストを英文和訳にこだわらず、大切な情報を迅速に読み取り、要点を要約できるよう指導する。その後、内容把握のための練習問題を解き、ライティングの練習や基本的な文法事項を確認することで、英語力、単語力、読解力、そして思考力を身につけられるような授業を行う。 フィードバックの方法：①小テストの実施とその結果についてのコメント・質疑対応②ライティング課題の提出と課題に対するコメント

成績評価の方法・基準	○D：授業貢献度と統一単語テストの成績で評価する。 ◎E：ライティング課題の完成度、小テストと定期試験の成績で評価する。 授業への貢献度 20% 小テスト 15% 統一単語テスト 20% ライティング課題 15% 定期試験 30%
テキスト	Essential Reading Second Edition Level 3　ゴフ クリス/マカボイ ジャッキー/マイルズ スコット Macmillan Language House
参考書	授業の時で指示する。
履修上の注意	毎週予習として単語テストの準備をし、それを踏まえて分からない箇所に関しては授業の際に必ず質問するなど、積極的に授業に参加すること。また、復習として確認テストをすること。毎回授業には必ず辞書を持参すること。なお、プリントを使用しての授業も行うので、休んだ場合は、プリントを使用したかどうか必ず確認すること。
アクティブ・ラーニング	グループディスカッション、ペアワーク
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：Sophomore English Writing：Basic(S)　　授業コード：2082

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	国専：必修
担当教員			
Peter Davies			
Subject Code：E22A08			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	This course is designed for students who have some knowledge of written and spoken English. It will acquaint students with the basic skills required for good writing and help them become confident writers in English. The requirements for students to achieve A/S grade include active participation in all class activities and being able to demonstrate a high level of understanding through written work. Students will score in the top 10% of the class in the final test. (Goals) ○Ｄ:It will acquaint students with the basic skills required for good writing and help them become confident writers in English. ◎Ｅ:Students can write an essay in about 80 words.
授業計画	1 Introduction Introduction to the course and text. Classroom language behaiour and expectations. 2 Chapter 1 Capital letters, simple sentences and paragraph form 3 Chapter 1 (Pair work, interview classmate) Writing about yourself and a classmate 4 Chapter 1 Vocabulary building. Filling out forms. 5 Chapter 2 Pronouns, adjectives, compound sentences and titles. 6 Chapter 2 Writing about your family. Writing a paragraph about your future. 7 Chapter 2 Review test Units 1 and 2. (peer marked and graded in class) Vocabulary. Writing an e mail to family and friends 8 Chapter 3 Simple past tense. Yes/No questions. Wh questions. Paragraph structure. 9 Chapter 3 (Pair work, interview classmate) Writing about free time activities and staying healthy 10 Chapter 3 Vocabulary. Writing an invitation 11 Chapter 4 Count/Non count nouns. Imperative sentences. Time order words. 12 Chapter 4 (Pair work, role play following instructions) Writing about how to make or do something 13 Chapter 4 Review test Units 3 and 4. Imperative sentences. Time order paragraphs. 14 Real life writing Writing a recipe card. 15 Real life writing (Pair work, peer editing) Communication skills learnt. Peer editing.
到達目標・基準	The students need to participate in all class activities to the best of their ability and demonstrate a basic level of understanding in their written work. students must score 60-70% in their final test. ○Ｄ:You will increase your vocabulary and practice writing using grammar and vocabulary learnt. ◎Ｅ:Students can write an essay in about 50 words.
事前・事後学習	There will be some grammar and vocabulary homework.(45 mins) Students need to keep a notebook for additional writing and vocabulary lists.(45 mins)
指導方法	The lessons will be taught in English only and students will work in pairs at times. Note books will checked and graded twice a semester and comments given by the teacher. Writing assignments marked, graded and returned. Short tests x 2 peer marked and scored. Role play, follow written instructions, (how to make or do something).
成績評価の方法・基準	○Ｄ: Participation, Vocabulary Test ◎Ｅ: Essay Writing, Quiz, Final Exam Participation 20% Quiz 15% Vocabulary Test 20%

	Essay Writing 15% Final Exam 30%
テキスト	Ready to write. A first composition text. 4th Edition.　K Blanchard.　Pearson.2017
参考書	
履修上の注意	Students need to keep a notebook and vocabulary list.
アクティブ・ラーニング	Pair work, peer interview and editing. Role play.
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：Sophomore English Writing：Basic(T)　　授業コード：2083

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	国専：必修
担当教員			
玉川　明日美			
Subject Code：E22A08			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	この授業は、英語コミュニケーション力、特に読むことと書くことの基礎を学ぶ授業です。メインテキストとサブテキストを毎回使用し、各ユニットの目的に沿って授業を進めます。単語力アップを図るために、毎回単語テストを行います。実際に使える英語表現力を身につけられるよう、学生にとって身近なテーマに関する英文をとりあげながら、リーディング力およびライティング力を段階的に養っていきます。 (授業目標) ○D：日常的な場面で使用する重要な単語やフレーズ、慣用表現を網羅的に習得することができる。 ◎E：日常的なトピックについて、150words程度の文章を書くことができる。
授業計画	1　Introduction Pre-Test 2　Pre-Writing Pre-Writing／文法・表現の確認 3　Unit1: Course Description 名詞＋前置詞コロケーション (1) 4　Unit2: Daily Schedule 名詞＋前置詞コロケーション (2) 5　Unit3: Weekly Schedule 形容詞＋名詞コロケーション 6　Unit4: Punctuality 前置詞＋名詞コロケーション 7　Unit5: Dream 名詞＋to do／＋of doing 8　Unit1-5 Reading and Translation Unit1～5の英文の訳読・英語翻訳work 9　Unit6: Tests 動詞＋名詞コロケーション (1) 10　Unit7: Being Healthy 動詞＋名詞コロケーション (2) 11　Unit8: Comparison 形容詞＋前置詞コロケーション 12　Unit9: Volunteer Work 形容詞＋to不定詞（1） 13　Unit10: Prediction 形容詞＋to不定詞 (2) 14　Unit6-10 Reading and Translation Unit6～10の英文の訳読・英語翻訳work 15　Final Writing Workshop（ディスカッション） 興味のあるトピックについて英語で意見をまとめる
到達目標・基準	○D：日常的な場面で使用する基本単語の意味用法を理解することができる。 ◎E：日常的なトピックについて、90words程度の文章を書くことができる。
事前・事後学習	事前学習：単語テストの勉強と、翌週の授業範囲の単語等の意味を調べた上で、英文を音読する。（約45分） 事後学習：単語の復習並びに授業で扱った英文をスムーズに読めるまで音読する。（約45分）
指導方法	まず各課に出てくる重要単語を学び、話題への理解と単語力の強化を目指します。その後、実際のテキストを英文和訳にこだわらず、大切な情報を迅速に読み取り、要点を要約できるよう指導します。その後、内容把握のための練習問題を解き、基本的な文法事項を確認することで、英語力、単語力、読解力、そして思考力を身につけられるような授業を行います。 毎回の授業における気づきや振り返り、課題等を自己評価シートに記録させ、習熟度を段階的にかつ具体的に自己分析していきながら、英語力の向上を目指します。自己評価シートは、一人一人にコメントをした上で、翌週授業時に返却します。
成績評価の方法・基準	○D：授業への貢献度・統一単語テストで評価します。 ◎E：ライティング課題・小テスト・定期試験で評価します。 授業への貢献度 20% 小テスト 15% 統一単語テスト 20%

	ライティング課題 15% 定期試験 30%
テキスト	Yuri Komuro, et al. Write Better with Patterns. (KINSEIDO, 2011) Seishi Sato. Everyday Vocabulary Quizzes. (NAN'UN-DO, 2011)
参考書	授業時に紹介します。
履修上の注意	毎回必ず辞書を使用するので持ってくること。授業では、疑問点を解決し、新たな視点を獲得するとともに、題材になっている事柄への理解と関心を深めるために、主体的に考えながら授業に参加することが求められます。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：Sophomore English Writing：Basic(R)　　授業コード：2084

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	国専：必修
担当教員			
森田千草			
Subject Code：E22A08			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	この授業では、英語運用力、特にリーディングとライティングの基礎を強固にすることを目的とする。短い会話文やパッセージの読解や問題演習を通して、日本人英語学習者が苦手とする文法事項や構文を比較し、形や使用方法の違いを理解する。さらに、日常生活でよく使われる「英語らしい表現」を学び、自分の身近な話題について英語で文章を書く訓練を行う。 (授業目標) ○D：様々な状況における会話文や100語程度の文章を読み、その内容を正確に理解することができる。 ◎E：自分の身近な話題について、80語程度の英語の文章を正確に書くことができる。
授業計画	1　オリエンテーション 授業の進め方とテキストの説明を行う。 2　Unit 1 That's Ashley Brown! (グループワーク：パッセージの内容をグループでまとめ発表) be動詞の現在形と過去形について学ぶ。会話文とパッセージの内容理解、問題演習を通して文法知識の定着を図る。さらに学んだ文法知識を用いて英作文を行う。 3　Unit 2 Ashley, Where Are You? (グループワーク：パッセージの内容をグループでまとめ発表) 命令文について学ぶ。会話文とパッセージの内容理解、問題演習を通して文法知識の定着を図る。さらに学んだ文法知識を用いて英作文を行う。 4　Unit 3 Sorry Tom (グループワーク：パッセージの内容をグループでまとめ発表) 現在形と現在進行形について学ぶ。会話文とパッセージの内容理解、問題演習を通して文法知識の定着を図る。さらに学んだ文法知識を用いて英作文を行う。 5　Unit 4 Talk to You Later (グループワーク：パッセージの内容をグループでまとめ発表) 代名詞について学ぶ。会話文とパッセージの内容理解、問題演習を通して文法知識の定着を図る。さらに学んだ文法知識を用いて英作文を行う。 6　Unit 5 Lunch at Karen's Place (グループワーク：パッセージの内容をグループでまとめ発表) 過去形と過去進行形について学ぶ。会話文とパッセージの内容理解、問題演習を通して文法知識の定着を図る。さらに学んだ文法知識を用いて英作文を行う。 7　Unit 6 I'm Really Excited (グループワーク：パッセージの内容をグループでまとめ発表) 過去形と現在完了形について学ぶ。会話文とパッセージの内容理解、問題演習を通して文法知識の定着を図る。さらに学んだ文法知識を用いて英作文を行う。 8　Unit 1-6のまとめ (ペアワーク：お互いの英作文を添削する) Unit 1-6で学んだ文法事項を再度確認し、扱ったトピックからひとつ選んでパラグラフライティングを行う。 9　Unit 7 Here I Am (グループワーク：パッセージの内容をグループでまとめ発表) 時を表す前置詞について学ぶ。会話文とパッセージの内容理解、問題演習を通して文法知識の定着を図る。さらに学んだ文法知識を用いて英作文を行う。 10　Unit 8 What Did You Make? (グループワーク：パッセージの内容をグループでまとめ発表) 加算名詞と不加算名詞について学ぶ。会話文とパッセージの内容理解、問題演習を通して文法知識の定着を図る。さらに学んだ文法知識を用いて英作文を行う。 11　Unit 9 I'm So Tired! (グループワーク：パッセージの内容をグループでまとめ発表) 未来形(will、be going to)をについて学ぶ。会話文とパッセージの内容理解、問題演習を通して文法知識の定着を図る。さらに学んだ文法知識を用いて英作文を行う。 12　Unit 10 Just Relax and Have Fun (グループワーク：パッセージの内容をグループでまとめ発表) 助動詞について学ぶ。会話文とパッセージの内容理解、問題演習を通して文法知識の定着を図る。さらに学んだ文法知識を用いて英作文を行う。 13　Unit 11 I'll Have Water (グループワーク：パッセージの内容をグループでまとめ発表) さまざまな接続詞について学ぶ。会話文とパッセージの内容理解、問題演習を通して文法知識の定着を図る。さらに学んだ文法知識を用いて英作文を行う。 14　Unit 12 A Hot Dog Would Be Great! (グループワーク：パッセージの内容をグループでまとめ発表) Yes/No疑問文について学ぶ。会話文とパッセージの内容理解、問題演習を通して文法知識の定着を図る。さらに学んだ文法知識を用いて英作文を行う。 15　Unit 7-12のまとめ (ペアワーク：お互いの英作文を添削する) Unit 7-12で学んだ文法事項を再度確認し、扱ったトピックからひとつ選んでパラグラフライティングを行う。
到達目標・基準	○D：友人との日常会話や旅行や就職活動について書かれた文章の概要を把握することができる。 ◎E：自分が週末にしたことや普段の習慣について50語程度の英語の文章を書くことができる。
事前・事後学習	事前学習：分からない語句を調べ、テキストの設問に取り組む。(45分) 事後学習：語句や表現、文法を復習し、会話文やパッセージの音読を行う。(45分)
指導方法	テキストの会話文やパッセージの内容を把握し、語彙や文法事項を確認する。さまざまな問題演習を通して文法知識の定着を図るとともに、日常生活でよく使われる「英語らしい表現」を学ぶ。最後に学んだ語彙や表現

	をもとに、身近な話題について英語で文章を書く訓練を行う。 フィードバックの方法: ①小テストの実施とその採点評価、②小テストの採点評価についての質疑対応、③ライティング課題の提出と課題に対するコメント
成績評価の方法・基準	○D: 授業貢献度と統一単語テストの成績で評価する。 ◎E: ライティング課題の完成度、小テストと定期試験の成績で評価する。 授業への貢献度 20% 小テスト 15% 統一単語テスト 20% ライティング課題 15% 定期試験 30%
テキスト	English Upload, Robert Hickling and Satsuki Osaki, 金星堂, 2013.
参考書	授業中に指示する。
履修上の注意	ペアやグループでの演習を中心に授業を進めるため、積極的に参加する姿勢を求める。確認のための小テストを適宜実施する。また授業の際には必ず英和辞典(携帯電話・スマートフォンの使用は認めない)を持参すること。
アクティブ・ラーニング	グループワーク
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：Sophomore English Writing：Intermediate(U)　授業コード：2091

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	国専：必修
担当教員			
佐藤美保			
Subject Code：E22A09			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	Sophomore English Writing：Basicで学んだ使えるための英語表現力をさらにアップできるよう、学生が興味を持ちそうなテーマについての英文を読むことで、リーディング力、およびライティング力を学習できる授業構成となっている。また、単語テストを毎回行うことで単語力アップを図る。 (授業目標) ○D：日本人と外国人との国の違いによって生じる意見の相違を学び、異文化理解を深める。一定のテーマについての知識を深める。 ◎E：授業で学んだテーマについて450語程度の英語の文章を書くことができる。
授業計画	1 The Internet (1) Is Netspeak harming the English language? Group discussion 2 The Internet (2) Formal request email etiquette Pair work 3 Language (1) Is younger always better? Group discussion 4 Language (2) Language and the world Pair work 5 Populations in peril (1) Endangered populations Group discussion 6 Populations in peril (2) A happy, married life? Pair work 7 Reviews on Unit 7 Grammar: The...the... 8 Review on Unit 8 Present simple and present perfect 9 West meets East (1) The "Asianization" of the United States Group discussion 10 West meets East (2) Expat in Asia Pair work 11 Review on Unit 10 Grammar: Exemplification 12 Media (1) Consumer beware: advertising techniques Group discussion 13 Media (2) Images of Asian in Hollywood Pair work 14 Success For an effective interview Pair work 15 Writing a final essay Write a final essay of at least 270 words
到達目標・基準	D○：Netspeakやアジアの文化について、説明する文章を英語で書くことできる。 E◎：一定のテーマについて、270語程度の英語の文章を書くことができる。
事前・事後学習	事前の学習については授業時に出された指示に従い行うこと、翌週の授業で扱う単語・熟語をきちんと辞書で調べること。(約40分) 事後学習については単語の復習並びに最終プレゼンテーションの準備をすること。(約50分)
指導方法	まず各課に出てくる重要単語を学び、話題への理解と単語力の強化を目指す。その後、実際のテキストを英文和訳にこだわらず、大切な情報を迅速に読み取り、要点を要約できるよう指導する。その後、内容把握のための練習問題を解き、ライティングの練習や基本的な文法事項を確認することで、英語力、単語力、読解力、そして思考力を身につけられるような授業を行う。 フィードバックの方法：①小テストの実施とその結果についてのコメント・質疑対応②ライティング課題の提

	出と課題に対するコメント
成績評価の方法・基準	○D：授業貢献度と統一単語テストの成績で評価する。 ◎E：ライティング課題の完成度、小テストと定期試験の成績で評価する。 授業への貢献度 20% 小テスト 15% TOEIC 20% ライティング課題 15% 定期試験 30%
テキスト	Essential Reading Second Edition Level 3　ゴフ クリス/マカボイ ジャッキー/マイルズ スコット Macmillan Language House
参考書	授業の時で指示する。
履修上の注意	毎週予習として単語テストの準備をし、それを踏まえて分からない箇所に関しては授業の際に必ず質問するなど、積極的に授業に参加すること。また、復習として確認テストをすること。毎回授業には必ず辞書を持参すること。なお、プリントを使用しての授業も行うので、休んだ場合は、プリントを使用したかどうか必ず確認すること。
アクティブ・ラーニング	グループディスカッション、ペアワーク
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：Sophomore English Writing：Intermediate(S)　授業コード：2092

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	国専：必修
担当教員			
Peter Davies			
Subject Code：E22A09			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	This course is for students who have some knowledge of written and spoken English.It will acquaint students with the basic skills required for good writing and help them become confident writers in English. The goals for grade A/S students remain the same as in the first term of this course. (Goals) ○Ｄ:It will acquaint students with the basic skills required for good writing and help them become confident writers in English. ◎Ｅ:Students can write an essay in about 150 words.
授業計画	1 Chapter 5 Prepositions of time. Frequency adverbs. 2 Chapter 5 (Pair work peer check and edit) Time order paragraphs. Paragraph unity. 3 Chapter 5 Writing about a special day. 4 Chapter 5 (Pair work, peer marked and graded quiz) Vocabulary quiz. Writing a greetings card. 5 Chapter 6 Present progressive. Statements. 6 Chapter 6 Adjectives. Examples and supporting details. 7 Chapter 6 (Pair work peer edit test in class) Completing an order form. Lost and found messages. Short test/ review unit 6. 8 Chapter 7 There is / are. Prepositions of place. 9 Chapter 7 Space order paragraphs. Describing a picture. 10 Chapter 7 (Pair work peer edit letter) Vocabulary quiz. Writing a friendly letter.Addressing an envelope. 11 Chapter 8 (Pair work, asking and answering example questions) Simple past. yes / no questions. Wh questions. 12 Chapter 8 Narrative paragraphs. Writing about personal experience. 13 Chapter 8 Writing an autobiography. 14 Chapter 9 (Pair work, giving and accepting advice) Should with options and advice with. 15 Chapter 9 (Pair work, peer editing quiz in class) Order of importance paragraphs.
到達目標・基準	The goals and requirements for the students remain the same as in the first semester of this course. ○Ｄ:You will increase your vocabulary and practice writing using grammar and vocabulary learnt. ◎Ｅ:Students can write an essay in about 90 words.
事前・事後学習	There will be some grammar and vocabulary homework.(45 mins) Students need to keep a notebook for additional writing and vocabulary lists.(45 mins)
指導方法	The lessons will be taught in English only and students will work in pairs at times. Note books will be checked and graded twice per semester and comments and grades given by teacher. Short test results checked, graded and shared with students. Pair work, interview and peer editing. Continuous personal feed back regarding participation in class. Corrected writing assignments marked, graded and returned. Quiz peer edited in class.
成績評価の方法・基準	○Ｄ: Participation, Vocabulary Test ◎Ｅ: Essay Writing, Quiz, Final Exam Participation 20% Quiz 15% TOEIC 20%

	Essay Writing 15% Final Exam 30%
テキスト	Ready to write. A first composition text. 4th Edition.　K Blanchard.　Pearson.2017
参考書	
履修上の注意	Students need to keep a notebook and vocabulary list.
アクティブ・ラーニング	Pair work. Peer editing.
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：Sophomore English Writing：Intermediate(T)　授業コード：2093

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	国専：必修
担当教員			
玉川　明日美			
Subject Code：E22A09			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	この授業は、英語コミュニケーション力、特に読むことと書くことの基礎を学ぶ授業です。メインテキストとサブテキストを毎回使用し、各ユニットの目的に沿って授業を進めます。単語力アップを図るために、毎回単語テストを行います。実際に使える英語表現力を身につけられるよう、学生にとって身近なテーマに関する英文をとりあげながら、リーディング力およびライティング力を段階的に養っていきます。 (授業目標) ○D：日常的な場面で使用する重要な単語やフレーズ、慣用表現を網羅的に習得することができる。 ◎E：日常的なトピックについて、200words程度の文章を書くことができる。
授業計画	1　Introduction Pre-Writng／文法・表現の確認 2　Step-up Writing Step-up Writing 3　Unit11: Eco-friendly 連結語 4　Unit12: Vacation 目的語の形 (1) 5　Unit13: What to Wear? 目的語の形 (2) 6　Unit14: Going to a Hairdresser SVOC (1) 7　Unit15: Email Message SVOC (2) 8　Unit11-15 Reading and Translation Unit11～15の英文の訳読・英語翻訳work 9　Unit16: Classification 動詞＋前置詞 (句) 10　Unit17: Meeting Old Friends 動詞＋副詞／形容詞コロケーション 11　Unit18: Describing People カタカナ語 12　Unit19: Responsibility 類語表現 (1) 13　Unit20: Favorite Writers 類語表現 (2) 14　Unit16-20 Reading and Translation Unit16～20の英文の訳読・英語翻訳work 15　Final Writing Workshop (ディスカッション) 興味のあるトピックについて英語で意見をまとめる
到達目標・基準	○D：日常的な場面で使用する基本単語の意味用法を理解することができる。 ◎E：日常的なトピックについて、120words程度の文章を書くことができる。
事前・事後学習	事前学習：単語テストの勉強と、翌週の授業範囲の単語等の意味を調べた上で、英文を音読する。(約45分) 事後学習：単語の復習並びに授業で扱った英文をスムーズに読めるまで音読する。(約45分)
指導方法	まず各課に出てくる重要単語を学び、話題への理解と単語力の強化を目指します。その後、実際のテキストを英文和訳にこだわらず、大切な情報を迅速に読み取り、要点を要約できるよう指導します。その後、内容把握のための練習問題を解き、基本的な文法事項を確認することで、英語力、単語力、読解力、そして思考力を身につけられるような授業を行います。 毎回の授業における気づきや振り返り、課題等を自己評価シートに記録させ、習熟度を段階的にかつ具体的に自己分析していきながら、英語力の向上を目指します。自己評価シートは、一人一人にコメントをした上で、翌週授業時に返却します。
成績評価の方法・基準	○D：授業への貢献度・TOEICで評価します。 ◎E：ライティング課題・小テスト・定期試験で評価します。 授業への貢献度 20% 小テスト 15% TOEIC 20%

	ライティング課題 15% 定期試験 30%
テキスト	Yuri Komuro, et al. Write Better with Patterns. (KINSEIDO, 2011) Seishi Sato. Everyday Vocabulary Quizzes. (NAN'UN-DO, 2011)
参考書	授業時に紹介します。
履修上の注意	毎回必ず辞書を使用するので持ってくること。授業では、疑問点を解決し、新たな視点を獲得するとともに、題材になっている事柄への理解と関心を深めるために、主体的に考えながら授業に参加することが求められます。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：Sophomore English Writing：Intermediate(R)　授業コード：2094

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	国専：必修
担当教員			
森田千草			
Subject Code：E22A09			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	この授業では、英語運用力、特にリーディングとライティングの基礎を強固にすることを目的とする。短い会話文やパッセージの読解や問題演習を通して、日本人英語学習者が苦手とする文法事項や構文を比較し、形や使用方法の違いを理解する。さらに、日常生活でよく使われる「英語らしい表現」を学び、自分の身近な話題について英語で文章を書く訓練を行う。 (授業目標) ○D：様々な状況における会話文や100語程度の文章を読み、その内容を正確に理解することができる。 ◎E：自分の身近な話題について、100語程度の英語の文章を正確に書くことができる。
授業計画	1　前期の復習 前期に学んだ文法事項を再度確認する。 2　Unit 13 Did You Bring the DVD? （グループワーク：パッセージの内容をグループでまとめ発表） 場所と移動を表す前置詞について学ぶ。会話文とパッセージの内容理解、問題演習を通して文法知識の定着を図る。さらに学んだ文法知識を用いて英作文を行う。 3　Unit 14 Meat, Corn, Fruit and Drinks （グループワーク：パッセージの内容をグループでまとめ発表） Wh-疑問文について学ぶ。会話文とパッセージの内容理解、問題演習を通して文法知識の定着を図る。さらに学んだ文法知識を用いて英作文を行う。 4　Unit 15 We Look Pretty Silly （グループワーク：パッセージの内容をグループでまとめ発表） a/anやthe、one(s)について学ぶ。会話文とパッセージの内容理解、問題演習を通して文法知識の定着を図る。さらに学んだ文法知識を用いて英作文を行う。 5　Unit 16 It Was Professor Goodman （グループワーク：パッセージの内容をグループでまとめ発表） 自動詞と他動詞をの違いについて学ぶ。会話文とパッセージの内容理解、問題演習を通して文法知識の定着を図る。さらに学んだ文法知識を用いて英作文を行う。 6　Unit 17 Are You Free on Monday? （グループワーク：パッセージの内容をグループでまとめ発表） 能動態と受動態について学ぶ。会話文とパッセージの内容理解、問題演習を通して文法知識の定着を図る。さらに学んだ文法知識を用いて英作文を行う。 7　Unit 18 I Think I'll Buy It （グループワーク：パッセージの内容をグループでまとめ発表） 形容詞について学ぶ。会話文とパッセージの内容理解、問題演習を通して文法知識の定着を図る。さらに学んだ文法知識を用いて英作文を行う。 8　Unit 13-18のまとめ （ペアワーク：お互いの英作文を添削する） Unit 13-18で学んだ文法事項を再度確認し、扱ったトピックからひとつ選んでパラグラフライティングを行う。 9　Unit 19 For　Your Legs and Heart （グループワーク：パッセージの内容をグループでまとめ発表） 動名詞と不定詞について学ぶ。会話文とパッセージの内容理解、問題演習を通して文法知識の定着を図る。さらに学んだ文法知識を用いて英作文を行う。 10　Unit 20 My Dad's Old Desktop （グループワーク：パッセージの内容をグループでまとめ発表） 形容詞の比較級と最上級について学ぶ。会話文とパッセージの内容理解、問題演習を通して文法知識の定着を図る。さらに学んだ文法知識を用いて英作文を行う。 11　Unit 21 Ladies First （グループワーク：パッセージの内容をグループでまとめ発表） 副詞について学ぶ。会話文とパッセージの内容理解、問題演習を通して文法知識の定着を図る。さらに学んだ文法知識を用いて英作文を行う。 12　Unit 22 I Just Hope We Get There （グループワーク：パッセージの内容をグループでまとめ発表） 従位接続詞について学ぶ。会話文とパッセージの内容理解、問題演習を通して文法知識の定着を図る。さらに学んだ文法知識を用いて英作文を行う。 13　Unit 23 Let's Get Over There, Quick! （グループワーク：パッセージの内容をグループでまとめ発表） 関係詞について学ぶ。会話文とパッセージの内容理解、問題演習を通して文法知識の定着を図る。さらに学んだ文法知識を用いて英作文を行う。 14　Unit 24 Let's Do That! （グループワーク：パッセージの内容をグループでまとめ発表） So do I.やNeither do I.などの表現について学ぶ。会話文とパッセージの内容理解、問題演習を通して文法知識の定着を図る。さらに学んだ文法知識を用いて英作文を行う。 15　Unit 19-24のまとめ （ペアワーク：お互いの英作文を添削する） Unit 7-12で学んだ文法事項を再度確認し、扱ったトピックからひとつ選んでパラグラフライティングを行う。
到達目標・基準	○D：友人との日常会話やイベントや観光名所について書かれた文章の概要を把握することができる。 ◎E：自分の将来や興味のあることついて、60語程度の英語の文章を書くことができる。

事前・事後学習	事前学習: 分からない語句を調べ、テキストの設問に取り組む。(45分) 事後学習: 語句や表現、文法を復習し、会話文やパッセージの音読を行う。(45分)
指導方法	テキストの会話文やパッセージの内容を把握し、語彙や文法事項を確認する。さまざまな問題演習を通して文法知識の定着を図るとともに、日常生活でよく使われる「英語らしい表現」を学ぶ。最後に学んだ語彙や表現をもとに、身近な話題について英語で文章を書く訓練を行う。 フィードバックの方法: ①小テストの実施とその採点評価、②小テストの採点評価についての質疑対応、③ライティング課題の提出と課題に対するコメント
成績評価の方法・基準	○D: 授業貢献度とTOEICの成績で評価する。 ◎E: ライティング課題の完成度、小テストと定期試験の成績で評価する。 授業への貢献度 20% 小テスト 15% TOEIC 20% ライティング課題 15% 定期試験 30%
テキスト	English Upload, Robert Hickling and Satsuki Osaki, 金星堂, 2013.
参考書	授業中に指示する。
履修上の注意	ペアやグループでの演習を中心に授業を進めるため、積極的に参加する姿勢を求める。確認のための小テストを適宜実施する。また授業の際には必ず英和辞典(携帯電話・スマートフォンの使用は認めない)を持参すること。
アクティブ・ラーニング	グループワーク
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：Practical English A (U)　　授業コード：2241

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	国専：選択
担当教員			
Ivan Botev			
Subject Code：E12C10			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	本授業では、TOEIC初心者が受験するにあたり、注意する点やコツなどを身につけ英語力とTOEICスコアのアップを目指します。とりわけTOEICのリーディング・セクションにおいて点数を伸ばす勉強は長期戦であると言われています。本授業では、リスニングとリーディングの両方を扱いますが、特にリーディング・セクションの学習を中心に、各パートの出題傾向に慣れ、解説を通して理解を深めます。テストにおいては短時間で正解に導くことが求められるため、授業で行う演習に関しても時間に注意しながら問題を解く練習を繰り返し行います。また、大学生にとってはまだあまり馴染みのない単語を身につけるため、単語テストを毎回行い語彙力の強化を図ります。 (授業目標) ◯D:TOEICテストの全Partの問題の特徴と解法のポイントを理解することができる。 ◎E:TOEICテストの全Partを時間内に効率よく正確に解答する力をつけることができる。
授業計画	1　オリエンテーション 授業の進め方、予習と復習の仕方について説明する 単語勉強の進め方に関する説明 TOEICテストとはどんなテストか？ 2　リーディング　短文穴埋め１ 単語テスト 短文穴埋め問題のすすめ、演習 3　リーディング　短文穴埋め２ 単語テスト 短文穴埋め問題演習 （形の似通った選択肢の場合） 4　リーディング　短文穴埋め３ 単語テスト 短文穴埋め問題演習 （文法的に同様の働きをする選択肢の場合） 5　リスニング　写真描写問題　（ペアワーク：各ペアで会話を発表する） 単語テスト リスニングのPart1の問題のすすめ、演習 音読練習 6　リーディング　短文穴埋め４ 単語テスト 短文穴埋め問題演習 （content word、似通った意味の選択肢の場合） 7　リーディング　短文穴埋め５ 単語テスト 短文穴埋め問題演習 （副詞と前置詞） 8　リーディング　短文穴埋め6 単語テスト 短文穴埋め問題演習 （接続詞、動名詞） 9　リスニング　応答問題　（ペアワーク：各ペアで会話を発表する） 単語テスト リスニングのPart２の問題のすすめ、演習 音読練習 10　リーディング　長文穴埋め問題１ 単語テスト 長文穴埋め問題演習 （単語選択問題） 11　リーディング　長文穴埋め問題２ 単語テスト 長文穴埋め問題演習 （同じ語幹を持つ単語の選択） 12　リスニング　会話問題　（ペアワーク：各ペアで会話を発表する） 単語テスト リスニングのPart３の問題のすすめ、演習 音読練習 13　リーディング　長文穴埋め問題３ 単語テスト 長文穴埋め問題演習 （前置詞、接続詞） 14　リーディング　長文穴埋め問題４ 単語テスト 長文穴埋め問題演習

	（動名詞、代名詞） 15　リスニング　説明文問題　（ペアワーク：各ペアで会話を発表する） 単語テスト リスニングのPart４の問題のすすめ、演習 音読練習
到達目標・基準	○Ｄ：日常生活やビジネスシーンにおける英語表現を理解することができる。 ○Ｄ：TOEICテストのリスニングセクションの出題パターンを理解することができる。 ◎Ｅ：TOEICテストのリーディングセクションを、解法のポイントをおさえて解くことができる。
事前・事後学習	事前学習：単語テストの勉強と、翌週の授業範囲の単語等の意味を調べる。（約45分） 事後学習：単語の復習並びにわからなかった問題を見直しし、何故間違えたのか把握する。（約45分）
指導方法	授業の始めにビジネス関連を中心とする語彙・熟語の小テストを行います。リスニング問題を解き、その後音読を行うことによってリスニングセクションの問題に耳を慣らします。リーディングセクションの問題演習を通し、TOEICテストの特徴と解法のポイントを解説し、いかにして正解に導くか学生に考えてもらいながら授業を展開します。 フィードバックの方法: 1. 小テストの実施と採点評価、2. リアクションペーパーにコメントを記載し返却、3. 採点評価やコメントに関する質疑対応など
成績評価の方法・基準	Ｄ：単語テスト、授業時の問題演習、定期試験で評価する。 Ｅ：定期試験で評価する。 授業への貢献度 20% 小テスト 20% 統一単語テスト 20% プレゼンテーション 10% 定期試験 30%
テキスト	Junnosuke Hamasaki. Primary Trainer for the TOEIC L&R Test (National Geographic Learning, 2019)
参考書	『TOEICテスト公式問題集　新形式問題対応編』国際ビジネスコミュニケーション協会 ほかは授業で指示します。
履修上の注意	教科書で扱う単語のなかには、新しく学ぶ単語もあるので、事前に辞書で調べて予習すること。 なお、授業中に携帯アプリの使用は禁止します。 教員の板書を携帯のカメラで撮る学生が増えつつありますが、単語のスペルは自分で繰り返しノートに書くことで覚えることができますので、ノートをとりましょう。 授業中の居眠り・私語・無用な出入り・携帯電話の操作行為が認められた場合、減点対象とします。また、テキストなどの忘れ物も授業への取り組みの妨げとなるので、あまりに度重なる場合は減点対象とします。
アクティブ・ラーニング	ペアワーク
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：Practical English A (S)　　授業コード：2242

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	国専：選択
担当教員			
玉川　明日美			
Subject Code：E12C10			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	TOEICテストの各パートの特徴理解と解法の修得に焦点を当てた授業です。リスニング力や文章読解力向上のために、単語テストを毎回行います。TOEICテストの問題演習を通して、身近な日常生活における基礎的な英語表現を、リスニングとリーディングを通して学びます。 (授業目標) ○D：TOEICテストの全Partの問題の特徴と解法のポイントを理解することができる。 ◎E：TOEICテストの全Partの問題を時間内に効率よく正確に解答することができる。
授業計画	1　Unit 1: Travel (Listening Section) 空港や駅での構内放送、機内や列車内でのアナウンスなど 2　Unit 1: Travel (Reading Section) ホテルや旅行会社からのEメールなど 3　Unit 2: Dining Out (Listening Section) レストランでの会話、予約・注文の確認など 4　Unit 2: Dining Out (Reading Section) レストランのレビュー、開店・移転のお知らせなど 5　Unit 3: Media (Listening Section) 交通情報・天気予報・地域ニュース・経済ニュースなど 6　Unit 3: Media (Reading Section) 新聞・雑誌記事、ラジオ局・出版社へのコメントなど 7　Unit 4: Entertainment (Listening Section) チケット売り場での会話、美術館・博物館のアナウンスなど 8　Unit 4: Entertainment (Reading Section) 書評、展覧会・演劇・音楽に関する記事など 9　Unit 5: Purchasing (Listening Section) 店員とお客との会話、店内アナウンスなど 10　Unit 5: Purchasing (Reading Section) 商品の注文・変更・返品など 11　Unit 6: Clients (Listening Section) 納期・取引先についての会話、進捗状況についての説明など 12　Unit 6: Clients (Reading Section) スケジュール・納期の変更に関するメールやチャットなど 13　Unit 7: Recruiting (Listening Section) 求人に関する会話や問い合わせなど 14　Unit 7: Recruiting (Reading Section) 求人案内、求人応募メールなど 15　Unit 8: Personnel (Listening Section) 研修・退職・異動に関する会話やお知らせなど
到達目標・基準	○D：TOEICテストPart1およびPart2の出題パターンを理解することができる。 ◎E：TOEICテストのReading Sectionを、解法のポイントをおさえて解くことができる。
事前・事後学習	事前学習：単語テストの勉強と、翌週の授業範囲の単語等の意味を調べた上で、英文を音読する。(約60分) 事後学習：単語の復習並びに授業で扱った英文をスムーズに読めるまで音読する。(約30分)
指導方法	毎回単語テストを行います。実戦形式の問題演習を通して、TOEICテストの問題の特徴と解法のポイントを解説し、考えながら英語を学ぶ主体的な学習に焦点をあてて授業を展開します。毎回の授業における気づきや振り返り、課題等を自己評価シートに記録させ、習熟度を段階的にかつ具体的に自己分析していきながら、英語力の向上を目指します。自己評価シートは、一人一人にコメントをした上で、翌週授業時に返却します。
成績評価の方法・基準	○D：単語テスト、授業時の問題演習、定期試験で評価する。 ◎E：定期試験で評価する。 授業への貢献度 30% 単語テスト 20% TOEIC 10% 定期試験 40%
テキスト	Koji Hayakawa, et al. THE HIGH ROAD TO THE TOEIC LISTENING AND READING TEST. (KINSEIDO, 2017) Seishi Sato. TOEIC TEST VOCABULARY QUIZZES (NAN'UN-DO, 2011)

参考書	授業時に紹介します。
履修上の注意	毎回必ず辞書を使用するので持ってくること。授業では、課題の発見、疑問点の解決、取り組む演習問題の内容に対する理解と関心を深めるなど、主体的に考えながら授業に参加することが求められます。 *自費にてTOEICテストを受験することを勧めます。
アクティブ・ラーニング	
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：Practical English A (R)　　授業コード：2244

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	国専：選択
担当教員			
菅原千津			
Subject Code：E12C10			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	TOEICテストの各パートの特徴理解と解法の修得に焦点を当てた授業です。リスニング力や文章読解力向上のために、単語テストを毎回行います。TOEICテストの問題演習を通して、身近な日常生活における基礎的な英語表現を、リスニングとリーディングを通して学びます。 (授業目標) ○D：TOEICテストの全Partの問題の特徴と解法のポイントを理解することができる。 ◎E：TOEICテストの全Partの問題を時間内に効率よく正確に解答する力をつけることができる。
授業計画	1　Introduction 教科書、授業内容と進め方、授業の準備、評価方法の説明　及び音読トレーニングについて TOEIC公式ホームページや英語動画などを使用した自己学習について TOEIC　自動採点・分析アプリabceed analyticsの活用について 2　TOEICの基礎知識 リスニング・リーディング問題の形式、頻出パターン、時間配分などについての講義 3　語彙演習／文法演習　品詞 語彙演習／文法問題演習 4　語彙演習／文法演習　品詞問題１／リスニング　Part 1（ペアワーク） 語彙演習・テスト／文法問題演習・テスト／リスニング演習 ペア音読演習 5　語彙演習／文法演習　品詞問題２　修飾語（形容詞、副詞、前置詞＋名詞）／リスニング　Part 1（ペアワーク） 語彙演習・テスト／文法問題演習・テスト／リスニング演習 ペア音読演習 6　語彙演習／文法演習　品詞問題３／リスニング　Part 2（ペアワーク） 語彙演習・テスト／文法問題演習・テスト／リスニング演習 ペア音読演習 7　語彙演習／文法演習　品詞問題　応用１／リスニング　Part 2（ペアワーク） 語彙演習・テスト／文法問題演習・テスト／リスニング演習 ペア音読演習 8　語彙演習／文法演習　品詞問題　応用２／リスニング　Part 2（ペアワーク） 語彙演習・テスト／文法問題演習・テスト／リスニング演習 ペア音読演習 9　語彙演習／文法演習　動詞問題１　主述の一致／リスニング　Part 3（ペアワーク） 語彙演習・テスト／文法問題演習・テスト／リスニング演習 ペア音読演習 10　語彙演習／文法演習　動詞問題２　時制　／リスニング　Part 3（ペアワーク） 語彙演習・テスト／文法問題演習・テスト／リスニング演習 ペア音読演習 11　語彙演習／文法演習　動詞問題３　能動態と受動態　／リスニング　Part 4（ペアワーク） 語彙演習・テスト／文法問題演習・テスト／リスニング演習 ペア音読演習 12　語彙演習／文法演習　動詞問題４　現在分詞と過去分詞／リスニング　Part 4（ペアワーク） 語彙演習・テスト／文法問題演習・テスト／リスニング演習 ペア音読演習 13　語彙演習／文法演習　動詞問題　応用１　／リスニング　Part 4（ペアワーク） 語彙演習・テスト／文法問題演習・テスト／リスニング演習 ペア音読演習 14　語彙演習／文法演習　動詞問題　応用２　／リスニング　Part 4（グループワーク） 語彙演習・テスト／文法問題演習・テスト／リスニング演習 グループ問題演習 15　リスニング　Part 1～4　＆　リーディング　Part 5　総合演習　／スコアアップの為の英語自己学習について 語彙・文法確認テスト／Part1～5の総合演習 スコアアップの為の英語学習についての指導や参考文献の紹介
到達目標・基準	○D：TOEICテストで出題される語彙を理解することができる。 ◎E：TOEICテストのListening とReading Sectionを、解法のポイントをおさえて解くことができる。
事前・事後学習	事前学習：単語テストの勉強と、翌週の授業範囲の単語等の意味を調べた上で、英文を音読する。（約60分） 事後学習：授業の復習並びに授業で扱った英文をスムーズに読めるまで音読する。（約30分）
指導方法	毎回単語テストを行います。習熟度を段階的にかつ具体的に自己分析していきながら、英語力の向上を目指します。実戦形式の問題演習を通して、TOEICテストの問題の特徴と解法のポイントを解説し、考えながら英語を

	学ぶ主体的な学習に焦点をあてて授業を展開します。
成績評価の方法・基準	○Ｄ：単語テスト、授業時の問題演習、定期試験で評価する。 ◎Ｅ：定期試験で評価する。 授業への貢献度 30% 単語テスト 20% TOEIC 10% 定期試験 40%
テキスト	TOEIC (R) L&R テスト　英文法　ゼロからスコアが稼げるドリル、高橋恭子　著、アルク　2017 TOEIC (R) L&R TEST　出る単特急　銀のフレーズ、TEX加藤　著、朝日出版　2018
参考書	公式TOEIC (R)　Listening&Reading　問題集１、ETS著、一般財団法人　国際ビジネスコミュニケーション協会　2016
履修上の注意	毎回必ず辞書を使用するので持ってくること。授業では、課題の発見、疑問点の解決、取り組む演習問題の内容に対する理解と関心を深めるなど、主体的に考えながら授業に参加することが求められます。 *自費にてTOEICテストを受験することを勧めます。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ペアワーク
ＩＣＴの活用	インターネットでの情報取得、動画の活用 TOEIC対策アプリabceed anaytics（自動採点・分析）の活用

講義科目名称：Practical English A (T)　　授業コード：2243

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	国専：選択
担当教員			
高橋大樹			
Subject Code：E12C10			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	TOEIC Testのスコアアップのための基礎演習を行う。初めてTOEIC L&R Testに挑戦しようとしている学生に対して、繰り返し問題を解くことで目標スコアを達成できるように、基礎的な演習、とくにリーディングパートを中心として授業を展開する。 (授業目標) ○D：TOEICスコアアップのためのより具体的な知識を得ることができる。 ◎E：TOEICスコアアップのために必要なテクニックを実際の試験でも活用できる。
授業計画	1　Introduction / Mini-test テキストの説明および授業に関する説明　実力確認テストの実施 2　Unit 1: Shopping (1) (webclassを使用しての小テスト) Listening Section: 人物写真について、情報の関連付けの練習 3　Unit 1: Shopping (2) (webclassを使用しての小テスト) Reading Section: 主語を見つける練習 4　Unit 2: Daily Life (1) (webclassを使用しての小テスト) Listening Section: モノ・風景写真についてのリスニング 5　Unit 2: Daily Life (2) (webclassを使用しての小テスト) Reading Section: 可算名詞と不可算名詞について 6　Unit 3: Transportation (1) (webclassを使用しての小テスト) Listening Section: 文章冒頭の疑問詞について 7　Unit 3: Transportation (2) (webclassを使用しての小テスト) Reading Section: 代名詞の形とother/anotherについて 8　文法事項再確認演習 ここまで学んだ事項を生かして練習問題を解く 9　Unit 4: Jobs (1) (webclassを使用しての小テスト) Listening Section: Yes / No疑問文への対応の仕方について 10　Unit 4: Jobs (2) (webclassを使用しての小テスト) Reading Section: 形容詞と副詞の注目について 11　Unit 5: Meals (1) (webclassを使用しての小テスト) Listening Section: 不可疑問文に対応するコツについて 12　Unit 5: Meals (2) (webclassを使用しての小テスト) Reading Section: 時制の総まとめ 13　Unit 6: Communication (1) (webclassを使用しての小テスト) Listening Section: Part 2における会話の成立について 14　Unit 6: Communication (2) (webclassを使用しての小テスト) Reading Section: 受動態と分詞のまとめ 15　実践対策演習 重要表現や文法項目の確認を実施し、特にPart 5の実践的な演習を行う
到達目標・基準	○D：TOEIC Testにおいてどのようなアプローチを行えば、スコアアップが図れるのかを理解し、自分で学習する際に役立てることができる。 ◎E：クラス全員がリーディング・リスニング各セクションにおいて、すべての問題に解答し、スコアアップを達成する。
事前・事後学習	事前学習：授業時に出された指示に従い行うこと。翌週の授業で扱う表現について辞書で調べること (45分) 事後学習：単語の復習並びに配布されたプリントの問題演習を行うこと。(45分)
指導方法	毎回、授業の冒頭でwebclassを使って単語テストを行い、語彙量の増加を目指す。そしてリスニング問題とリーディング問題をバランスよく演習しながら、授業を展開する。また演習の不足している文法項目に関しては、適宜プリントを配布し対応していく。フィードバック方法：①webclassを使用しての小テスト実施　②授業後に質疑応答を行う
成績評価の方法・基準	○D：授業への貢献度、単語テストで評価する ◎E：TOEIC、定期試験で評価する 授業への貢献度：30% 単語テスト：20% TOEIC：10% 定期試験：40%

テキスト	Chizuko Tsumatori, et al. First Time Trainer For The TOEIC Test<Revised Edition>. (Cengage Learning, 2016) 一杉武史『改訂版キクタンTOEIC TEST SCORE 500』（アルク、2016）
参考書	授業中に指示する。
履修上の注意	授業には必ず辞書を持参すること。TOEIC対策の授業なので、積極的に試験を受験してください。スコアアップの学生には平常点を加算するので、教員に報告すること。自費にて試験を受験することを推奨します。
アクティブ・ラーニング	
ＩＣＴの活用	WebClass

講義科目名称：Practical English：Advanced A（2年生）　　授業コード：2261

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	1	国専：選択
担当教員			
Ivan Botev			
Subject Code：E14C26			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	本授業では、TOEIC初心者が受験するにあたり、注意する点やコツなどを身につけ英語力とTOEICスコアのアップを目指します。とりわけTOEICのリーディング・セクションにおいて点数を伸ばす勉強は長期戦であると言われています。本授業では、リスニングとリーディングの両方を扱いますが、特にリーディング・セクションの学習を中心に、各パートの出題傾向に慣れ、解説を通して理解を深めます。テストにおいては短時間で正解に導くことが求められるため、授業で行う演習に関しても時間に注意しながら問題を解く練習を繰り返し行います。また、大学生にとってはまだあまり馴染みのない単語を身につけるため、単語テストを毎回行い語彙力の強化を図ります。 (授業目標) ◯D:TOEICテストの全Partの問題の特徴と解法のポイントを理解することができる。 ◎E:TOEICテストの全Partを時間内に効率よく正確に解答する力をつけることができる。
授業計画	1　オリエンテーション 授業の進め方、予習と復習の仕方について説明する 単語勉強の進め方に関する説明 TOEICテストとはどんなテストか？ 2　リーディング　短文穴埋め１ 単語テスト 短文穴埋め問題のすすめ、演習 3　リーディング　短文穴埋め２ 単語テスト 短文穴埋め問題演習 （形の似通った選択肢の場合） 4　リーディング　短文穴埋め３ 単語テスト 短文穴埋め問題演習 （文法的に同様の働きをする選択肢の場合） 5　リスニング　写真描写問題　（ペアワーク：各ペアで会話を発表する） 単語テスト リスニングのPart1の問題のすすめ、演習 音読練習 6　リーディング　短文穴埋め４ 単語テスト 短文穴埋め問題演習 （content word、似通った意味の選択肢の場合） 7　リーディング　短文穴埋め５ 単語テスト 短文穴埋め問題演習 （副詞と前置詞） 8　リスニング　応答問題　（ペアワーク：各ペアで会話を発表する） 単語テスト リスニングのPart２の問題のすすめ、演習 音読練習 9　リーディング　長文穴埋め問題１ 単語テスト 長文穴埋め問題演習 （単語選択問題） 10　リーディング　長文穴埋め問題２ 単語テスト 長文穴埋め問題演習 （同じ語幹を持つ単語の選択） 11　リスニング　会話問題　（ペアワーク：各ペアで会話を発表する） 単語テスト リスニングのPart３の問題のすすめ、演習 音読練習 12　リーディング　長文穴埋め問題３ 単語テスト 長文穴埋め問題演習 （前置詞、接続詞） 13　リーディング　長文穴埋め問題４ 単語テスト 長文穴埋め問題演習 （動名詞、代名詞） 14　リスニング　説明文問題　（ペアワーク：各ペアで会話を発表する） 単語テスト リスニングのPart４の問題のすすめ、演習 音読練習

	15　　リスニング　説明文問題 単語テスト リスニングのPart４の問題のすすめ、演習 音読練習
到達目標・基準	○Ｄ：日常生活やビジネスシーンにおける英語表現を理解することができる。 ○Ｄ：TOEICテストのリスニングセクションの出題パターンを理解することができる。 ◎Ｅ：TOEICテストのリーディングセクションを、解法のポイントをおさえて解くことができる。
事前・事後学習	事前学習：単語テストの勉強と、翌週の授業範囲の単語等の意味を調べる。（約45分） 事後学習：単語の復習並びにわからなかった問題を見直しし、何故間違えたのか把握する。（約45分）
指導方法	授業の始めにビジネス関連を中心とする語彙・熟語の小テストを行います。リスニング問題を解き、その後音読を行うことによってリスニングセクションの問題に耳を慣らします。リーディングセクションの問題演習を通し、TOEICテストの特徴と解法のポイントを解説し、いかにして正解に導くか学生に考えてもらいながら授業を展開します。 フィードバックの方法: 1. 小テストの実施と採点評価、2. リアクションペーパーにコメントを記載し返却、3. 採点評価やコメントに関する質疑対応など
成績評価の方法・基準	Ｄ：単語テスト、授業時の問題演習、定期試験で評価する。 Ｅ：定期試験で評価する。 授業への貢献度 20% 小テスト 20% 統一単語テスト 20% プレゼンテーション 10% 定期試験 30%
テキスト	Junnosuke Hamasaki. Primary Trainer for the TOEIC L&R Test (National Geographic Learning, 2019)
参考書	『TOEICテスト公式問題集　新形式問題対応編』国際ビジネスコミュニケーション協会 ほかは授業で指示します。
履修上の注意	教科書で扱う単語のなかには、新しく学ぶ単語もあるので、事前に辞書で調べて予習すること。 なお、授業中に携帯アプリの使用は禁止します。 教員の板書を携帯のカメラで撮る学生が増えつつありますが、単語のスペルは自分で繰り返しノートに書くことで覚えることができますので、ノートをとりましょう。
アクティブ・ラーニング	ペアワーク
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：Practical English B (U)　　授業コード：2251

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：選択
担当教員			
Ivan Botev			
Subject Code：E12C11			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	本授業では、TOEIC初心者が受験するにあたり、注意する点やコツなどを身につけ英語力とTOEICスコアのアップを目指します。とりわけTOEICのリーディング・セクションにおいて点数を伸ばす勉強は長期戦であると言われています。本授業では、リスニングとリーディングの両方を扱いますが、特にリーディング・セクションの学習を中心に、各パートの出題傾向に慣れ、解説を通して理解を深めます。テストにおいては短時間で正解に導くことが求められるため、授業で行う演習に関しても時間に注意しながら問題を解く練習を繰り返し行います。また、大学生にとってはまだあまり馴染みのない単語を身につけるため、単語テストを毎回行い語彙力の強化を図ります。 (授業目標) ◯D:TOEICテストの全Partの問題の特徴と解法のポイントを理解することができる。 ◎E:TOEICテストの全Partを時間内に効率よく正確に解答する力をつけることができる。
授業計画	1　リーディング　読解問題１ 単語テスト 読解問題演習 （single passage） 2　リーディング　読解問題２ 単語テスト 読解問題問題演習 （single passage） 3　リスニング　写真描写問題　（ペアワーク：各ペアで会話を発表する） 単語テスト リスニングセクション演習 音読 4　リーディング　読解問題３ 単語テスト 読解問題問題演習 （single passage） 5　リーディング　読解問題４ 単語テスト 読解問題問題演習 （double passage） 6　リスニング　応答問題　（ペアワーク：各ペアで会話を発表する） 単語テスト リスニングセクション演習 音読 7　リーディング　読解問題５ 単語テスト 読解問題問題演習 （double passage） 8　リーディング　読解問題６ 単語テスト 読解問題問題演習 （double passage） 9　リスニング　会話問題　（ペアワーク：各ペアで会話を発表する） 単語テスト リスニングセクション演習 音読 10　リーディング　読解問題７ 単語テスト 読解問題問題演習 （triple passage） 11　リーディング　読解問題８ 単語テスト 読解問題問題演習 （triple passage） 12　リスニング　説明文問題　（ペアワーク：各ペアで会話を発表する） 単語テスト リスニングセクション演習 音読 13　リーディング　読解問題　９ 単語テスト 読解問題問題演習 （triple passage） 14　リスニング　（ペアワーク：各ペアで会話を発表する） 単語テスト リスニングセクション演習

	Review 15 リーディング 単語テスト リーディングセクション演習 Review
到達目標・基準	○D：日常生活やビジネスシーンにおける英語表現を理解することができる。 ○D：TOEICテストのリスニングセクションの出題パターンを理解することができる。 ◎E：TOEICテストのリーディングセクションを、解法のポイントをおさえて解くことができる。
事前・事後学習	事前学習：単語テストの勉強と、翌週の授業範囲の単語等の意味を調べる。（約45分） 事後学習：単語の復習並びにわからなかった問題を見直しし、何故間違えたのか把握する。（約45分）
指導方法	授業の始めにビジネス関連を中心とする語彙・熟語の小テストを行います。リスニング問題を解き、その後音読を行うことによってリスニングセクションの問題に耳を慣らします。リーディングセクションの問題演習を通し、TOEICテストの特徴と解法のポイントを解説し、いかにして正解に導くか学生に考えてもらいながら授業を展開します。 フィードバックの方法: 1. 小テストの実施と採点評価、2. リアクションペーパーにコメントを記載し返却、3. 採点評価やコメントに関する質疑対応など
成績評価の方法・基準	D：単語テスト、授業時の問題演習、定期試験で評価する。 E：定期試験で評価する。 授業への貢献度 20% 小テスト 20% 統一単語テスト 20% プレゼンテーション 10% 定期試験 30%
テキスト	Ritsuko Uenaka, Seiko Korechika. Fast Pass for the TOEIC L&R Test (National Geographic Learning, 2019)
参考書	TOEICテスト公式問題集　新形式問題対応編』国際ビジネスコミュニケーション協会 ほかは授業で指示します。
履修上の注意	教科書で扱う単語のなかには、新しく学ぶ単語もあるので、事前に辞書で調べて予習すること。 なお、授業中に携帯アプリの使用は禁止します。 教員の板書を携帯のカメラで撮る学生が増えつつありますが、単語のスペルは自分で繰り返しノートに書くことで覚えることができますので、ノートをとりましょう。 授業中の居眠り・私語・無用な出入り・携帯電話の操作行為が認められた場合、減点対象とします。また、テキストなどの忘れ物も授業への取り組みの妨げとなるので、あまりに度重なる場合は減点対象とします。
アクティブ・ラーニング	ペアワーク
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：Practical English B (S)　　授業コード：2252

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：選択
担当教員			
玉川　明日美			
Subject Code：E12C11			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	TOEICテストの各パートの特徴理解と解法の修得に焦点を当てた授業です。リスニング力や文章読解力向上のために、単語テストを毎回行います。TOEICテストの問題演習を通して、日常生活における基礎的な英語表現に加えて、ビジネスやアカデミックのより専門的な英語表現を、リスニングとリーディングを通して学びます。 (授業目標) ○D：TOEICテストの全Partの問題の特徴と解法のポイントを理解することができる。 ◎E：TOEICテストの全Partの問題を時間内に効率よく正確に解答することができる。
授業計画	1　Unit 8: Personnel (Reading Section) 研修・退職・異動手続き・業績評価に関するお知らせやメールなど 2　Unit 9: Advertising (Listening Section) 店内放送、広告の依頼や宣伝方法に関する会話など 3　Unit 9: Advertising (Reading Section) 商品・サービスの広告、店舗の宣伝など 4　Unit 10: Meetings (Listening Section) 会場の準備・変更に関する会話、会議の抜粋など 5　Unit 10: Meetings (Reading Section) 会議のお知らせやオンライン・ディスカッションなど 6　Unit 11: Finance (Listening Section) 予算・費用に関する会話やアナウンスなど 7　Unit 11: Finance (Reading Section) 請求書に関するやりとり、費用の見積もりなど 8　Unit 12: Offices (Listening Section) 同僚同士の会話、業務連絡、同僚への依頼など 9　Unit 12: Offices (Reading Section) 業務連絡（IDカードや規則の変更などに関するメモやメール）など 10　Unit 13: Daily Life (Listening Section) 医療機関・不動産・公共料金に関する会話など 11　Unit 13: Daily Life (Reading Section) 公共施設・不動産・交通機関・工事に関するお知らせなど 12　Unit 14: Sales & Marketing (Listening Section) 売上に関する分析（グラフィック問題）、業績な取引に関する会話など 13　Unit 14: Sales & Marketing (Reading Section) 顧客満足度のアンケート調査・結果など 14　Unit 15: Events (Listening Section) セミナーなどの冒頭のスピーチ、講演者の紹介スピーチ、イベントの勧誘など 15　Unit 15: Events (Reading Section) 展示会・学会・コンテスト・講座などに関するお知らせ
到達目標・基準	○D：TOEICテストPart3およびPart4の出題パターンを理解することができる。 ◎E：TOEICテストのReading Sectionを、解法のポイントをおさえて解くことができる。
事前・事後学習	事前学習：単語テストの勉強と、翌週の授業範囲の単語等の意味を調べた上で、英文を音読する。（約60分） 事後学習：単語の復習並びに授業で扱った英文をスムーズに読めるまで音読する。（約30分）
指導方法	回単語テストを行います。実戦形式の問題演習を通して、TOEICテストの問題の特徴と解法のポイントを解説し、考えながら英語を学ぶ主体的な学習に焦点をあてて授業を展開します。毎回の授業における気づきや振り返り、課題等を自己評価シートに記録させ、習熟度を段階的にかつ具体的に自己分析していきながら、英語力の向上を目指します。自己評価シートは、一人一人にコメントをした上で、翌週授業時に返却します。
成績評価の方法・基準	○D：単語テスト、授業時の問題演習、定期試験で評価する。 ◎E：定期試験で評価する。 授業への貢献度 30% 単語テスト 20% TOEIC 10% 定期試験 40%
テキスト	Koji Hayakawa, et al. THE HIGH ROAD TO THE TOEIC LISTENING AND READING TEST. (KINSEIDO, 2017) Seishi Sato. TOEIC TEST VOCABULARY QUIZZES (NAN'UN-DO, 2011)

参考書	授業時に紹介します。
履修上の注意	毎回必ず辞書を使用するので持ってくること。授業では、課題の発見、疑問点の解決、取り組む演習問題の内容に対する理解と関心を深めるなど、主体的に考えながら授業に参加することが求められます。 *自費にてTOEICテストを受験することを勧めます。
アクティブ・ラーニング	
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：Practical English B (R)　　授業コード：2254

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：選択
担当教員			
菅原千津			
Subject Code：E12C11			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	TOEICテストの各パートの特徴理解と解法の修得に焦点を当てた授業です。リスニング力や文章読解力向上のために、単語テストを毎回行います。TOEICテストの問題演習を通して、身近な日常生活における基礎的な英語表現を、リスニングとリーディングを通して学びます。 (授業目標) ○D：TOEICテストの全Partの問題の特徴と解法のポイントを理解することができる。 ◎E：TOEICテストの全Partの問題を時間内に効率よく正確に解答する力をつけることができる。
授業計画	1　Introduction 教科書、授業内容と進め方、授業の準備、評価方法の説明　及び音読トレーニングについて TOEIC　自動採点・分析アプリabceed analyticsの活用について 2　前期の復習　語彙、品詞、動詞／Part 1　問題演習 リスニング・リーディング問題の形式、頻出パターン、時間配分などについての講義 3　語彙演習／文法演習　代名詞問題１ 語彙演習／文法問題演習 4　語彙演習／文法演習　代名詞問題２　／リスニング　Part 1（ペアワーク） 語彙演習・テスト／文法問題演習・テスト／リスニング演習 ペア音読練習 5　語彙演習／文法演習　前置詞問題　１／リスニング　Part 2（ペアワーク） 語彙演習・テスト／文法問題演習・テスト／リスニング演習 ペア音読練習 6　語彙演習／文法演習　前置詞問題　１／リスニング　Part 2（ペアワーク） 語彙演習・テスト／文法問題演習・テスト／リスニング演習 ペア音読練習 7　語彙演習／文法演習　接続詞問題　１／リスニング　Part 3（ペアワーク） 語彙演習・テスト／文法問題演習・テスト／リスニング演習 ペア音読練習 8　語彙演習／文法演習　関係代名詞問題　１／リスニング　Part 4（ペアワーク） 語彙演習・テスト／文法問題演習・テスト／リスニング演習 ペア音読練習 9　語彙演習／文法演習　関係代名詞問題　２ 語彙演習・テスト／文法問題演習・テスト 10　語彙演習／リーディング　Part 7 語彙演習・テスト／Part 7　演習 11　語彙演習／リーディング　Part 7 語彙演習・テスト／Part 7　演習 12　語彙演習／リーディング　Part 7 語彙演習・テスト／Part 7　演習 13　語彙演習／リーディング　Part 7（グループワーク） 語彙演習・テスト／Part 7　演習 問題演習グループワーク 14　語彙演習／リーディング　Part 6 語彙演習・テスト／Part 6　演習 15　Part 1～７総合演習　／スコア分析　／個別アドバイス 語彙・文法確認テスト／Part1～7の総合演習 各自のスコア分析・個別アドバイス
到達目標・基準	○D：TOEICテストで出題される語彙を理解することができる。 ◎E：TOEICテストのListening とReading Sectionを、解法のポイントをおさえて解くことができる。
事前・事後学習	事前学習：単語テストの勉強と、翌週の授業範囲の単語等の意味を調べた上で、英文を音読する。（約60分） 事後学習：授業の復習並びに授業で扱った英文をスムーズに読めるまで音読する。（約30分）
指導方法	毎回単語テストを行います。習熟度を段階的にかつ具体的に自己分析していきながら、英語力の向上を目指します。実戦形式の問題演習を通して、TOEICテストの問題の特徴と解法のポイントを解説し、考えながら英語を学ぶ主体的な学習に焦点をあてて授業を展開します。
成績評価の方法・基準	○D：単語テスト、授業時の問題演習、定期試験で評価する。 ◎E：定期試験で評価する。 授業への貢献度 30% 単語テスト 20%

	TOEIC 10% 定期試験 40%
テキスト	TOEIC (R) L&R テスト　英文法　ゼロからスコアが稼げるドリル、高橋恭子　著、アルク　2017 TOEIC (R) L&R TEST　出る単特急　銀のフレーズ、TEX加藤　著、朝日出版　2018 公式TOEIC (R)　Listening&Reading　問題集１、ETS著、一般財団法人　国際ビジネスコミュニケーション協会　2016
参考書	授業内で紹介する。
履修上の注意	毎回必ず辞書を使用するので持ってくること。授業では、課題の発見、疑問点の解決、取り組む演習問題の内容に対する理解と関心を深めるなど、主体的に考えながら授業に参加することが求められます。 *自費にてTOEICテストを受験することを勧めます。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ペアワーク
ＩＣＴの活用	インターネットでの情報取得、動画の活用 TOEIC対策アプリabceed anaytics（自動採点・分析）の活用

講義科目名称：Practical English B (T)　　授業コード：2253

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：選択
担当教員			
高橋大樹			
Subject Code：E12C11			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	Practical English : Basic Aに引き続きTOEIC Testのスコアアップのための基礎演習を行う。前期にTOEICを一度経験し、スコアアップを目指し挑戦しようとしている学生に対して、基礎的な問題を解き、文法力やリスニング力を高めることで目標スコアを達成できるように授業を展開していく。とくにリーディングパート、文法理解を中心として授業を進める。 (授業目標) ○D：TOEICスコアアップのためのより具体的な知識を得ることができる。 ◎E：TOEICスコアアップのために必要なテクニックを実際の試験でも活用できる。
授業計画	1　Mini-test 夏休み明け実力確認テストを実施する 2　Unit 7: Fun (1) (webclassを使用しての小テスト) Listening Section: 提案・勧誘・依頼の表現を学ぶ 3　Unit 7: Fun (2) (webclassを使用しての小テスト) Reading Section: 動名詞と不定詞のまとめ 4　Unit 8: Office Work (1) (webclassを使用しての小テスト) Listening Section: リスニングセクションにおける設問先読みの練習 5　Unit 8: Office Work (2) (webclassを使用しての小テスト) Reading Section: 助動詞の総まとめ 6　Unit 9: Meeting (1) (webclassを使用しての小テスト) Listening Section: Part 3/4の全体を問う質問に対応する練習 7　Unit 9: Meeting (2) (webclassを使用しての小テスト) Reading Section: 比較構文の重要表現について 8　文法事項再確認演習 ここまで学んだ事項を生かして練習問題を解く 9　Unit 10: Travel (1) (webclassを使用しての小テスト) Listening Section: Part 3/4の詳細を問う質問に対応する練習 10　Unit 10: Travel (2) (webclassを使用しての小テスト) Reading Section: 前置詞の総まとめ 11　Unit 11: Finance (1) (webclassを使用しての小テスト) Listening Section: 未来の行動を問う質問に対応する練習 12　Unit 11: Finance (2) (webclassを使用しての小テスト) Reading Section: 接続詞の総まとめ 13　Unit 12: Business (1) (webclassを使用しての小テスト) Listening Section: 言い換え表現に対応する練習 14　Unit 12: Business (2) (webclassを使用しての小テスト) Reading Section: 関係詞の総まとめ 15　実践対策演習 重要表現や文法項目の確認を実施し、特にPart 5の実践的な演習を行う
到達目標・基準	○D：TOEIC Testにおいてどのようなアプローチを行えば、スコアアップが図れるのかを理解し、自分で学習する際に役立てることができる。 ◎E：クラス全員がリーディング・リスニング各セクションにおいて、すべての問題に解答し、スコアアップを達成する。
事前・事後学習	事前学習：授業時に出された指示に従い行うこと。翌週の授業で扱う表現について辞書で調べること (45分) 事後学習：単語の復習並びに配布されたプリントの問題演習を行うこと。(45分)
指導方法	毎回、授業の冒頭でwebclassを使用し単語テストを行い、語彙量の増加を目指す。そしてリスニング問題とリーディング問題をバランスよく演習しながら、授業を展開する。また演習の不足している文法項目に関しては、適宜プリントを配布し対応していく。フィードバック方法：①webclassを使用しての小テストを実施　②授業後に質疑応答を行う
成績評価の方法・基準	○D：授業への貢献度、単語テストで評価する ◎E：TOEIC、定期試験で評価する 授業への貢献度：30% 単語テスト：20% TOEIC：10% 定期試験：40%

テキスト	Chizuko Tsumatori, et al. First Time Trainer For The TOEIC Test<Revised Edition>. (Cengage Learning, 2016) 一杉武史『改訂版キクタンTOEIC TEST SCORE 500』（アルク、2016）
参考書	授業中に指示する。
履修上の注意	授業には必ず辞書を持参すること。TOEIC対策の授業なので、積極的に試験を受験してください。スコアアップの学生には平常点を加算するので、教員に報告すること。自費にて試験を受験することを推奨します。
アクティブ・ラーニング	
ＩＣＴの活用	WebClass

講義科目名称：Practical English：Advanced B（2年生）　　授業コード：2271

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	国専：選択
担当教員			
Ivan Botev			
Subject Code：E14C27			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	本授業では、TOEIC初心者が受験するにあたり、注意する点やコツなどを身につけ英語力とTOEICスコアのアップを目指します。とりわけTOEICのリーディング・セクションにおいて点数を伸ばす勉強は長期戦であると言われています。本授業では、リスニングとリーディングの両方を扱いますが、特にリーディング・セクションの学習を中心に、各パートの出題傾向に慣れ、解説を通して理解を深めます。テストにおいては短時間で正解に導くことが求められるため、授業で行う演習に関しても時間に注意しながら問題を解く練習を繰り返し行います。また、大学生にとってはまだあまり馴染みのない単語を身につけるため、単語テストを毎回行い語彙力の強化を図ります。 (授業目標) ◯D:TOEICテストの全Partの問題の特徴と解法のポイントを理解することができる。 ◎E:TOEICテストの全Partを時間内に効率よく正確に解答する力をつけることができる。
授業計画	1　リーディング　読解問題１ 単語テスト 読解問題演習 （single passage） 2　リーディング　読解問題２ 単語テスト 読解問題問題演習 （single passage） 3　リスニング　写真描写問題　（ペアワーク：各ペアで会話を発表する） 単語テスト リスニングセクション演習 音読 4　リーディング　読解問題３ 単語テスト 読解問題問題演習 （single passage） 5　リーディング　読解問題４ 単語テスト 読解問題問題演習 （double passage） 6　リスニング　応答問題　（ペアワーク：各ペアで会話を発表する） 単語テスト リスニングセクション演習 音読 7　リーディング　読解問題５ 単語テスト 読解問題問題演習 （double passage） 8　リーディング　読解問題６ 単語テスト 読解問題問題演習 （double passage） 9　リスニング　会話問題　（ペアワーク：各ペアで会話を発表する） 単語テスト リスニングセクション演習 音読 10　リーディング　読解問題７ 単語テスト 読解問題問題演習 （triple passage） 11　リーディング　読解問題８ 単語テスト 読解問題問題演習 （triple passage） 12　リスニング　説明文問題　（ペアワーク：各ペアで会話を発表する） 単語テスト リスニングセクション演習 音読 13　リーディング　読解問題　９ 単語テスト 読解問題問題演習 （triple passage） 14　リスニング　説明文問題　（ペアワーク：各ペアで会話を発表する） 単語テスト リスニングセクション演習

	Review 15 リーディング 単語テスト リーディングセクション演習 Review
到達目標・基準	○D：日常生活やビジネスシーンにおける英語表現を理解することができる。 ○D：TOEICテストのリスニングセクションの出題パターンを理解することができる。 ◎E：TOEICテストのリーディングセクションを、解法のポイントをおさえて解くことができる。
事前・事後学習	事前学習：単語テストの勉強と、翌週の授業範囲の単語等の意味を調べる。（約45分） 事後学習：単語の復習並びにわからなかった問題を見直しし、何故間違えたのか把握する。（約45分）
指導方法	授業の始めにビジネス関連を中心とする語彙・熟語の小テストを行います。リスニング問題を解き、その後音読を行うことによってリスニングセクションの問題に耳を慣らします。リーディングセクションの問題演習を通し、TOEICテストの特徴と解法のポイントを解説し、いかにして正解に導くか学生に考えてもらいながら授業を展開します。 フィードバックの方法: 1. 小テストの実施と採点評価、2. リアクションペーパーにコメントを記載し返却、3. 採点評価やコメントに関する質疑対応など
成績評価の方法・基準	D：単語テスト、授業時の問題演習、定期試験で評価する。 E：定期試験で評価する。 授業への貢献度 20% 小テスト 20% 統一単語テスト 20% プレゼンテーション 10% 定期試験 30%
テキスト	Ritsuko Uenaka, Seiko Korechika. Fast Pass for the TOEIC L&R Test (National Geographic Learning, 2019)
参考書	TOEICテスト公式問題集　新形式問題対応編』国際ビジネスコミュニケーション協会 ほかは授業で指示します。
履修上の注意	教科書で扱う単語のなかには、新しく学ぶ単語もあるので、事前に辞書で調べて予習すること。 なお、授業中に携帯アプリの使用は禁止します。 教員の板書を携帯のカメラで撮る学生が増えつつありますが、単語のスペルは自分で繰り返しノートに書くことで覚えることができますので、ノートをとりましょう。
アクティブ・ラーニング	ペアワーク
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：Advanced English A　　授業コード：2101

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：選択必修
担当教員			
関根全宏			
Subject Code：E22B12			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	テキストのテーマに沿って多くの単語や例文、英語表現を身に着けながら、英語圏の社会的・文化的背景知識を身につけます。身近な日常的なトピックに関する短めの英文を正確に聴き／読み、内容を把握する練習を繰り返します。毎回単語テストを行います。TOEICのリスニングパート対策と基礎的な文法問題の演習を行います。英語でのスピーチも行います。 (授業目標) ◎D：語彙力・文法力を養い、TOEICのリスニング全パート（Part1～Part4）の特徴を理解することができる。 ○E：流暢な英語で自分の意見を論理的に2分程度でスピーチすることができる。
授業計画	1 Introduction Pre-Test／授業内容の目的と方法の説明 2 Listening & Understanding Sentence Structure TOEICリスニング問題実践演習／発音・アクセント・文構造の確認① 3 Listening & Understanding Sentence Structure TOEICリスニング問題実践演習／発音・アクセント・文構造の確認② 4 Listening & Understanding Sentence Structure／Speech①（スピーチ） TOEICリスニング問題実践演習／発音・アクセント・文構造の確認③ 興味のあるトピックについて3分程度でスピーチを行う① 5 Listening & Understanding Sentence Structure TOEICリスニング問題実践演習／発音・アクセント・文構造の確認④ 6 Listening & Understanding Sentence Structure TOEICリスニング問題実践演習／発音・アクセント・文構造の確認⑤ 7 Reading & Understanding Situation TOEIC文法問題実践演習／場面・状況把握のポイントを学ぶ① 8 Reading & Understanding Situation／Speech②（スピーチ） TOEIC文法問題実践演習／場面・状況把握のポイントを学ぶ② 興味のあるトピックについて3分程度でスピーチを行う② 9 Reading & Understanding Situation TOEIC文法問題実践演習／場面・状況把握のポイントを学ぶ③ 10 Reading & Understanding Situation TOEIC文法問題実践演習／場面・状況把握のポイントを学ぶ④ 11 Reading & Understanding Situation TOEIC文法問題実践演習／場面・状況把握のポイントを学ぶ⑤ 12 Reading & Understanding Culture／Speech③（スピーチ） TOEIC文法問題実践演習／英語圏の文化を知る① 興味のあるトピックについて3分程度でスピーチを行う③ 13 Reading & Understanding Culture TOEIC文法問題実践演習／英語圏の文化を知る② 14 Preparation for Final Speech これまでの3回のスピーチで見つかった課題の解決に取り組みながら原稿を推敲し準備を行う 15 Final Speech④（スピーチ） Speech of Understanding Cultural Difference 興味のあるトピックについて3分程度でスピーチを行う④
到達目標・基準	◎D：語彙力・文法力を養い、TOEICのPart1・Part2の特徴を理解することができる。 ○E：英語で自分の意見を1分程度で伝えることができる。
事前・事後学習	事前学習：単語テストの勉強と、翌週の授業範囲の単語等の意味を調べた上で、英文を音読する。（約60分） 事後学習：単語の復習並びに授業で扱った英文をスムーズに読めるまで音読する。（約30分）
指導方法	毎回単語テストを行います。本授業の主旨により、高い難易度の問題を多く扱います。演習中はペアワークなど学生の自主性を重んじたスタイルも取り入れ、発話や発表の機会を多くもうけます。 毎回の授業における気づきや振り返り、課題等を自己評価シートに記録させ、習熟度を段階的にかつ具体的に自己分析していきながら、英語力の向上を目指します。自己評価シートは、一人一人にコメントをした上で、翌週授業時に返却します。
成績評価の方法・基準	◎D：TOEIC実践問題演習、定期試験で評価します。 ○E：スピーチで評価します。 授業への貢献度 30% 単語テスト・スピーチ 30%

	定期試験 40%
テキスト	松本茂、他. 『速読速聴・英単語Daily 1500 (Ver.3) 』 (Z会 2016)
参考書	授業時に紹介します。
履修上の注意	毎回必ず辞書を使用するので持ってくること。授業では、疑問点を解決し、新たな視点を獲得するとともに、題材になっている事柄への理解と関心を深めるために、主体的に考えながら授業に参加することが求められます。 *英検準２級以上／TOEIC400点以上の人を対象にしています。
アクティブ・ラーニング	スピーチ
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：Advanced English B　　授業コード：2111

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	国専：選択必修
担当教員			
関根全宏			
Subject Code：E23B11			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	テキストのテーマに沿って多くの単語や例文、英語表現を身に着けながら、英語圏の社会的・文化的背景知識を身につけます。ビジネスやアカデミックなより専門的な少し長めの英文を正確に聴き／読み、内容を把握する練習を繰り返します。毎回単語テストを行います。TOEICのリーディングパートの対策を行います。英語でのスピーチも行います。 (授業目標) ◎D：語彙力・文法力を養い、TOEICのリーディング全パート（Part5～Part7）の特徴を理解し時間内に全ての問題を解くことができる。 ○E：流暢な英語で自分の意見を論理的に3分程度でスピーチすることができる。
授業計画	1　Introduction 授業内容の目的と方法の説明 2　Listening & Understanding Situation TOEICリスニング問題実践演習／解法のポイントの確認（Part 1・2） 3　Listening & Understanding Situation TOEICリスニング問題実践演習／解法のポイントの確認（Part 3・4） 4　Reading & Understanding Situation／スピーチ①（スピーチ） TOEICリーディング問題実践演習／解法のポイントの確認（Part 5） 興味のあるトピックについて3分程度でスピーチを行う① 5　Reading & Understanding Situation TOEICリーディング問題実践演習／解法のポイントの確認（Part 6） 6　Reading & Understanding Situation TOEICリーディング問題実践演習／解法のポイントの確認（Part 7） 7　Reading & Understanding Situation TOEICリーディング問題実践演習／解法のポイントの確認（Part 7） 8　Reading & Understanding Situation／スピーチ②（スピーチ） TOEICリーディング問題実践演習／解法のポイントの確認（Part 7） 興味のあるトピックについて3分程度でスピーチを行う② 9　Reading & Understanding Situation TOEICリーディング問題実践演習／解法のポイントの確認（Part 7） 10　Reading & Understanding Situation TOEICリーディング問題実践演習／解法のポイントの確認（Part 7） 11　Reading & Understanding Situation TOEICリーディング問題実践演習／解法のポイントの確認（Part 7） 12　Reading & Understanding Culture／スピーチ③（スピーチ） TOEICリーディング問題実践演習／解法のポイントの確認（Part 7） 興味のあるトピックについて3分程度でスピーチを行う③ 13　Reading & Understanding Culture TOEICリーディング問題実践演習／解法のポイントの確認（Part 7） 14　Preparation for Final Speech TOEICリーディング問題実践演習／解法のポイントの確認（Part 7） これまでの3回のスピーチで見つかった課題の解決に取り組みながら原稿を推敲し準備を行う 15　Final Speech（スピーチ） Speech of Understanding Cultural Difference
到達目標・基準	◎D：語彙力・文法力を養い、TOEICのPart 5の特徴を理解することができる。 ○E：英語で自分の意見を1分程度で伝えることができる。
事前・事後学習	事前学習：単語テストの勉強と、翌週の授業範囲の単語等の意味を調べた上で、英文を音読する。（約60分） 事後学習：単語の復習並びに授業で扱った英文をスムーズに読めるまで音読する。（約30分）
指導方法	毎回単語テストを行います。本授業の主旨により、高い難易度の問題を多く扱います。演習中はペアワークなど学生の自主性を重んじたスタイルも取り入れ、発話や発表の機会を多くもうけます。 毎回の授業における気づきや振り返り、課題等を自己評価シートに記録させ、習熟度を段階的にかつ具体的に自己分析していきながら、英語力の向上を目指します。自己評価シートは、一人一人にコメントをした上で、翌週授業時に返却します。
成績評価の方法・基準	◎D：TOEIC実践問題演習、定期試験で評価します。 ○E：スピーチで評価します。 授業への貢献度 30% 単語テスト・スピーチ 30%

	定期試験 40%
テキスト	松本茂、他. 『速読速聴・英単語Daily 1500 (Ver.3) 』 (Z会 2016)
参考書	授業時に紹介します。
履修上の注意	毎回必ず辞書を使用するので持ってくること。授業では、疑問点を解決し、新たな視点を獲得するとともに、題材になっている事柄への理解と関心を深めるために、主体的に考えながら授業に参加することが求められます。 *英検準２級以上／TOEIC400点以上の人を対象にしています。
アクティブ・ラーニング	スピーチ
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：News through Internet　　授業コード：2121　2122　2123

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	国専：選択必修
担当教員			
高橋大樹、玉川明日美			
Subject Code：E12B14			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	英語とインターネットにおけるリテラシー能力を相乗効果的に伸ばし、各自の関心に基づくプレゼンテーションを行う能力を身につけます。授業では英米のニュースサイトを通して、英語で書かれた情報を理解し、まとめ、発信する力を養います。 (授業目標) ○D：英語のウェブサイト、とりわけニュースサイトの内容を、ポイントを理解して要約した上で、自分の意見や考えをまとめることができる。 ◎E：英語とITスキルを駆使して論理的かつ説得力のあるプレゼンテーション（3分）をすることができる。
授業計画	1　Introduction 授業概要説明 インターネットの利用上の注意 2　インターネットと英語 インターネット用語（英語表現）を学ぶ サーチエンジンの翻訳サイトを使い問題点を理解する SNSの利点および問題点を理解する 3　英字新聞の読み方：基礎編（1） 英米の大衆紙のニュースサイトを使用して、英字新聞の読み方を理解する 4　英字新聞の読み方：基礎編（2） 英米の大衆紙のニュースサイトを使用して、英字新聞の読み方を理解する 5　英字新聞の読み方：応用編（1） 英米の高級紙のニュースサイトを使用して、英字新聞の読み方、大衆紙との表現の違いを理解する 6　英字新聞の読み方：応用編(2) 英米の高級紙のニュースサイトを使用して、英字新聞の読み方、大衆紙との表現の違いを理解する 7　Preparation for mid-term presentation Power point－スライドの作成 プレゼンテーションの基礎的な英語表現・効果的な資料作成のポイントを学ぶ 8　Mid-term presentation（プレゼンテーション：全員が発表する） 興味あるニュース記事を一つ選び、その内容について英語でまとめて発表を行う 9　Articles on Movie Search Engineの活用(1) 英語ニュースサイトに書かれた映画のレビューを調べ、映画の内容や評価についてまとめて紹介する 10　Articles on Art Search Engineの活用(2) 英語圏の芸術に関するニュース記事を検索し、どのような企画・展示があるか等をまとめて紹介する 11　Articles on Sports Search Engineの活用(3) 英語ニュースサイトに書かれたスポーツ記事を検索し、興味のある内容をまとめて紹介する 12　Articles on Travel and World Heritage Search Engineの活用(4) 英語ニュースサイトに書かれた世界遺産や観光に関する記事を検索し、興味のある世界遺産についてまとめて紹介する 13　Preparation for final presentation (1) Power point－スライドの作成 プレゼンテーションの応用的な英語表現・効果的な資料作成のポイントを学ぶ 14　Preparation for final presentation (2) Power point－スライドの作成 プレゼンテーションの応用的な英語表現・効果的な資料作成のポイントを学ぶ 15　Final Presentation（プレゼンテーション：全員が発表する） 自らの関心に基づいたウェブサイトの内容について、英語でプレゼンテーションを行う
到達目標・基準	○D：英語のウェブサイト、とくにニュースサイトの概要をおおまかに理解してまとめることができる。 ◎E：基礎的な英語とITスキルに基づいて、1分程度の英語でのプレゼンテーションをすることができる。
事前・事後学習	事前学習：指示されたウェブサイトについてあらかじめ目を通して概要をまとめておく。（45分） 事後学習：授業で学んだ英語表現を踏まえて、資料を作成しプレゼンテーションの準備をする。（45分）
指導方法	PC教室にてインターネットおよびパワーポイントを使用しながら授業を展開します。各自が興味のあるテーマに基づいて、インターネットを利用した情報収集と処理を行い、英語でプレゼンテーションをしてもらいま

	す。フィードバック方法：①小テスト実施　②課題発表への教員による授業内でのコメント　③授業後におけるコメントへの質疑応答
成績評価の方法・基準	○Ｄ：授業への貢献度、および課題で評価します。 ◎Ｅ：プレゼンテーション、定期試験で評価します。 授業への貢献度 30% 課題 20% プレゼンテーション 20% 定期試験 30%
テキスト	なし（必要に応じて担当教員が資料を配布します）
参考書	授業時に紹介します。
履修上の注意	情報系の授業とうまく組み合わせて履修するとより効果的です。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：Screen English　　授業コード：2151　2152

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	国専：選択必修
担当教員			
森田千草、菅原千津			
Subject Code：E23B14			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	1998年のアカデミー賞で11部門にノミネートされた、レオナルド・ディカプリオ主演の映画『タイタニック』を教材として用い、総合的な英語運用能力の向上を目指す。重要語彙や表現、聞き取りのポイントを学んだうえで映画を視聴し、内容の確認を行う。また、ディクテーション、ロールプレイング、ディスカッションなどのさまざまな演習を行う。 (授業目標) ○B：場面に応じた適切な語彙や文法、表現を用いて、英語で十分に意思疎通を図ることができる。 D：英語の音声的、音韻的特徴を体系的に理解し、説明することができる。 ◎E：字幕なしで映画内の会話を正確に聞き取り、理解することができる。
授業計画	1　オリエンテーション 授業の進め方、テキストの説明を行う。 2　Unit 1 The Woman in the Picture （グループワーク：ペアあるいはグループで視聴した場面の会話練習） 分詞の確認とつながる音について学ぶ。 3　Unit 2 Back to Titanic （グループワーク：ペアあるいはグループで視聴した場面の会話練習） 助動詞の確認と音の同化について学ぶ。 4　Unit 3 Leaving Port （グループワーク：ペアあるいはグループで視聴した場面の会話練習） 受動態の確認と音の脱落について学ぶ。 5　Unit 4 Don’t Do It （グループワーク：ペアあるいはグループで視聴した場面の会話練習） 仮定法の確認と[nt]の発音について学ぶ。 6　Unit 5 Do you Love Him? （グループワーク：ペアあるいはグループで視聴した場面の会話練習） 進行形の確認と音の強弱について学ぶ。 7　Unit 6 I Can’t See You （グループワーク：ペアあるいはグループで視聴した場面の会話練習） 関係詞thatの確認とcan/can’tの発音について学ぶ。 8　Unit 7 I’m Flying （グループワーク：ペアあるいはグループで視聴した場面の会話練習） 関係副詞の確認と音の連結について学ぶ。 9　Unit 8 Iceberg Right Ahead! （グループワーク：ペアあるいはグループで視聴した場面の会話練習） 完了形の確認と母音にはさまれた[t]の発音について学ぶ。 10　Unit 9 An Honest Thief （グループワーク：ペアあるいはグループで視聴した場面の会話練習） 使役動詞の確認とhaveの強形、弱形の発音について学ぶ。 11　Unit 10 Goodbye, Mother （グループワーク：ペアあるいはグループで視聴した場面の会話練習） 未来形の確認と短縮形の発音について学ぶ。 12　Unit 11 Get in the Boat （グループワーク：ペアあるいはグループで視聴した場面の会話練習） 名詞の確認と機能語の発音について学ぶ。 13　Unit 12 Two Tragic Bullets （グループワーク：ペアあるいはグループで視聴した場面の会話練習） 動名詞の確認とingの発音について学ぶ。 14　Unit 13 Promise Me （グループワーク：ペアあるいはグループで視聴した場面の会話練習） 不定詞の確認と助動詞の発音について学ぶ。 15　Unit 14 Rose’s Secret （グループワーク：ペアあるいはグループで視聴した場面の会話練習） 否定の確認と文アクセントについて学ぶ。
到達目標・基準	○B：授業で学んだ英語表現を用いて会話をすることができる。 D：音がつながったり、弱くなったりなど、聞き取りを難しくしている英語の音声変化について説明することができる。 ◎E：テキストで取り上げた『タイタニック』の場面について、日本語の字幕なしで映画の概要を把握することができる。
事前・事後学習	事前学習：　視聴場面に出て来る重要語彙の意味を確認しておく。(30分) 事後学習：　視聴場面の内容の要約をし、関連する英文の読解を行う。(60分)
指導方法	重要語句や会話表現、聞き取りのポイントを確認したうえで、毎回10分程度映画の視聴を行う。視聴後、ディクテーション、ロールプレイング、ディスカッションなど様々な演習を行い、内容の把握と英語運用力の向上を図る。 フィードバックの方法：①小テストの実施とその採点評価、②小テストの採点評価についての質疑対応、③ペアあるいはグループによる会話演習に対するコメント
成績評価の方法・基準	○B：ペアワークやグループワークの積極性で評価する。 D：小テストや期末試験の成績、課題の完成度で評価する。

	◎Ｅ：小テストや期末試験の成績、課題の完成度で評価する。 授業貢献度：30% 小テスト：30% 期末試験：40%
テキスト	Learn English with TITANIC（『映画「タイタニック」で学ぶ総合英語』），角山照彦，Simon Capper著，成美堂，2017.
参考書	授業中に指示する。
履修上の注意	ペアやグループでの演習を中心に授業を進めるため、積極的に参加する姿勢を求める。授業開始時に毎回復習のための小テストを実施する。また必ず英和辞典(携帯電話・スマートフォンの使用は認めない)を持参すること。
アクティブ・ラーニング	グループワーク
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：Teaching English to Children 1　　授業コード：2161　2162

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：選択必修
担当教員			
森田千草、Ivan Botev			
Subject Code：E12B16			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	児童は具体的な経験を通して言語を体得する。そのため、児童に英語を教える際には視覚教材や身体的活動を取り入れることが有効とされる。この授業では、様々な教育実践例を考察することにより、児童英語教育の現状を把握することを目的とする。また、児童に英語を教える際に必要となる英語の基本表現を学ぶ。 （授業目標） B：児童に英語を教える際に必要なコミュニケーション能力を高めることができる。 ○C：児童対象の授業の有効的な進め方を自ら考えることができる。 ◎D：英語の授業を行う際に必要な英語表現を身につける。 E：自然な英語表現、正しい発音、イントネーションで英文を読めるようにする。
授業計画	1　オリエンテーション、授業の目標、評価基準についての説明 児童に英語を教えることについて考える。 2　Warm Up （グループワーク：先生役と生徒役に分かれてグループごとに模擬授業をする） 授業のはじめと終わりに使う表現を学ぶ。 3　Classroom Commands （グループワーク：先生役と生徒役に分かれてグループごとに模擬授業をする） 授業を遂行する際に必要な表現を学ぶ。 4　Performance Activities （グループワーク：先生役と生徒役に分かれてグループごとに模擬授業をする） 指導を行うときに使う英語表現を学ぶ。 5　Interactions with ALT （グループワーク：先生役と生徒役に分かれてグループごとに模擬授業をする） ALTとコミュニケーションをとる際に使う表現を学ぶ。 6　Games （グループワーク：先生役と生徒役に分かれてグループごとに模擬授業をする） すごろくやビンゴ、カードゲームなどを行う際に使う教室英語を学ぶ。 7　Total Physical Response （グループワーク：先生役と生徒役に分かれてグループごとに模擬授業をする） TPRの教授法を学ぶ。 8　Coloring, Drawing, Making （グループワーク：先生役と生徒役に分かれてグループごとに模擬授業をする） 描いたり、作ったりする際に使う英語表現を学ぶ。 9　Festivals and Events （グループワーク、プレゼンテーション：グループでまとめ、全員が発表する） 子供が関係する行事で使う単語や表現を学ぶ。子供に紹介したいお祭りについてまとめてグループでプレゼンテーションを行う。 10　School Life （グループワーク：先生役と生徒役に分かれてグループごとに模擬授業をする） 学校生活に関する英語を学ぶ。 11　Play （グループワーク：先生役と生徒役に分かれてグループごとに模擬授業をする） 遊びに関する表現を学ぶ。 12　Sports （グループワーク：先生役と生徒役に分かれてグループごとに模擬授業をする） スポーツに関する英語を学ぶ。ダンスの振りなどを指導する際に使う表現を学ぶ。 13　Animals and Insects （グループワーク：先生役と生徒役に分かれてグループごとに模擬授業をする） 動物や昆虫に関する単語と表現を学ぶ。動物に関する歌を歌う。 14　Birds & Creatures Living in the Sea and River （グループワーク：先生役と生徒役に分かれてグループごとに模擬授業をする） 鳥や、海や川に住む生き物に関する単語と表現を学ぶ。自然に関する歌を歌う。 15　Daily Life of Children （グループワーク：先生役と生徒役に分かれてグループごとに模擬授業をする） 子供たちの日常生活に関する表現を学ぶ。子供たちのアクティビティについて学ぶ。
到達目標・基準	この授業では、児童英語教育の基礎とその具体的な実践方法を学ぶことで、将来子供に英語を教える際に留意する点や心掛ける点についてきちんと理解し、効果的な授業運営方法を身につける。また、子供に英語を教えるためには確実な英語力が要求されるため、自分自身の英語力を磨く必要がある。 B：年齢に応じた児童英語教育法を理解し、児童の年齢に応じたコミュニケーションをとることができる。 ○C：図形を児童に教える際に有効的な教え方について、説明することができる。 ◎D：児童英語の授業を開始・終了するための英語表現を駆使することができる。 E：幼児対象の絵本を、正しい発音とイントネーションで読み聞かせすることができる。

事前・事後学習	事前学習：対象となっている教科書のユニットの予習を行い、分からない語句は事前に辞書で調べておくこと。（30分） 事後学習：単語の復習ならびに指示された課題に取り組むこと。（60分）
指導方法	授業の初めに、前回の授業で習った英単語クイズを実施する。その後、子供に英語を教える際に必要な英語表現を学び、問題演習を通して知識の定着を図る。また、英語のアクティビティ、ゲーム、歌などを体験し、英語教育指導法の基礎を学ぶ。 フィードバックの方法: ①小テストの実施と採点評価、②リアクションペーパーにコメントを記載し返却、③採点評価やコメントに関する質疑対応
成績評価の方法・基準	Ｂ:授業内のグループワークの成果で評価する。 ○Ｃ:授業内の発表の成果および期末試験の成績で評価する。 ◎Ｄ:小テストおよび期末試験の成績で評価する。 Ｅ:授業内発表の完成度で評価する。 授業貢献度、課題、プレゼンテーション　30% 小テスト 30% 期末試験　40%
テキスト	Bright and Early（カレイラ松崎順子著、南雲堂、2015年） その他英語の歌や、塗り絵、ゲーム、工作などのアクティビティのプリントを配布する。
参考書	授業の際に指示する。 本学の図書館にもたくさん英語の絵本があるので、積極的に活用することを推奨する。
履修上の注意	授業中の居眠り・私語・無用な出入り・携帯電話の操作行為が認められた場合、減点対象とする。また、テキストや辞書等の忘れ物も授業への取り組みの妨げとなるので、度重なる場合は減点対象とする。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：Teaching English to Children 2　　授業コード：2171　2172

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	国専：選択必修
担当教員			
森田千草、Ivan Botev			
Subject Code：E23B16			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	この授業では、実際に児童に英語を教える際に必要となる知識や技術を習得することを目指す。小学校を舞台とした実践的な場面を想定したテキストを使い、英語の指示表現のみならず、授業展開方法や学校生活全般についても学ぶ。 （授業目標） 　B：児童に英語を教える際に必要なコミュニケーション能力を高めることができる。 ○C：児童対象の授業の有効的な進め方を的確に判断できる思考力と判断力を養う。 ◎D：英語の授業を行う際に必要な英語表現を身につける。 　E：自然な英語表現、正しい発音、イントネーションで英文を読めるようになる。
授業計画	1　ALT's First Visit to Minami Elementary School （グループワーク：先生役と生徒役に分かれてグループごとに模擬授業をする） ALTと一緒に小学校に初訪問するときに使う英語表現を学ぶ。 2　Getting to Know Each Other （グループワーク：先生役と生徒役に分かれてグループごとに模擬授業をする） ALTとコミュニケーションをとる際に使う英語表現を学ぶ。 3　School Lunch （グループワーク：先生役と生徒役に分かれてグループごとに模擬授業をする） 学校給食でつかう英語表現を学ぶ。 4　Play Time （グループワーク：先生役と生徒役に分かれてグループごとに模擬授業をする） 休み時間につかう英語表現を学ぶ。 5　The First English Class （グループワーク：先生役と生徒役に分かれてグループごとに模擬授業をする） 最初の授業で使う英語表現を学ぶ。 6　Teaching Numbers 1 （グループワーク：先生役と生徒役に分かれてグループごとに模擬授業をする） 数を教えるときに使う英語表現を学ぶ。 7　Teaching Numbers 2 （グループワーク：先生役と生徒役に分かれてグループごとに模擬授業をする） 数に関する英語表現を学ぶ。 8　Reflection （グループワーク：先生役と生徒役に分かれてグループごとに模擬授業をする） 授業の振り返りを行う際に使う英語表現を学ぶ。 9　Activities at a Kindergarten （グループワーク：先生役と生徒役に分かれてグループごとに模擬授業をする） 幼稚園でのアクティビティを行う際に使う英語表現を学ぶ。 10　Growing Plants &Observing the Butterfly Lifecycle　CLIL1 （グループワーク：先生役と生徒役に分かれてグループごとに模擬授業をする） 生活科・理科を取り入れた英語学習の進め方を学ぶ。 11　芝小学校見学１ 受講者の半分は芝小学校の「こくさい」の授業を見学し児童英語の現状を把握する。残りの学生は児童英語に関する問題演習を行う。 12　芝小学校見学２ 受講者の半分は芝小学校の「こくさい」の授業を見学し児童英語の現状を把握する。残りの学生は児童英語に関する問題演習を行う。 13　Introducing Japanese Culture （グループワーク：先生役と生徒役に分かれてグループごとに模擬授業をする） 日本文化を紹介する際に使う英語表現を学ぶ。 14　Evacuation Drills （グループワーク：先生役と生徒役に分かれてグループごとに模擬授業をする） 避難訓練の際に使う英語表現を学ぶ。 15　Graduation （グループワーク：先生役と生徒役に分かれてグループごとに模擬授業をする） 卒業の際に使う英語表現を学ぶ。
到達目標・基準	この授業では、児童英語教育の基礎とその具体的な実践方法を学ぶことで、将来子供に英語を教える際に留意する点や心掛ける点についてきちんと理解し、効果的な授業運営方法を身につける。また、子供に英語を教えるためには確実な英語力が要求されるため、自分自身の英語力を磨く必要がある。 　B：児童に英語を教える際、英語の歌を使用して、コミュニケーションを図りながら英語を教えることができる。 ○C：児童英語の授業において、相手の年齢に応じて効果的に授業を進めることができる。 ◎D：数に関する英語表現を理解できる。

	Ｅ:簡単な絵本を、正しい発音、イントネーションで読み聞かせができる。
事前・事後学習	事前学習：対象となっている教科書のユニットの予習を行い、分からない語句は事前に辞書で調べておくこと。（30分） 事後学習：単語の復習ならびに指示された課題に取り組むこと。（60分）
指導方法	授業の初めに、前回の授業で習った英単語クイズを実施する。その後、子供に英語を教える際に必要な英語表現を学び、問題演習を通して知識の定着を図る。また、英語のアクティビティ、ゲーム、歌などを体験し、英語教育指導法の基礎を学ぶ。 フィードバックの方法: ①小テストの実施と採点評価、②リアクションペーパーにコメントを記載し返却、③採点評価やコメントに関する質疑対応
成績評価の方法・基準	Ｂ:授業内発表の成果で評価する。 ○Ｃ:授業内の発表の成果および期末試験の成績で評価する。 ◎Ｄ:小テストおよび期末試験の成績で評価する。 Ｅ:授業内発表の完成度で評価する。 授業貢献度、課題、プレゼンテーション　30% 小テスト 30% 期末試験　40%
テキスト	Hello, English-English for Teachers of Children, 相羽千州子ほか著, 成美堂、2016年. その他英語の歌や、塗り絵、ゲーム、工作などのアクティビティのプリントを配布する。
参考書	授業の際に指示する。 本学の図書館にもたくさん英語の絵本があるので、積極的に活用することを推奨する。
履修上の注意	授業中の居眠り・私語・無用な出入り・携帯電話の操作行為が認められた場合、減点対象とする。また、テキストや辞書等の忘れ物も授業への取り組みの妨げとなるので、度重なる場合は減点対象とする。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、グループディスカッション
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：Teaching English to Children 3　　授業コード：2141　2142

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	国専：選択必修
担当教員			
森田千草、Ivan Botev			
Subject Code:E23B17			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	この授業は、児童英語講師や英語指導補助員を目指す学生にとって必要な知識や技術を身につけることを目標としている。実際に小学校の外国語活動で使用されているテキストを用い、教育指導案作成方法や授業運営方法について学ぶ。 （授業目標） B:児童に英語を教える際に必要なコミュニケーション能力を高めることができる。 ○C:児童対象の授業の有効的な進め方を的確に判断できる思考力と判断力を養う。 ◎D:英語の授業を行う際に必要な英語表現を身につける。 E:自然な英語表現、正しい発音、イントネーションで英文を読めるようになる。
授業計画	1　オリエンテーション・インターンシップの振り返り　（プレゼンテーション：インターンシップ参加者による報告） 授業の進め方について概説する。夏休みのインターンシップ報告と振り返りを行う。 2　世界のいろいろなことばでのあいさつ表現の指導法　（グループワーク、プレゼンテーション：グループで指導方法を検討し発表） 世界の挨拶表現やお互いに名前を伝え合うことを指導する方法を学ぶ。 3　英語の挨拶表現の指導法　（グループワーク、プレゼンテーション：グループで指導方法を検討し発表） 感情やジェスチャーの大切さや状態を尋ねる表現を指導する方法を学ぶ。 4　数え方の指導法　（グループワーク、プレゼンテーション：グループで指導方法を検討し発表） 1から20までの数の言い方や数の尋ね方を指導する方法を学ぶ。 5　好みを尋ねる表現の指導法　（グループワーク、プレゼンテーション：グループで指導方法を検討し発表） 好みを表したり、好きかどうかを尋ねたり答えたりする表現を指導する方法を学ぶ。 6　自分の好みを答える表現の指導法　（グループワーク、プレゼンテーション：グループで指導方法を検討し発表） 何が好きかを尋ねたり答えたりする表現を指導する方法を学ぶ。 7　アルファベットの指導法　（グループワーク、プレゼンテーション：グループで指導方法を検討し発表） アルファベットとその読み方を指導する方法を学ぶ。 8　欲しいものを尋ねたり答えたりする表現の指導法　（グループワーク、プレゼンテーション：グループで指導方法を検討し発表） 形の言い方や欲しいものを尋ねたり答えたりする表現を指導する方法を学ぶ。 9　身の回りのものの言い方や何かを尋ねる表現の指導法　（グループワーク、プレゼンテーション：グループで指導方法を検討し発表） 身の回りのものの言い方やあるものが何かを尋ねたり答えたりする表現を指導する方法を学ぶ。 10　絵本を使った指導　（グループワーク、プレゼンテーション：グループで指導方法を検討し発表） 日本語と英語の音声やリズムの違いに気づかせ、誰かと尋ねたり答えたりする表現を指導する方法を学ぶ。 11　遊びの表現の指導　（グループワーク、プレゼンテーション：グループで指導方法を検討し発表） さまざまな動作、遊びや天気の言い方、遊びに誘う表現を指導する方法を学ぶ。 12　曜日の言い方や尋ね方の指導　（グループワーク、プレゼンテーション：グループで指導方法を検討し発表） 曜日の言い方や、自分の好きな曜日について尋ねたり答えたりする表現を指導する方法を学ぶ。 13　時刻や生活時間の表現の指導　（グループワーク、プレゼンテーション：グループで指導方法を検討し発表） 時刻や生活時間の言い方や尋ね方、自分の好きな時間について伝える表現を指導する方法を学ぶ。 14　持ち物を尋ねたり答えたりする表現の指導　（グループワーク、プレゼンテーション：グループで指導方法を検討し発表） 文房具などの学校で使うものや、持ち物を尋ねたり答えたりする表現を指導する方法を学ぶ。 15　自分の好きな場所の案内や紹介表現の指導　（グループワーク、プレゼンテーション：グループで指導方法を検討し発表） 教科名や教室名の言い方、自分の気に入っている校内の場所に案内したりその場所について伝える表現を指導する方法を学ぶ。
到達目標・基準	この授業では、児童英語教育の基礎とその具体的な実践方法を学ぶことで、将来子供に英語を教える際に留意する点や心掛ける点についてきちんと理解し、効果的な授業運営方法を身につける。また、子供に英語を教えるためには確実な英語力が要求されるため、自分自身の英語力を磨く必要がある。 B:児童に英語を教える際、英語の歌を使用して、コミュニケーションを図りながら英語を教えることができ

	る。 ○C:児童英語の授業において、相手の年齢に応じて効果的に授業を進めることができる。 ◎D:数に関する英語表現を理解できる。 E:簡単な絵本を、正しい発音、イントネーションで読み聞かせができる。
事前・事後学習	事前学習：対象となっている教科書のユニットの予習を行い、分からない語句は事前に辞書で調べておくこと。（30分） 事後学習：単語の復習ならびに指示された課題に取り組むこと。（60分）
指導方法	授業の初めに、前回の授業内容に関する復習小テストを実施する。その後、子供に英語を教える際に必要な英語表現を学び、問題演習を通して知識の定着を図る。また、英語のアクティビティ、ゲーム、歌などを体験し、英語教育指導法の基礎を学ぶ。 フィードバックの方法: ①小テストの実施と採点評価、②リアクションペーパーにコメントを記載し返却、③採点評価やコメントに関する質疑対応
成績評価の方法・基準	B:授業内発表の成果で評価する。 ○C:授業内の発表の成果および期末試験の成績で評価する。 ◎D:小テストおよび期末試験の成績で評価する。 E:授業内発表の完成度で評価する。 授業貢献度、課題、プレゼンテーション　30% 小テスト 30% 期末試験　40%
テキスト	Let's Try! 1 & 2および指導編, 文部科学省, 東京書籍. その他英語の歌や、塗り絵、ゲーム、工作などのアクティビティのプリントを配布する。
参考書	授業の際に指示する。 本学の図書館にもたくさん英語の絵本があるので、積極的に活用することを推奨する。
履修上の注意	授業中の居眠り・私語・無用な出入り・携帯電話の操作行為が認められた場合、減点対象とする。また、テキストや辞書等の忘れ物も授業への取り組みの妨げとなるので、度重なる場合は減点対象とする。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：Presentation in English　　授業コード：2231　2232　2233

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	国専：選択必修
担当教員			
Peter Davies、高橋大樹			
Subject Code：E23B18			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	This is a presentation skills course for learners of English. The course combines language control and communicative activities with a process approach to giving presentations. it is an opportunity to develop the important life skill of speaking clearly and effectively about a topic of interest to an audience. A/S grade goals include a high level of preparation,practice and production. Giving three presentations that are well organised and delivered, paying attention to posture , eye contact, gestures and the use of visual aids. (Goals) ◎B: Students will develop the life skill of speaking clearly and effectively to an audience. ○E: Students will deliver three presentations to the class.
授業計画	1 Introduction Course outline, requirements, expectations and text. The basic structure of a presentation. 2 Getting ready. (Group work, interview and discussion). Lifestyle survey. Talk about classmates lifestyle and presentation experience. Questionnaire. 3 Planning a presentation Presentation steps. 4 Brainstorming Organizing notes. Presentation techniques. 5 First presentation about you. (Give a presentation) Plan and give a one minute presentation 6 A good friend. (Pair work). Interview a classmate. Talk about personality, interests and activities. 7 Organizing ideas. Brainstorming. Outline presentation. 8 Introductions and conclusions. Openers and closers. Presentation techniques. 9 Planning and preparation. Organizing notes for the second presentation. Practice. 10 Second presentation. (Give a presentation). Give a presentation about a good friend, (3 minutes) Feedback. 11 A favorite place. Exploring the topic. Vocabulary. 12 Focus on language Descriptions and activities. 13 Organizing ideas. Outline. Developing techniques, gesture and body language. 14 Brainstorm. Organizing notes. Adding impact. 15 Preparation and practice. 'A favorite place'. Final presentation, (five minutes). 16 Final Presentation (Give a presentation). Give a presentation in front of class . Teacher to assess and grade.
到達目標・基準	The goals includes participation to the best of your ability in all activities. To prepare and deliver three presentations demonstrating an improvement in organization of notes, content and techniques. ◎B: The goal is to build confidence to enable students to speak in front of an audience. ○E: they will learn skills and formats to make interesting presentations.
事前・事後学習	Students are required to complete homework and practice their presentation outside of the classroom. (30 mins) A notebook is needed for vocabulary and for making drafts and notes for their presentations.(60

	mins)
指導方法	All classes will be taught in English only. DVD will be used to demonstrate skills and provide examples of the type of presentation required. Continuous personal feed back about progress and participation in class given by teacher to all students. Note books will be checked and graded twice a semester. A series of three presentations will be given by all students. Each presentation will be marked and assessed and graded by the teacher. The results and comments will be shared with each student. Advice will be given for areas for improvement.
成績評価の方法・基準	Ｂ: Students will be evaluated by the participation in the class. Ｅ: Students will be evaluated with their presentation. Presentation 1 and 2　25% Overall participation and notebook 25% Final presentation 50%
テキスト	Present Yourself 1: Experiences　(Cambridge Univ. Press)　2015
参考書	
履修上の注意	Students need to complete all three presentations. Keep a notebook and vocabulary list.
アクティブ・ラーニング	Presentation, Group work, survey and discussion. Pair work, interview.
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：ヨーロピアン スタディーズ　　授業コード：2281　2282

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	国専：選択
担当教員			
コルフィアスアレッサンドラ			
Subject Code：E13C20			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	イタリアの地理・歴史をベースに学びます。また、イタリア人講師による日本では知られていないイタリアの素顔に迫る話を交え、イタリアで生まれた宗教・芸術・食生活・ファションや国民性など、イタリア文化についての知識を深めます。 ◎C：地域別に異なるイタリア人の文化や表現を知ることで、偏見や差別に捕らわれない公正な判断に基づく、イタリアの「歴史、美術、デザイン、ファッション」の文化について、自分の意見を述べることができる。 ○D：イタリアの建築物、絵画、街並みを見て、背景にある歴史、文化、宗教について理解できる。
授業計画	1　地理 イタリアの国土・気候の特徴と主な農作物の関係について学ぶ 各グループでグループディスカッションを行う 2　歴史 古代ローマ帝国からキリスト教の誕生を経て、現在のイタリアが共和国として統一されるまでを学ぶ 3　宗教　1 キリスト教の誕生とローマカトリックの歴史。現在の宗教儀式についてを学ぶ 各グループでグループディスカッションを行う 4　宗教　2 宗教的な年間行事と季節ごとの習慣についてを学ぶ 5　教育 イタリアの教育（学校）制度と日本との相違を学ぶ 各グループでグループディスカッションを行う 6　食習慣 現在のイタリア料理が確立されるまでの歴史と、その食材について：イタリア人の食生活 7　芸術　1 イタリア絵画の歴史。ビサンティンからルネッサンスを経てバロックまでの代表作品とその作者： レオナルドダヴィンチ・ミケランジェロ等 各グループでグループディスカッションを行う 8　芸術　2 各都市にある主要な歴史的建築物と代表的な彫刻作品：ベルニーニ、ボロミーニ等 9　オペラ 世界中の人々を魅了するオペラの誕生と歴史について学ぶ 10　経済 イタリアの就業状況、伝統的職人技術と現在の生産物の関係、地方格差について学ぶ 各グループでグループディスカッションを行う 11　国民性 イタリア人の特徴と日本人との比較、人付き合いや家族との関係性について学ぶ 12　ファッション イタリアの服飾の歴史。エトルリア人からミラノコレクションまで： ＧＵＣＣＩ・ＰＲＡＤＡ・ＦＥＲＲＡＧＡＭＯ・ＡＲＭＡＮＩ等 13　映画１ イタリア映画の誕生と歴史。代表的な作品の紹介 各グループでグループディスカッションを行う 14　映画２ 映画鑑賞 Life is Beautiful（１） 各グループでグループディスカッションを行う 15　映画3、復習 映画鑑賞 Life is Beautiful（２）、学生をグループに分け、学生同士で復習する
到達目標・基準	今の日本には身近にイタリアに関する事が数多く見掛けられます。街にはイタリアレストランや有名ブランドのブティックが並び、ルネッサンス絵画の展覧会やオペラの上演と言ったイベントも開催されます。但し、イタリアが実際どのような国かという事は、あまり知られていないのが現状です。この授業を通してイタリア文化の中でもルネッサンスの大事なアーティスト、住まい、ファッション、デザインと食文化に関する知識を身に付けます。 ◎C：地域別に異なるイタリア人の文化や表現を学ぶことで、イタリア人と日本人との比較を自分の言葉で伝えることができる。 ○D：レオナルッド、ミケランジェロ、アルマーニ、グッチについて説明することができる。
事前・事後学習	事前学習：授業時に指示されたテキストの該当箇所を読み、分からない単語は調べておく事。（約45分） 事後学習：授業の始めに、前回の授業内容から出題される小テストを行うため、必ず前回の授業の復習を行う

	こと。（約60分）
指導方法	イタリアに行ったことのない学生にも分かり易くする為、写真等の資料を活用する。 一方的な講義ではなく、気軽に質疑応答が出来る環境をつくり、学生とのコミュニケーションがとれる体制をつくっていく。 毎回授業の始めに、前回の授業内容から出題する小テストを行う。 フィードバックとして、小テストを返却後、間違いに関しての説明を行う。
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加も評価対象とします。 ◎C:グループでのプレゼンテーションで評価する。 ○D：毎週の小テスト・定期試験で評価する。 授業への積極的な参加、授業態度　20% 小テスト（全13回）40% 定期試験　40%
テキスト	テキスト：『歴史を旅行するイタリア の世界遺産』武村陽子、山川出版社と授業でPPTのスライドを用意します。
参考書	必要に応じて授業内でアナウンスします。
履修上の注意	イタリアという国に興味がある方に受講して頂きたい。初回の授業で受講に必要なテキストを用意する為、必ず参加して下さい。 度重なる欠席・授業中の居眠りやお喋りなどは、成績評価にも反映されます。
アクティブ・ラーニング	グループワーク
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：ヨーロピアン　スタディーズ（イタリア）（2年 授業コード：2291　2292

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	国専：選択
担当教員			
コルフィアスアレッサンドラ			
Subject Code：E15C28			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	イタリアの地理・歴史をベースに学びます。また、イタリア人講師による日本では知られていないイタリアの素顔に迫る話を交え、イタリアで生まれた宗教・芸術・食生活・ファションや国民性など、イタリア文化についての知識を深めます。 ◎C：地域別に異なるイタリア人の文化や表現を知ることで、偏見や差別に捕らわれない公正な判断に基づく、イタリアの「歴史、美術、デザイン、ファッション」の文化について、自分の意見を述べることができる。 ○D：イタリアの建築物、絵画、街並みを見て、背景にある歴史、文化、宗教について理解できる。
授業計画	1　地理 イタリアの国土・気候の特徴と主な農作物の関係について学ぶ 各グループでグループディスカッションを行う 2　歴史 古代ローマ帝国からキリスト教の誕生を経て、現在のイタリアが共和国として統一されるまでを学ぶ 3　宗教　1 キリスト教の誕生とローマカトリックの歴史。現在の宗教儀式についてを学ぶ 各グループでグループディスカッションを行う 4　宗教　2 宗教的な年間行事と季節ごとの習慣についてを学ぶ 5　教育 イタリアの教育（学校）制度と日本との相違を学ぶ 各グループでグループディスカッションを行う 6　食習慣 現在のイタリア料理が確立されるまでの歴史と、その食材について：イタリア人の食生活 7　芸術　1 イタリア絵画の歴史。ビサンティンからルネッサンスを経てバロックまでの代表作品とその作者： レオナルドダヴィンチ・ミケランジェロ等 各グループでグループディスカッションを行う 8　芸術　2 各都市にある主要な歴史的建築物と代表的な彫刻作品：ベルニーニ、ボロミーニ等 9　オペラ 世界中の人々を魅了するオペラの誕生と歴史について学ぶ 10　経済 イタリアの就業状況、伝統的職人技術と現在の生産物の関係、地方格差について学ぶ 各グループでグループディスカッションを行う 11　国民性 イタリア人の特徴と日本人との比較、人付き合いや家族との関係性について学ぶ 12　ファッション イタリアの服飾の歴史。エトルリア人からミラノコレクションまで： ＧＵＣＣＩ・ＰＲＡＤＡ・ＦＥＲＲＡＧＡＭＯ・ＡＲＭＡＮＩ等 13　映画１ イタリア映画の誕生と歴史。代表的な作品の紹介 各グループでグループディスカッションを行う 14　映画２ 映画鑑賞 Life is Beautiful（１） 各グループでグループディスカッションを行う 15　映画3、復習 映画鑑賞 Life is Beautiful（２）、学生をグループに分け、学生同士で復習する
到達目標・基準	今の日本には身近にイタリアに関する事が数多く見掛けられます。街にはイタリアレストランや有名ブランドのブティックが並び、ルネッサンス絵画の展覧会やオペラの上演と言ったイベントも開催されます。但し、イタリアが実際どのような国かという事は、あまり知られていないのが現状です。この授業を通してイタリア文化の中でもルネッサンスの大事なアーティスト、住まい、ファッション、デザインと食文化に関する知識を身に付けます。 ◎C：地域別に異なるイタリア人の文化や表現を学ぶことで、イタリア人と日本人との比較を自分の言葉で伝えることができる。 ○D：レオナルッド、ミケランジェロ、アルマーニ、グッチについて説明することができる。
事前・事後学習	事前学習：授業時に指示されたテキストの該当箇所を読み、分からない単語は調べておく事。（約45分） 事後学習：授業の始めに、前回の授業内容から出題される小テストを行うため、必ず前回の授業の復習を行う

	こと。（約60分）
指導方法	イタリアに行ったことのない学生にも分かり易くする為、写真等の資料を活用する。 一方的な講義ではなく、気軽に質疑応答が出来る環境をつくり、学生とのコミュニケーションがとれる体制をつくっていく。 毎回授業の始めに、前回の授業内容から出題する小テストを行う。 フィードバックとして、小テストを返却後、間違いに関しての説明を行う。
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加も評価対象とします。 ◎C:グループでのプレゼンテーションで評価する。 ○D：毎週の小テスト・定期試験で評価する。 授業への積極的な参加、授業態度　20% 小テスト（全13回）40% 定期試験　40%
テキスト	テキスト：『歴史を旅行するイタリア の世界遺産』武村陽子、山川出版社と授業でPPTのスライドを用意します。
参考書	必要に応じて授業内でアナウンスします。
履修上の注意	イタリアという国に興味がある方に受講して頂きたい。初回の授業で受講に必要なテキストを用意する為、必ず参加して下さい。 度重なる欠席・授業中の居眠りやお喋りなどは、成績評価にも反映されます。
アクティブ・ラーニング	グループワーク
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：アジアン スタディーズ　　授業コード：2351　2352

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	1	2	国専：選択
担当教員			
李泰文			
Subject Code：E13C21			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	異文化を理解する「理解力」を基にし、自分の考えを伝える「コミュニケーション能力」を養うことが目標で特に、韓国社会と文化などについて知識や理解を深めていく。 (授業目標) ◎C：主題に相応しい内容を整理して体系的に書くことができる。 ○D：日・韓両国の社会や文化を比較しながら実例などを挙げて説明できる。
授業計画	1　講義の内容説明 講義のガイダンス 異文化とは、何をどのように学ぶか アンケート実施：韓国のイメージとこの授業で学びたいテーマは？ 2　朝鮮半島の地理的な接近 地理・気候・地域特徴など朝鮮半島について基礎知識を学ぶ クイズ：地理的な特徴と民族性、気候と生活、山や川と郷土性など 3　朝鮮・韓国の歴史 古朝鮮・三国時代・高麗・朝鮮、そして近代・現代までの流れ 東アジア・日本との関連性 クイズ：日本と関連がある祝日は？ 4　韓国人の精神 血縁、地縁、学縁など縦社会と横社会の韓国 男児・男性中心的な社会と徴兵制の実施 クイズ：韓国の男ってママボーイ？ 5　韓国人の一生（ディスカッション） 冠婚葬祭を通して韓国人のライフを理解 出生の秘密から百日・一歳のお祝い お見合い結婚から現代の恋愛事情 ディスカッション：男女平等は可能？ 6　衣生活 白衣民族とも呼ばれる韓国人の衣生活について 韓服の特徴と着物との比較 クイズ：チマチョゴリって？ OX 7　住生活 マダン、オンドル、住宅事情 四季、梅雨、農業などの関係 韓国の賃貸は違う、何が異なるか。 クイズ：ドラマの中の家から見える韓国社会 8　食生活① 米文化：ご飯、餅、お酒 食事マナー：匙と箸、器、お膳 楽しい「ビビンバボックス(韓国文化体験セット)」を使用（韓国文化院の協力） 9　食生活②（ディスカッション） キムチの歴史と種類など キムジャン前線は何かな ディスカッション：何故、キムチが好きですか？ 10　日韓交流史①（ディスカッション） 朝鮮通信使の歴史と意味 朝鮮通信使は今の韓流って？ ディスカッション：こんな物が交流出来たら… 11　日韓交流史②（ディスカッション） 李方子女史の生涯と功績 政略結婚って何？ ディスカッション：私が国際結婚したら… 12　日韓交流史③ 日韓の大衆文化と若者文化の比較 K-POPとJ-POPの違いは？ 自由発言：私が好きな… 13　日本の中の韓流（ディスカッション） 韓流からグルメ情報まで 新大久保の変遷から見える韓流事情 ディスカッション：ここが不思議、韓流 14　韓国の中の日流（ディスカッション） 和食からドラマ・映画・漫画・小説など

	若者の街で流行っている日本文化は ディスカッション：これも紹介して欲しい日本の文化 15　日本社会と在日 日本映画の中で描かれている在日像:＜血と骨＞＜パッチギ!＞＜GO＞など 在日って何、その背景は？ 在日の人で有名人は誰がいるかな クイズ：通名と社会進出、そしてカミングアウト
到達目標・基準	◎C：序論・本論・結論・参考文献の構成で内容をまとめることができる。 ○D：日・韓両国の社会や文化の類似点を説明することができる。
事前・事後学習	事前学習：新聞や雑誌などで韓国関連の記事やコラムなどを調べて、疑問など感想を書いて提出すること。（60分） 事前に配布したテキストを予め読んでおくこと。（30分） 事後学習：授業で学んだことを振り返りながら、その要点などを整理して書いておくこと。（90分） 特に、配布した資料などは保管して定期試験に対応すること。
指導方法	①クイズの場合は講義内容との関連性を基で行う。 ②テーマによってはグループに分けて討論して、発表してもらうこともある。 ③学生達が毎回提出した課題の記事、コラムなどの資料から新しい情報や知識を得る。 ④講義:ビデオ、写真、実物など様々な視聴覚資料を利用して理解を深める。
成績評価の方法・基準	◎C：課題の提出・期末レポートを評価する。 ○D：定期試験を評価する。 クイズ・ディスカッション・発表・授業への貢献度など　10% 毎回の課題提出・期末レポート　40% 定期試験（論述形式）　50%
テキスト	なし(授業中にプリントを配布)
参考書	コリアンワークス(著)『知れば知るほど理解が深まる「日本人と韓国人」なるほど事典』(PHP研究所、2002.1) 高月 靖(著)『徹底比較 日本 vs. 韓国』(河出書房新社、2008.8)
履修上の注意	毎回の課題提出を忘れないこと。 発表、意見交換やディスカッションなどに積極的に参加すること。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：アジアン　スタディーズ（韓国）（2年生）　　授業コード：2301　2302

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	1・2	2	国専：選択
担当教員			
李泰文			
Subject Code：E15C29			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	異文化を理解する「理解力」を基にし、自分の考えを伝える「コミュニケーション能力」を養うことが目標で特に、韓国社会と文化などについて知識や理解を深めていく。 (授業目標) ◎C：主題に相応しい内容を整理して体系的に書くことができる。 ○D：日・韓両国の社会や文化を比較しながら実例などを挙げて説明できる。
授業計画	1　講義の内容説明 講義のガイダンス 異文化とは、何をどのように学ぶか アンケート実施：韓国のイメージとこの授業で学びたいテーマは？ 2　朝鮮半島の地理的な接近 地理・気候・地域特徴など朝鮮半島について基礎知識を学ぶ クイズ：地理的な特徴と民族性、気候と生活、山や川と郷土性など 3　朝鮮・韓国の歴史 古朝鮮・三国時代・高麗・朝鮮、そして近代・現代までの流れ 東アジア・日本との関連性 クイズ：日本と関連がある祝日は？ 4　韓国人の精神 血縁、地縁、学縁など縦社会と横社会の韓国 男児・男性中心的な社会と徴兵制の実施 クイズ：韓国の男ってママボーイ？ 5　韓国人の一生（ディスカッション） 冠婚葬祭を通して韓国人のライフを理解 出生の秘密から百日・一歳のお祝い お見合い結婚から現代の恋愛事情 ディスカッション：男女平等は可能？ 6　衣生活 白衣民族とも呼ばれる韓国人の衣生活について 韓服の特徴と着物との比較 クイズ：チマチョゴリって？ OX 7　住生活 マダン、オンドル、住宅事情 四季、梅雨、農業などの関係 韓国の賃貸は違う、何が異なるか。 クイズ：ドラマの中の家から見える韓国社会 8　食生活① 米文化：ご飯、餅、お酒 食事マナー：匙と箸、器、お膳 楽しい「ビビンバボックス(韓国文化体験セット)」を使用（韓国文化院の協力） 9　食生活②（ディスカッション） キムチの歴史と種類など キムジャン前線は何かな ディスカッション：何故、キムチが好きですか？ 10　日韓交流史①（ディスカッション） 朝鮮通信使の歴史と意味 朝鮮通信使は今の韓流って？ ディスカッション：こんな物が交流出来たら… 11　日韓交流史②（ディスカッション） 李方子女史の生涯と功績 政略結婚って何？ ディスカッション：私が国際結婚したら… 12　日韓交流史③ 日韓の大衆文化と若者文化の比較 K-POPとJ-POPの違いは？ 自由発言：私が好きな… 13　日本の中の韓流（ディスカッション） 韓流からグルメ情報まで 新大久保の変遷から見える韓流事情 ディスカッション：ここが不思議、韓流 14　韓国の中の日流（ディスカッション） 和食からドラマ・映画・漫画・小説など

	若者の街で流行っている日本文化は ディスカッション：これも紹介して欲しい日本の文化 15　日本社会と在日 日本映画の中で描かれている在日像:＜血と骨＞＜パッチギ!＞＜GO＞など 在日って何、その背景は？ 在日の人で有名人は誰がいるかな クイズ：通名と社会進出、そしてカミングアウト
到達目標・基準	◎C：序論・本論・結論・参考文献の構成で内容をまとめることができる。 ○D：日・韓両国の社会や文化の類似点を説明することができる。
事前・事後学習	事前学習：新聞や雑誌などで韓国関連の記事やコラムなどを調べて、疑問など感想を書いて提出すること。（60分） 事前に配布したテキストを予め読んでおくこと。（30分） 事後学習：授業で学んだことを振り返りながら、その要点などを整理して書いておくこと。（90分） 特に、配布した資料などは保管して定期試験に対応すること。
指導方法	①クイズの場合は講義内容との関連性を基で行う。 ②テーマによってはグループに分けて討論して、発表してもらうこともある。 ③学生達が毎回提出した課題の記事、コラムなどの資料から新しい情報や知識を得る。 ④講義:ビデオ、写真、実物など様々な視聴覚資料を利用して理解を深める。
成績評価の方法・基準	◎C：課題の提出・期末レポートを評価する。 ○D：定期試験を評価する。 クイズ・ディスカッション・発表・授業への貢献度など　10% 毎回の課題提出・期末レポート　40% 定期試験（論述形式）　50%
テキスト	なし(授業中にプリントを配布)
参考書	コリアンワークス(著)『知れば知るほど理解が深まる「日本人と韓国人」なるほど事典』(PHP研究所、2002.1) 高月 靖(著)『徹底比較 日本 vs. 韓国』(河出書房新社、2008.8)
履修上の注意	毎回の課題提出を忘れないこと。 発表、意見交換やディスカッションなどに積極的に参加すること。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：アメリカン　スタディーズ　　授業コード：2361　2362

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	1	2	国専：選択
担当教員			
清水マイケル政路			
Subject Code：E13C22			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	アメリカの歴史と文化史について概説し基礎知識を学びます。文化的、人種的、政治的背景をふまえて様々な問題を多角的に分析します。受講者には、毎回の講義内容についてリアクションペーパーを提出してもらいます。また、授業ではテキストだけでなく関連のある映画作品を鑑賞し、アメリカの歴史・文化史がどのように視覚的に表現されているかを学び、クラスで意見・考察・疑問点等を共有します。 (授業目標) ◎Ｃ：アメリカ史について知識と理解を深め、歴史的・文化的背景を踏まえて映画を分析し、映画に対する造詣を深めることができる。 ○Ｄ：アメリカ史の重要な文化的・歴史的出来事について、複数の視点から自分の言葉で説明することができる。
授業計画	1　Course Introduction Explanation of how this course will be conducted Introduction to American History 2　History of America (Discussion) Role of American Myths 3　History of America Before Columbus American Revolution 4　History of America (Discussion) The Birth of the United States 5　History of America The Civil War Years 6　History of America (Discussion) The Roaring Twenties 7　History of America 1920s and American Dream 8　History of America (Discussion) World War and America 9　History of America Cold War and America 10　History of America (Discussion) 1960s and Civil Rights Movement 11　History of America 1970s and America 12　History of America (Discussion) America in Literature 13　History of America Anti-American Dream 14　History of America (Discussion) U.S. Presidency 15　History of America American Dream
到達目標・基準	◎Ｃ：アメリカ史の重要な出来事を理解することができる。 ○Ｄ：アメリカ史における重要な出来事の概要を一つの視点から説明することができる。
事前・事後学習	事前学習:アメリカの歴史に関心を持ち、アメリカ関連記事を読んでおく。テキストで扱う章を事前に読んで小テストの準備をする。(約90分) 事後学習:授業内で学んだアメリカの歴史や文化について毎回復習する。授業で扱ったテキストの章を必ず一度は再読する。　(約90分)
指導方法	講義だけではなく、随時ビデオなども使用して、視覚的にも理解を深められるよう指導します。また、リアクションペーパーや小テストなども随時導入し、学生の理解度にそったペースで授業を進めていきます。 （リアクションペーパーに小テストの回答と授業コメントや質問等を書き、回収。コメントをして学生に返却）
成績評価の方法・基準	◎Ｃ：リアクションペーパー、小テストで評価します。 ○Ｄ：課題、定期試験で評価します。 授業参加度・リアクションペーパー 30% 小テスト 20% 定期試験 50%

テキスト	石出法太他編『これならわかるアメリカの歴史 Q&A』 （大月書店、2015年）
参考書	亀井俊介編『アメリカ文化史入門』（昭和堂、2006年） 笹田直人他編著『概説アメリカ文化史』（ミネルヴァ書房、2002年） 奥村みさ他『映画でわかるアメリカ文化入門』（松柏社、2007年） 齋藤真、他監修『アメリカを知る事典』（平凡社、1986年）
履修上の注意	主体的に学ぶ意欲のある学生を対象とします。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：アメリカン　スタディーズ（2年生）　　授業コード：2311　2312

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	1・2	2	国専：選択
担当教員			
清水マイケル政路			
Subject Code：E15C30			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	アメリカの歴史と文化史について概説し基礎知識を学びます。文化的、人種的、政治的背景をふまえて様々な問題を多角的に分析します。受講者には、毎回の講義内容についてリアクションペーパーを提出してもらいます。また、授業ではテキストだけでなく関連のある映画作品を鑑賞し、アメリカの歴史・文化史がどのように視覚的に表現されているかを学び、クラスで意見・考察・疑問点等を共有します。 (授業目標) ◎C：アメリカ史について知識と理解を深め、歴史的・文化的背景を踏まえて映画を分析し、映画に対する造詣を深めることができる。 ○D：アメリカ史の重要な文化的・歴史的出来事について、複数の視点から自分の言葉で説明することができる。
授業計画	1　Course Introduction Explanation of how this course will be conducted Introduction to American History 2　History of America (Discussion) Role of American Myths 3　History of America Before Columbus American Revolution 4　History of America (Discussion) The Birth of the United States 5　History of America The Civil War Years 6　History of America (Discussion) The Roaring Twenties 7　History of America 1920s and American Dream 8　History of America (Discussion) World War and America 9　History of America Cold War and America 10　History of America (Discussion) 1960s and Civil Rights Movement 11　History of America 1970s and America 12　History of America (Discussion) America in Literature 13　History of America Anti-American Dream 14　History of America (Discussion) U.S. Presidency 15　History of America American Dream
到達目標・基準	◎C：アメリカ史の重要な出来事を理解することができる。 ○D：アメリカ史における重要な出来事の概要を一つの視点から説明することができる。
事前・事後学習	事前学習:アメリカの歴史に関心を持ち、アメリカ関連記事を読んでおく。テキストで扱う章を事前に読んで小テストの準備をする。(約90分) 事後学習:授業内で学んだアメリカの歴史や文化について毎回復習する。授業で扱ったテキストの章を必ず一度は再読する。　(約90分)
指導方法	講義だけではなく、随時ビデオなども使用して、視覚的にも理解を深められるよう指導します。また、リアクションペーパーや小テストなども随時導入し、学生の理解度にそったペースで授業を進めていきます。 （リアクションペーパーに小テストの回答と授業コメントや質問等を書き、回収。コメントをして学生に返却）
成績評価の方法・基準	◎C：リアクションペーパー、小テストで評価します。 ○D：課題、定期試験で評価します。 授業参加度・リアクションペーパー 30% 小テスト 20% 定期試験 50%

テキスト	石出法太他編『これならわかるアメリカの歴史 Q&A』 （大月書店、2015年）
参考書	亀井俊介編『アメリカ文化史入門』（昭和堂、2006年） 笹田直人他編著『概説アメリカ文化史』（ミネルヴァ書房、2002年） 奥村みさ他『映画でわかるアメリカ文化入門』（松柏社、2007年） 齋藤真、他監修『アメリカを知る事典』（平凡社、1986年）
履修上の注意	主体的に学ぶ意欲のある学生を対象とします。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：国際関係論　　授業コード：2321　2322

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	2	2	国専：選択
担当教員			
木内伸樹			
Subject Code：E25C31			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	（授業概要）国際関係論は国家間に生じる様々な事象を多角的に分析する学問である。そこには国家の存在が前提としてある。近代国家がいつどのようにして誕生し、どんな特徴を持ちながら現代に至るまでその歴史を辿ってきたのかを国際関係理論を交え考察する。またその発展によって、国家はどのような状況になり、国家の枠を超える多様な問題に対して世界がどのように取り組んでいるかに注目する。そしてこれらの取り組みを通して、日本と諸外国との関係について理解する。 (授業目標) 国家間の国際関係を通して、日本のおかれている立場や日本の将来についてグローバルな視点から考察する。 ○C:国際的な事象を断片的に見るのではなく、いくつかの違った角度から問題点を見る力を修得する。 ◎D：国際関係論における主要な三つの理論の違いを知る。 ◎D：近年起こっている国際問題について考察する。 ◎D：二国間や多国間で話し合われている地域協力機構や経済協定について理解する。
授業計画	1　国家の役割とその変化 国際関係論の定義と考え方、及び国家が持つ主権の意味 2　国際関係論の分類 国際問題を扱う幅広い研究テーマなどの分類 3　国際関係理論①　（ゲスト講師）（プレゼンテーション：関心を持つ国際問題について） 国際関係理論のリアリズムとリベラリズム 4　国際関係理論②　（ゲスト講師）（プレゼンテーション：関心を持つ国際問題について） 国際関係理論のコンストラクティヴィズムとその他の理論 5　EUⅠ　（ゲスト講師）（プレゼンテーション：関心を持つ国際問題について） 欧州統合の歴史をその理念から今日までを振り返る 6　EUⅡ　（ゲスト講師）（プレゼンテーション：関心を持つ国際問題について） 欧州統合の様々な理論からの統合の行方 7　EUⅢ　（ゲスト講師）（プレゼンテーション：関心を持つ国際問題について） EUの機構と政策から、EUの超国家性について 8　国際連合　（プレゼンテーション：関心を持つ国際問題について） 国際連合の成り立ち、仕組みと役割 9　地域協力機構　（プレゼンテーション：関心を持つ国際問題について） EU以外の地域協力機構と経済協定 10　民族紛争　（プレゼンテーション：関心を持つ国際問題について） 二国間や多国間で起きている民族を単位とした紛争 11　領土問題と領土紛争　（プレゼンテーション：関心を持つ国際問題について） 日本や国家間の領土問題と領土紛争 12　米ソの冷戦　（プレゼンテーション：関心を持つ国際問題について） 米ソの冷戦の背景と経緯 13　南北問題　（プレゼンテーション：関心を持つ国際問題について） 米ソの冷戦南北の経済的対立 14　アジアの冷戦構造　（プレゼンテーション：関心を持つ国際問題について） アジア諸国の冷戦の背景と経緯および現状 15　国際通貨制度と国際金融体制　（実習：為替による通貨計算） 国際通貨制度の変遷と戦後の国際金融体制の概要
到達目標・基準	○C：多国間の国際的な事象をそれぞれの国の立場から説明できる。 ◎D：国際関係論における主要な三つの理論の違いを説明できる。 ◎D：近年起こっている国際問題を1つ取り上げ、現状分析、自らの見解や今後の課題を明確に説明できる。 ◎D：地域協力機構や経済協定について1つ具体的に説明できる。
事前・事後学習	事前学習：国際的なニュースをメディアから収集し、なぜそれらが起きているのか考えておく。（60分程度） メディアや文献から、国際問題の現状分析や課題を見つけ、プレゼンテーションの準備をする。（30分程度） 次回の講義内容に関する予習課題に取り組む。（30分程度） 事後学習：授業内で学んだ事項について復習し、自分の言葉で要約する。（60分程度）
指導方法	授業資料(レジメ)を配布し、パワーポイントを使用しながら適宜関係するビデオなどを含めて授業を行う。また毎回数名に各自が関心を持つ国際問題のプレゼンテーションをしてもらう。 フィードバックの仕方：プレゼンテーション終了後に、質疑応答、教員からのプレゼンテーション内容の評価とアドバイスをおこなう。 実習課題については、授業内、授業後に個別に対応、指導する。
成績評価の方法・基準	定期試験（50%）、発表（30%）、受講態度（20%） ○C：多国間の国際的な事象説明を定期試験で評価する。 ◎D：国際関係論における主要な三つの理論の違いについて定期試験で評価する。

	◎Ｄ：取り上げた国際問題の分析、見解、今後の課題の明確性とプレゼンテーションを評価する。 ◎Ｄ：地域協力機構や経済協定について、小レポートの提出を評価する。
テキスト	授業資料（プリント等）を毎回配布する。（教科書は特に指定しない）
参考書	高瀬淳一(2006)　「はじめて学ぶ国際関係」実務教育出版 三船恵美（2012)「基礎から学ぶ国際関係論」泉文堂
履修上の注意	履修者全員に、各自が関心を持つ国際問題を一つ取り上げて、その問題の背景(なぜ起こったか？)と現状(どうして解決できないのか？)を説明し、自らの見解を交えてプレゼンテーションと質疑応答をしてもらう。 エアライン、ホテル、観光など旅行関連業界は「平和」がキーワードである。また旅行業界のみならず多くの産業は国際情勢に左右されると言っても過言ではない。社会のあらゆる場面で外国とのつながりを考えることが必要となっている現代において、国際関係論で学ぶ内容は必要不可欠な知識となっており、関心を持って授業に臨むこと。 その時の国際情勢に合わせて授業計画が一部変更される場合がある。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション、実習
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：国際マナー　　授業コード：2331

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	国専：選択
担当教員			
小林千春			
Subject Code：E25C32			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	グローバル化が進む現代社会において異文化への理解はとても大切である。この授業では、世界には様々な文化や歴史を背景にした国々が存在し、異なる常識があることを理解する。イギリス人作者の視点から語られた、異文化の体験を英語で読みながら、異なる文化への理解を深め、グローバル社会において、違った文化を持つ人々と共存していくためのヒントを探る。 （授業目標） A:グループで担当のユニットの予習を行い、国に関しての情報もリサーチし、授業で発表する。 ◎C：異なる文化・マナーを持つ国があることを理解し、偏見や差別にとらわれない公平で柔軟な思考を身につける。 ○D：英語で書かれた興味を持ったトピックを選び、理解を深める。英語の表現として大切な語彙・イデイオムも学ぶ。 E：教材の中で授業の終盤2回にプレゼンソフトを使用して、英語もしくは日本語も使用しプレゼンを行う。
授業計画	1 Introduction 授業概略説明 映画『Pretty Woman』 前半で、主人公のマナーや、服装、言語食事のシーンなどに注目し、映画の中で主人公にどのような変化が現れるかをディスカッションする WebClass:授業の課題を提示 2 Elegance 映画『Pretty Woman』後半 においての、主人公の外見そして、内面の変化に注目し、具体的にどのような服装（ドレスコード）、食事のマナー、対人関係のマナー、言葉遣いに変わったかをディスカッションをしながら普遍的なエレガンスとは何かを探っていく WebClass:授業の課題を提示 3 Greeting Should we kiss or bow? 本チャプターで扱った国に関しての情報を学ぶ 挨拶に関しての異文化事情を学ぶ 日本と他の文化圏における挨拶の違いをディスカッションする WebClass:授業の課題を提示 4 Making contact What's in a name? 本チャプターで扱った国に関しての情報や名前に関する異文化事情を学ぶ このチャプターで学んだ名前に関する異文化事情をディスカッションする WebClass:授業の課題を提示 5 Dressing Dress code 本チャプターで扱った国に関しての情報を学び、ドレスコードに関する異文化事情を知る WebClass:授業の課題を提示 6 Moving and touching What language does your body work? 異文化における空間に関する要求度を学ぶ 本チャプターで扱う国の基本情報を学ぶ 列の作り方などに関してディスカッションする web class:授業の課題を提示 7 Chatting さまざまな国で会話に関するマナーやエチケットについて学ぶ トピックとしてどのようなものがふさわしいか、また食事中の会話に関しての異文化事情を知る 本チャプターで扱った国に関しての情報を学ぶ 日本と外国に関する会話に関する違いをディスカッションする WebClass:授業の課題を提示 8 Choosing your language What language does your body speak? 本チャプターで扱った国に関しての情報を学ぶ 言語に関する先入観を学ぶ WebClass:授業の課題を提示 9 Eating and drinking Is it still alive? 本チャプターで扱った国に関しての基本情報を学ぶ 異文化における食文化が歴史や環境に左右されていることを学ぶ WebClass:授業の課題を提示 10 Gift-giving It's lovely-- what is it? 本チャプターで扱った国に関しての基本情報を学ぶ 文化によって贈り物にはふさわしくないものがあることを学ぶ WebClass:授業の課題を提示 11 Time-keeping Better late than never? 本チャプターで扱った国に関しての基本情報を学ぶ

	時間の概念が国によって大きく異なることを知る WebClass:授業の課題を提示 12 Working toghether Who goes home first? 職場での付き合いに関しての異文化事情を学ぶ ランチタイム、テイタイム、仕事後の付き合いなどの文化の異文化事情を知る 本チャプターで扱った国に関しての基本情報を学ぶ WebClass:授業の課題を提示 13 Visiting homes How does your shower work? 外国でゲストとして招かれた場合のマナーに関する異文化事情を学ぶ 本チャプターで扱った国に関しての情報を学ぶ 家庭を訪問する際の異文化事情を学ぶ WebClass:授業の課題を提示 14 Final Presentation 教科書の中で扱ったトピックの中から各自の興味をもったテーマを見つけ、発展させ、 およそ10-min. Presentationをペアまたは単独で行う Presentationは英語または、一部日本語使用するかを選ぶことができる またaudience になった学生は、Presentationに対する評価をEvaluation Sheetに記入する WebClass:授業の課題を提示 15 Final Presentation 教科書の中で扱ったトピックの中から各自の興味をもったテーマを見つけ、発展させ、 およそ10-min. Presentationをペアまたは単独で行う Presentationは英語または、一部日本語使用するかを選ぶ またaudience になった学生は、Presentationに対する評価をEvaluation Sheetに記入する WebClass:授業の課題を提示
到達目標・基準	A:主体性と責任感を持って担当箇所のグループワークができる。 ◎C：異文化に関しての理解を深めることにより、柔軟な思考に基づいたプレゼンテーションを行うことができる。 ○D：世界の主な国の文化、生活習慣、コミュニケーションのとり方、マナーや価値観の違いなどが認識できる。 それらの国の位置・首都、人口・産業等を理解する。 英語の教材を読むことで、およそ100語程度の語彙が理解できる。 E：興味を持つ事柄を調査し、資料をまとめ英語と日本語で3分のプレゼンをすることができる。
事前・事後学習	事前の学習として、教材で扱う内容の英文の中で、わからない単語の意味を確認し、英文を訳せるように予習すること。担当になった箇所は、特に丁寧に予習をし、授業の前に担当者とおよそ50分程度確認する。（合計およそ80分） また、事後学習については単語の復習並びに訳せなかった箇所の見直しを行うこと。 扱ったユニットに関しては、翌週までにwebclassにアップするので、復習の際に確認すること。 また最終プレゼンテーションのための準備を授業外で行う。（およそ50分）
指導方法	あらかじめ担当になった学生がテキストを解釈しながら、内容を理解し、発表する。事前に担当者と確認のため予習を行う。担当者から重要な単語やイデイオムに関する説明を行う。 各トピックについてクラス全体でディスカッションをする。もちろん担当にならない学生も授業で読む箇所の予習は必須である。 トピックに沿ってデイスカッションしたり、各自の意見を小レポートとして提出してもらうこともある。 授業の課題や小テストのフィードバック：授業中の課題や小テストにはコメント等を記載し返却する。また、授業後やオフィスアワーで質問などに対応する。
成績評価の方法・基準	A:担当箇所のプレゼンテーションおよび授業への貢献度をルーブリックで評価する ◎C：レポート、プレゼンテーション等で評価する ○D：毎回のボキャブラリークイズ、学期末試験で評価する E：プレゼンテーションで評価する 授業への貢献度15%　小テストとレポート15%　プレゼンテーション30%　学期末試験　40%
テキスト	プリントを用意する。
参考書	国際マナーを具体的に理解するために映画などを使用することもある。
履修上の注意	予習として担当ではないも辞書をひき自分で訳して授業に参加すること。 復習として課されたアサインメントをしっかり行うこと。 授業は連続して進めているので、毎回出席するようにすること。 扱ったユニットの訳に関しては、翌週にWebClassにアップするので確認すること。 授業には、積極的に参加すること。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション
ＩＣＴの活用	WebClass PowerPointを使用

講義科目名称：国際マナー　　授業コード：2332

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	国専：選択
担当教員			
森田千草			
Subject Code：E25C32			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	グローバル化が進む現代社会において、異文化を理解することは不可欠である。この授業では、各国の歴史・文化・社会を学び、世界や自国に対する理解を深めることを目標とする。 (授業目標) A: グループワークを通して、各国の歴史・文化・社会について調査し必要な情報を得ることができる。 ◎C: 異なる文化やマナーがあることを理解し、偏見や差別にとらわれず、公平で柔軟な思考を身につける。 ○D: 各国の歴史・文化・社会について書かれた英文を読み、正確に理解することができる。 E: 各国の歴史・文化・社会について適切な語彙や表現を用いて英語で発表することが出来る。
授業計画	1 オリエンテーション 授業の概要、進め方、テキストなどについて説明する。 2 Chapter 1 Australia オーストラリアの文化や歴史、また環境問題について学ぶ。 3 Chapter 2 Indonesia (プレゼンテーション: 担当グループによる発表) 他民族国家であるインドネシアの多彩な文化について学ぶ。 4 Chapter 3 Singapore (プレゼンテーション: 担当グループによる発表) 都市計画によって整備された国土を持つシンガポールの文化や歴史について学ぶ。 5 Chapter 4 China (プレゼンテーション: 担当グループによる発表) 壮大なスケールと独特の雰囲気を持つ建造物を有する中国の文化と歴史について学ぶ。 6 Chapter 5 Argentina (プレゼンテーション: 担当グループによる発表) タンゴで有名なアルゼンチンの文化や自然について学ぶ。 7 Chapter 6 Mexico (プレゼンテーション: 担当グループによる発表) タコスやサルサといった食文化や古代文明遺産で有名なメキシコの文化や歴史について学ぶ。 8 Chapter 7 Germany (プレゼンテーション: 担当グループによる発表) 中世の雰囲気をたたえる美しい古城が残るドイツの文化や歴史について学ぶ。 9 Chapter 8 Finland (プレゼンテーション: 担当グループによる発表) スウェーデンとロシアに挟まれた北欧の小国であるフィンランドの文化や社会について学ぶ。 10 Chapter 9 Poland (プレゼンテーション: 担当グループによる発表) 美しい古都の街並みを持つポーランドの文化や歴史について学ぶ。 11 Chapter 10 Spain (プレゼンテーション: 担当グループによる発表) その独特な食文化に焦点を当てながら、スペインの文化や歴史、社会について学ぶ。 12 Chapter 11 Greece (プレゼンテーション: 担当グループによる発表) ヨーロッパ発祥の地ともいえるギリシャの文化、歴史、社会について学ぶ。 13 Chapter 12 Kenya (プレゼンテーション: 担当グループによる発表) 広大な自然や野生動物等共存するケニアの文化、歴史、社会について学ぶ。 14 Chapter 13 Morocco (プレゼンテーション: 担当グループによる発表) ベルベル人の伝統食や昔ながらの職人芸などを通して、モロッコの文化や歴史、社会について学ぶ。 15 Chapter 14 Lebanon (プレゼンテーション: 担当グループによる発表) 多彩な歴史を持つ中東の小国レバノンの文化や社会について学ぶ。
到達目標・基準	A: 授業で扱った国のひとつを選び、その歴史・文化・社会についてグループで紹介することができる。 ◎C: 異なる文化圏への理解を深めることにより、柔軟な思考に基づいたプレゼンテーションを行うことができる。 ○D: 各国の歴史・文化・社会について書かれた英文を読み、その概要を理解することができる。 E: 各国の歴史・文化・社会について日本語で発表することができる。
事前・事後学習	事前学習: テキストの該当箇所を読み、内容を理解しておく。またその回に扱う国の基本的な情報について調べておく。(約70分) 事後学習: テキストやノート、配布資料などを見直し、その回に扱った国の文化、社会、歴史について整理をしておく。(約50分)
指導方法	各国の歴史・文化・社会について講義や演習、担当者による発表を通して理解を深めていく。理解度を図るための小テストを適宜実施する。 フィードバックの方法: ①リアクションペーパーにコメントを記載し返却、②提出したレポートにコメントを記載し返却、③返却後に採点やコメントに関する質疑対応
成績評価の方法・基準	A:授業への貢献度およびプレゼンテーションの完成度で評価する。 ◎C：レポートやプレゼンテーションの完成度および期末試験の成績で評価する。 ○D：期末試験の成績で評価する。

	Ｅ：プレゼンテーションの完成度で評価する。 授業への貢献度: 15% レポート: 15% プレゼンテーション: 30% 学期末試験 40%
テキスト	On Board for More World Adventures, Scott Berlin, Megumi Kobayashi, Kinseido, 2015.
参考書	必要に応じてプリントを配布する。
履修上の注意	事前にテキストの該当箇所を読み、分からない語句を調べたうえ、内容を理解しておくこと。授業には必ず英和辞典(携帯電話・スマートフォンの使用は認めない)を持参すること。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：異文化コミュニケーション論　　授業コード：2371　2372

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	2	2	国専：選択
担当教員			
高橋大樹			
Subject Code：E25C35			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	異なる文化的背景を持つ人々と深く意思疎通を図るということは、自分の文化と相手の文化の差異を受け入れ、そのギャップを理解する必要がある。授業の中心は日本語で書かれた文章を読むことであるが、グループワークやペアワークを通じて授業を展開していく。 (授業目標) ○C：日本語と英語の言葉の意味の違いとこれまでの意味の変遷を理解することができる。 ◎D：英語と日本語の文化間の違いについて、キーワードを通して文章を読み理解を深め、授業で学んだ概念を実際の意思疎通に活かすことができる。
授業計画	1　Introduction 異文化を学ぶための心構えを理解する 2　「文化」とは 日本語と英語から「文化」というキーワードを考える 3　「コミュニケーション」とは① 日本語と英語から「コミュニケーション」というキーワードを考える 4　「コミュニケーション」とは② 日本語と英語から「コミュニケーション」というキーワードを考える 5　「アイデンティティ」とは 日本語と英語から「アイデンティティ」というキーワードを考える 6　「政治」とは① 日本語と英語から「政治」というキーワードを考える 7　「政治」とは② 日本語と英語から「政治」というキーワードを考える 8　グループ討論①（ペアワーク：映画の内容とキーワードをペアで議論する） 映画『Pride』を通じて「文化」「コミュニケーション」「アイデンティティ」「政治」というキーワードを再確認する 9　グループ討論②（ペアワーク：映画の内容とキーワードをペアで議論する） 映画『Pride』を通じて「文化」「コミュニケーション」「アイデンティティ」「政治」というキーワードを再確認する 10　「成長」とは① 日本語と英語から「成長」というキーワードを考える 11　「成長」とは② 日本語と英語から「成長」というキーワードを考える 12　「運命」とは① 日本語と英語から「運命」というキーワードを考える 13　「運命」とは② 日本語と英語から「運命」というキーワードを考える 14　グループ討論①（ペアワーク：映画の内容とキーワードをペアで議論する） 映画『Billy Elliot』を通じて「成長」「運命」というキーワードを再確認する 15　グループ討論②（ペアワーク：映画の内容とキーワードをペアで議論する） 映画『Billy Elliot』を通じて「成長」「運命」というキーワードを再確認する
到達目標・基準	○C：英語と日本語の言語間の違いを理解したうえで自らの言葉を選ぶことができる。 ◎D：英語を使ったより円滑なコミュニケーションの手助けになるように、日本人の価値観とは違う英語圏の文化や考えかたをキーワードを通じて理解することができる。
事前・事後学習	事前学習：本文のわからない単語を調べ、指定された部分の文章を前もって精読しておく。（約90分） 事後学習：授業中に出てきた用語の復習を行い、授業で扱った文章を再読しておく。（約90分）
指導方法	授業では主にあるキーワードに関する文章を読むことが中心となります。単純に文章を読むだけでは本当の意味を理解したことにならないので、その理解を促すために、グループワークを適宜行っていきます。グループで本文の内容やまとめを発表してもらう予定です。授業で使用したスライドなどの資料はWebClassを使用し、授業後に配布します。フィードバックの方法：①提出したプリントにコメント記載の上返却　②授業後におけるコメントへの質疑応答
成績評価の方法・基準	○C：授業への貢献度、課題・提出物で評価する。 ◎D：定期試験で評価する。 授業への貢献度：30% 課題・提出物：30% 定期試験：40%

テキスト	適宜プリントを配布する。
参考書	①大貫隆史、河野真太郎、川端康雄『文化と社会を読む批評キーワード辞典』（研究社、2013） ②河野真太郎『戦う姫、働く少女』（堀之内出版、2017）
履修上の注意	授業中は文章を読み、考え、そしてお互いに議論することが中心となります。そのため積極的に授業に参加し、難しい言葉がわからない場合に備えて必ず辞書を携帯すること（授業中の携帯電話の使用は原則認めない）。授業でわからないことがあったら、積極的に質問してください。
アクティブ・ラーニング	ペアワーク
ＩＣＴの活用	webclass

講義科目名称：ヒロインたちの恋愛と結婚　　授業コード：2381　2382

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	2	2	国専：選択
担当教員			
Ivan Botev			
Subject Code：E25C36			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	この授業では、同年代に出版された二つのアメリカ文学作品を通して、社会での女性の立場や家庭における女性の位置など、現代の恋愛と結婚との違いについて学ぶ。授業で扱う小説は20世紀前半に書かれた女性が主人公、もしくは重要な登場人物となっている小説である。それらを読み、重要な点や描写に着目しながら恋愛と結婚について考察する。それに加え、小説の背景となったアメリカの宗教・民族、多文化社会、移民などについても理解を深める。 （授業目標） A：小説の作者や時代背景について調べ、発表することができる。 ◎D：文学作品を通して女性にとって恋愛と結婚はどのような位置づけだったのか、文学作品を歴史や文化とつなげて理解することができる。 D：アメリカ社会のみならず、多文化に対して理解を深めることができる。 C：多様性について学び、各時代の社会的問題について考え、自分の意見を述べることができる。 ○E：自分で調べたことをまとめ、発表するプレゼンテーションの力を身につけることができる。
授業計画	1　オリエンテーション、授業の目標、評価基準についての説明 授業の進め方について説明するとともに、各学生の担当箇所を指示する。 小説の読み方を学ぶ 2　アメリカの社会と文化 アメリカの社会と文化について考える 3　『武士の娘』を読む① 著者の杉本鉞子について学ぶ 明治時代の社会、女子教育について学ぶ 当時の新潟・長岡と東京を比較する 4　『武士の娘』を読む② 主人公鉞子が受けた明治の女子教育について考察する 5　『武士の娘』を読む③ 主人公鉞子の渡米経験について学ぶ１ 学生によるプレゼンテーション 6　『武士の娘』を読む④ 主人公鉞子の渡米経験について学ぶ２ 学生によるプレゼンテーション 7　『武士の娘』を読む⑤ 日本とアメリカにおける恋愛と結婚を比較する 学生によるプレゼンテーション 8　『武士の娘』を読む⑥ 現在と過去の日本における恋愛と結婚を比較し、考察する 学生によるプレゼンテーション 9　『グレート・ギャッツビー』を読む① 作者F・スコット・フィツジェラルドについて学ぶ 10　『グレート・ギャッツビー』を読む② 1920年代のアメリカ社会について学ぶ 11　『グレート・ギャッツビー』を読む③ 『グレート・ギャッツビー』における金持ち夫婦を考察する 学生によるプレゼンテーション 12　『グレート・ギャッツビー』を読む④ 『グレート・ギャッツビー』における貧乏夫婦を考察する 学生によるプレゼンテーション 13　『グレート・ギャッツビー』を読む⑤ １９２０年代のアメリカ人女性の生活、教育、職業について学ぶ 学生によるプレゼンテーション 14　『グレート・ギャッツビー』を読む⑥ １９２０年代アメリカの多様な恋愛と結婚について取り上げ、考察する 学生によるプレゼンテーション 15　アメリカ文学に描かれた恋愛と結婚 ２作品において描かれた恋愛と結婚のかたちを取り上げ、日本とアメリカの違い、時代における違い、世代間における違いについて考える 学生によるグループワーク
到達目標・基準	文学作品を通し、現代まで女性にとって恋愛と結婚がどのように変化してきたのか、当時の社会的背景や宗教的背景にも注目し、考察する。また、異なったバックグラウンドを持つ主人公を通し、学生が多文化に関心を持ち、理解を深めることを目標としている。 A：小説の背景となっている各時代のアメリカの文化について、自分で調べまとめることが出来る。 ◎D：小説の背景となっている時代や文化を把握し、その当時のアメリカにおける恋愛と結婚の多様性について理解する。 D：20世紀のアメリカの移民や民族について基本的なことを語ることができる。

	Ｃ：文献が取り上げる三つの時代において女性が直面した問題について考え、現代と比較することが出来る。 ○Ｅ：アメリカについて調べ、小説の歴史的、文化的背景に関し、まとまったプレゼンテーションをすることができる。
事前・事後学習	事前学習：あらかじめ指示された資料に目を通し、わからない漢字、単語は各自予習してから授業に臨むこと。 （およそ90分） なお、自分が発表や訳の担当となっている週はもう少し事前学習時間が増える。 事後学習：わからなかった点などを復習するとともに、プレゼンテーションの準備を進めること。 （およそ90分）
指導方法	この授業ではアメリカ文学に描かれる恋愛と結婚について学ぶ。講義を中心に授業を展開するが、授業で扱う各時代の当時の文献なども使いながら、学生の関心を高められるような授業を展開する。 英語の文献に関しては、事前に担当を指示された学生がテキストの訳を担当し、授業において意味を確認するとともに、文学作品の背景と文化を紹介する。 講義科目ではあるが、学生の主体的な参加を促進し、考える力や理解度を深めることが大切と考えているため、講義を聞きながら学生が重要な箇所を書きとる形式の講義ノートを配布する。
成績評価の方法・基準	Ａ：レポート・プレゼンテーション等の成果によって評価する。 Ｄ：試験の結果により評価する。 Ｅ：レポート・プレゼンテーション等の成果により評価する。 授業への貢献度および平常点　30％ レポート・プレゼンテーション等　40％ 定期試験　30％
テキスト	１.『武士の娘』杉本鉞子著、筑摩書房 ２. The Great Gatsby, F・スコット・フィッツジェラルド著、IBCパブリッシング、 （英五多読教材ラダーシリーズレベル４）
参考書	1. A Daughter of Samurai by Etsuko Sugimoto, University Press of the Pacific (2001/6/1) 2. The Great Gatsby by Fitzgerald, Alma Books (2016/10/20) The Joy Luck Club by Amy Tan
履修上の注意	担当ではない回も英文の予習を必ずしてから授業に出席すること。授業には毎回出席し、辞書を持参すること。 携帯アプリの辞書を授業中に使用するのを禁止します。教員の板書を携帯のカメラで撮る学生が増えつつありますが、この授業では英語の文献を用いるため、新しい単語はノートに自分で書いてスペルを覚えることができますので、ノートをとりましょう。何らかの理由でノートを取ることができない学生は授業前に申し出てください。 授業中の居眠り・私語・無用な出入り・携帯電話の操作行為が認められた場合、減点対象とします。また、テキストなどの忘れ物も授業への取り組みの妨げとなるので、あまりに度重なる場合は減点対象とします。
アクティブ・ラーニング	グループワーク・グループディスカッション。
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：ジェンダースタディーズ:フェミニズムへの歩み 授業コード：2851　2852

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	国専：選択
担当教員			
佐藤美保、Ivan Botev			
Subject Code：E25C37			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	フェミニズムについて学ぶことは、女性である自分自身について学び知ることである。この授業では、女性であることはどういうことであるのか、男性との差異なども学び、シンデレラや白雪姫といった身近なおとぎ話から、ジェンダーについての理解を深める。その後、アメリカ黒人女性に焦点を当てることで、アメリカという国の特異な歴史である奴隷制度についての理解も深める。 （授業目標） ○C:異なる考えを持つ人々がいることを理解し、偏見にとらわれることなく、柔軟な思考力を身につける。 ◎D:ジェンダーやフェミニズムについて、おとぎ話や聖書を学ぶことで理解を深める。 ◎D:アメリカの奴隷制度を学ぶことで、どのような差別があるのか、またどうして差別があるのかについての理解を深める。
授業計画	1　Introduction 授業概略説明 2　女性とは、フェミニズムとは？ フェミニズムの基本的な考え方を学ぶ 3　ジェンダー（1） 「男」と「女」という分類について学び、グループごとにディスカッションを行う。 テキストのシンデレラを読み解く。(1) 4　ジェンダー（2） 「母性」という言葉を問い直す。その後、グループごとにディスカッションを行う。 テキストのシンデレラを読み解く。(2) 5　聖書の中の女性像 聖書の中で、どのようにして女性の地位が確立されたのかを学ぶ。 その後、グループごとにディスカッションを行う。 テキストのシンデレラを読み解く。(3) 6　ジェンダー（3） 多様な性について学ぶ。 テキストの白雪姫を読み解く。(1) 7　ジェンダー（4） インターセックスについて学び、グループごとにディスカッションを行う。 テキストの白雪姫を読み解く。(2) 8　ジェンダー（5） メディアとジェンダーについて学ぶ。 テキストの白雪姫を読み解く。(3) 9　アメリカ黒人の歴史(1) アメリカにおける奴隷制度の始まりについて学び、グループごとにディスカッションを行う。 10　アメリカ黒人の歴史(2) アメリカにおける黒人奴隷解放について学び、グループごとにディスカッションを行う。 11　アメリカ黒人の歴史(3) アメリカ黒人の中でも特に黒人女性の置かれている状況について学び、グループごとにディスカッションを行う。 12　フェミニズムの歴史 様々なフェミニズムの運動について学び、その影響力についての理解を深める。 その後、グループごとにディスカッションを行う。 13　アリス・ウォーカー(1) 『カラー・パープル』における黒人女性像について学ぶ(1) 14　アリス・ウォーカー(2) 『カラー・パープル』における黒人女性像について学ぶ(2) 15　The Long Walk Home 1960年代のアメリカにおける白人女性と黒人女性の地位について学び、その後、グループごとにディスカッションを行う。
到達目標・基準	○C:異なる考えを持つ人々について偏見を持つのではなく、理解できるようになる。 ◎D:ジェンダーが社会においてどのように理解されているか説明することができる。 ◎D:アメリカの奴隷制度について説明することができる。
事前・事後学習	事前学習：事前にテキストの英文で分からない単語の意味を調べ、英文を訳せるように予習する。(60分) 事後学習：事前に訳せなかった箇所について見直しをし、興味を持ったテーマについて書き留めておく。(50分)
指導方法	テクストの英文については、あらかじめ担当の学生を決め、授業内で訳について確認する。テキスト以外にも、随時サブテキストとしてプリントを配布し、講義形式で授業を進めていく。また、随時テーマに応じた小テストを行い、学生の理解度を確認する。

成績評価の方法・基準	○C:小テストにおいて評価する。 ◎D:ジェンダーについてのレポートで評価する。 ◎D:小テスト・期末試験において評価する。 レポート　３０％ 小テスト　１５％ 授業への貢献度および平常点　１５％ 定期試験　４０％
テキスト	『お伽話による比較文化論』原　栄一著　松柏社
参考書	
履修上の注意	担当ではない回でも英文の予習を必ずしてから授業に出席すること。 授業には毎回出席し、辞書を持参すること。
アクティブ・ラーニング	グループディスカッション
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：エアライン　ホスピタリティ　　授業コード：2341　2342

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	国専：選択
担当教員			
有田りな			
Subject Code:E14C27			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	多種多様な業種によって成り立っている航空会社。それらの業種を紹介し、業務内容を説明する。 具体的なサービス事例や各社の取り組みを紹介し、エアライン業界におけるホスピタリティマインドを理解する。 キャビンアテンダント・グランドスタッフに求められる素養を紹介するとともに、基礎的な自己分析を実施。 （授業目標） ○A:授業内の課題・事前学習を主体的に取り組み、紹介する事例を自らの問題として取り組む責任感を養う。 ◎D:航空業界の職種を知り、安全運航と顧客満足への取り組みを理解する。
授業計画	1　ガイダンス 授業内容、授業の進め方、評価方法に関する説明を行う 2　接客業に従事する者に求められる素養と自己分析 接客業に従事する者に求められる素養を学ぶ 自己分析を行う方法を説明し、学生時代に取り組むべき事柄を考える 3　キャビンアテンダントの業務と求められる素養 キャビンアテンダントの業務内容を分析し、求められる素養を理解する 4　グランドスタッフの業務と求められる素養 グランドスタッフの業務内容を分析し、求められる素養を理解する 5　航空産業の概要① 日本の航空業界の変遷・世界の航空業界の動向とアライアンスを理解する 6　航空産業の概要② 一機を飛ばすために様々な職種が協力し合っている、航空業界の仕組みと各業種を知る 7　フルサービスキャリア（FSC)とローコストキャリア（LCC)① 大手航空会社（FSC)と格安航空会社（LCC)の収益構造を比較する 8　フルサービスキャリア（FSC)とローコストキャリア（LCC)②（プレゼンテーション：グループごとにまとめを発表） 大手航空会社（FSC)と格安航空会社（LCC)のサービス内容を、具体的事例を用いて比較する 9　航空業界における顧客満足への施策 事例研究を通して、顧客満足への施策を比較する 10　キャビンアテンダントの仕事 長距離国際線を例として、保安要員とサービス要員としての役割を知る 11　グランドスタッフの仕事① グランドスタッフの多岐にわたる業務と魅力を知る 12　グランドスタッフの仕事② グランドハンドリング業務と求められる素養を知り、考察する 13　飛行機の運航を支える仕事① 運航などに関わる業務を紹介する 14　飛行機の運航を支える仕事② 予約などに関わる業務を紹介する 15　エアラインホスピタリティ エアラインホスピタリティの事例研究を行う
到達目標・基準	○A:グループワークにて、相手の意見を尊重し協働できる。また、自身の意見を自分の言葉で発信することができ、与えられた課題に主体的に取り組むことができる。 ◎D:航空業界で働くスタッフに求められる人材像のポイントについて説明することができる。
事前・事後学習	【事前学習】事前に告知したテーマにかかわるニュース報道などの情報収集（80分） 【事後学習】テーマごとに配布するプリントの読み返しと航空業界用語・キーワードの確認（60分）
指導方法	配布資料・パワーポイントを使って講義形式で行う。 理解を深めるために適宜グループワークを実施し、インプットされた知識の整理とアウトプットを行う。 毎週自身が選んだ記事の発表を行い、業界への理解を深める。 状況に応じて随時TOEICミニテストを行い、エアライン業界の就職に備える。 授業の最後に毎回小レポートを記入・提出。 レポートなどの提出物は、授業内での全体講評と個別コメントでフィードバックをする。
成績評価の方法・基準	学期末テスト・毎回の小レポート・提出物・平常点（授業態度）を総合的に判断する。 ○A:授業での取り組み姿勢と発言を評価する ◎D:試験と知識確認テストを評価する 学期末テスト40%　　小レポート・課題（プレゼンテーション）提出物30%　　平常点30%

テキスト	晃洋書房『エアライン・ビジネス入門』稲本恵子編著 適宜資料を配布する。 航空に関する新聞記事なども使用する。
参考書	一般財団法人　国際ビジネスコミュニケーション協会　『公式TOEIC　Listening & Reading問題集４』 アートヴィレッジ『後悔しないJAL ANA 外資系CA就職対策決定版』アイザックエアラインスクール編著 ぎょうせい社『エアラインオペレーション入門』　ANA総合研究所共著
履修上の注意	この時期に業界・企業の情報収集能力を身につけることが将来大いに役立ちます。 地道な事前学習ですが積極的に取り組み、習慣化していきましょう。 授業内で紹介する業種にて、自分がどのようなおもてなしが提供できるのか、また、 どのような点にやりがいを見いだせるかを考え、自主的に授業に取り組んでください。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：エアライン　スタディ：ＣＡ　　授業コード：2801

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	国専：選択
担当教員			
有田りな			
Subject Code：E14C28			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	多種多様な職種によって成り立っている航空会社の中で、顧客満足を左右する大きな役割を担うキャビンアテンダントの事例を取り上げ、様々な客層に高品質なもてなしを提供するために必要な知識（国際理解・マナー）を学ぶ。 キャビンアテンダントの接遇の基本を社会生活におけるコミュニケーションのツールとして利用し、豊かな人間関係の創造と自分への自信に繋げていくことをテーマとする。 (授業目標) ○Ｂ： マナー5原則（表情・挨拶・身だしなみ・話し方・仕草態度）を身につけ、学校生活など日常のコミュニケーションで役立てることができる ◎Ｄ：航空業界の概要を知り、仕事の仕組みや構成のあり方を理解する
授業計画	1　ガイダンス 授業の内容説明と自己紹介（プレゼンテーション）行う 2　キャビンアテンダントの業務① キャビンアテンダントの役割と業務の流れを大筋で捉える 3　キャビンアテンダントの業務② キャビンアテンダントの業務とサービス向上の取り組みについて知る 4　キャビンアテンダントの業務③ LCCや外資航空会社で求められる役割や業務を知る 5　接遇の基本① キャビンアテンダントの接遇スキルの基礎を学ぶ 6　接遇の基本② サービスに適した言葉遣いや言葉の選び方を学ぶ。発声・機内アナウンス 7　接遇の基本③　演習 立居振舞の基礎を学び実践する 8　安全保安要員としての役割　（グループワーク：グループごとにまとめを発表） フライトの安全を担うキャビンアテンダントとしての業務と意識について学ぶ 9　サービスについて考える　（グループワーク：グループごとにまとめを発表） 限られた空間にて、どのようなサービスを行うことができるか討議する 10　サービスについて考える　（グループワーク：グループごとにまとめを発表） 限られた空間にて、どのようなサービスを行うことができるかディベートする 11　面接基礎 面接を受けるにあたって必要な心構えを理解する 12　面接演習① 模擬面接を通して、バーバル・ノンバーバルコミュニケーション力の向上を図る 13　面接演習② 模擬面接を通して、自分の考えを伝える力の向上を図る 14　接遇の基本総合演習 接遇の事例研修とロールプレイングを行う 15　エアラインスタディ エアラインの事例と実践の検証をする
到達目標・基準	○Ｂ：相手の意見を尊重しながら、他者に合わせるべきところと主張すべきところを押さえて、多様な人と関わることができる ◎Ｄ：エアライン・サービスを提供する上で必要な構成要素と業務に携わる人々、必要とされる人材・そのホスピタリティについて説明できる
事前・事後学習	【事前学習】事前に告知したテーマに関わるニュース報道などの情報収集（60分） 【事後学習】テーマごとに配布するプリントの読み返しと航空業界用語・キーワードの確認 毎回の演習内容のリプレイ（60分）
指導方法	配布資料・パワーポイントを使って講義形式で行う。必要に応じ、映像も使いながら進めていく。 ゲストスピーカーを招くことも検討。 授業の最後必要に応じ、サービスやマナーに関する映像も使用する。 事例研究やマナーは実践を取り入れ、体感することで理解を深めるよう進めていく。 毎回小レポートを記入・提出。個別フィードバックを加え返却。
成績評価の方法・基準	学期末テスト、レポート・課題物提出状況、平常点（授業貢献度など）を総合的に判断する。 学期末テスト40%　　小レポート・課題提出物30%　　平常点30% Ｂ：成果物作成やプレゼングループでのチームへの関わり方を評価する Ｄ：学期末テストと授業内での質疑応答の内容を評価する

	レポートなどの提出物は、授業内での全体講評と個別コメントでフィードバックする
テキスト	晃洋書房　『エアライン・ビジネス入門』　稲本恵子編著 適宜資料を配布する 航空に関する記事なども使用する
参考書	一般財団法人　国際ビジネスコミュニケーション協会　『公式TOEIC　Listening & Reading問題集４』 アートヴィレッジ『後悔しない　JAL　ANA 外資系CA就職対策決定版』アイザックエアラインスクール編著 ぎょうせい社『エアラインオペレーション入門』　ANA総合研究所共著
履修上の注意	演習を多く取り入れた授業であり、積極的に動く姿勢を強く希望する。サービスをテーマにすることから、常に他者のことを考えた行動を心がけることが必要。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディベート、ロールプレイング
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：エアラインビジネススタディ　　授業コード：2811

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	国専：選択
担当教員			
八田圭子			
Subject Code：E14C29			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	・個別発表、集団討論、模擬面接、ESの書き方を通して、プレゼン、コミュニケーション能力を高める。 ・航空制度、財務、運賃、ダイヤ、マーケティング等、空港、客室等の現業だけでなくエアラインビジネス全般の知識を修得する。 ・知識を学んだ上で様々なケーススタディーを行い、問題の発見から解決方法までを自ら考える力を養う。 （授業目標） ◎B：参加型の授業を通して、コミュニケーション能力を高める。 ○C：知識を踏まえた上で問題感知・解決能力、判断力を養う。
授業計画	1　オリエンテーション 授業概要説明と自己紹介 SPI① 宿題：航空会社HPの指定箇所を読んでおくこと 2　航空会社の仕事（全般） 1機の飛行機を飛ばすために活躍する様々な職種の紹介 安全性、定時性、快適性の解説 ケーススタディーとグループディスカッション SPI①の解説 宿題：航空会社HPの指定箇所を読んでおくこと 3　空港業務（国際線）の仕事の流れ SPI② チェックイン（パスポート、ビザ、手荷物、乗り継ぎ）、CIQ（税関、出入国、検疫） イレギュラー、発着枠、時差とダイヤの作り方 4　プライオリティーゲストとクレーム処理 プライオリティーゲストの取り扱い、約款 クレーム処理のケーススタディー、約款 事例研究とグループディスカッション SPI②の解説 宿題：課題１ 5　JAL　スカイ　ゲスト講演 空港業務の実際 質疑応答 講演後感想を提出 6　エアラインビジネス（財務） 財務諸表（B/S、P/L)とは 財務諸表の見方 エアラインの財務諸表の特徴 SPI③ 宿題の課題１を提出 7　エアラインビジネス（日本の航空産業の歴史、主な条約、制度、航空会社の提携の形態） 日本の航空産業の歴史 シカゴ条約、モントリオール条約 航空会社の提携の形態 インターライン、マイル提携、コードシェアとアライアンス 運賃自由化とアライアンス SPI③の解説 8　マーケティング マイレージプログラムと上顧客 マーケティングとは マイレージとグローバルアライアンス 運賃とグローバルアライアンス SPI④ 宿題：航空会社のHPの指定個所を読んでくること 9　企業研究（１） HP指定箇所、配布資料を読んだ感想をグループで話し合い、発表する。 SPI④の解説 10　JAL（CA）またはJALナビア　ゲスト講演 CAまたは予約業務の担当者を招聘 講演後、感想文を提出 宿題：配布資料を読み、発表の準備をしてくること 11　企業研究（２） 配布資料を読み、企業の求める人物像についてグループに分かれて話し合う 12　グループディスカッション（5～7人） 過去問でグループディスカッションを実施

	相互評価を行う→提出 エントリーシートの書き方の解説 宿題：ES準備 13　模擬面接（3人） ３名ずつの模擬面接を実施 相互評価を行う→提出 SPI⑤ ES提出 14　エントリーシート ES返却 エントリーシートへのコメント、注意点を解説 宿題：ES書き直し SPI⑤の解説 15　各自感想・決意表明（プレゼンテーション 全体講評 15回の講義を通しての感想と決意表明（一人２分）
到達目標・基準	◎Ｂ:物おじせずに意見を交換したり、オリジナルな経験をエアラインでどう活かすかを考え、伝えることが出来る。 ○Ｃ:知識を学び、それを使用してエアラインで起きうる問題解決に応用出来る。
事前・事後学習	事前学習： ・SPIの準備をすること。（30分） ・航空会社のHPで指定したところを読んでくること（30分）。 ・航空に関するニュースを取り上げ、疑問や考えを纏める（30分） ・課題レポートやプレゼンの準備（60分） 事後学習： ・授業時に出された指示、レポートへのフィードバック、コメントを熟読して改善し、完成度を上げること。（30分） ・SPIの間違えた問題の復習をすること。（30分）
指導方法	・基本的な理論や知識を修得した後、参加型のディスカッションを行い、相互チェックとコメント交換を通して、様々な意見に触れ、自分の考えを纏め、発表できるようにする。 ・フィードバックとして課題レポート、小テストはコメントを付けて返却する。課題の捉え方、物の見方、考え方を解説するとともに、良く出来た学生の模範解答等を披露する。 ・web classを使用して相互チェックを行う。 ・空港見学や講師招聘を通して、エアラインの現業、ビジネス、企業文化等を、より具体的に学ぶ機会を与える。
成績評価の方法・基準	◎Ｂ:積極的な授業参加、課題取組み意欲、コメントに対して改善努力が出来たかを評価する。 ○Ｃ:知識を学ぶ意欲と、それを使って問題解決に複眼的に取り組めたかどうかを定期試験で評価する。 課題提出25%、積極的な授業参加・貢献度　25%、弱点補強努力　10%、　定期試験40%
テキスト	毎回講師作成のプリントを配布する。
参考書	・エアライン・ビジネス入門（晃洋書房）を一読することが望ましい。 ・各自、SPI関連の問題集（薄くても構わない）を購入し、1冊仕上げることが望ましい。 ・拙著「鬼の女子力　青鬼編」（Kindle 300円）を予め読んでおくことが望ましい。
履修上の注意	・エアライン関係への受験を視野に入れていること。 ・模擬面接、ゲスト講演時にはリクルートスーツを着用のこと。 ・参加型の授業で、課題を克服する努力と過程も評価対象とするため、積極的な姿勢で臨むこと。 ・授業の進捗や変化するニーズに対応するため、授業計画の変更を行う場合もある。 ・授業のほか、航空会社の現場を見学する機会を設ける予定である（2月の追再試験期間）。 ・希望者には講義後、面談を行う。
アクティブ・ラーニング	グループディスカッション、プレゼンテーション
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：CA・GSスタディ　　授業コード：2611

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	国専：選択
担当教員			
松井千輝			
Subject Code：E27C65			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	航空業界で活躍できる人材となるために必要とされることを学ぶ科目。 キャビンアテンダント・グランドスタッフの仕事から接遇・立ち居振る舞い・コミュニケーション能力を学ぶ。 グループワーク・ディスカッション等の演習を通して、航空業界で大切にしている「チームワーク力」を高めてゆく。 【授業目標】 ◎A：社会で活躍できる基礎力を身につけ、常に全体感を捉えた上で自分が何ができるかを考え、行動に移すことができる。 　B：他者を尊重しながら、自分の考えを確実に伝えることができる。 ○C：物事全般に多角的な視点を持ち、臨機応変に対応できる。 　D：航空業界、世の中全般の動きの情報を様々な媒体から得る習慣が身についている。 　E：自分の強みと魅力を生かした論理的なプレゼンテーションができる。
授業計画	1　オリエンテーション カリキュラム説明と他己紹介 2　企業理念を学ぶ エアラインの企業理念を学び、授業クラスのゴールを決める（グループワーク） 3　自己分析と理解 自己理解（グループワーク） 4　プレゼンテーション① 自己分析を活かした自分の強みのプレゼンテーションをする（グループワーク）（プレゼンテーション：全員発表） 5　プレゼンテーション② 発表後の振り返りを通しての学び（グループワーク・プレゼンテーション：全員発表） 6　表現力を鍛える ＣＡ・ＧＳの業務から表現力を学ぶ（グループワーク） 7　言葉遣い ＣＡ・ＧＳの業務から正しい言葉遣い・美しい日本語を学ぶ（グループワーク） 8　発声・アナウンス 発声の練習と日本語アナウンス実践（グループワーク） 9　立ち居振る舞い ＣＡ・ＧＳの業務から上品で美しい立ち居振る舞いを身につける（グループワーク） １０　コミュニケーション ＣＡ・ＧＳから学ぶコミュニケーション能力とマナー（グループワーク） １１　女性活躍について 女性活躍と職業理解（グループワーク） １２　最終プレゼンテーション準備① 最終プレゼンテーションのチーム決め、準備（グループワーク） １３　最終プレゼンテーション準備② 最終プレゼンテーション準備（グループワーク） １４　最終プレゼンテーション チームごとのプレゼンテーションをする（グループワーク）（プレゼンテーション：全員が必ず発表）（クリッカー：プレゼン評価として使用） １５　ユニバーサルサービス、振り返り ユニバーサルサービスとは 振り返り、企業理念の確認をする（グループワーク）
到達目標・基準	◎A：航空業界のチームワーク力を参考に自分の役割を考え、発言や行動に自信を持つことができる。 　B：他者の意見を認め、自分の考えを述べることができる。 ○C：自分の現状と課題を理解し、物事を決めることができる。 　D：新聞・ニュースに触れ、関心を持った記事とそれに対しての考察を述べることができる。 　E：自分らしいプレゼンテーションができる。
事前・事後学習	・事前学習　次回授業までの事前課題へのとりくみ（60分程度） 毎日ニュースに触れる（60分程度） ・事後学習　授業振り返りレポート記入（20分程度） 授業内容の復習と実践（60分程度）
指導方法	・パワーポイント・映像使用。グループワーク・ディスカッションも行いながら、双方向で進めていく。 ・演習多用の実践型授業。 ・毎授業後、小レポート提出。 フィードバックの仕方：①実習：都度、授業内で行う。②課題と小レポート：個別添削後、翌週返却。

成績評価の方法・基準	チームの一員としての自覚及び貢献度・相手に伝える力を評価するため、文書課題・平常点（授業態度・意欲・取り組み等）を総合的に判断する。 Ａ：毎授業での取り組み姿勢及び発言、プレゼンテーション（プロセスも含む）を評価する。 Ｂ：グループワーク、ペアワークの取り組み姿勢を評価する。 Ｃ：授業での発言内容、小レポートの内容、予習課題、定期試験を評価する。 Ｄ：授業内での発言内容を評価する。 Ｅ：授業内のプレゼンテーションを評価する。 実践演習参加貢献度30%、小レポート作成・提出20%、最終プレゼンテーション20%、定期試験30%
テキスト	なし。 適宜、プリント配布。
参考書	
履修上の注意	・当科目の履修生同士、お互いに切磋琢磨する姿勢を持つこと。 ・自ら学ぶ意欲と、自己を高めていく意識をもつこと。（受け身受講禁止）
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション
ＩＣＴの活用	クリッカー

講義科目名称：Business Conversation：Airline・Airport　　授業コード：2181　2182

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	国専：選択必修
担当教員			
小林千春、佐藤美保			
Subject Code：E14B31			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	テキストに沿って英語表現、世界の国名、首都など英語で確認しながら、役立つ英語表現を覚える。 実際に航空会社で使用されている機内アナウンスなども修得する練習をする。 毎回、ボキャブラリーやフレーズの確認テストを行う。 （授業目標） エアライン業界で使用される英語から、現場で役立つ英語表現・英会話力を身に付ける。 　A：英語表現習得のためのペア･ダイアローグの練習や発展的なワークをクラスで協働しながら、積極的に行うことができる。 ○D：世界の地理、国の首都や日本からの距離を理解する。 ○D：航空業界や日常で使用する単語やフレーズの知識を身につける。 ◎E：人前で堂々と英語と日本語でアナウンスができる。
授業計画	1　オリエンテーション 授業概略説明 self-introduction 2　Graduation just around the corner Vocabulary test アメリカの主要都市を学ぶ（ロールプレイング） 機内アナウンス（プレゼンテーション） 3　Smiling faces Vocabulary test ドイツの主要都市を学ぶ（ロールプレイング） 機内アナウンス（プレゼンテーション） 4　Farewell to Friends Vocabulary test airportでの会話を学ぶ（ロールプレイング） 機内アナウンス（プレゼンテーション） 5　Japanese as a Communication Tool Vocabulary test 中国の主要都市を学ぶ（ロールプレイング） 機内アナウンス（プレゼンテーション） 6　Pursuing a Dream in Southeast Asia Vocabulary test アジアの主要都市を学ぶ（ロールプレイング） 機内アナウンス（プレゼンテーション） 7　Sports Journalism in the US Vocabulary test カナダの主要都市を学ぶ（ロールプレイング） 機内アナウンス（プレゼンテーション） 8　Feeling Homesick? Vocabulary test 韓国の主要都市を学ぶ（ロールプレイング） 機内アナウンス（プレゼンテーション） 9　More Chinese Students Studying Abroad Vocabulary test アラブの主要都市を学ぶ（ロールプレイング） 機内アナウンス（プレゼンテーション） 10　A Helicopter Pilot Vocabulary test イギリスの主要都市を学ぶ（ロールプレイング） 機内アナウンス（プレゼンテーション） 11　Bicycling Anyone? Vocabulary test ヨーロッパの主要都市を学ぶ（ロールプレイング） 機内アナウンス（プレゼンテーション） 12　Helping Immigrants Learn German Vocabulary test アメリカの主要都市を学ぶ（ロールプレイング） 機内アナウンス（プレゼンテーション） 13　A Young and Ambitions Reporter Vocabulary test ヨーロッパの主要都市を学ぶ（ロールプレイング） 機内アナウンス（プレゼンテーション） 14　A young and ambitious Reporter Vocabulary test 世界の地理（ロールプレイング） 機内アナウンス（プレゼンテーション）

	15　　Presentation Vocabulary test 機内アナウンスまとめ（プレゼンテーション）
到達目標・基準	Ａ：シチュエーションを限定した上での日常的な会話を英語で行うことができる。 ○Ｄ：航空業界や日常で役立つ英語表現を100理解し使用することができる。 ○Ｄ：ヨーロッパ、アジア、北米、南米の主要国とその首都を英語で発音でき、世界における位置を示すことが できる。 ◎Ｅ：英語と日本語で10の機内アナウンスを、正確に、発音・イントネーションなども正しくアナウンスができる。
事前・事後学習	事前の学習：授業時に出された指示に従い行うこと。 翌週の授業で扱う単語・熟語をきちんと辞書で調べること。（約30分） 事前の学習：単語の復習並びに機内アナウンス等の暗記練習を行うこと 確認テストの勉強とアサインメントをきちんと行うこと。（約40分）
指導方法	ほぼ毎回小テスト（オーラルか筆記）を行う。航空業界で使う特殊な用語もしっかりと身に就くよう指導する 小テスト等のフィードバック：小テスト結果にコメント等を記載し返却、問題がある場合は個別に指導する 授業後などにコメントへの質疑に対応する
成績評価の方法・基準	Ａ：授業中のロールプレイングで評価する。 ○Ｄ：英語表現に関しては毎回の小テスト、国名などに関しては学期末の筆記試験で評価する ◎Ｅ：授業時における機内アナウンスと最終のプレゼンテーションで評価する 毎回の小テスト、機内アナウンス、国名、首都名、世界地理の最終確認試験、機内アナウンス最終プレゼンテーションで評価する。 授業への貢献度・積極性　30% 小テスト30% 国名・首都名・地理試験・単語・イディオム（定期試験）　20% 機内アナウンス最終プレゼンテーション　20%
テキスト	Let's talk with Friends around the World 行田　潔他　松拍社
参考書	ハンドアウト（機内アナウンス例）
履修上の注意	ホテル・エアラインモデル希望の学生（特にエアライン業界志望者）は必ず履修すること。 毎回の授業が大切です。欠席せずに積極的に参加しましょう。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション ロールプレイング
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：ホテル・ツーリズムスタディ　　授業コード：2871　2872

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	国専：選択
担当教員			
木内伸樹			
Subject Code：E15C32			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	（授業概要）ホテル、観光に関連する様々な観光産業を取り上げ、それぞれのホテル・ツーリズム産業がどのように形成され、どのようなビジネスモデルで発展してきたかについて具体的にみていくことにより、ホテル・ツーリズム産業の成り立ちを学ぶ。合わせてホテル・ツーリズム産業がおこなっている取り組みを知ることにより、それぞれの業界・産業業務内容を理解する。また世界遺産にも焦点を当て、その基本情報、地理、歴史的背景などの特徴を理解し、認定された経緯、理由などを考察する。 （授業目標） ホテル・ツーリズム産業の様々な業種の特徴を理解する。 ○C：ホテル・ツーリズム産業施設見学を実施し、施設の特徴について考察できる。 ◎D：ホテル業界とツーリズム業界の基礎知識を身に付ける。 ◎D：それぞれのホテル・ツーリズム産業の特徴を理解する。 ◎D：世界遺産の基礎知識と、日本の世界遺産についてまとめ、理解する。
授業計画	1　ホテルツーリズムスタディ（課題解決型：身近な地域のホテル、ツーリズム産業の魅力と問題点） 授業全体の概要と、各自の育った地域の魅力的なホテル、ツーリズム産業について考える 2　ホテル業界 ホテル業界の基礎知識とホテル業界の取り組み 3　ツーリズム業界 ツーリズム産業の基礎知識とツーリズム・ビジネス分類 4　ホテル・ビジネスとツーリズム・ビジネス ホテル・ビジネスとツーリズム・ビジネスの関連性について 5　世界遺産（ゲスト講師）（Webclass：日本国内の世界遺産に関する資料配布） 世界遺産の基礎知識、日本国内の世界遺産 6　ホテル・ツーリズム産業：　「ホテル業界」 ホテルの商品としての特性、運営オペレーションメンの特性 7　ホテル営業業務 ホテルの営業業務とインターンシップとしての関わり 8　ホテル・ツーリズム産業：　「JR東日本鉄道会社」、（プレゼンテーション：日本国内の世界遺産） 巨大マーケットを持つ鉄道会社の取り組みと、パッセンジャー・サービスの運営 9　ホテル・ツーリズム産業：　「JR九州鉄道会社」、（プレゼンテーション：日本国内の世界遺産） 様々なテーマを持った観光列車の開発と事業の多角化を進める地方鉄道会社の取り組み 10　ホテル・ツーリズム産業：　「クルーズ産業」（プレゼンテーション：日本国内の世界遺産） クルーズ・マーケットとクルーズ会社の取り組み 11　ホテル・ツーリズム産業：　「バス事業」（プレゼンテーション：日本国内の世界遺産） バス事業の諸業態と近年の取り組み 12　ホテル・ツーリズム産業：　「旅行業者」（プレゼンテーション：日本国内の世界遺産） 旅行業者の営業形態と販売形態、カウンター業務の仕事 13　ホテル・ツーリズム産業見学　（フィールドワーク：近隣エリアのホテル・ツーリズム産業施設） 学外学習として、実際にホテル・ツーリズム産業施設を訪れ業務を体験する。 14　ホテル・ツーリズム産業：　「テーマパーク」（プレゼンテーション：日本国内の世界遺産） 「ディズニー・リゾート」などのテーマパークのコンセプトづくりと運営方法 15　ホテル・ツーリズム産業：　「航空会社」（プレゼンテーション：日本国内の世界遺産） 航空会社の系譜と航空政策
到達目標・基準	○C：ホテル・ツーリズム産業施設見学を実施し、施設の特徴について説明できる。 ◎D：ホテル業界とツーリズム業界の基礎知識を説明できる。 ◎D：それぞれのホテル・ツーリズム産業の特徴を区分できる。 ◎D：世界文化遺産、自然遺産、複合遺産に区分できる。また日本の世界遺産についてまとめ、人前でプレゼンテーションできる
事前・事後学習	事前学習： 世界遺産の基礎知識と日本の世界遺産それぞれの特徴を調べ、プレゼンテーションできるように準備する(60分) ホテル・ツーリズム産業について、どのような産業なのか、どのような業務があるか調べる（60分） 事後学習 授業で配布したレジメを参照し、授業内で取り上げたホテル・ツーリズム産業の業務についてまとめる（60分）

指導方法	授業資料(プリント)を配布し、パワーポイントを使用しながら適宜関係するＤＶＤ等、視聴覚資料を利用し授業を行う。また毎回数名に１つの日本国内の世界遺産についてプレゼンテーションをしてもらう。おこなう。 ホテル・ツーリズム産業の現場で働く方を、ゲスト講師として授業に参加してもらうことがある
成績評価の方法・基準	○Ｃ：ホテル・ツーリズム産業施設見学を実施し、施設の特徴についての考察レポートを評価する。 ◎Ｄ：ホテル業界とツーリズム業界の基礎知識の理解度など小レポート提出・定期試験を評価する。 ◎Ｄ：それぞれのホテル・ツーリズム産業の特徴を区分できる。 ◎Ｄ：世界文化遺産、自然遺産、複合遺産の区分など定期試験を評価する。また日本の世界遺産についてまとめたプレゼンテーションを評価する。 定期試験（50%）、受講態度（20%）、講義中の小テストや課題レポート（30%）の総合評価
テキスト	授業資料（プリント等）を配布する。（教科書は特に指定しない）
参考書	JTB総合研究所（2018）『観光学基礎』 世界遺産検定事務局（2016）『はじめて学ぶ世界遺産100』 一般財団法人日本ホテル教育センター（2015）『新ホテル総論』プラザ出版
履修上の注意	「ホテルツーリズムスタディ」の受講生は、後期に「ホテルスタディA」、「ツーリズムスタディA」を受講することが望ましい
アクティブ・ラーニング	課題解決型、フィールドワーク、プレゼンテーション
ＩＣＴの活用	webclass

講義科目名称：ホテル　スタディＡ　　授業コード：2841

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	国専：選択
担当教員			
木内伸樹			
Subject Code：E15C33			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	（授業概要）ホテルの基本的な性格、ホテルの構成要素、日本、欧米の歴史的変遷など様々な角度から、ホテルビジネスの概論にアプローチし、ホテルビジネスの特色や特徴とホテルビジネスのベースとなる専門用語ならびに知識を学ぶ。合わせて事業部門ごとにホテル業務概要を把握し、ホテル業務を経営と運営の両面からアプローチし、理解力と実践力を身につける。また実際にホテル見学を実施し、ホテル運営側と顧客の視点から、ホテル業務に対し理解を深める。 (授業目標) ホテルビジネスの基礎知識と特色や特徴を理解する ◎Ｃ：ホテル見学を通して、ホテルビジネスのホテルのコンセプト、特徴を考察する。 ○Ｄ：立地・機能、資本系列、経営形態などの観点からホテルの分類を知る。 ○Ｄ：ホテルビジネスを理論並びに実務の両面から理解する。
授業計画	1　宿泊施設の区分とホテルの定義 ホテルとは何か、その語源、基本的な性格、法律上の位置づけなど 2　ホテルの構成要素 ホテルが提供する商品の構成要素 3　ホテルの分類（実習：資本系列、経営形態などにホテルを分類）（Webclass：実習資料配布） 立地・機能、資本系列、経営形態など観点からホテルを分類 4　日本における宿泊業の歴史 時代ごとの日本の宿泊業の歴史を概観 5　欧米における宿泊業の歴史 現代のホテル業は、どのように形成されてきたのか 6　ホテル客室のカテゴリーと種類 客室の種類、設備やホテルの料金制度の基礎知識 7　ホテル見学（グループワーク：ホテルの特徴などグループごとにまとめる） 共有スペース、客室の特徴やそのホテルのこだわりなど 8　ホテル実務の基礎（実習：挨拶、言葉遣いなど） ホテル実務に必要な業務知識 9　宿泊部門の業務 ホテルにおける宿泊部門の位置づけ、役割 10　料飲部門、調理部門の業務 料飲部門の組織と担当業務の概要 11　ホテルのレストランメニュー 西洋料理、日本料理、中華料理などのグランド・メニューの基礎知識 12　マーケティング部門の業務 マーケティング部門の業務と役割 13　ホテルビジネスにおけるマネジメント 総務・人事部門などのマネジメント業務 14　施設管理部門の業務 施設・設備メンテナンス部門の業務概要 15　危機管理対策 苦情トラブル、救急・火災などの事故対応
到達目標・基準	◎Ｃ：ホテルのコンセプト、特徴を具体的に説明できる。 ○Ｄ：立地・機能、資本系列、経営形態などの観点からホテルの分類ができる。 ○Ｄ：ホテルビジネスを経営と実務の両面から説明できる。
事前・事後学習	事前学習 都内のホテルのホームページにアクセスし、ホテルのイベントについて調べる(60分) 世界の料理について、特に日本のレストランで提供されている料理ついて調べる（30分） 事後学習 ホテル実務に必要な業務知識についてまとめる（30分） 授業で配布したレジメを参照し、ホテルビジネスを経営について理解する（60分）
指導方法	講義資料（プリント）を配布するので、講義資料内容を確認しながら授業内容を把握していく。パワーポイントを使用し、適宜関係する視聴覚資料を利用し授業を行う。ホテルビジネスの取り組みを理解し易いように、ホテルの現場で働く方を、ゲスト講師として授業に参加してもらうことがある。 フィードバックの仕方：プレゼンテーション終了後に、質疑応答、教員からのプレゼンテーション内容の評価とアドバイスをおこなう。グループワーク、実習課題については、授業内、授業後に個別に対応、指導する。
成績評価の方法・基準	◎Ｃ：ホテルのコンセプト、特徴を具体的に説明するレポートを評価する。 ○Ｄ：ホテル分類など定期試験を評価する。 ○Ｄ：ホテルビジネスの理論と実務を説明する定期試験の記述回答を評価する。

	定期試験（50%）、受講態度（20%）、講義中の小テストや課題レポート（30%）の総合評価
テキスト	授業資料（プリント等）を毎回配布する。（教科書は特に指定しない）
参考書	JTB総合研究所（2016）『ホテル概論』JTB総合研究所 日本ホテル教育センター（2015）『新ホテル総論』プラザ出版
履修上の注意	１．授業中は他の人の迷惑にならないように授業態度に注意すること。 ２．ホテル実務でどのようなおもてなしが提供できるか、ホスピタリティ・マインドを常に考えて授業に臨むこと。 ３．「ホテルスタディＡ」の受講生は、前期に「ホテルツーリズムスタディ」を受講することが望ましい。
アクティブ・ラーニング	実習、グループワーク
ＩＣＴの活用	webclass

講義科目名称：ホテル　スタディＣ　　授業コード：2881

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	国専：選択
担当教員			
木内伸樹			
Subject Code：E27C64			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	（授業概要）宿泊産業のいくつかの経営業態を通して、ホテルビジネスの経営環境を理解する。合わせてホテルビジネスを対象として、マネジメントおよびオペレーションの視点からの事象把握をおこない、ホテルの空間の快適性と提供されるスタッフのホスピタリティの評価、課題、それに対する対応策を検討提案できる能力を身につける。またホテルビジネスで活躍されている方々をゲスト講師として招き、その企業の取り組みについて知識を深める。 （授業目標） 宿泊産業の取り組みを理解し、評価、検討、提案する力をつける。 ◎Ａ：ホテル調査チェックシートを用いて、ホテルのホスピタリティを考察する。 ○Ｄ：宿泊産業の経営形態の違いを理解する。 ○Ｄ：ホテルビジネスを理論並びに実務の両面から理解する。
授業計画	1　ホテルビジネス ホテルビジネスの全体像を捉え、特色や特徴を理解する 2　ビジネスホテル市場 ビジネスホテルの位置づけと、ビジネスホテルの取り組み 3　日本旅館 日本旅館の位置づけと、日本文化を象徴する日本旅館のおもてなし 4　ホテルビジネスと訪日外国人旅行者 インバウンド・ツーリストへのホテルの取り組み 5　民泊と民泊仲介サイト（Webclass：ホテル・ホスピタリティの評価、課題の調査票配布） 住宅宿泊事業法導入後の民泊の状況と民泊仲介サイト 6　ホテル会員プログラム（ディベート：ホテルごとの上級会員向けのサービスについて） ホテルの顧客囲い込みの取り組みと、提供される上級会員向けのサービス 7　ブライダル基礎知識 日本と外国におけるブライダルの歴史、慣習とブライダルの動向 8　ブライダルサービス 予約受付、ホテル挙式、披露宴におけるサービス実務 9　お食事の基本マナー（グループワーク：テーブルマナーをスタッフと顧客立場から実践練習） テーブルマナーの基礎知識と女性としての大人のたしなみ” 10　企業研究：国内ホテル　パレスホテル（ゲスト講師） ホテルにおけるコンシェルジュの役割 11　企業研究：国内ホテル　藤田観光（ゲスト講師） 藤田観光とホテル事業 12　企業研究：外資系ホテル　ヒルトンホテル（ゲスト講師） ヒルトンホテル・グループの取り組み 13　ホテル・ホスピタリティ調査発表（プレゼンテーション：ホテル・ホスピタリティの評価、課題について） 調査対象としたホテルの空間の快適性と提供されたホスピタリティの評価、課題 14　ビックスポーツイベントとホテルビジネス（プレゼンテーション：ホテル・ホスピタリティの評価、課題について） オリンピック等の大イベントにおける宿泊施設の取り組み 15　ホテルビジネスとMICE戦略（プレゼンテーション：ホテル・ホスピタリティの評価、課題について） ホテルのMICE市場への取り組み
到達目標・基準	◎Ａ：ホテル調査を通し、チームで話し合い、そのホテルの評価、課題、それに対する対応策を提案できる。 ○Ｄ：宿泊産業の経営形態の違いを分類ができる。 ○Ｄ：ホテルビジネスを経営と実務の両面から、その取り組みについて、例を挙げて説明できる。
事前・事後学習	事前学習：都内のホテルのホームページにアクセスし、それぞれのホテルの特徴について調べる(60分) ホテルの職種の仕事内容（フロント・サービス、客室係など）について調べる（60分） 事後学習：授業で配布したレジメを参照し、宿泊施設の取り組みについて理解する（60分）
指導方法	講義資料（プリント）を配布するので、講義資料内容を確認しながら授業内容を把握していく。パワーポイントを使用し、適宜関係する視聴覚資料を利用し授業を行う。ホテルビジネスの現場で働く方々を、企業研究としてゲスト講師に授業に参加してもらう予定。 フィードバックの仕方：プレゼンテーション終了後に、質疑応答、教員からのプレゼンテーション内容の評価とアドバイスをおこなう。グループワーク、ディベートについては、授業内、授業後に個別に対応、指導する。
成績評価の方法・基準	◎Ａ：ホテル調査の内容と、プレゼンテーションを評価する。 ○Ｄ：宿泊産業の経営形態の違いを分類など定期試験を評価する。

	○D：ホテルビジネスを経営と実務の両面から、その取り組みについて、例を挙げて説明する定期試験の記述回答を評価する。 定期試験（50%）、受講態度（20%）、講義中の小テストや課題レポート（30%）の総合評価
テキスト	授業資料（プリント等）を毎回配布する。（教科書は特に指定しない）
参考書	JTB総合研究所（2016）『ホテル概論』JTB総合研究所 日本ホテル教育センター（2018）『ブライダル総論』プラザ出版
履修上の注意	１．授業には積極的に参加し、他の人の迷惑にならないように授業態度に注意すること。 ２．ホテル実務でどのようなおもてなしが提供できるか、ホスピタリティ・マインドを常に考えて授業に臨むこと。 ３．「ホテルスタディC」の受講生は、前期に「ホテルツーリズムスタディ」を受講することが望ましい。
アクティブ・ラーニング	ディベート、グループワーク、プレゼンテーション
ＩＣＴの活用	webclassを活用する。

講義科目名称：ツーリズムスタディA　　授業コード：2391　2392

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	国専：選択
担当教員			
木内伸樹			
Subject Code：E15C35			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	（授業概要）観光を幅広く学んでいくために、観光学に関する観光関連用語や観光の研究分野などの基礎知識、観光の歴史的変遷と現代社会における観光の意義について理解を深める。またエコツーリズムやグリーンツーリズムはじめ、ニューツーリズムの特徴や取り組みを理解する。さらに観光プランのコース作成を、ディスティネーション・マーケティング等の視点から、コンセプト作りから観光プランを作成し、フィールドワークをおこない観光プランの正誤性の検証をおこなう。 (授業目標) 観光の基礎知識、国内観光資源をを理解し、観光プランの方法を身に付ける。 ◎C：東京都港区芝エリアの観光プランのコース作成の方法を身に付ける。 ○D：観光の現状や歴史的背景を把握しながら、観光の基礎知識と観光関連用語を身につける。 ○D：航空業界、旅行業界で使用されている英語の通話用語を身につける。 ○D：ニューツーリズムの概念と定義、ニューツーリズムにはどのような種類があるか理解する。
授業計画	1　観光と旅行 観光の語源や関連用語、観光研究の分野について 2　観光の現代的意義 現代社会における観光の意義と、観光が経済などに及ぼす影響 3　観光の変遷 日本と欧米の観光の潮流を時代別に区分する。 4　観光産業の英語（実習：通話用語を使用して、自分の名前をいえるようにする） パスポートの英語記載、空港コード、エアラインコードと通話英語など 5　観光地の類型 観光対象、観光資源および観光施設 6　国内観光資源 国内観光資源をカテゴリー別に考察 7　観光政策と観光行政 観光政策の基本、その目標と内容と、地方の観光行政の特性 8　世界遺産 世界遺産の基礎知識、日本の世界遺産について 9　ニューツーリズム ニューツーリズムの共通の特徴と取り組み 10　エコツーリズム エコツーリズムの概念と定義、環境と観光をつなげるエコツアーについて 11　グリーンツーリズム グリーンツーリズムの概念、定義と日本国内の取り組みと成果 12　予約業務とツアーオペレーター（ゲスト講師） ツアーオペレーターの業務と役割 13　東京都港区芝エリア「街歩き」の観光プランニング（グループワーク：観光プランのコース作成）（Webclass：観光プランのコース作成用紙と東京都港区の観光資源資料配布） 東京都港区の観光資源をめぐる、観光プランのコース作成 14　フィールドワーク（フィールドワーク：東京都港区芝エリア） 作成した観光プランの実地調査とプランの検証 15　東京都港区芝エリア「街歩き」観光プランのコース発表（プレゼンテーション：全員が必ず発表する） それぞれが作成した観光プランの発表と評価東の観光プラン
到達目標・基準	◎C：東京都港区芝エリアのコース作成をおこない、人前でプレゼンテーションできる。 ○D：観光、旅行と訳される用語の違いを説明できる。 ○D：英語でレストランの予約を入れるロールプレイング会話演習で、通話用語を使用して、自分の名前を表現できる。 ○D：ニューツーリズムを1つ取り上げ、具体的にどのようなツーリズムか説明できる。
事前・事後学習	事前学習：ニューツーリズムに分類される観光の特徴について調べる(60分) 国内の観光資源を知る上で、観光パンフレットなどの観光資料、情報資料を収集しチェックする（60分） 事後学習：授業で配布したレジメを参照し、観光関連用語を理解する（60分）
指導方法	指導方法 講義資料（プリント）を配布するので、講義資料内容を確認しながら授業内容を把握していく。パワーポイントを使用し、適宜関係する視聴覚資料を利用し授業を行う。観光産業の取り組みを理解し易いように、観光の現場で働く方を、ゲスト講師として授業に参加してもらう。 フィードバックの仕方：プレゼンテーション終了後に、質疑応答、教員からのプレゼンテーション内容の評価とアドバイスをおこなう。グループワーク、実習課題については、授業内、授業後に個別に対応、指導する。

成績評価の方法・基準	◎Ｃ：観光プランのコース作成とプレゼンテーションを評価する。 ○Ｄ：観光、旅行と訳される用語の違いを定期試験の記述回答を評価する。 ○Ｄ：授業前後の英語でレストランの予約を入れるロールプレイイングでの会話演習を評価する。 ○Ｄ：ニューツーリズムを1つ取り上げ、具体的にどのようなツーリズムか説明するレポートを評価する。 定期試験（50%）、受講態度（20%）、講義中の小テストや課題レポート（30%）の総合評価
テキスト	授業資料（プリント等）を毎回配布する。（教科書は特に指定しない）
参考書	JTB総合研究所（2014）『観光学基礎』 世界遺産検定事務局（2016）『はじめて学ぶ世界遺産100』 十代田　朗(2014)「観光まちづくりのマーケティング」学芸出版社
履修上の注意	１．授業中は他の人の迷惑にならないように授業態度に注意すること。 ２．自分が観光産業でどのようなおもてなしが提供できるか、ホスピタリティ・マインドを常に考えて授業に臨むこと。
アクティブ・ラーニング	実習、グループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーション
ＩＣＴの活用	webclass

講義科目名称：観光学Ｂ　　授業コード：2421　2422

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	2	2	国専：選択
担当教員			
木内伸樹			
Subject Code：E25C34			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	（授業概要）日本における観光の現状を把握した上で、観光関連産業、観光地形成やサービスなど幅広く知識をつける。 旅行商品が生み出されていく手順を、特定の国内観光地を取り扱いながら、コンセプトづくり、ディスティネーション・マーケティング等の視点からレディメイド型旅行商品の作成される行程と成り立ちを学ぶ。さらに旅行プランを作成して、旅行商品を自分で作成する事で、観光地の観光資源や地方自治体の取り組みを理解する。また近年著しく増加している訪日外国人旅行者に焦点を合わせ、外国人旅行者の観光属性と日本がおこなって いる取り組みについて、詳しく学ぶ。 (授業目標) 国内観光資源を理解し、観光プランの方法を身に付ける。 ◎Ｃ：募集型企画旅行パンフレット、国際航空運賃の基礎知識と料金計算を修得する。 ◎Ｃ：時差の計算を修得する ◎Ｃ：海外旅行の観光プランのコース作成を身に付ける。 ○Ｄ：日本遺産に登録された観光資源を知る。 ○Ｄ：インバウンド旅行者の特徴を理解する。
授業計画	１　日本における観光 国内・海外観光旅行の市場規模、推移と現状 ２　日本遺産 文化庁が認定した、日本遺産の歴史的魅力や特色 ３　観光関連法 旅行業法と旅行業約款、国内航空運送約款など ４　募集型企画旅行（実習：旅行商品の提案と料金計算） パッケージツアーなどのレディメイド型商品の分析 ５　観光と香り（ゲスト講師） 五感を通して感じる観光地の香り ６　観光地マーケティング ディスティネーション・マーケティングの基本的枠組み、役割と位置づけ ７　観光地のブランディング 地域ブランドのイメージと地域資源 ８　地域からの観光プロモーション 観光におけるプロモーションと地域による観光プロモーション ９　国際航空運賃（実習：2ヶ国間の時差の計算、飛行機で移動した際の到着時間の計算など） 国際航空運賃の基礎知識と日付変更線、時差の計算など １０　出入国手続き（実習：国内外の入国書類、日本の税関書類の記入や税金の料金計算） 日本から出国し、帰国する際の空港での諸手続 １１　海外の観光資源（グループワーク：海外の観光資源を分類する）（Webclass：海外旅行プランのコース作成用の資料や配布） 旅行パンフレット、ガイドブックなどのメディア媒体に紹介されている観光資源 １２　観光地の観光プランニング（グループワーク：海外旅行プランのコース作成） 海外の観光資源をめぐる、観光プランのコース作成 １３　観光プランのコース発表（プレゼンテーション：全員が必ず発表する） それぞれが作成した観光プランの発表と評価 １４　インバウンド観光とは（ディベート：訪日外国人旅行者へのおもてなし） 訪日外国人旅行者の習慣、食事などの基礎知識 １５　インバウンド旅行者増加への取り組みとオーバーツーリズムについて 訪日外国人旅行者の受け入れ状況と観光地の取り組み、オーバーツーリズムの問題
到達目標・基準	◎Ｃ：募集型企画旅行パンフレットを用いて、旅行者を想定して料金計算することができる。 ◎Ｃ：時差や飛行時間の計算など２ヶ所の観光地の時差を計算できる。 ◎Ｃ：海外旅行プランのコース作成をおこない、人前でプレゼンテーションできる。 ○Ｄ：国内の魅力的だと感じる日本遺産を2ヶ所以上具体的に説明できる。 ○Ｄ：ムスリム観光客への知識と必要な配慮を説明できる。
事前・事後学習	事前学習：国内、海外の観光資源を知り、具体的な観光プランニングができるように、観光ガイドブック・観光パンフレットなどを収集する（60分） 増加するインバウンド旅行者について調べる（30分） 事後学習：授業内容を復習すること。授業で学んだ観光資源や観光現象などを国や地域などを地図などでまとめる(60分) 観光関連産業それぞれの特徴や取り組みについてまとめる（30分）

指導方法	講義資料（プリント）を配布するので、講義資料内容を確認しながら授業内容を把握していく。パワーポイントを使用し、適宜関係する視聴覚資料を利用し授業を行う。観光産業の取り組みを理解し易いように、観光の現場で働く方を、ゲスト講師として授業に参加してもらう。 フィードバックの仕方：プレゼンテーション終了後に、質疑応答、教員からのプレゼンテーション内容の評価とアドバイスをおこなう。グループワーク、ディベート、実習課題については、授業内、授業後に個別に対応、指導する。
成績評価の方法・基準	◎Ｃ：募集型企画旅行パンフレットを用いた、料金計算演習を評価する。 ◎Ｃ：時差や飛行時間の計算など２ヶ所の観光地の時差計算を評価する。 ◎Ｃ：観光プランのコース作成とプレゼンテーションを評価する。 ○Ｄ：日本遺産の区分と、その特徴と魅力について、小レポート提出を評価する。 ○Ｄ：インバウンド旅行者への取り組みと今後抱えるオーバーツーリズムに関する小レポートを評価する。 定期試験（50%）、受講態度（20%）、講義中の実習、プレゼンテーションや課題レポート（30%）の総合評価
テキスト	授業資料（プリント等）を毎回配布する。（教科書は特に指定しない）
参考書	JTB総合研究所（2013）『観光概論』 十代田　朗(2014)『観光まちづくりのマーケティング』 溝尾 良隆（2009）観光学の基礎（観光学全集 第1巻）
履修上の注意	１．授業中は他の人の迷惑にならないように、授業態度に注意すること。 ２．時差、旅行代金の計算、旅行プランニング作成など、じっくりと授業に取り組む必要がある。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワーク
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：Business Conversation：Hotel　　授業コード：2211　2212

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：選択必修
担当教員			
森田千草、菅原千津			
Subject Code：E15B37			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	毎回ホテルで実際に使用されるであろう会話例を取り上げ、それぞれの状況に適切な対応の仕方を身につけるとともに、ホテルや観光業界に特有の語彙や表現も学ぶ。確認のための小テストを適宜実施する。また練習した会話例を基に、自分たちで具体的なダイアローグを完成させることも目指す。 (授業目標) ◎A：ペアあるいはグループワークを通じて協働しながら、ホテルでの対応を英語で円滑に行うことができる。 D：日本の文化と英語圏の文化の違いを理解し、案内やトラブル解決をすることができる。 ○E：観光業界に特有の英語の語彙や表現を理解し、十分に使いこなすことができる。
授業計画	1　Introduction / Unit 1 May I have your name, please? (グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習) テキストの説明と、個人情報を尋ねる表現を学ぶ。 2　Unit 2 I get to travel a lot. (グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習) 職業や好みに関して尋ねる際の表現を学ぶ。 3　Unit 3 It's on the third floor. (グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習) 設備についての質問や場所に関する表現を学ぶ。 4　Unit 4 We're open from 7:00 a.m. to 11:00 p.m. (グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習) スケジュールについての質問の仕方と時間に関する表現を学ぶ。 5　Unit 5 We're fully booked on Monday. (グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習) 日付の表現や利用に関して質問する際の表現を学ぶ。 6　Unit 6 I'll repeat your reservation. (グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習) 好みを尋ねたり情報を確認したりする際の表現を学ぶ。 7　Unit 7 Are you checking in? (グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習) ホテルにチェックインするお客様に対応する際の表現を学ぶ。 8　Unit 8 I'll transfer your call. (グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習) 相手の要求を聞いたり、電話をつないだりする際の表現を学ぶ。 9　Unit 9 We'll be stopping for lunch at 12:00. (グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習) 旅の日程に関する表現を学ぶ。 10　Unit 10 What can I get for you? (グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習) 食べ物や飲み物などの注文の取る際の表現を学ぶ。 11　Unit 11 I'll send someone to check it. (グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習) 苦情対応の際の表現を学ぶ。 12　Unit 13 I'll show you on the map. (グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習) 場所の説明や道案内をする際の表現を学ぶ。 13　Unit 14 How much would you like to change? (グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習) 換金する際の表現を学ぶ。 14　Unit 15 The service is included. (グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習) 支払いに関する表現を学ぶ。 15　Final Presentation (プレゼンテーション：ペアあるいはグループによる発表会) これまでに学んできた表現をもとにして、ペアでダイアローグを考案し発表を行う。
到達目標・基準	◎A：ホテルの施設案内を英語で適切に行うことが出来る。 D：ホテルでの換金の仕方や旅行する際に注意すべき点を説明することができる。 ○E：ホテルのフロントやレストランで使用される英語の語彙や表現を30種類言うことができる。
事前・事後学習	事前学習：次回の授業で扱うユニットの単語や熟語の意味を調べておくこと。(30分) 事後学習：語彙や表現を復習し、テキストの会話の暗記練習を行うこと。(60分)
指導方法	英語を実際の場面で使えるようになるためには、相手が話していることを理解するリスニング力やビジネス特有の語彙を習得する必要がある。この授業ではホテルでの様々なシーンで使用する会話を用いて様々な演習を行うことにより、実践的な会話力を養成することを目指す。 フィードバックの方法：①小テストの実施とその採点評価、②小テストの採点評価についての質疑対応、③ペアあるいはグループによる会話演習に対するコメント

成績評価の方法・基準	◎A：ペア(グループ)によるプレゼンテーションの完成度および小テストや期末テストの成績で評価する。 　D：授業内演習とペア(グループ)によるプレゼンテーションの完成度で評価する。 ○E：小テストや期末試験の成績およびペア(グループ)によるプレゼンテーションの完成度で評価する。 授業内演習・ペア(グループ)による発表：40% 小テスト・期末試験：60%
テキスト	First Class Service: English for the Tourism and Hospitality Industry 1, Cengage Learning, 2009.
参考書	授業中に指示する。
履修上の注意	ペアやグループによる演習を中心に授業を進めるため、積極的に参加する姿勢を求める。確認のための小テストを適宜実施する。また授業の際には必ず英和辞典(携帯電話・スマートフォンの使用は認めない)を持参すること。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：情報処理論　　授業コード：2531　2532

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	国専：選択
担当教員			
別宮玲、福田博志			
Subject Code：E26C38			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	コンピューターやインターネットなど、ICT（情報通信技術）は我々の生活に欠かすことのできない存在である。この授業では、現在社会におけるICTおよびIT(情報技術)の役割を学び、企業における経営戦略にどのように結びついているかを学ぶ。その後、情報システム開発における様々な手法を学習する。また、情報に関する法令や財務知識の基礎も本授業の学習範囲である。 (授業目標) ◎D：経営戦略とシステム開発について学び、ITパスポート試験ストラテジ分野及びマネジメント分野における合格水準の知識を身につける。
授業計画	1　ガイダンス／ストラテジ（1） ・企業会計（1） 2　ストラテジ（2） ・企業会計（2） 3　ストラテジ（3） ・知的財産権 4　ストラテジ（4） ・関連法規と標準化 5　ストラテジ（5） ・データ整理技法 ・QC七つ道具とグラフ 6　ストラテジ（6） ・企業活動と組織 7　ストラテジ（7） ・全社戦略と事業戦略 8　ストラテジ（8） ・機能別戦略 9　ストラテジ（9） ・ビジネス戦略と経営管理システム 10　ストラテジ（10） ・ビジネスインダストリ 11　ストラテジまとめ(WebClass:ITパスポート過去問と解説公開) ・ストラテジ分野の全範囲を対象としたITパスポート過去問講座 12　マネジメント（1） ・SLCPと調達 ・システム開発 ・テストと運用・保守 13　マネジメント（2） ・システム開発技法 ・プロジェクトマネジメント ・工程管理（1） 14　マネジメント（3） ・工程管理（2） ・サービスマネジメント ・システム監査 15　マネジメント分野まとめ(WebClass:ITパスポート過去問と解説公開) ・マネジメント分野の全範囲を対象としたITパスポート過去問講座
到達目標・基準	◎D：企業組織、財務など、経営全般に関する重要な基礎用語を説明できる。またシステム開発の流れを知り、基本的な業務を説明できる。
事前・事後学習	事前学習：次回の範囲の用語について、各自学習して授業に参加する。(60分) 事後学習：毎週授業開始時に、一問一答式の口頭テストを行う。前回の授業内容がテスト範囲になる為、毎週自分の言葉で用語等の説明ができるように事後学習を行う。(120分)
指導方法	講義のテーマ区切りごとに小テストによる評価を行う。小テストはペーパーに限らず、一問一答式の口頭でのテスト形式も用いる。また資格試験対策のための模擬試験にはWebClassを使用する。 フィードバック方法：一問一答式テストは、その場で正解・不正解を発表。説明を加える。模擬試験もその場で正解・不正解が表示され、解説が行われる。
成績評価の方法・基準	D：ITパスポートのストラテジ分野及びマネジメント分野の試験問題に準拠した定期試験で評価する。併せて毎週実施する小テストの回答数及び正答数で評価する。

	評価の比率は受講態度15%、小テスト 35%、定期試験 50%とする。
テキスト	平成31/01年 イメージ&クレバー方式でよくわかる 栢木先生のITパスポート教室(技術評論社) ※情報処理演習と同じテキストを使用する。
参考書	平成31/01年度 栢木先生のITパスポート教室準拠 書き込み式ドリル (技術評論社)
履修上の注意	ITパスポートの試験範囲に則った授業範囲となっている。 ITパスポート試験の合格を目指す学生には是非受講していただきたい。 前回の学習内容が翌週にはすぐに小テストで確認されるため、毎週の予習・復習が重要である。 また、資格取得を希望する/しないに関わらず、「情報処理演習」と併せて履修することを強く推奨する。
アクティブ・ラーニング	一問一答テスト
ＩＣＴの活用	WebClass,Netウィッチ

講義科目名称：情報処理演習　　授業コード：2541　2542

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	国専：選択
担当教員			
別宮玲、福田博志			
Subject Code：E26C39			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	コンピュータの仕組み、ハードウェアの知識、コンピューターを操作するための基礎知識を身に付けた後、表計算ソフト、データベースソフトの基本操作と基礎理論を学ぶ。ネットワークやセキュリティといった現在の情報社会において重視される技術分野についての学習も本授業の範囲とする。またここで得た知識を活かした資格取得の方法も学べる授業である。 (授業目標) ◎Ｄ：ITパスポート試験テクノロジ分野における合格水準の知識を身につける。 ○Ｅ：ITパスポート試験テクノロジ分野に求められるデータベースおよび表計算の操作ができる。
授業計画	1　ガイダンス／ハードウェア（１） ・授業概要 ・情報の表現 2　ハードウェア（２） ・5大装置とCPU ・メモリとキャッシュメモリ 3　ハードウェア（３） ・補助記憶装置 4　ハードウェア（４） ・入力装置と出力装置 ・入出力インタフェース 5　ハードウェア（５） ・基数変換と補数① 6　ハードウェア（６） ・基数変換と補数② 7　ソフトウェアとマルチメディア（１） ・ソフトウェア ・ファイル管理 8　ソフトウェアとマルチメディア（２） ・バックアップ ・データ形式とマルチメディア 9　システム構成（１） ・システムの構成 10　システム構成（２） ・クライアントサーバシステム ・性能評価 11　システム構成（３） ・システムの信頼性 12　ネットワーク（１） ・ネットワーク方式 13　ネットワーク（２） ・通信プロトコル ・インターネットの仕組み 14　ネットワーク（３） ・通信サービス ・電子メール① 15　ネットワーク（４） ・電子メール② ・WWW 16　ネットワーク（５）(WebClass:ITパスポート過去問と解説公開) ・ネットワークに関するITパスポート過去問演習 17　セキュリティ（１） ・情報セキュリティ 18　セキュリティ（２） ・ユーザ認証とアクセス管理 19　セキュリティ（３） ・ウイルス対策 ・ネットワークセキュリティ 20　セキュリティ（４）

	暗号化技術 ディジタル署名 21　セキュリティ（５）(WebClass:ITパスポート過去問と解説公開) ・セキュリティに関するITパスポート過去問演習 22　アルゴリズムとプログラミング ・アルゴリズムとデータ構造 ・プログラミング言語 23　表計算（１） ・相対参照と絶対参照 24　表計算（２） ・関数 ・IF関数とネスト 25　データベース（１） ・関係データベース ・主キーと外部キー 26　データベース（２） ・データの正規化 27　データベース（３） ・データ抽出と論理演算 ・整列と集計 28　データベース（４） ・排他制御と障害回復 29　ユーザインターフェース ・ユーザインターフェース 30　テクノロジ分野まとめ(WebClass:ITパスポート過去問と解説公開) ・テクノロジ分野全体のITパスポート過去問演習
到達目標・基準	◎Ｄ：業務に必要なITの基礎知識を身につけ、ハードウェア、ソフトウェアに関する主要な用語の説明ができる。 ○Ｅ：データベースおよび表計算アプリケーションの基本操作ができる。
事前・事後学習	事前学習：次回の範囲の用語について、各自学習して授業に参加する。(60分) 事後学習：毎週授業開始時に、一問一答式の口頭テストを行う。前回の授業内容がテスト範囲になる為、毎週自分の言葉で用語等の説明ができるように事後学習を行う。(60分)
指導方法	講義とPCによる演習を併用する授業形式である。演習のテーマ区切りごとに総合演習による評価を行う。併せて毎週、口頭での一問一答テストも行なう。模擬試験にはWebClassを使用する。 フィードバック方法：一問一答式テストは、その場で正解・不正解を発表。説明を加える。模擬試験もその場で正解・不正解が表示され、解説が行われる
成績評価の方法・基準	D:ITパスポートのテクノロジ分野の試験問題に準拠した定期試験で評価する。併せて毎週実施する小テストの回答数及び正答数で評価する。 E:作成した表計算及びデータベースのファイルを評価する。 評価の比率は受講態度15%、小テスト 35%、総合演習 50%とする。
テキスト	平成31/01年 イメージ&クレバー方式でよくわかる 栢木先生のITパスポート教室(技術評論社) ※情報処理論と同じテキストを使用する
参考書	平成31/01年度 栢木先生のITパスポート教室準拠 書き込み式ドリル（技術評論社）
履修上の注意	ITパスポートの試験範囲に則った授業範囲となっている。 ITパスポート試験の合格を目指す学生には是非受講していただきたい。 前回の学習内容が翌週にはすぐに小テストで確認されるため、毎週の予習・復習が重要である。 また、資格取得を希望する/しないに関わらず、「情報処理論」と併せて履修することを強く推奨する。
アクティブ・ラーニング	一問一答テスト
ＩＣＴの活用	WebClass,Netウィッチ

講義科目名称：アルゴリズムとデータベース　　授業コード：2551　2552　2553

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	国専：選択必修
担当教員			
西岡健自			
Subject Code：1年生E16B40	Subject Code：2年生E16B49		

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	コンピュータは絶え間ない技術革新によって変化しながら、私たちの生活のいたるところに深く浸透しています。このようなコンピュータを快適、かつ、安全に使いこなすために、コンピュータの仕組を理解し、この仕組を有効に活用する論理的な手順の考え方や、複雑で大量なデータを扱う標準的な方法について学習します。また、トピックスとして最新のICTの動向と、この動向をいち早く取り入れる社会の状況を概観します。 (授業目標) ◎D：コンピュータに共通な仕組みや構造について理解を深め、基本的なコンピュータ用語を使うコミュニケーションを円滑に行うことができる。 ○E：データ処理を含むコンピュータの情報処理などの論理的な手順を表現する方法を実践できる。
授業計画	1　オリエンテーション（WebClassの運用方法、反転授業の方法などICT環境の導入） 自己紹介と今後の進め方、注意事項、グループ（Gr）分けなど 2　社会に浸透するコンピュータ（WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） コンピュータが社会や日常生活にどのように浸透しているか確認 3　コンピュータ共通の仕組１（WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） すべてのコンピュータに共通な、情報処理の基本的な構造と仕組みを理解 4　コンピュータ共通の仕組2（WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） 基本的な仕組みから複雑で実用的な機能をどのように実現しているのかの理解 5　コンピュータ共通の仕組3（WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） 基本的な仕組みから実用的な機能を引き出すための工夫（OSなど）について 6　論理的な処理の表現方法１（WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） 基本的な仕組みから複雑な機能を実現するために必要な手順（アルゴリズム）を直感的に表現する方法の理解 7　論理的な処理の表現方法２（WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） 手順（アルゴリズム）の表現に必要な図形要素の理解と演習 8　論理的な処理の表現方法３（WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） 基本的な手順（アルゴリズム）の表現例の理解 9　論理的な処理の表現方法4（WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） 同じ処理でも異なる手順（アルゴリズム）があり、手順によって驚異的に処理スピードが上がることの理解 10　論理的な処理の表現方法5（WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） ゲームにも応用できる、手順（アルゴリズム）の表現を簡潔にする方法の理解 11　コンピュータのデータ処理1（WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） 社会生活に必要な大量・複雑なデータを蓄積・活用するための方法（データベース）の概要 12　コンピュータのデータ処理２（WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） 一般的に使われているデータベース（RDB）の基本的仕組みの概要 13　コンピュータのデータ処理３（WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） 実際のデータベース（Access）を使った、情報の検索などのデータの扱い方の演習 14　コンピュータのデータ処理４（WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） 文字形式の命令（SQL）による、情報の検索などデータの扱い方の演習 15　基本的なコンピュータ用語の補足（WebClassによる反転授業、クイズ型アクティブラーニング） アルゴリズムとデータベースの周辺で知っておく必要のあるコンピュータ用語の理解
到達目標・基準	◎D：コンピュータに共通な仕組みや構造について概要を理解し、簡単なコンピュータ用語を理解できる。 ○E：データ処理を含むコンピュータの情報処理などの論理的な手順を表現する方法を理解できる。
事前・事後学習	事前学習：事前に提示する視聴覚資料(事前学習資料)をよく理解し、理解を確認するための穴埋め問題と調査・検討を要する問題を宿題として解く(60分程度)。 上記視聴覚資料にあるテーマについて、グループで積極的に討議できるよう準備する（45分程度）。 事後学習：用語や考え方の整理、用語間の関連性などの理解・確認を行い、演習などの課題のある場合は回答を作成して、指定の期限までに提出する（75分程度）。
指導方法	スマホからも参照できるWebClassを利用したナレーション付動画情報（事前学習資料）による事前学習、配布資料（パワーポイントなど）による講義、グループ討議、討議結果のグループ別発表、WebClassを利用した小テスト、論理的な手順の作成などを適宜行います。また、考察を要する問題についてグループの意見をまとめる練習を行います。 フィードバックの方法：グループ討議にはその場でコメントし、小テストには正誤と正解を即座に提示します。
成績評価の方法・基準	◎D：小テスト、論理的な手順を表現する課題回答などを評価。 ○E：質疑応答など、アクテブラーニングへの参加状況を評価。 受講態度　30%、授業での発言、小テスト、課題提出　30%、期末テスト　40%

テキスト	事前に提示する視聴覚資料、小テスト、講義資料をWebClass上のデジタル教材として提供します。
参考書	必要に応じて授業中に指示します。
履修上の注意	好奇心を持って、演習やグループ討議に積極的に参加してください。日常生活の物事を論理的に考える姿勢を養成する科目でもあり、基本的な知識は相互に関連していますので、毎回必ず出席してください。重要な連絡は、5Fの掲示板や教員からのメールで知らせますので、掲示板やメールは毎日一度は見るようにしてください。
アクティブ・ラーニング	グループワーク
ＩＣＴの活用	WebClass、Netwitch、Access

講義科目名称：プログラミング演習Ａ　　授業コード：2510

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：選択
担当教員			
別宮玲			
Subject Code：E26C41			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	世の中のアプリケーションは、それぞれ適切なプログラミング言語で作成されている。例えば、Java言語によるスマホアプリやPC用のソフトウェア開発がその一例である。本授業ではロボットPepperの制御をテーマにプログラミングを学ぶ。ここではJavaなどの命令をキーボード入力していくタイプのプログラミング言語ではなく、グラフィカルなプログラミング言語Scratchをベースとしたロボット用プログラミング言語RoboBlocksを用いる。 (授業目標) ◎Ｅ：RoboBlocksを用いて、Pepperとの受け答えをスムーズに行うプログラミングを行うことができる。
授業計画	1　ガイダンス ・授業の方針、概要、レポート提出方法、成績評価方法を確認する。 ・環境確認 ・人間とロボットについて考える 2　プログラミング導入（１）(Pepper:RoboBlocksによるプログラミング) ・Pepperにしゃべらせる ・Pepperを動かす ・しゃべらせると同時に動かす 3　プログラミング導入（２）(Pepper:RoboBlocksによるプログラミング) ・タッチセンサーを使う ・音センサーで会話を行う 4　プログラミング導入（３）（グループワーク：自由にプログラムを作成する）(Pepper:RoboBlocksによるプログラミング) ・絵を表示させる ・グループ発表の準備 5　発表（１）（グループワーク：自由にプログラムを作成する）（プレゼンテーション：Pepperを使った発表) ・グループでPepperを用いた発表を行う 6　プログラミング実践（１）(Pepper:RoboBlocksによるプログラミング) ・音を再生させる ・音の方向と人間の顔を追跡させる 7　プログラミング実践（２）(Pepper:RoboBlocksによるプログラミング) ・目のLEDを制御する ・同じ動作を繰り返す 8　プログラミング実践（３）(Pepper:RoboBlocksによるプログラミング) ・ランダムで動きを変える ・変数を使う 9　プログラミング実践（４）(Pepper:RoboBlocksによるプログラミング) ・プログラムの効率化を行う 10　プログラミング実践（５）(Pepper:RoboBlocksによるプログラミング) ・自然な会話を作る 11　発表（２）（プレゼンテーション：Pepperを使った発表) ・人間とロボット共同での発表を行う 12　プログラミング実践（６）(Pepper:RoboBlocksによるプログラミング) ・ディスプレイのタッチ機能を使う ・センサーを用いてデータを収集する 13　プログラミング実践（７）(Pepper:RoboBlocksによるプログラミング) ・アンケートを作り調査する 14　プログラミング実践（８）（グループワーク：自由にプログラムを作成する）(Pepper:RoboBlocksによるプログラミング) ・グループ発表の準備 15　発表（３）（グループワーク：自由にプログラムを作成する）（プレゼンテーション：Pepperを使った発表) ・グループでPepperを用いた発表を行う
到達目標・基準	◎Ｅ：サンプルプログラムを参照しながら簡単な繰り返し処理や分岐処理をPepperに実行させることができる。
事前・事後学習	プログラミングに先立って、日々現れるAI関連のニュースについて扱うため、日ごろからニュースをよく見て、ノートにまとめておくこと。(60分) 授業で作成したプログラムは、翌週以降にも流用可能なように作られている。また、自宅からでもプログラミングは可能なため、授業後にプログラム上の不備があれば、修正しておくこと。(60分)

指導方法	サンプルプログラムを使用した講義の後、類似問題および応用問題のプログラミング演習を行う。 質問は随時受け付ける。 フィードバックの方法：通常回では、各学生PC上のエミュレータでプログラムが正常に動作しているかを評価し、結果をその場で学生に伝える。発表の回では、全学生が聞いている中での評価とアドバイスを行う。
成績評価の方法・基準	Ｅ：Pepperの動作を各学生機のエミュレータ上で評価する。また個人あるいはグループの発表内容で評価する。 授業態度20パーセント、課題20パーセント、最終課題(発表)60パーセント の割合で成績評価を行う。
テキスト	独自の資料を配布する。
参考書	
履修上の注意	毎週連続した演習が続く。たとえば第3週で作成したプログラムを基に第4週のプログラムを作成する等の演習形態である。欠席した場合には、その回でどのような演習が行われたか、必ず確認し、自習して出席すること。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション
ＩＣＴの活用	Pepper

講義科目名称：コンピュータ　シミュレーション　　授業コード：2561

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	国専：選択必修
担当教員			
三井和男			
Subject Code：E26B51			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	コンピュータ・シミュレーションという技術は、あまり意識してこなかったかもしれませんが、日常生活の様々な場面で使われています。いったい、その仕組みはどのようになっているのでしょう。この授業では、日常の生活で誰もが出会う様々な現象をテーマとして扱います。自然現象も社会の現象も含まれます。これらの現象をよく観察するところからはじめて、数学モデルの作成、コンピュータへの実装、シミュレーションという順にすすめて、コンピュータ・シミュレーションということへの理解を深めるのが目標です。この目標を達成するために、先ずはプログラミングの復習から始めて、初歩から少しづつ進めていきましょう。 (授業目標) ◎C:現象の本質を整理し、実装について考えることができる。 ○E:コンピュータへの実装を行うに足りる技術と表現力を身につけることができる。
授業計画	1　授業の進め方とプログラミングの基礎 授業の進め方を説明します。この授業で使うプログラミング言語について学び、早速、簡単なプログラムのサンプルを作ってみましょう。 2　図形を描く 基本図形の描きかた、描く順序、属性の変更と色について学びます。 3　変数を使う１ 変数とは何か？変数の種類と定義の仕方、演算への応用について学びます。 4　変数を使う２ forループとifを使ったプログラミング、配列について学びます。 5　マウスとキーボード マウスやキーボードに反応するプログラミングについて学びます。 6　ボールの運動シミュレーション１（理論） 理論を構築し、プログラミングを開始します。 7　ボールの運動シミュレーション２（プログラミング） プログラミングを行います。（ICT:WebClassを利用してシミュレーションのパーツを配布します） 8　ボールの運動シミュレーション３（プログラミング） プログラムを完成させて、実行してみる。 9　ボールの運動シミュレーション４（数値実験） シミュレーションを実行してデータを整理します。 10　ボールの運動シミュレーション５（プレゼンテーション） ボールの運動シミュレーションで学んだ成果を発表します。 11　捕食者と被食者の生態系シミュレーション１（理論） 理論を構築し、プログラミングを開始します。 12　捕食者と被食者の生態系シミュレーション２（プログラミング） プログラミングを行います。（ICT:WebClassを利用してシミュレーションのパーツを配布します） 13　捕食者と被食者の生態系シミュレーション３（プログラミング） システムを完成します。 14　捕食者と被食者の生態系シミュレーション４（数値実験） シミュレーションを実行してデータを整理します。 15　捕食者と被食者の生態系シミュレーション５（プレゼンテーション） 捕食者と被食者の生態系シミュレーションで学んだ成果を発表します。
到達目標・基準	◎C:現象を理解することができる。 ○E:実際にシミュレーションを実行して、結果をレポートにまとめることができる。
事前・事後学習	事前学習：授業で取り上げる現象について、観察または調査を行って、理解を深める。（３０分） 必要なプログラミングの技法を確認する。（３０分） 事後学習：作成したコードにコメント（覚書）を添付するなどして整理する。（３０分）
指導方法	プロジェクターとパワーポイントを使いながら受講生と一緒にシミュレーションをすすめていきます。受講生は教科書を予習しておくとより理解が深まるでしょう。テーマ毎にシミュレーションの方法や結果についてレポートを作成してまとめを行います。授業の要素ごとに小テストを行い、着実に進めていきます。課題の配信とレポート提出にはWebClassを使います。授業課題のフィードバックの方法：①小テストの実施とその結果に対するコメントの返却。②レポートに対するコメントの返却。③授業後の質疑応答。
成績評価の方法・基準	C:授業中に行うモデル構築の手順において、考え方を述べる機会を設けて評価する。 E:シミュレーションの完成度とレポートによって評価する。 レポート40%、定期試験期間中の試験20%、授業内の質問20%、授業への貢献度20%として総合的に評価します。

テキスト	デザイン言語Processing入門（森北出版）
参考書	
履修上の注意	難しい数学の知識やプログラミングの技術を必要としませんが、授業中は集中して学習してください。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション
ＩＣＴの活用	WebClass

講義科目名称：ウェブデザイン概論Ａ　　授業コード：2401　2402

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	国専：選択
担当教員			
伊波祥代			
Subject Code：E26C43			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	ウェブデザインを行うために必要なことは、ただパソコンを上手に使えるということだけではありません。現在の社会におけるインターネットのもつ意味を知り、その長所や短所、潜在するリスクを学ぶことが重要です。 この授業ではウェブデザインのために必要な知識を身につけます。現在の市場の変化、メディアの変化を学んだ後、ネットショップを題材に、その企画、開発、運営のための技術を学び、効果的なウェブ上のビジネスの方法を学習します。 (授業目標) ○C:インターネットに関連する法律および、ネットショップ運営に必要な知識を説明できる。 ◎D:ネットショップにおけるターゲット層の分析から、必要なサイトコンテンツ、プロモーションまで計画をし、ネットショップ実務士補合格レベルの知識をもつ。
授業計画	1　ガイダンス 授業紹介、講師紹介、デザインとマーケティング 2　市場動向(1) インターネットビジネス市場 3　市場動向(2) 小売業の分類と特徴 4　市場動向(3) ネットショップの動向 5　出店形態と特徴 ショッピングモール店と独自ドメイン店 6　インターネットに関連する法律 法律の動向・法規リスト・情報セキュリティ対策 7　ネットショップ事業の準備と制作(1) ターゲッティングと顧客ベネフィット （ディスカッション：グループに分かれ、各自が選定したショップの分析を発表、それに対する意見交換を行う） 8　ネットショップの準備と制作(2) 商品分析・価格（同業種の中でのポジショニングの設定） 9　ネットショップの準備と制作(3) 決済・流通（注文から納品までの流れの整理） 10　ネットショップの準備と制作(4) サイトマップの作成 11　ネットショップの準備と制作(5) カラーデザイン・トップページ要素の検討 12　ネットショップの準備と制作(6) 商品ページ要素の検討・キャッチコピー・商品写真 13　ネットショップのプロモーションと運用(2) 独自ドメイン店のプロモーション／ショッピングモール店のプロモーション 14　ネットショップ業界における目標と課題の設定(1) 自分がネットショップを立ち上げるものと仮定して、把握すべき法律や技術を整理する（小論文） 15　ネットショップ業界における目標と課題の設定(2) 自分がネットショップを立ち上げるものと仮定して、現在の課題と目標、行動計画をまとめる（企画書によるプレゼンテーション）
到達目標・基準	○C:ネットショップの種類、運用の流れ、実務の共通知識について説明できる。 ◎D:ウェブサイトに用いる色やキャッチコピー、写真の扱いについて効果的な方法を考えられる。
事前・事後学習	事前学習:次回範囲の教科書範囲を事前に熟読し、わからない用語は調べた上で授業に参加すること。(90分) 事後学習:毎週授業開始時に、一問一答式の口頭テストを行う。前回の授業内容がテスト範囲になる為、毎週自分の言葉で用語等の説明ができるように事後学習を行うこと。(60分)
指導方法	教科書を使用した講義形式の授業を行い、学生はその内容に基づき、各自が選定したショップのネットショップ運営企画書を完成させていく。 フィードバック方法：授業内に随時、発表時に講評としてコメント。質疑は授業後に個別対応する。
成績評価の方法・基準	○C:ネットショップ実務士補に準拠した最終課題（筆記試験と小論文の複合形式）を評価する。 ◎D:ネットショップ運営を想定した企画書とプレゼンテーションを評価する。 授業態度20%、企画プレゼンテーション40%、最終課題(筆記試験と小論文の複合形式)40% の割合で成績評価を行う。
テキスト	改訂版ネットショップ検定公式テキスト ネットショップ実務士レベル1対応（一般財団法人ネットショップ能力認定機構）

参考書	
履修上の注意	挙手による質問など、積極的な授業への参加を期待する。 日頃から、インターネット上のサイトを観て、様々なサイトのデザインを見るよう心がけること。ネット関係のニュースも随時取り上げるため、こちらも日常的に意識して欲しい。
アクティブ・ラーニング	・ディスカッション ・プレゼンテーション
ＩＣＴの活用	Webclass

講義科目名称：ウェブデザイン概論Ｂ　　授業コード：2501

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	国専：選択
担当教員			
西岡健自			
Subject Code：E26C44			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	パソコンやスマートフォンで日頃見ているホームページなどを作成します。自分でデザインした画面がホームページとして動作する体験を通して、ネットワークやデータベースを利用するウェブの基本的な仕組みを知ることができます。また、作成を通して、ホームページなどのウェブを仕事や生活に活用するための実践的なヒントを得ることができます。 (授業目標) ◎Ｄ：ウェブサイトとネットワークの仕組みや構造の理解を深め、基本的なウェブの関連用語を自由に使うことができます。 ○Ｅ：ウェブサイトの作成や画面のデザインをとおして、表現やものづくりの手順と方法を実践できます。
授業計画	1　オリエンテーション（WebClassの運用方法、反転授業の方法などICT環境の導入） 自己紹介、授業の進め方のオリエンテーションとグループ（Gr）分け、および、ウェブ（ホームページ）導入 2　コンピュータ共通の仕組（WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） すべてのコンピュータに共通な仕組みと、それに基づくウェブの仕組の概要 3　ホームページの作り方１（WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） 簡単なウェブ作成の道具（Dreamweaver）と、使い方の初歩 4　ホームページの作り方２（WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） ホームページ上の画像クリックで他のホームページへ飛ぶの仕組（ハイパーリンク） 5　ホームページの作り方３（WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） ホームページ上の画像の位置調整の方法（CSS） 6　ホームページの作り方４ 背景画像の設定法（CSS） 7　自分専用ホームページの作成１（WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） よく見るホームページをまとめるホームページの画面デザインと作成 8　自分専用ホームページの作成２（WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） よく見るホームページをまとめるホームページの画面デザインと作成（続） 9　グループ専用ホームページの作成（WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） グループのメンバのホームページをまとめるホームページの画面デザインと作成 １０　記録の残る予定表の作成１（WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） 日付とメモ欄を備えた簡単な予定表の作成 １１　記録の残る予定表の作成２（WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） コンピュータ上の記憶域（データベース）に予定を登録・参照できる予定表の作成 １２　ウェブプログラムの作成（WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） 道具を使わずコード（文字）によりホームページを作成する方法 １３　Xマスパーティ参加登録の例（WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） データベースを使ったクリスマスパーティ参加募集と登録用ウェブの仕組 １４　作成したホームページのプレゼンテーション（WebClassによる作品Best3選出） 各グループの作成したグループ専用ホームページについてのプレゼンテーションと評価 １５　ウェブサイトの公開方法（学内サーバ上での作品公開） 試作したホームページなどを公開する方法について。
到達目標・基準	◎Ｄ：ウェブサイトとネットワークの仕組みや構造について概要を知り、基本的なウェブの関連用語を理解できます。 ○Ｅ：ウェブサイトの作成や画面のデザインをとおして、表現やものづくりの手順と方法を理解できます。
事前・事後学習	事前学習：事前に提示する視聴覚資料(事前学習資料)をよく理解し、理解を確認するための穴埋め問題と調査・検討を要する問題を宿題として行う(60分程度)。 上記視聴覚資料にあるテーマについて、グループで積極的に活動できるよう準備する（45分程度）。 事後学習：用語や考え方の整理、用語間の関連性などの理解・確認を行い、演習などの課題のある場合は回答を作成して、 指定の期限までに提出する（75分程度）。
指導方法	スマホや自宅のPCからも参照できるWebClassを利用したナレーション付動画情報（事前学習資料）に基づく事前学習、配布資料（パワーポイントなど）に基づく講義、グループ討議、討議結果のプレゼンテーション、WebClassを利用した小テスト、ウェブサイトの作成などを適宜行います。また、考察を要する問題についてグループの意見をまとめる練習を行い、作成した作品のプレゼンテーションを行って、相互に評価します。 フィードバックの方法：プレゼンテーションとグループ討議にはその場でコメントし、小テストには正誤と正解を即座に提示します。

成績評価の方法・基準	◎Ｄ：小テストや課題回答、作成したウェブサイトの作品を評価。 ○Ｅ：プレゼンテーションなどアクティブラーニングへの参加状況を評価。 受講態度　30%、授業での発言/プレゼンテーション、小テスト、課題提出　30%、期末テスト　40%
テキスト	事前に提示する視聴覚資料、小テスト、講義資料をWebClass上のデジタル教材として提供します。
参考書	必要に応じて授業中に指示します。
履修上の注意	講義を聞くだけの科目ではありません。好奇心を持って、演習やグループ討議に積極的に参加してください。 また、基本的な知識は相互に関連していますので、毎回必ず出席してください。重要な連絡は、5Fの掲示板や教員からのメールで知らせますので、掲示板やメールは毎日一度は見るようにしてください。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション
ＩＣＴの活用	WebClass、Netwitch、Dreamweaver

講義科目名称：ウェブデザイン演習　　授業コード：2831

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	国専：選択
担当教員			
西岡健自			
Subject Code：E26C40			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	戸板での学習成果の仕上げの一環として、グループで主体的に企画・立案したネットショップなどを制作します。この活動をとおして、制作スケジュール立案法、制作ドキュメントの記述法、デザインの方法、ウェブなどの作成技術、分かりやすくインパクトのあるプレゼンテーションの方法などを学習します。 (授業目標) ○A：グループで制作するテーマを立案し、各自が主体的に責任を果たしてテーマを完結させることができます。 ◎E：ホームページのデザインのほか、作成スケジュールの立案法、作成ドキュメントの記述法、マルチメディアの活用法、効果的なプレゼンテーションの方法などを理解し、実践できます。
授業計画	1　オリエンテーション（WebClassによる動画資料の閲覧の方法などICT環境の導入、Gr討議と発表） 自己紹介と授業の進め方に関するオリエンテーション、および、グループ分けとグループ別ネットショップテーマ検討 2　ネットショップの作り方1（WebClassで動画資料閲覧、質疑応答） 道具を使った基本的なウェブサイトの作成演習 3　ネットショップの作り方2（WebClassで動画資料閲覧、質疑応答） 既存のネットショップの起動と操作演習、および、改造法 4　制作企画の方法と実践（WebClassで動画資料閲覧、Gr討議と発表） 制作企画の方法説明とグループ別制作企画書の作成 5　作品制作1（グループワーク：作品制作、プレゼンテーション：進捗発表） グループ別テーマを具体的な作品として作成、および、今回の作業内容と次回予定を報告 6　作品制作2（グループワーク：作品制作、プレゼンテーション：進捗発表） グループ別テーマを具体的な作品として作成、および、今回の作業内容と次回予定を報告 7　作品制作3（グループワーク：作品制作、プレゼンテーション：進捗発表） グループ別テーマを具体的な作品として作成、および、今回の作業内容と次回予定を報告 8　作品制作4（グループワーク：作品制作、プレゼンテーション：進捗発表） 中間発表として、制作の進捗状況と途中作品を発表 9　作品制作5（グループワーク：作品制作、プレゼンテーション：進捗発表） グループ別テーマを具体的な作品として作成、および、今回の作業内容と次回予定を報告 １０　作品制作6（グループワーク：作品制作、プレゼンテーション：進捗発表） グループ別テーマを具体的な作品として作成、および、今回の作業内容と次回予定を報告 １１　作品制作7（グループワーク：作品制作、プレゼンテーション：進捗発表） グループ別テーマを具体的な作品として作成、および、今回の作業内容と次回予定を報告 １２　作品制作8（グループワーク：作品制作、プレゼンテーション：進捗発表） グループ別テーマを具体的な作品として作成、および、今回の作業内容と次回予定を報告 １３　作品制作9（グループワーク：作品制作、プレゼンテーション：進捗発表） グループ別テーマを具体的な作品として作成、および、今回の作業内容と次回予定を報告 １４　制作した作品のプレゼンテーション（WebClassによるBest3選定、質疑応答、Gr討議と発表） 完成した作品のプレゼンテーションと評価 １５　最終報告書の作成とセキュリティについて（WebClassで動画資料閲覧、質疑応答） 成果物の整理と最終報告書の作成、および、ウェブのセキュリティ上の課題説明。
到達目標・基準	○A：グループで制作するテーマを立案し、成果を出すことができます。 ◎E：ネットショップのデザインなど、ICTを利用したモノづくりの経験を積むことができます。
事前・事後学習	事前学習：前回の活動を振り返り、うまく行かなかったことを相談できるように整理しておく。また、次回どのように活動するか検討（60分程度）。 事後学習：講義や活動の過程で分かったことや、用語・考え方を整理して次回以降の活動に備える。課題のある場合は回答を作成し、指定の期限までに提出（60分程度）。
指導方法	ネットショップの作成方法、企画と制作の手順、ドキュメントの作成方法などを、各グループの活動の進行に合わせて行います。また、各自の主体的な活動を重視しますが、必要に応じて、グループによる制作活動を円滑に進めるための知識・技術の講義を行います。なお、進捗や成果のプレゼンテーションにより各グループの状況を共有し、面談・相談などをとおして各グループが活動的に作業を進められるよう調整します。 フィードバックの方法：プレゼンテーションにはその場でコメントし、作品制作の進捗に応じた助言を提示します。
成績評価の方法・基準	○A：共同作業によるモノづくりのスケジュールの進捗状況、あるいは、スケジュール上の問題の対処を評価。 ◎E：各グループの進捗に応じた中間成果物、プレゼンテーション、および、成果物の出来栄えを評価。 受講態度３０%、授業での発言、中間成果物、プレゼンテーション３０%、成果物４０%

テキスト	技術的な要点をWebClassなどから参照できるデジタル教材として提供します。
参考書	各グループの制作状況に応じて適宜授業中に指示します。
履修上の注意	ネットショップなどの制作のために、各種技術・方法を自分で調べて身につけるための科目です。受け身の授業ではなく、自主的に研究する姿勢で、調べたことを実践し、理解を深めてください。ここで活動した内容は、短大生としての 2 年間のまとった学習成果として役立てることができます。重要な連絡は、5Fの掲示板や教員からのメールで知らせますので、掲示板やメールは毎日一度は見る習慣をつけてください。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション
ＩＣＴの活用	WebClass

講義科目名称：メディアコンテンツ演習Ａ　　授業コード：2411　2412

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	国専：選択
担当教員			
小山洋行			
Subject Code：E16C46			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	デザイン分野で必須のソフトウェア「Adobe Illustrator」や「Adobe Photoshop」を用いて、総合的なデザインを学ぶ演習である。 基本的な技術から応用技術まで幅広い範囲を段階的に学習することで、状況に合わせたソフトウェアの活用方法を修得する。 なお、メディアコンテンツ演習Aでは「Adobe Illustrator」を主とした演習を行い、「Adobe Photoshop」は補助的に使用する。 (授業目標) ○Ｄ:多くの人々が利用しやすいようにデザイン（ユニバーサルデザイン）をすることができる。 ◎Ｅ:IllustratorとPhotoshopでデザインができる。
授業計画	1　Illustrator 基本（1）（実習　イラストレータ修得） 文字入力、図形作成、配置、色についてを実践します。 2　Illustrator 基本（2）（実習　イラストレータ修得） 文字の行間、文字詰め、フォントの種類によるイメージ効果を学びます。 3　Illustrator 基本（3）（実習　イラストレータ修得） 写真画像の配置、袋文字の活用方法を実践します。 4　文字を活用したデザイン　(1) 就職活動等にも活用可能な名刺のデザインを行います。 5　文字を活用したデザイン　(2) 名刺デザインを画像と文字を使い構成します。 6　パスツール実戦 Illustrator のパスを扱えるよう実践します。 7　キャラクターデザイン（1） LINEスタンプに活用できるような「感情に訴える」キャラクターを考えます。 8　キャラクターデザイン（2） 考えたキャラクターをイラストレータでデザインします。 9　制作課題 キャラクターのデザインをイラストレータのパスの機能を活用し細かなところまで丁寧に作成します。 10　制作課題 キャラクターデザインを完成させ、提出し、キャラクターの表情や動きなどの魅力が出ているか講評を行います。 11　WEBデザインでのIllustratorの活用方法 イラストレータの特徴をふまえ、効率よくデザインする為のノウハウを学びます。 12　インターフェイスデザイン（1） WEBページ等にあるボタン等を考察し、傾向を見いだします。 13　インターフェイスデザイン（2） ボタン等をロールオーバー時も含めたデザインをします。 14　Photoshop　基本　(1)（実習　フォトショップ修得） 文字、図形、レイヤーの扱い方を実践します。 15　Photoshop　基本　(2)（実習　フォトショップ修得） 写真画像の加工の仕方を実践します。
到達目標・基準	多様なウェブデザインスキルを求められる近年の状況に応える為の演習です。多くの人々が利用しやすいようにデザイン（ユニバーサルデザイン）するといった「思いやりのあるデザイン」を出来るようにする。情報設計をしながら、より魅力的なものをデザイン出来るようにする。色彩感覚、構図・構成、文字の扱い方等の基礎力を身につける。 LINEスタンプのような感情に訴えるキャラクターデザインが出来るよう学ぶ。 ○Ｄ:見やすいデザインができる。 ◎Ｅ:IllustratorとPhotoshopの操作ができる。
事前・事後学習	事前学習：普段の生活の中にあるデザインされたものをより意識して見て、本質を見抜き自分の表現の引き出し作りをする。（30分） 事後学習：自分のデザインしたものを客観的にとらえ、マーケット的にどの立ち位置にあるかを意識し、更なるクオリティアップのための考察を行う。（30分）
指導方法	実習形式の授業です。幾つかの制作課題を与えながら指導する。 課題作品の講評や質疑応答によるフィードバックを行う。
成績評価の方法・基準	授業態度、実習結果、および提出課題で評価する。 授業態度 30%、実習結果・提出課題　70% Ｄ:課題で作成したデザインが見やすい、わかりやすいか評価する。

	Ｅ:IllustratorとPhotoshopの適切な操作をしてデザインがされているか評価する。
テキスト	資料を配布します。
参考書	
履修上の注意	「地味な事でもコツコツ積み上げて行くのが好き」「色の組み合わせを考えるのが好き」「人のためになるデザインが好き」「絵を描くのが好き」といった方に向いている実習である。
アクティブ・ラーニング	実習
ＩＣＴの活用	ソフトウエア　Adobe photoshop、 Adobe Illustrator、 ウェブブラウザ 、インターネットを活用

講義科目名称：メディアコンテンツ演習Ｂ　　授業コード：2431　2432

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：選択
担当教員			
小山洋行			
Subject Code：E26C47			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	デザイン分野で必須のソフトウェア「Adobe Illustrator」や「Adobe Photoshop」を用いて、総合的なデザインを学ぶ演習である。 基本的な技術から応用技術まで幅広い範囲を段階的に学習することで、状況に合わせたソフトウェアの活用方法を修得する。 メディアコンテンツ演習Ｂでは「Adobe Photoshop」を主とした演習を行い、「Adobe Illustrator」は補助的に使用する。 (授業目標) ◎Ｄ:マーケティングを考慮し、消費者の行動や価値観を分析したのちターゲットを決めて、それに合わせたデザインができる。 ○Ｅ:IllustratorとPhotoshopを連携させてデザインができる。
授業計画	1　ECサイトデザイン研究、リサーチ（実習　イラストレータ、フォトショップ修得） ECサイトデザインにおいて必要不可欠な物をリサーチしレポートにまとめます。 2　ECサイトブランド構築 ECサイト研究に基づき、オリジナルセレクトショップの構想をたてます。 3　Photoshop応用（1） 文字の扱い方や図形の作成、グループ化、整列方法など実践します。 4　Photoshop応用（2） ショートカット操作を覚え作業効率を良くして行きます。 5　色彩 色の活用の仕方を、デザインを行いながら研究します。 6　構図構成 枠の中にどのように配置すれば、意図した事を伝えられるか学びます。 7　ECサイトデザイン制作（1） リサーチした結果をふまえ、オリジナルセレクトショップのデザインを行います。 8　ECサイトデザイン制作（2） オリジナルセレクトショップのブランドイメージを意識してデザインします。 9　ロゴデザイン（1） Illustrator でオリジナルセレクトショップのWEBサイトに載せるロゴデザインをします。 10　ロゴデザイン（2） ロゴデザインを5種類デザインしその中から一番適切な物を採用し、WEBデザインの中に組み込みます。 11　Photoshop と Illustrator の連携 Photoshop と Illustrator の特徴を理解し、状況にあわせて使い分ける事を学びます。 12　ECサイトデザイン制作課題（3） ロゴデザインと調和するように調整して行きます。キャンペーンバナー等も加えてリアリティのあるデザインにします。 13　制作課題 ECサイトのクオリティを上げるための試行錯誤を行います。 14　ECサイトデザイン制作課題（発表、講評） 完成したデザインを発表し、講評も行います。 15　スマートフォンサイトデザイン（実習　スマートフォン応用） PC用にデザインしたECサイトをスマートフォン向けに調整し、レスポンシブデザインについて学びます。
到達目標・基準	多様なウェブデザインスキルを求められる近年の状況に応える為の演習です。消費者の行動や価値観の多様化に伴い、しっかりとマーケティングを考慮しターゲットを明確にして論理的なデザインが出来るようにする。情報設計をしながら、より分かりやすく見やすいデザインが出来るようにする。色の構成や文字の扱いの基礎力を身につける。 セレクトショップのWEBデザインが出来るように学ぶ。 ◎Ｄ:ターゲットの立場を考えた「思いやりのあるデザイン」ができる。 ○Ｅ:IllustratorとPhotoshop双方のデータのやりとりができる。
事前・事後学習	事前学習：普段の生活の中にあるデザインされたものをより意識して見て、本質を見抜き自分の表現の引き出し作りをする。（30分） 事後学習：自分のデザインしたものを客観的にとらえ、マーケット的にどの立ち位置にあるかを意識し、更なるクオリティーアップのための考察を行う。（30分）
指導方法	実習形式の授業です。幾つかの制作課題を与えながら指導する。 課題作品の講評や質疑応答によるフィードバックを行う。
成績評価の方法・基準	授業態度、実習結果、および提出課題で評価する。 授業態度 30%、実習結果・提出課題　70%

	D:「思いやりのあるデザイン」「マーケティングを意識したデザイン」になっているかを評価する。 E:デザインする要素に応じてIllustratorとPhotoshopを効率よく活用できているかを評価する。
テキスト	資料を配布する。
参考書	
履修上の注意	「地味な事でもコツコツ積み上げて行くのが好き」「色の組み合わせを考えるのが好き」「人のためになるデザインが好き」「絵を描くのが好き」といった方に向いている実習である。
アクティブ・ラーニング	実習
ＩＣＴの活用	ソフトウエア Adobe photoshop、 Adobe Illustrator、 ウェブブラウザ 、インターネットを活用

講義科目名称：マルチメディア演習Ａ　　授業コード：2451

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	国専：選択
担当教員			
伊波祥代			
Subject Code：E16C48			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	「ウェブデザイン実務士」資格取得のための必修科目です。効果的で説得力のあるウェブページデザインを実現するために、まずは色彩の基本知識を学びます。色彩の本質を理解し、色彩によるコミュニケーション、色彩心理、色彩計画について学んだ後、グラフィック系アプリケーションのPhotoshopを使って、色調補正、画像合成、エフェクト加工など、具体的なグラフィック制作の手法を習得していきます。 ○D：色彩理論を理解し、WEB制作における適切な画像処理ができる。 ◎E：Photoshopでの色調整、エフェクト加工、合成技術を用いて、効果的な表現ができる。
授業計画	1　ガイダンス 授業の概要/講師紹介/過去の学生の作品紹介 2　色彩の基礎知識 印刷用媒体（CMYK）とWEB媒体（RGB）の色の違いの学習/明度・彩度・色相の理解 3　グラフィックソフトでの色の作成 明度・彩度・色相の概念、およびRGBの数値に基づき、実際に色を作成する。 4　HTMLの16進数カラーの理解 Photoshopで作成した色を、htmlで記述する方法を学ぶ。 5　色彩の効果についての学習（プレゼンテーション：各自が発表） テーマカラー別に、実際のサイトを検証する。 6　画像の圧縮 GIF、JPG、PNGの圧縮方法の違いの理解／圧縮方法ごとの書き出し結果の違いを検証。 7　解像度とトリミング Photoshop画像を用い、解像度の概念の理解、および数値を入力してのトリミング方法を習得。 8　色補正／色調整 実際の写真を用いて、色補正、色調整などの方法を学ぶ。 9　画像合成 画像の切り抜きをして、２つ以上の写真を１枚の画像に合成する。 10　テキストのデザイン Photoshopを使い画像に文字を配置し、エフェクト、レイヤースタイル、マスクを使い、効果的な表現方法を学ぶ。 11　メディアからの画像の取り込み デジカメやスマートフォンで撮影した写真を、パソコンに取り込む 12　自由制作1 修得したPhotoshop技術を用いて、自らが想定したECショップのホーム画像／バナー画像の作成。 13　自由制作2 修得したPhotoshop技術を用いて、自らが想定したECショップのホーム画像／バナー画像の作成。 14　自由制作3 修得したPhotoshop技術を用いて、自らが想定したECショップのホーム画像／バナー画像の作成。 15　発表／講評（プレゼンテーション） 各自が制作したデザインのプレゼンテーションを行う。
到達目標・基準	○D：色の３原則、画像の圧縮方法について説明できる。 ◎E： Photoshopを使って画像データの色調整ができる。画像合成ができる。
事前・事後学習	事前学習:次の授業で行う工程に合わせ、必要な素材を用意する(60分) 事後学習:授業内で出た課題を完了させる。(60分)
指導方法	課題に沿って講義を行い、その後一人1台ずつパソコンを使用して演習を行う。 毎回の授業で与えられた課題を制作し、完成させたグラフィックデータを提出する。 学生が考察した内容を発表し、自分の作品のプレゼンテーションも行う。 フィードバック方法：授業後、質疑に対して個別対応する。
成績評価の方法・基準	○D：色彩理論と画像処理の基本知識を理解できているかを評価する。 ◎E：習得した技術を応用し、見やすく質の高い表現が実現できているかで評価する 授業毎の課題提出物：３０％、レポート：２０％、最終自由作品：５０％
テキスト	授業で必要な資料は配布するので、テキストの購入の必要はありません。
参考書	
履修上の注意	画像の編集技術など、授業内で説明した内容を聞き逃すと、自由作品制作時など後から支障がでてきます。授

	業中の私語は慎み、できるだけ欠席も控えるよう心がけてください。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション・ディスカッション
ＩＣＴの活用	Webclass

講義科目名称：マルチメディア演習Ｂ　　授業コード：2461

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：選択
担当教員			
伊波祥代			
Subject Code：E26C49			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	学生自らが作成したシナリオに基づき、撮影、編集、書き出しまでを行い、1本の動画作品として完成させます。ビデオ編集はAdobe Premiere Proを使用して制作を行い、最後には各自の作品の上映会を行います。 これまで閲覧する側だった動画も、自分で意図した通りに自由に編集、表現できるようになり、制作の醍醐味を楽しんでもらえる時間となるはずです。 ◎D:デジタルデータの特性を理解し、動画編集ソフトのエフェクト効果の適応、合成機能など高度な編集ができる。 ○E:技術を駆使し、見る側の感情に訴えかけるような表現ができる。
授業計画	1　ガイダンス 授業紹介、講師紹介，昨年の学生の作品紹介 2　デジタルビデオの基本知識 作業の流れの把握 解像度、圧縮形式などの学習+チュートリアル（体験） 3　プレミアの基本操作（１） チュートリアルレッスン（クリップの編集/各種ツールの使い方） 4　プレミアの基本操作（２） チュートリアルレッスン（タイトルの挿入/図形の描画/トランジション/マーカー） 5　プレミアの基本操作（３） チュートリアルレッスン（透明度/キーフレームアニメーション） 6　プレミアの基本操作（4） チュートリアルレッスン（エフェクト/合成） 7　動画ファイルの取り込み 自分のスマホの動画ファイルをパソコンに取り込み、Premiereで編集をする 8　作品計画の立案（プレゼンテーション） シナリオに基づき、撮影方法、出演者、サウンドの用意など、具体的な方法を発表 9　ビデオ編集（１） ビデオ撮影／編集 10　ビデオ編集（２） タイトル、キャプションの挿入 11　ビデオ編集（３） 写真やサウンドの挿入 12　ビデオ編集（４） 各自編集作業を続ける 13　ビデオ編集（５） 各自編集作業を続ける 14　ビデオ編集（６）　書き出し 完成した作品を、書き出す 15　作品発表会（プレゼンテーション：最終プレゼンテーション） 各自の作品を上映、プレゼンテーションを行う
到達目標・基準	◎D:一動画編集作業の一連の流れ理解する。 ○E:動画編集ソフトの基本機能を使い、自分で撮影したビデオとBGMを素材に1本のビデオ作品を完成できる。
事前・事後学習	事前学習:次の授業で行う工程に合わせ、必要な素材を用意する(60分) 事後学習:授業内で出た課題を完了させる。(60分)
指導方法	課題に沿って講義を行い、その後一人1台ずつパソコンを使用して演習を行う。 毎回の授業で与えられた課題を制作し、完成させビデオデータを提出。後半の６回の授業では、自由作品として自分の立てたシナリオに沿って映像作品を完成させ、最後に鑑賞会・講評会を行う。 フィードバック方法：課題については、授業後個別対応する。
成績評価の方法・基準	○D:チュートリアル課題において、基本知識、技法が身についているかで評価する。 ◎E:後半６回の授業を通じて制作する自身の作品において、習得した技術を応用し、質の高い表現が実現できているかで評価する 授業毎の課題提出物:30%、レポート:20%、最終自由作品:50%
テキスト	授業で必要な資料は配布するので、テキストの購入の必要はありません。
参考書	

履修上の注意	編集技術など、授業内で説明した内容を聞き逃すと、自由作品制作時など後から支障がでてきます。授業中の私語は慎み、できるだけ欠席も控えるよう心がけてください。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション
ＩＣＴの活用	Webclass

講義科目名称：プロジェクト演習Ａ　　授業コード：2521

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	国専：選択必修
担当教員			
西岡健自、別宮玲			
Subject Code：E26B50			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	社会人として必要な主体性、責任感、計画性を涵養する授業である。 本授業では、自ら15週の達成目標を設定し、それを実現するために活動することを求められる。 テーマはこれまでに学んだ授業の延長線上にある応用や発展テーマでも良いし、自分の関心の高い別分野を選んでも良い。 またテーマを複数用意し、授業の前半と後半で別テーマに取り組んでも構わない。 授業の流れは企画→制作→発表となる。授業計画に例を示すので参考にすること。 (授業目標) ◎Ａ：高い目標をテーマに掲げ、現実的な計画を立てることができる。 ○Ｅ：これまでに習得した技術を生かした成果をあげ、その成果をプレゼンテーションすることで聴衆の共感を得ることができる。
授業計画	1　ガイダンス（別宮）(グループワーク:グループでテーマに沿って活動) ・授業の進め方の説明とグループ分けを行う。 2　グループテーマの設定（別宮）(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(プレゼンテーション:Netウィッチで進捗報告) ・各グループごとに何を作成するか検討する。 ・役割分担と大まかなスケジュールを作成する。また必要な機材や費用を見積もる。 ※以下、「芝公園周辺を海外の人たちにアピールする動画の作成」をテーマとした場合の計画を示す 3　コンテンツの検討（別宮）(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(プレゼンテーション:Netウィッチで進捗報告) ・芝公園の何をアピールするのか、どこに取材に行くのかを検討する。 ・前回より詳細なスケジュールを作成する。 4　コンテの作成と取材の計画（別宮）(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(プレゼンテーション:Netウィッチで進捗報告) ・動画全体の流れをグループメンバーで共用できるようコンテを作成する。 ・インタビューや撮影に許可の必要な場所へのアポイントメントもここで行う。 5　コンテの作成と翻訳（１）（別宮）(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(プレゼンテーション:Netウィッチで進捗報告) ・動画全体の流れをグループメンバーで共用できるようコンテを作成する。 ・海外向けにキャプションなどの英訳を行う。 6　コンテの作成と翻訳（２）（別宮）(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(プレゼンテーション:Netウィッチで進捗報告) ・動画全体の流れをグループメンバーで共用できるようコンテを作成する。 ・海外向けにキャプションなどの英訳を行う。 7　内部レビュー（別宮）(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(プレゼンテーション:Netウィッチで進捗報告) ・ここまでの計画と成果物（ここではコンテ)をグループメンバーで確認し、修正が必要であれば行う。 8　取材（１）（西岡）(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(プレゼンテーション:Netウィッチで進捗報告) ・インタビューや撮影を行う。初日。 9　取材（２）（西岡）(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(プレゼンテーション:Netウィッチで進捗報告) ・インタビューや撮影を行う。二日目。 10　動画作成の準備（１）（西岡）(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(プレゼンテーション:Netウィッチで進捗報告) ・取材結果をまとめ、動画に必要な文章（台本やキャプション）にする。 ・海外向けにキャプションなどの英訳を行う。 11　動画作成の準備（２）（西岡）(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(プレゼンテーション:Netウィッチで進捗報告) ・取材結果をまとめ、動画に必要な文章（台本やキャプション）にする。 ・有識者の英訳のチェックが必要であれば、このタイミングで完了させると良い。 12　動画作成（１）（西岡）(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(プレゼンテーション:Netウィッチで進捗報告) ・動画を作成する。 ・動画への素材の取り込み、全体の流れの確認を行う。 13　動画作成（２）（西岡）(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(プレゼンテーション:Netウィッチで進捗報告) ・動画を作成する。 ・ブラッシュアップ。細かなタイミングの修正などを行う。 14　動画と発表台本の作成（西岡）(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(プレゼンテーション:Netウィッチで進捗報告) ・動画を完成させる。

	・最終成果発表用の台本を作成する。 15　最終成果発表（西岡、別宮）（プレゼンテーション:最終成果物を発表する） ・完成した動画を制作過程などを交えて発表する。
到達目標・基準	◎Ａ：実現可能な計画を立てることができる。 ○Ｅ：自らの取り組みの成果をプレゼンテーションできる。
事前・事後学習	事前学習：次回およびそれ以降の活動計画を作成する。（20分） 事後学習：授業の最初に進捗報告を行うため、授業後発表準備を行うこと。（30分） また、制作計画を達成するため、必要に応じて時間外でも積極的な活動を行うことを推奨する。授業時間外の設備の利用などは担当教員に相談すること。
指導方法	学生それぞれが決めたテーマに沿ってガイドする。全体に向けての解説は短時間で、多くの時間は制作のために使用する。作業の進み具合で、個人個人へ技術やアイデアについてサポートする。 成果物の種類はPCを使用した制作、レポートの執筆など、テーマに併せて決めて良い。 フィードバックの方法：毎回授業の最初に学生はグループごとに進捗をプレゼンテーションする。その場でクラス全員が聞いている中でのアドバイスを行うことで教員からのフィードバックを行う。また授業時間中も随時質問への対応を行う。
成績評価の方法・基準	Ａ：計画書と達成状況を評価する。 Ｅ：最終成果の報告（最終日に実施する成果報告）を評価する。 学習態度および進捗報告30%、作品と成果発表70% 作品は、最終成果の発表と品質に対し、評価ポイントをもとに評価する。評価ポイントはガイダンス時に発表する。
テキスト	特定の教科書は使用しない。 授業の要点については、デジタル教材で説明する。
参考書	
履修上の注意	テーマ設定に自由度を考慮した科目である。制作内容は学生毎あるいはグループ毎に異なる事となる。受け身の授業ではなく、自主的に研究する科目と考え、積極的に作業し、成果をあげて欲しい。 ここでのテーマは、他のワークショップにも引き継ぐ事ができ、短大生としてのまとまった学習成果として就職活動など今後に役立てられるものである。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション
ＩＣＴの活用	Netウィッチ

講義科目名称：プロジェクト演習Ｂ　　授業コード：2821

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	国専：選択
担当教員			
別宮玲			
Subject Code：E26C54			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	社会人として必要な主体性、責任感、計画性を涵養する授業である。 本授業では、自ら15週の達成目標を設定し、それを実現するために活動することを求められる。 テーマはこれまでに学んだ授業の延長線上にある応用や発展テーマでも良いし、自分の関心の高い別分野を選んでも良い。1年次にプロジェクト演習Ａを履修していた学生は、当時のテーマの発展テーマを扱うことを推奨する。またテーマを複数用意し、授業の前半と後半で別テーマに取り組んでも構わない。 授業の流れは企画→制作→発表となる。授業計画に例を示すので参考にすること。 (授業目標) ◎Ａ：高い目標をテーマに掲げ、現実的な計画を立てることができる。グループ内での役割分担を行い、相互の情報共有に基づいた適切な進捗管理を行うことができる。進捗管理を行うことで問題の発生を事前に気づき、担当教員に相談することができる。 ○Ｅ：これまでに習得した技術を生かした成果をあげ、その成果をプレゼンテーションすることで聴衆の共感を得ることができる。
授業計画	1　ガイダンス(グループワーク:グループでテーマに沿って活動) ・授業の進め方の説明とグループ分けを行う。 2　グループテーマの設定(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(プレゼンテーション:Netウィッチで進捗報告) ・各グループごとに何を作成するか検討する。 ・役割分担と大まかなスケジュールを作成する。また必要な機材や費用を見積もる。 ※以下、「３Ｄホログラムによる実在人物の立体動画の作成」をテーマとした場合の計画を示す 3　コンテンツの検討とスケジューリング(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(プレゼンテーション:Netウィッチで進捗報告) ・なにを３Ｄホログラムで表現するのか、そのためには何が必要なのかを検討する。 ・前回より詳細なスケジュールを作成する。全15回のスケジュールを完成させる。 4　３Ｄホログラム用の静止画撮影(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(プレゼンテーション:SKYMENUで進捗報告) ・プロトタイプとして静止画でのホログラムを作成。 ・スマートフォンで静止画撮影。 ・スマートフォンによる試験投影。 5　動画撮影（１）(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(プレゼンテーション:SKYMENUで進捗報告) ・撮影ブースで人物の動画を撮影する。 6　動画撮影（２）(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(プレゼンテーション:SKYMENUで進捗報告) ・前回の動画の問題点を解決する。画質の悪さ、明るさ、人物の着用する衣服の色などを変更する。 7　動画撮影（３）／グラフィックのテスト作成(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(プレゼンテーション:SKYMENUで進捗報告) ・前回までの試作を参考に、より大きな動きでの動画を撮影する。 ・GIFによるグラフィックによるアニメーションを試作する。 8　動画撮影（４）(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(プレゼンテーション:SKYMENUで進捗報告) ・引き続き、動画の撮影。 ・撮影された動画の背景処理を行う方法を学習する。 9　動画編集（１）(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(プレゼンテーション:SKYMENUで進捗報告) ・撮影された動画の背景処理を行う。 10　動画撮影（５）／動画編集（２）(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(プレゼンテーション:SKYMENUで進捗報告) ・前回の背景処理の結果を踏まえ、より処理のしやすい動画の撮影方法を考察し実施する。 ・撮影された動画の背景処理を行う。 11　動画編集（３）(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(プレゼンテーション:SKYMENUで進捗報告) ・撮影された動画の背景処理を行う。 ・背景処理を行った動画をスマートフォン用に書き出す。 12　動画編集（３）(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(プレゼンテーション:SKYMENUで進捗報告) ・Windows、Mac、Android、iPhone、それぞれの環境に適したファイル形式を研究する。 ・より高度な編集のため、アプリケーションの学習を行う。 13　動画編集（４）(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(プレゼンテーション:SKYMENUで進捗報告) ・最終版の動画編集を行う。 14　動画編集（５）(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(プレゼンテーション:SKYMENUで進捗報告)

	・引き続き最終版の動画編集を行う。 15　　最終成果発表(プレゼンテーション:最終成果物を発表する) ・完成した動画を制作過程などを交えて発表する。
到達目標・基準	◎Ａ：実現可能な計画を立てることができる。グループ内で適切な分担を行い、助けあいながら目標を達成することができる。 ○Ｅ：自らの取り組みの成果をプレゼンテーションできる。
事前・事後学習	事前学習：次回およびそれ以降の活動計画を作成する。（20分） 事後学習：授業の最初に進捗報告を行うため、授業後発表準備を行うこと。（30分） また、制作計画を達成するため、必要に応じて時間外でも積極的な活動をしていただきたい。授業時間外の設備の利用などは担当教員に相談すること。
指導方法	学生それぞれが決めたテーマに沿ってガイドする。全体に向けての解説は短時間で、多くの時間は制作のために使用する。作業の進み具合で、個人個人へ技術やアイデアについてサポートする。 成果物の種類はPCを使用した制作、レポートの執筆など、テーマに併せて決めて良い。 フィードバックの方法：毎回授業の最初に学生はグループごとに進捗をプレゼンテーションする。その場でクラス全員が聞いている中でのアドバイスを行うことで教員からのフィードバックを行う。また授業時間中も随時質問への対応を行う。
成績評価の方法・基準	Ａ：計画書と達成状況を評価する。 Ｅ：最終成果の報告（最終日に実施する成果報告）を評価する。 学習態度および進捗報告30%、作品と成果発表70% 作品は、最終成果の発表と品質に対し、評価ポイントをもとに評価する。評価ポイントはガイダンス時に発表する。
テキスト	特定の教科書は使用しない。 授業の要点については、デジタル教材で説明する。
参考書	
履修上の注意	テーマ設定に自由度を考慮した科目である。制作内容は学生毎あるいはグループ毎に異なる事となる。受け身の授業ではなく、自主的に研究する科目と考え、積極的に作業し、成果をあげて欲しい。 ここでのテーマは、他のワークショップにも引き継ぐ事ができ、短大生としてのまとまった学習成果として就職活動など今後に役立てられるものである。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション
ＩＣＴの活用	Netウィッチ

講義科目名称：Business Conversation：Office　　授業コード：2201　2202　2203

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	国専：選択必修
担当教員			
Peter Davies			
Subject Code：E16B52			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	This course is a basic introduction to English used in a variety of work and office situations. It follows a set pattern of exercises of classwork, pair work listening, reading and writing. Students must be prepared to engage in role play activities. To attain an A or S grade students have to shoe a high level of participation,understanding and use of language in each lesson. Also a final test score in the top 10% of the class. (Goals) ◎D: Students will practice in using key expressions, asking and answering questions, reading comprehension, and listening for detail. ○E: Students will be required to speak, listen, and write in English in situations dealing with office environment.
授業計画	1 Introduction (Pair work and role play) It's nice to meet you. 2 Clarifying Meanings (Pair work and role play) What does 'FYI' mean? 3 Phone Conversation(1) (Pair work and role play) May I speak to Mr. Yoshioka? 4 Phone Conversation(2) (Pair work and role play. Review quiz) May I take a message? 5 Calling in Sick (Pair work and role play) I have a headache. 6 Appointments (Pair work and role play) I have another appointment at 9:30. 7 Making Offers (Pair work and role play) Would you like something to drink? 8 Invitation (Pair work and role play. Review quiz) Let's go out for a drink. 9 Small Talk (Pair work and role play) How was your weekend? 10 Location (Pair work and role play) The sales department is on the 3rd floor. 11 Directions (Pair work and role play) Turn right on Main Street. 12 Instructions (Pair work and role play. Review quiz) First, press the start button. 13 Checking in at a Hotel (Pair work and role play) I'd like to check in. 14 Eating out (Pair work and role play) What would you like to have? 15 Presentation (Final review quiz and all students demonstrate pair work presentation) Review and final presentation.
到達目標・基準	The students will have to participate to the best of their abilities and show a basic understanding of the language and grammar use in each class. ◎D: Students will learn the vocabulary and grammar to communicate with each other in pairs and in groups. ○E: Students will be able to use key expressions, questions and vocabulary used in office environment.
事前・事後学習	Some homework will be set to prepare students for each lesson.(30 mins) Students will be expected to keep a vocabulary notebook.(60 mins)
指導方法	Each Unit should take 90 minutes to complete. All classes will be taught in English. Students will work in pairs each week. Continuous personal feedback regarding participation in class. Results of quiz scores graded and awarded to all students by the teacher. Note books will be collected and reviewed by the teacher in weeks 7 and 14.
成績評価の方法・基準	◎D: Reading, writing and listening components of each unit to be tested with regular reviews ○E: Students will be evaluated by small tests and their note book

	Small tests 20% Note book taking 20% Participation 20% Final test 40%
テキスト	First Steps to Office English. T. Kudo Cengage 2011
参考書	
履修上の注意	Students will be expected to work in pairs and as a group.They will practice communicating in English each week. Every student is expected to keep a notebook for vocabulary and homework assignments.
アクティブ・ラーニング	Pair work. Role play.
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：ビジネス概論　　授業コード：2571　2572

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	国専：選択必修
担当教員			
西岡健自			
Subject Code：E17B53			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ビジネスとは何か、人々はビジネスとどう関わっているのか、ビジネスを実践する企業は何を求め、どのように活動しているのか、そうした企業を社会はどう評価するのか、ICTの社会への浸透によりビジネスはどう変わるのかなど、また、生活と収入の関係、企業研究の方法など社会生活や就職活動に必要となる知識を学習します。 (授業目標) ○C：収入と生活の関係やビジネスの収支のシミュレーションなどをとおして、社会人として論理的に考える方法や判断の仕方を身につける。 ◎D：社会とビジネスの基本的な仕組みについて理解を深め、基本的なビジネス用語などを使ってコミュニケーションを円滑に行うことができる。
授業計画	1　オリエンテーション（WebClassの運用方法、反転授業の方法などICT環境の導入） 自己紹介と今後の進め方、グループ（Gr）分けについて 2　ビジネス活動の概要１（WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） ビジネスの定義と産業の種類 3　ビジネス活動の概要２（WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） ビジネスの種類と関係する人々の役割 4　ビジネス活動の概要3（WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） ビジネスの流れと初任給、および、生活に必要なお金の検討 5　ビジネス活動の概要4（WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） ビジネスの収支計算の方法、および、一人暮らしの家計簿作成 6　ビジネス活動の概要5（WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） 企業の経営と組織、および、一人暮らしの家計簿のグループ別プレゼンテーション 7　ビジネスとICT1（WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） 企業の取引形態の変化とビジネスを支える業務システムの種類と役割。 8　ビジネスとICT2（WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） 企業の収益を支えるビジネスモデル１ 9　ビジネスとICT3（WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） 企業の収益を支えるビジネスモデル２ 10　就職に向けた基礎知識1（WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） 業界と職種について、および、最近の就職活動の状況とビジネスシミュレーション１（起業） 11　就職に向けた基礎知識2（WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） 企業から見た新卒への期待と人事評価、および、ビジネスシミュレーション２（収益の確保） 12　就職に向けた基礎知識3（WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） 社会から見た企業に対する客観的評価と労働基準法 13　就職に向けた基礎知識4（WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） 企業研究の目的と方法、および、企業研究の実践。 14　就職に向けた基礎知識5（Gr討議と発表） 企業研究の実践と研究成果のグループ別プレゼンテーション。 15　女性の労働環境（WebClassで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） 国内の女性の労働環境の現状と改善の方向。
到達目標・基準	○C：収入と生活のシミュレーションなどをとおして社会人として論理的に考え、判断する方法を理解できる。 ◎D：社会の基本的な仕組みについて理解を深め、基本的なビジネス用語などを理解できる。
事前・事後学習	事前学習：事前に提示する視聴覚資料(事前学習資料)をよく理解し、末尾に記載の宿題を行う(60分程度)。 上記視聴覚資料にあるテーマについて、グループで積極的に討議できるよう準備する（45分程度）。 事後学習：用語や考え方の整理、用語間の関連性などの理解・確認を行い、演習などの課題のある場合は回答を作成して、指定の期限までに提出する（75分程度）。
指導方法	スマホからも参照できるWebClassを利用したナレーション付動画情報（事前学習資料）に基づく事前学習、配布資料（パワーポイントなど）に基づく講義、グループ討議、討議結果のプレゼンテーション、WebClassを利用した小テストなどを適宜行います。また、調査・分析の必要な宿題や課題の実行をとおして、意見をまとめる練習を行います。 フィードバックの方法：プレゼンテーションとグループ討議にはその場でコメントし、小テストには正誤と正解を即座に提示します。
成績評価の方法・基準	○C：企業研究などの調査結果や適宜行うプレゼンテーションの内容を評価。 ◎D：課題回答や小テストの結果を評価。 受講態度　30%、授業での発言/プレゼンテーション、小テスト、課題提出　30%、期末テスト　40%

テキスト	事前に提示する視聴覚資料、小テスト、講義資料をデジタル教材として提供します。
参考書	就職四季報 女子版　2020（東洋経済）、その他、必要に応じて授業中に指示します。
履修上の注意	１年生の後期以降は就職活動が始まります。この科目は進路に関わる内容が多く含まれます。自分の将来を考えながら演習やグループ討議に積極的に参加し、キャリアプランに生かせるようにしましょう。 　また、基本的な知識は相互に関連していますので、毎回必ず出席してください。重要な連絡は、5Fの掲示板や教員からのメールで知らせますので、掲示板やメールは毎日一度は見るようにしてください。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション
ＩＣＴの活用	WebClass、Netwitch

講義科目名称：ビジネスプレゼンテーション実践演習　　授業コード：2581　2582

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：選択必修
担当教員			
中村敏			
Subject Code：E27B54			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	本授業は、様々なビジネスシーンで必要となるプレゼンテーションスキルを自律的に学習できるように、対話形式の講義を行うとともに、ワークショップ形式で授業を進める。また、身近な題材を取り上げることにより、受講者が楽しみながら学べる授業を目指している。授業の成果発表として、全員が複数回のプレゼンテーション実習を行う。 以下に示した授業目標は、発表者と聞き手の関係の中で設定している。 (授業目標) ◎B：聞き手の立場とメリットを十分に理解し、聞き手に分かりやすく自分の考えを正確に伝え、行動させることができる。 ○C：聞き手の現状と目指すべきゴールとのギャップを的確に把握し、ゴールに導くアイデアを論理的に整理することができる。また、聞き手の理解度に合わせて説明する内容を替えることができる。
授業計画	1　ガイダンス、プレゼンテーションとは何か（ICT：スマホ、タブレット、PCを活用し自ら学習を行う全15回） キーメッセージ「資格では差がつかないが、伝え方では差がつく」 授業の進め方のオリエンテーションを行い、授業の全体像、心構え、内容、進め方について理解する。受講者の考えるプレゼンテーションとは何か、本授業を通して何を身に付けたいのかを自己紹介とともに話してもらう。受講者全員のプレゼンテーションに対する認識の整理と本授業のゴールを明確にする。（全員が必ず発表する） 2　プレゼンテーションの本質、聞き手志向とは キーメッセージ「何故､プレゼンテーションをするのか？」 前回の授業で整理したプレゼンテーションに対する認識から、プレゼンテーションの成功とは何なのか？　聞き手の立場から考える。この時、非常に重要な聞き手の特性として、抵抗の６階層について学ぶ。 3　創造的な作業、ブレインストーミング演習①（グループワーク、プレゼンテーション：ブレーンストーミングからグループのまとめを発表） キーメッセージ「プレゼンテーションの最初の一歩はアイデアの創造」 本演習は、グループワークで行う。 テーマ：コンビニエンスストアの店長になった時、今よりも儲けるためにはどうすれば良いのか？ ブレインストーミングによる、アイデア出し、アイデアの誘発・拡散を行い、その結果から採用するアイデアの整理、絞り込みを行う。アイデアを実現するために、誰に、どのようなプレゼンテーションをすれば良いのかを整理する。（グループワークを通じて代表者が発表する） 4　創造的な作業、ブレインストーミング演習②（グループワーク、プレゼンテーション：ブレーンストーミングからグループのまとめを発表） キーメッセージ「ブレストはアイデアの相互作用、誘発を狙う場所」 本演習は、グループワークで行う。 テーマ：コンビニエンスストアの店長になった時、今よりも儲けるためにはどうすれば良いのか？ ブレインストーミングによる、アイデア出し、アイデアの誘発・拡散を行い、その結果から採用するアイデアの整理、絞り込みを行う。アイデアを実現するために、誰に、どのようなプレゼンテーションをすれば良いのかを整理する。（グループワークを通じて代表者が発表する） 5　プレゼンテーションの効果的な構成（グループワーク、プレゼンテーション：ブレーンストーミングからグループのまとめを発表） キーメッセージ「発表者は聞き手のナビゲーター（論理的な流れ）」 プレゼンテーションを行う時、最もやってはいけないことは、聞き手に漂流させてしまうことである。話があちこちに行ってしまったり、聞き手を置いてきぼりにしたりすると、聞き手は何も聞かなくなる。これを防ぐためには、プレゼンテーションのシナリオ、世界地図が必要になる。ここでは、シナリオの作り方を学ぶ。 6　課題　プレゼンテーション実習①（グループワーク、プレゼンテーション：ブレインストーミングからグループのまとめを発表） キーメッセージ「聞き手に向けて地図を書く（聞き手を見ながら）」 ブレインストーミング演習の結果から、各自がプレゼンテーションの資料を作成する。グループ毎に各自がプレゼンテーションを行い、最もよかった発表者を選出する。各グループの代表者がプレゼンテーションを行い、受講者が評価し、コメントする。（全員が発表する） 7　課題　プレゼンテーション実習②（グループワーク、プレゼンテーション：ブレーンストーミングからグループのまとめを発表） キーメッセージ「聞き手に向けて地図を書く（聞き手を見ながら）」 ブレインストーミング演習の結果から、各自がプレゼンテーションの資料を作成する。グループ毎に各自がプレゼンテーションを行い、最もよかった発表者を選出する。各グループの代表者がプレゼンテーションを行い、受講者が評価し、コメントする。（全員が発表する） ここまでが、プレゼンテーションの本質であり、基礎にあたる。（聞き手志向、アイデア創出、シナリオ作成） 8　プレゼンテーションの効果的なスタート方法（グループワーク、プレゼンテーション：ブレーンストーミングからグループのまとめを発表） キーメッセージ「導入の言葉は自然に聞き手を引き込むような短い表現」 ここからは、プレゼンテーションスキルを高める応用について学習する。 聞き手は、ほとんどの場合、プレゼンテーションを聞く準備ができていない。これを発表者に注意を向けさせ、短時間でプレゼンテーションの内容に興味を持たせることがスムーズにプレゼン

		テーションを行う上で重要になる。ここでは効果的なスタート方法について学習する。（理解度を測定するワークを行い代表者が発表する）
	9	スライドの役割とは キーメッセージ「主役は「発表者」スライドは「脇役」（名脇役＝Less is More）」 プレゼンテーションの主役は、聞き手と発表者である。本来、スライドはプレゼンテーションを効果的に補助するためのものであるが、多くのプレゼンテーションではスライドが主役になっている。具体的には、発表者の話を聞かずに、スライドを読んでいる状態をさす。本来のスライドの役割を理解し、効果的なスライドの作成について学ぶ。（理解度を測定するワークを行い代表者が発表する）
	10	プレゼンテーションデザイン①　文字に語らせる キーメッセージ「文字に語らせる」 効果的に聞き手の記憶にメッセージを残すためには、「聞くこと」と「見ること」を同時に行う必要がある。この時、「見ること」であって「読むこと」ではない。（読み始めると、発表者の話を聞かない）自然と文字が語るスライドの作成について学ぶ。（理解度を測定するワークを行い代表者が発表する）
	11	プレゼンテーションデザイン②　数字に語らせる キーメッセージ「数字に語らせる」 数字は大きな力を秘めている。「多い」よりも「９０％以上」の方が、より明確にメッセージが伝わる。逆に数字の羅列は真実を隠す場合もある。文字と同様に、自然と数字が語るスライドの作成について学ぶ。（理解度を測定するワークを行い代表者が発表する）
	12	画像の優位性効果 キーメッセージ「百聞は一見に如かず」 「見ること」によって効果的にメッセージを伝えるものとして、写真がある。（動画もあるが、プレゼンテーションが中断されるので注意が必要）１枚の写真で多くのメッセージを伝えることができるが、選定が難しい。有効な写真の使い方について学ぶ。（理解度を測定するワークを行い代表者が発表する）
	13	聴衆と心を通い合わせる キーメッセージ「聞き手と心を通わせる」 最後に話し方である。流暢に話すことが良いとは限らない。朴訥でも聞き手の琴線に触れ、心を通い合わせることが重要である。その為には聞き手の立場に立って話す必要がある。聞き手と心を通い合わせる話し方について学ぶ。（理解度を測定するワークを行い代表者が発表する）
	14	最終課題　プレゼンテーション実習① 今まで学習してきたことをもとに、最終課題としてのプレゼンテーション実習を行う。 自分の好きなこと、興味のあることを１つ選び、受講者の前でプレゼンテーションを行う。成功基準は、受講者が、「（なぜ好きなのか、なぜ興味があるのか）なるほど分かった」「よし、私もやってみたい」と思うかどうか。（全員が発表する） 各自、発表者と他のプレゼンテーションの審査員を担当する。
	15	最終課題　プレゼンテーション実習② 今まで学習してきたことをもとに、最終課題としてのプレゼンテーション実習を行う。 自分の好きなこと、興味のあることを１つ選び、受講者の前でプレゼンテーションを行う。成功基準は、受講者が、「（なぜ好きなのか、なぜ興味があるのか）なるほど分かった」「よし、私もやってみたい」と思うかどうか。（全員が発表する） 各自、発表者と他のプレゼンテーションの審査員を担当する。
到達目標・基準	以下に示した到達目標は、発表者と聞き手の関係の中で設定している。 ◎Ｂ：聞き手の立場に立って、自分の考えを伝えることができる。 ○Ｃ：聞き手を導くゴールに向けてアイデアを論理的に整理して説明することができる。	
事前・事後学習	【事前学習】 PowerPointでの資料作成は事前に学習しておくこと（テンプレートの使い方、図の作成方法、画像やグラフの挿入方法）。（30分～1時間程度） 【事後学習】 講義内容は十分に復習すること。具体的にはWebClassに登録された講義資料（PowerPoint）をダウンロードし、ノートに書かれた説明を熟読すること。（30分～1時間程度） プレゼンテーション実習で使用するスライド作成は、授業時間外で十分に時間を確保して行うこと。（数時間程度）	
指導方法	対話形式の講義を行うことにより、疑問点の早期収束と人前で話すことに対する不安の解消を行う。ワークショップにおいては自主的に取り組むようにファシリテートする。プレゼンテーション実習では、講師だけでなく受講生もコメントを発表することにより、話し手、聞き手の両方からプレゼンテーションの本質を理解するように指導する。 後半のカリキュラムからは、より実践的に学習するために、優れたプレゼンテーション事例を取り上げケーススタディを行う。 フィードバックの方法：①ワークの実施　②スライド作成については個々にメールによる指導　③授業後の質疑応答	
成績評価の方法・基準	Ｂ：ワークショップにおけるチーム活動の取り組み状況と、聞き手を意識したプレゼンテーションの到達度で評価する。 Ｃ：各講義の課題に対する取り組み状況と、プレゼンテーションのシナリオの論理性で評価する。 評価は、授業への参加態度２０％、課題の取組み状況３０％、プレゼンテーション実習５０％の比率で行う。	
テキスト	購入テキストなし 講義資料を毎回配布する。	
参考書	パワー・プレゼンテーション　ジェリー・ワイズマン 著（ダイヤモンド社） シンプルプレゼン　ガー・レイノルズ 著（日経ＢＰ社） マッキンゼー流プレゼンテーションの技術　ジーン・ゼラズニー 著（東洋経済新報社）	
履修上の注意	プレゼンテーション実習は必ず出席すること。また、ワークショップの構成上、極力遅刻は避けること。各自設定したテーマのプレゼンテーションの作成は授業内容を踏まえ授業時間外での自習時間を当てること。グループワークは集団行動の基本を順守し、グループの和を乱すような態度や言動を慎むこと。	
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション	
ＩＣＴの活用	スマホ、タブレット／PC	

講義科目名称：ビジネス文書処理演習　　授業コード：2491　2492

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	1	1	国専：選択必修
担当教員			
福田博志			
Subject Code：E17B55			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	PCを用いた文書作成スキルはあらゆる職業で必要されるといっても過言ではないだろう。 また学生生活においてレポート課題など文書作成を求められる場面も非常に多い。 本授業ではMicrosoft Office Specialist（MOS）検定の「Microsoft Office Word 2016」の出題範囲にそって文書作成のためのアプリケーションであるWordの機能を学習する。また、試験に合格するコツや、テクニックなどについても学習する。 (授業目標) ◎E：文書の作成と管理について、MOS Word 合格相当のPCの操作ができる。 ◎E：文書内に書式やページレイアウトを設定し、表、グラフィックや参考資料を挿入し管理する方法について、MOS Word 合格相当のPCの操作ができる。
授業計画	1　ガイダンス 授業目標および授業内容の説明 成績評価方法の説明 MOSの概要説明 演習環境に関する説明 2　文書の作成と管理（1）：（実習： PCによる演習） 文書を作成する 文書内を移動する 3　文書の作成と管理（2）：（実習： PCによる演習） 文書の書式を設定する 文書のオプションと表示をカスタマイズする 4　文書の作成と管理（3）・文字、段落、セクションの書式設定（1）：（実習： PCによる演習） 文書を印刷する、保存する 「文書の作成と管理」確認問題を実施し標準解答を確認する 文字列や段落を挿入する 文字列や段落の書式を設定する 5　文字、段落、セクションの書式設定（2）・表の作成　：（実習： PCによる演習） 文字列や段落を並べ替える、グループ化する 「文字、段落、セクションの書式設定」確認問題を実施し標準解答を確認する 表を作成する 表を変更する 6　リストの作成・参考資料の作成と管理（1）：（実習： PCによる演習） リストを作成する リストを変更する 「表とリストの作成」確認問題を実施し標準解答を確認する 参照のための情報や記号を作成する、管理する 7　参考資料の作成と管理（2）・グラフィック要素の挿入と書式設定（1）：（実習： PCによる演習） 標準の参考資料を作成する、管理する 「参考資料の作成と管理」確認問題を実施し標準解答を確認する グラフィック要素を挿入する グラフィック要素を書式設定する 8　グラフィック要素の挿入と書式設定（2）：（実習： PCによる演習） SmartArt を挿入する、書式設定する 「グラフィック要素の挿入と書式設定」確認問題を実施し標準解答を確認する MOS 2016の試験形式 MOS 2016の画面構成と試験環境 MOS 2016の攻略ポイント 9　MOS 2016攻略ポイントおよび模擬試験プログラムの使い方　：（実習： PCによる演習） MOS 2016の試験形式、画面構成と試験環境の説明 模擬試験プログラムの起動方法および学習方法の説明 模擬試験実施時のトラブル対策と注意事項の説明 10　第1回試験対策講座　：（実習： PCによる演習） 第1回模擬試験を実施し、試験結果の課題に対し個別に対策を行う 11　第2回試験対策講座　：（実習： PCによる演習） 第2回模擬試験を実施し、試験結果の課題に対し個別に対策を行う 12　第3回試験対策講座　：（実習： PCによる演習） 第3回模擬試験を実施し、試験結果の課題に対し個別に対策を行う 13　第4回試験対策講座　：（実習： PCによる演習） 第4回模擬試験を実施し、試験結果の課題に対し個別に対策を行う 14　第5回試験対策講座　：（実習： PCによる演習） 第5回模擬試験を実施し、試験結果の課題に対し個別に対策を行う 15　第6回試験対策講座　：（実習： PCによる演習）

	ランダム問題による模擬試験を実施する
到達目標・基準	◎Ｅ：基本的な文書の作成および管理ができる。 ◎Ｅ：文書内に書式やページレイアウトを設定し、表、グラフィックや参考資料を挿入するための基本的な操作ができる。
事前・事後学習	事前学習：６回のMOS模擬試験は、出題範囲が事前に明確になっているため、充分な事前学習による高得点の獲得を期待する。(90分) 事後学習：各講義内容で十分に理解できなかった操作、模擬試験で正答できなかった問題は事後学習で各自補完すること。(60分)
指導方法	パソコンを操作する実習が中心である。前半は講師と共に行う操作練習、後半は個別演習形式で進める。 また授業終盤ではMOSの模擬試験による実践演習を行い、試験結果の課題に対し、個別で取り組み、質疑応答を行う。 フィードバックの仕方：課題に関しては、授業後、直接個別対応する。
成績評価の方法・基準	◎Ｅ：PCを利用したMOSの模擬試験で文書の作成および管理に関する操作の評価を行う。 ◎Ｅ：PCを利用したMOSの模擬試験で書式、ページレイアウトの設定、表、グラフィック、参考資料の挿入に関する操作の評価を行う。 またMOS合格者は評価を原則1段階アップさせる。 （本来A評価の者をS評価に、B評価の者はA評価にアップ。元々S評価の者はそのままS評価の成績となる） 受講態度30%、総合演習70%の割合で成績評価を行う。
テキスト	よくわかるマスターMicrosoft Office Specialist Microsoft Word 2016 対策テキスト& 問題集 FOM出版
参考書	
履修上の注意	他のMOS資格（Excel、PowerPoint）の受験も視野に、計画的な学習をすること。 また、授業に際し、テキストは必携である。
アクティブ・ラーニング	実習
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：ネットコミュニケーション論　　授業コード：2471　2472

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	国専：選択
担当教員			
関亜紀子			
Subject Code：E26C52			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	今日、メールやWeb、SNSなどネットワークを利用した新たなメディアが登場しており、これらを活用した多様なコミュニケーション形態が登場しています。本講義では、これらのメディアの特徴の違いを学ぶと共に、演習を通してそれぞれの活用方法と作法を理解することを目的としています。講義の前半の回では、一般個人がコミュニケーションに用いるネットワークメディアについて学習し、後半はグループや組織、ビジネスでの情報およびノウハウの共有や協働作業などを支援するためのコミュニケーションメディアの活用方法について学習します。 (授業目標) ◎D：各種メディアを使ったネットコミュニケーションの特性の違いを理解し、それぞれの留意点を考慮した活用方法を説明できる ○E：ネットコミュニケーションツールを効果的に活用することができる。
授業計画	1　ガイダンス 講義計画、講義の進め方、成績評価に関する説明 ネットワークコミュニケーションの導入 2　コミュニケーションツールの分類１ ネットコミュニケーションに用いられているメディアの特徴の調査と分類 （実習　GoogleClassroom（学習管理システム）：調査結果の整理） 3　コミュニケーションツールの分類２ ネットコミュニケーションに用いられているメディアの特徴を分類のまとめ （実習　GoogleClassroom：調査結果の整理と考察） 4　身近なコミュニケーションツール１ 個人間のコミュニケーションに用いられている電子メールの基本ルールと作法を学ぶ （実習：メールによる日程調整）（実習　Gmail：メールの作成） 5　身近なコミュニケーションツール２ グループ内のコミュニケーションのためのメールの活用手法を学ぶ （実習：メールを使ったグループのコミュニケーション）（実習　Gmail：メールの送受信） 6　身近なコミュニケーションツール３ 個対多のコミュニケーションに用いられているWeb上のメディアの活用方法と作法を学ぶ （実習：添付ファイルの送受信）（実習　Gmail：ファイルの暗号化と送受信） 7　知識を共有するためのコミュニケーションツール Web上のメディアの活用方法と作法を学ぶ （実習：Wiki（文書の協働作成環境）を介したコミュニケーション）（実習　WebClass：Wikiによる集合知の構築） 8　業務を支援するためのネットコミュニケーション 営業活動などのノウハウを共有し、業務効率を向上させるためのコミュニケーションツールの活用方法を学ぶ 9　遠隔地間の会議を支援するネットワークメディアの活用方法を学ぶ 遠隔地間の会議を支援するネットワークメディアの活用方法を学ぶ （実習　グループワーク：チャット会議、電子会議室）（実習　WebClass：チャットと電子会議室による会議） 10　協働作業のためのネットコミュニケーション１ グループの協働作業を支援するコミュニケーションツールの活用方法を学ぶ１ （実習　グループワーク：電子会議の実践）（実習　GoogleClassroom：ファイルの共同編集と電子会議） 11　協働作業のためのネットコミュニケーション２ グループの協働作業を支援するコミュニケーションツールの活用方法を学ぶ２ （実習　グループワーク：電子会議の実践）（実習　GoogleClassroom：ファイルの共同編集と電子会議） 12　協働作業のためのネットコミュニケーション３ 知識を共有するためのコミュニケーションツールについて学ぶ 成果のプレゼンテーションとまとめ （実習　プレゼンテーション：全員が必ず発表する）（実習　WebClass：発表内容を相互評価する） 13　ネットコミュニケーションツールの活用時の留意事項１ 写真共有と活用時の注意点についてまなぶ 14　公共におけるコミュニケーションツールの活用事例 日常生活や災害時などの情報発信としてのコミュニケーションツールの活用事例を調査し発表する （実習　プレゼンテーション：全員が発表をする） 15　ネットコミュニケーションツールの活用時の留意事項２ ネットコミュニケーションにおける個人やプライバシー情報の取り扱いやデジタルデバイドの可能性について学ぶ （実習　GoogleClassroom：個々の意見の共有）
到達目標・基準	◎D：各種メディアを特性の違いを考慮した効果的な活用方法を説明できる

	○E：各種メディアを活用してネットコミュニケーションをすることができる
事前・事後学習	事前学習： 次回の講義で扱うネットワークメディアについて調査し，概要をまとめる。（60分程度） 事後学習： 講義時間内に指示した課題を完成させる。（90分程度） 講義で扱ったメディアの特徴を整理し，ポイントをまとめる。（70分程度）
指導方法	講義だけでなく、WebClassやGoogleのツールを活用したネットコミュニケーションの演習を取り入れる。 なお、講義時間内の演習課題は事後学習を通して完成させることを前提に進める。 授業課題のフィードバック方法：①授業内課題の実施、②クラス内での共有または採点（評価）返却、③授業後におけるコメントへの質疑対応
成績評価の方法・基準	◎D：授業課題および定期試験を評価する。 ○E：授業課題の活用履歴で評価する。 筆記試験 50%、　演習課題提出物（時間内および時間外）40%、　授業態度・貢献度 10%
テキスト	ゼロからはじめる情報リテラシー, 高橋尚子，技術評論社，2015年初版発行 ISBN978-4-7741-7059-6
参考書	
履修上の注意	文書作成やプレゼンテーション資料作成、各種情報の調査に必要な、基本的なコンピュータリテラシを備えていることを想定して講義を実施する。また、WebClassやGoogleのツールを使用するので、大学のメールアドレスのアカウントとパスワード等は事前に把握しておくこと。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、実習、プレゼンテーション
ＩＣＴの活用	WebClass、GoogleClassroom、Gmail、Wiki

講義科目名称：コンテンツビジネス論　　授業コード：2861　2862

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	国専：選択
担当教員			
別宮玲			
Subject Code：E26C45			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	Webコンテンツ、映像コンテンツ、書籍といったコンテンツ・情報を制作し流通させるビジネスをコンテンツビジネスという。 コンテンツビジネスは日本が世界と競争できる分野であるとされるが、競争に勝つためには現在の強みと弱み、グローバル化のために何が必要かを知る必要がある。 本授業では政府資料と最新のニュース、その他様々なメディアを流れる情報や思想を読み取ることで、国内外のコンテンツビジネスの現在と今後を考える。これまでに身に着けてきた異文化理解力とICT知識の総合的な力を必要とする授業である。 (授業目標) ◎D：日本文化が世界に与えている影響を市場別に説明することができる。ICTの進歩による今後のビジネスの構造の変化を考察できる。
授業計画	1　ガイダンス ・授業の目標と進め方 ・最終課題のテーマ発表 2　コンテンツ産業 ・コンテンツとは何か ・コンテンツ業界の市場構造 ・コンテンツ業界の市場規模 ・デジタルコンテンツの市場規模 3　日本コンテンツの海外進出 ・クールジャパン政策 ・ローカライズ ・ジャパンブランドとコラボレーション 4　音楽業界（ICT:WebClassによる課題提出とフィードバック） ・音楽業界の市場構造 ・パッケージ型と配信型 ・環境変化の中におけるレコード会社の戦略 ・音楽出版社とは ・音楽コンサート市場 5　放送業界（ICT:WebClassによる課題提出とフィードバック） ・放送業界の市場構造 ・民間放送局のビジネスモデル ・国営放送局のビジネスモデル ・テレビ視聴者の変化 ・動画配信サービス 6　映画業界（ICT:WebClassによる課題提出とフィードバック） ・映画業界の市場構造 ・映画の興行収入 ・マルチウインドウ戦略 ・映画製作委員会の一般化 ・ビデオソフト業界の変化 7　キャラクタービジネス（ICT:WebClassによる課題提出とフィードバック） ・キャラクタービジネスと他のコンテンツビジネスの関係 ・コンテンツと地域振興（ゆるキャラ） 8　ゲーム業界（１）（ICT:WebClassによる課題提出とフィードバック） ・ゲーム業界の市場構造 ・拡大するオンラインゲーム市場 ・スマホゲームと家庭用ゲーム ・ゲーム内課金とコンプガチャ問題 9　ゲーム業界（２）（ICT:WebClassによる課題提出とフィードバック） ・ゲームの歴史と文化 ・大手ゲームメーカーの現状 ・Eスポーツ 10　アニメーション業界（１）（ICT:WebClassによる課題提出とフィードバック） ・アニメーション業界の市場規模 ・拡大する日本アニメの海外市場 11　アニメーション業界（２）（ICT:WebClassによる課題提出とフィードバック） ・アニメーションの歴史 ・初期のビジネスモデルと現在のビジネスモデル ・クールジャパンと地域貢献 12　アニメーション業界（３）／コミック(漫画)業界（ICT:WebClassによる課題提出とフィードバック） ・紙の漫画市場 ・いまだ人気作品を生み続ける漫画雑誌 ・漫画アプリ ・アニメ配信ビジネス

	13　ウェブ・コンテンツ業界（ICT:WebClassによる課題提出とフィードバック） ・ウェブ・コンテンツ業界の市場構造 ・ウェブ・コンテンツ業界の代表的なビジネスモデル ・電子書籍サービスの動き ・インターネット広告 14　モバイル・コンテンツ業界（ICT:WebClassによる課題提出とフィードバック） ・モバイルコンテンツ市場の現状 ・SNS毎に異なる利用者のタイプ ・ビッグデータと行動ターゲティング広告 15　コンテンツと著作権（ICT:WebClassによる課題提出とフィードバック ・コンテンツ産業と著作権ビジネス ・財産権としての著作権
到達目標・基準	◎Ｄ：様々なビジネスの構造を理解することで、社会人として必要な基本的なビジネス知識を身につける。
事前・事後学習	事前学習：コンテンツビジネスに関するニュースを日々調べる。(60分) 事後学習：毎週の講義を振り返り、口頭での質問にも対応できるように自分の言葉で整理し、まとめる。(60分)
指導方法	講義形式の授業である。 講義形式の授業だが、授業内で受講者対象のアンケートをWebClassで実施し、市場一般の統計情報と比較するなど、PCを使用する機会が多いため情報教室で授業を行う。 フィードバックの方法：WebClassでの課題対応の他、アンケートの集計結果なども学生がいつでも参照できるようWebClassで公開する。
成績評価の方法・基準	筆記試験とレポートで評価する。レポートは単元ごとに提出する。 Ｄ：提出されたレポートと筆記試験でコンテンツビジネスの理解度を評価する。 授業態度20%、課題30%、定期試験50%
テキスト	最新コンテンツ業界の動向とカラクリがよくわかる本[第3版]（秀和システム）
参考書	コンテンツ産業の現状と今後の発展の方向性(経済産業省) 最新アニメ業界の動向とカラクリがよくわかる本[第2版](秀和システム)
履修上の注意	日常的な情報収集が必要な授業である。 特に自分が好きなコンテンツについては自信を持って説明ができるよう常に準備をし、積極的に授業に参加することを期待する。
アクティブ・ラーニング	WebClassによるアンケートと、集計結果を用いた授業
ＩＣＴの活用	WebClass, Netウィッチ

講義科目名称：秘書実務論Ａ　　授業コード：2591　2592

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	国専：選択
担当教員			
藤井直子			
Subject Code：E17C58			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	【授業内容】秘書検定3級合格を目指す。 秘書の役割と資質、一般知識と基本的技能を習得し、実社会で必要な知識や能力について主体的に取り組みながら理解を深める。 自己能力を高め、それらを発揮出来る職業選択の幅と可能性を広げていく。 【授業目標】秘書の役割、資質、一般知識、接遇技能について知識を習得し、実社会で生かせる実践力を養う。 ◎Ｄ：秘書の資質、技能を理解するとともに、社会人として必要な資質と能力を習得する。 ○Ｅ：学習した秘書としての基本的な知識・能力を、社会での諸活動で発揮出来る。
授業計画	1　オリエンテーション/社会人としての自覚と心構え 授業概要説明（到達目標の確認、授業での心構え、評価方法） 秘書検定3級試験に関する説明（秘書検定審査基準、受験の際の注意点） 秘書の心構えを習得する。 2　秘書の資質・役割/秘書の職務知識 秘書に求められる役割・必要な資質について理解する。 秘書に求められる4つの基本能力について理解する。 上司の仕事と役割を知る。 定型業務と非定型業務における秘書の仕事・効率的な仕事の進め方を学ぶ。 3　企業の基礎知識 企業の組織と役割を理解する。 経営管理についての基礎知識を学ぶ。 経営管理に関する初歩的な用語を学ぶ。 4　社会常識について 社会常識、経済に関する基本用語を学ぶ。 5　マナー・接遇１ 社会での円滑な人間関係についての重要性を理解する。 接遇の心構え、秘書としてマナー、敬語、接遇用語を理解し身に付ける。 6　マナー・接遇２ 話し方の応用 指示の受け方、報告・説明をする際の心がけとポイントを理解する。 話の初歩的な聴き方を理解する。 7　電話応対 電話のマナーと対応の仕方を学ぶ。（全員がグループワークを通して、実践力を身に付ける） 8　マナー・接遇３　来客応対 来客応対の基本マナーを学ぶ。（全員がグループワークを通して、実践力を身に付ける） ICT活用：授業内外での理解力・実践力を深めるため、6月実施の秘書検定試験対策として、WebClassで公開する秘書検定試験用練習問題を各自自主的に活用する。 9　交際の業務について 慶事・弔事のマナーについて学ぶ。 慶事・弔事での秘書の対応について学ぶ。 贈答のしきたりとマナーを習得する。 10　会議と秘書の役割について 会議の目的と予備知識を理解する。 秘書が行う会議の主な準備、会議中の主な仕事、事後処理について学ぶ。 11　ビジネス文書の作成 社内文書、社外文書の種類と形式を理解する。 ビジネス文書の慣用表現と敬語を習得する。 メモの種類と効果的な取り方を学ぶ。 折れ線グラフ、棒グラフの書き方を学ぶ。 12　文書管理 ビジネス文書の受信・発信方法を理解する。 「秘」扱い文書の取り扱いについて理解する。 郵便の基礎知識を学ぶ。 13　資料管理・スケジュール管理 資料の整理、保管、簡単な社内外の情報収集、整理、保管方法を学ぶ。 上司のスケジュール管理について理解する。 快適な職場環境をつくるための基礎知識を学ぶ。 14　問題演習と解説１ これまでに学習した内容についての確認と理解を深める。 秘書検定3級問題演習と解答・解説 15　問題演習と解説２ 秘書検定3級問題演習と解答・解説

到達目標・基準	秘書検定3級に合格する実力を身に付ける。 秘書検定3級に合格出来る実力を身に付ける。 ◎Ｄ：秘書の役割を全うするために必要なことを通し、秘書としての基本的な知識・資質を理解する。 ○Ｅ：学習した秘書の資質、知識、技能を日常生活から実践することが出来る。
事前・事後学習	事前学習：次回の講義内容に関するテキストの章を事前に読んでおくこと。（約60分） 事後学習：毎回の授業で学習した内容を必ず復習すること。(約60分) 学習したことを日常生活で実践すること。(約60分)
指導方法	講義は基本的にテキスト・適宜パワーポイントを使用し進める。 一方的な講義ではなく、思考力を有する演習問題等を積極的に取り入れる。 フィードバックの仕方：確認チェックテスト、実問題演習に関しては都度授業内で質疑応答を行い解説する。
成績評価の方法・基準	Ｄ：定期試験・授業態度を評価する。 Ｅ：授業中の発言力・定期試験を評価する。 事前学習20%、定期試験40%、授業への貢献度・積極性40%
テキスト	『秘書検定3級クイックマスター』　実務技能検定協会編　早稲田教育出版
参考書	『秘書検定集中講義3級』実務技能検定協会　早稲田教育出版 『秘書検定3級実問題集』実務技能検定協会
履修上の注意	知識を習得するだけではなく、それらを実際に活かせる力にすることが大切である。その為には、時間管理・身だしなみ・言葉遣い・マナーなどを日頃から実践し日々の習慣にすることが、自己能力と社会人としての自覚を高め、就職内定にも大きく繋がることを自覚してほしい。 学習したことを自分の日常生活や今後のインターンシップなどの体験に落とし込みながら自主的に考え行動し、学習内容を深く習得すること。 毎回の授業の積み重ねが大切であるため、欠席、遅刻をしないこと。 尚、受講者の理解度、参加意識などに応じて、授業内容を一部変更する場合がある。
アクティブ・ラーニング	グループワーク
ＩＣＴの活用	WebClass　授業内外での理解力・実践力を深めるため：6月実施の秘書検定試験対策として、WebClassで8回目の授業日に公開する秘書検定試験用練習問題を各自自主的に活用する。

講義科目名称：秘書実務論Ｂ　　授業コード：2601　2602

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	国専：選択
担当教員			
松岡友子			
Subject Code：E17C59			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	授業内容とそのねらい ・秘書技能検定2級合格に必要な知識と技能を習得する。 ・問題演習を行いながら、テキストを用いて確認し、知識を深める。 ・職務知識や一般知識で頻出の用語については、課題として各自で調べたものをWebClassを活用して共有し、クラス全体での理解を深める。 授業目標 ◎Ｄ：秘書検定2級に合格する。さらにはビジネス文書検定・ビジネス電話検定合格にも対応する幅広い知識を理解する。 ○Ｅ：単なる検定対策として知識を理解するだけでなく、社会人に必要とされる技能として身につける。
授業計画	1　オリエンテーション／秘書検定とは／秘書の心構え 自己紹介・講義の到達目標の確認・授業の共通ルールの徹底 秘書検定の受け方・審査基準説明 秘書に必要とされる資質・心構えを理解する WebClass:自己紹介文の提出 グループワーク 2　秘書に必要な条件／秘書の役割と機能／秘書の職務 秘書に求められる6つの能力について理解する 職務知識として秘書の役割と機能を理解する 定型業務・非定型業務・効率的な仕事の進め方を理解する 3　ビジネス文書の作成 ビジネス文書の慣用語句・敬語を理解し覚える メモと簡単な口述筆記について理解する グラフの書き方を理解する 4　文書の取り扱い 慶事の対応を理解する 文書の受信・発信について理解する 郵便の基礎知識について理解する 適切な郵送方法とさまざまな通信について理解する 5　交際の業務について パーティー・会食の知識を理解する 弔事への対応・心得とマナーを理解する 贈答のしきたりとマナーを理解する 6　問題演習（1） 秘書検定2級過去問演習と解答解説 7　問題演習（2） 秘書検定２級過去問演習と解答解説 8　電話応対と接遇 電話応対の基本と実際を理解する 来客応対について理解する 席次・接待・見送りの知識を理解する 接遇用語を理解し覚える 9　社会常識 情報処理とニューメディアについて理解する 常識としての基礎用語と略語を理解し覚える 常識としてのカタカナ語を理解し覚える資本と経営について理解する WebClass:各自が調べた用語発表 グループワーク：各自が調べた用語を共有する １０　企業と経営・企業の活動 資本と経営について理解する 企業の組織形態について理解する 経営管理について理解する 生産管理、マーケティングについて理解する 会社をめぐる法律について理解する 各種用語について理解を深め、覚える WebClass:各自が調べた用語発表 グループワーク：各自が調べた用語を共有する １１　会議と秘書／文書・資料管理／日程管理とオフィス管理 会議の知識・会議中の秘書の仕事を理解する バーチカル・ファイリングの基本と実際を理解する 資料・書類、名刺、雑誌・カタログの整理と情報収集・管理について理解する 日程管理・オフィス管理・快適な環境づくりについて理解する １２　人間関係と話し方・聞き方 人間関係の重要性を理解する 話し方の基本知識を理解する

	真意をつかむ聞き方を理解する 敬語の用法について理解する １３　話し方・聞き方の応用 報告の仕方・説明の仕方・説得の仕方について理解する 注意・忠告の仕方と受け方について理解する 苦情処理と上手な断り方について理解する １４　問題演習（3） 秘書検定2級過去問演習と解答解説 １５　問題演習（4） 秘書検定2級過去問演習と解答解説
到達目標・基準	◎Ｄ：2018年度後半に予定されている秘書検定2級の試験内容を理解する。 ○Ｅ：社会人として求められる、ビジネスマナー・電話応対・来客応対・ビジネス文書作成などの基礎を身につけ、実践することができる。
事前・事後学習	事前学習：課題が与えられている場合には取り組んで、提出する。（60分） 次回講義内容に該当するテキストを読み込む。（60分） 事後学習：テキストの問題に取り組むなどして、知識の定着をはかる。（30分）
指導方法	・基本的にはテキストを用いて講義を進める。適宜パワーポイントやプリントを使用する。 ・検定対策として、問題演習を行う。 ・課題として答案を提出する場合は、点数等評価を記録し、教員からのアドバイスとともに自身の検定への取り組みに役立てる。 ・課題によっては、WebClassを活用して提出や発表を行う。
成績評価の方法・基準	◎Ｄ：秘書検定・電話検定・ビジネス文書検定など、各種ビジネス系検定の合格を目指して努力する姿勢を評価する。 ○Ｅ：学んだ知識や技能を理解しようとしているか、内容を身につけようとしているか、身につけて実践しようとしているかを評価する。 定期試験40%、課題発表10%　授業態度・貢献度30%　課題提出20%
テキスト	秘書検定集中講義２級改訂版　実務技能検定協会編　早稲田教育出版
参考書	秘書検定実問題集2級2018年度版　実務技能検定協会編　早稲田教育出版
履修上の注意	秘書検定の出題範囲は、社会人として必要な基礎知識をほぼすべて網羅している。また検定の社会的認知度も高く、2級取得者は、社会人としての基礎知識の習得ができていると評価される。 勉強内容は多岐にわたり、決してやさしい検定ではないが、2級受検者の多くを学生が占めている。丁寧に学習を積み重ねれば学生でも合格は十分可能である。 ぜひ、秘書検定以外にも、電話検定やビジネス文書検定等の取得も目指してほしい。 なお、検定実施日や資格取得状況、受講者の参加意識などにより、授業計画が一部変更される場合がある。
アクティブ・ラーニング	グループワーク
ＩＣＴの活用	WebClass

講義科目名称：Business Conversation：Sales　　授業コード：2191　2192　2193

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：選択必修
担当教員			
Peter Davies、高橋大樹			
Subject Code：E17B60			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	This course is for students who need to communicate confidently in everyday business situations and understand global business cultures.It is also useful for learners who need to develop their basic English ability. Goals for grade A/S are a high understanding and use of the language and engagement in the activities, plus a score in tests in the top 10% of the class. (Goals) ◎D: Students will practice in using key expressions, asking and answering questions, reading comprehension, and listening for detail. ○E: Students will be required to speak, listen, and write in English in situations dealing with business.
授業計画	1 Introduction to the text and course.classroom language, behavior and expectations. Activities to get to know each other. Name cards. 2 Checking in.. (all students must take part in pair work, role play and listen and repeat activities). Registration, reservations, introductions, at a hotel 3 At a trade fair. (all students must take part in pair work, role play and listen and repeat activities). Location, voicemail, numbers. 4 Schedules. (All students must take part in pair work, role play and listen and repeat activities). Meetings, visitors, clock times. 5 Companies. (Unit 1-4 Review Test).(All students must take part in pair work, role play and listen and repeat activities). Company information,nationalities, a presentation. 6 Meeting people. (All students must take part in pair work, role play and listen and repeat activities). Meet and greet, on the phone, at the airport. 7 In the office. (All students must take part in pair work, role play and listen and repeat activities). Things in the office, cubical life, electronics. 8 Work. All students must take part in pair work, role play and listen and repeat activities). Jobs and duties, instructions. 9 Appointments. (Unit 5-8 Review test). (All students must take part in pair work, role play and listen and repeat activities). Getting together, on the phone, scheduling a meeting. 10 Directions and shopping. (All students must take part in pair work, role play and listen and repeat activities). Going shopping, buying a gift, money. 11 Reservations. (All students must take part in pair work, role play and listen and repeat activities). Making a variety of reservations. 12 Requests and offers. (All students must take part in pair work, role play and listen and repeat activities). In the office, on the phone, deadlines. 13 Socializing. (All students must take part in pair work role play and listen and repeat activities). Meeting up, invitations, culture corner. 14 Workbook exercises. Part 1. Peer marking and editing Units Quiz 15 Workbook exercises Part 2. Peer marking and editing Units quiz and note book check.
到達目標・基準	The students will be expected to participate in all exercises to the best of their ability and achieve a score of at least 60% in the final test. ◎D: Students will learn the vocabulary and grammar to communicate with each other in pairs and in groups. ○E: Students will be able to use key expressions, questions and business vocabulary.

事前・事後学習	Some modules from each unit will be set for homework to do before class.(30 mins) Students will be expected to keep a vocabulary notebook after class.(60 mins)
指導方法	Each lesson will introduce everyday business situations around a theme. Students will practice listening and speaking skills alone, in pairs and in small groups.There is a limited reading and writing element in each lesson. There will be continuous personal feedback regarding participation in class. Students will peer mark quiz and review tests which will be scored and graded in class.
成績評価の方法・基準	Ｄ: Students will be evaluated by how they participate in the class Ｅ: Students will be evaluated by the quizzes given in the class and the final test given at the end of the semester Unit Quizzes - 20% Participation - 30% Final test - 50%
テキスト	Business Venture - Beginner. Roger Barnard. Oxford. 2016
参考書	A dictionary and a notebook
履修上の注意	Students are expected to participate in all activities and to work in pairs.
アクティブ・ラーニング	Pair work, role play
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：メディカルクラークＡ　　授業コード：2621

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	国専：選択
担当教員			
山﨑美和			
Subject Code：E18C61			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	医療事務の仕事の中でも医療費計算業務は、医療機関の経営に係わる重要な業務です。演習問題やカルテ例題で医療費算定のルールを学び、正しい診療報酬明細書（レセプト）を作成する技術を身に付け、「医療秘書技能検定3級」「医事コンピュータ技能検定3級」取得を目指します。 (授業目標) 被保険者証及び診療録の見方、医療費算定の知識を理解し、医療事務に必要な基礎知識及び技術を身に付ける。 ○Ｄ：被保険者証及び診療録の見方、算定のルールを学び、基本的な診察料・医学管理料・投薬料・注射料・処置料の正確な医療費を計算する知識を身に付ける。 ◎Ｅ：医療費計算方法と共にレセプト記載方法を学び、基本的な診察料・医学管理料・投薬料・注射料・処置料の正確な診療報酬明細書記載に関する知識を身に付ける。
授業計画	1　ガイダンス（医療事務とは） 授業内容、授業の進め方、資格試験について、評価方法に関する説明 医療事務の仕事の内容について学ぶ 2　投薬①（薬剤料） 薬価基準に記載されている金額（円）を点数に換算する方法及びレセプト記載方法を学ぶ 3　投薬②（調剤料、処方料、調剤技術基本料） 薬剤を処方する際の技術料やレセプト記載方法を学ぶ 4　投薬③（処方せん料） 医師が交付する処方せんにかかる技術料やレセプト記載方法を学ぶ 5　注射①（皮内・皮下及び筋肉内注射、静脈内注射） 注射薬の容器の種類と薬剤料の算定方法、注入方法の種類及びレセプト記載方法を学ぶ 6　注射②（点滴注射、その他） 薬剤料の算定方法と注入方法の種類及びレセプト記載方法を学ぶ 7　初診料 初診料の算定方法（年齢、緊急受付時間等の加算等）及びレセプト記載方法を学ぶ 8　再診料 再診料の算定方法（年齢、緊急受付時間等の加算等）及びレセプト記載方法を学ぶ 9　医学管理等①（特定疾患療養管理料、治療管理料） 病気に対する医師の指導管理等及びレセプト記載方法を学ぶ 10　医学管理等②（その他医学管理等） 紹介状等の文書に係る費用及びレセプト記載方法を学ぶ 11　在宅医療①（在宅患者診療・指導料） 医師が患者の自宅等に赴いて診療を行った場合の費用及びレセプト記載方法を学ぶ 12　在宅医療②（在宅療養指導管理料） 自宅等で患者（家族）が行う注射や酸素療法等の費用及びレセプト記載方法を学ぶ 13　処置①（通則・一般処置） 処置料の種類と算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 14　処置②（その他の処置） 処置料の種類と算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 15　外来カルテ演習 レセプトを作成する
到達目標・基準	○Ｄ：初・再診、医学管理、投薬、注射、処置の各項目の基本的な計算や加算ができる。 ◎Ｅ：基本的な外来診療例（初・再診、医学管理等、投薬、注射、処置）のカルテから、診療報酬明細書を作成することができる。
事前・事後学習	事前学習：授業時に出された指示に従うこと。（30分程度） 事後学習：講義で学んだ内容（プリント、カルテ例題等）の確認。（60分程度） 授業時に出された演習等の課題を行うこと。（90分程度）
指導方法	・プロジェクタを使用して、主に配布プリント、テキストで講義を行う。 ・医療費計算を行うため、電卓の使い方も指導する。 ・授業では、主に医療費算定のルールと計算方法を解説するため、レセプトは課題として提出してもらう。 ＊課題のフィードバック方法：コメント記載のうえ返却及びコメントへの質疑応答
成績評価の方法・基準	Ｄ：定期試験・提出課題を評価する。 Ｅ：定期試験・提出課題を評価する。 定期試験60%、提出課題30%、授業態度・貢献度10%
テキスト	『診療点数早見表』（医学通信社・2019年出版）、『サポートブック』（ソラスト・2019年出版）、『コンピュータ入力練習カルテ例題集』（ケア＆コミュニケーション・2019年出版）

参考書	
履修上の注意	「医療秘書技能検定3級」「医事コンピュータ技能検定3級」取得を目標に行われるため、「メディカルクラークB（前期）」、「メディカルクラークC、D（後期）」も履修すること。 診療点数早見表、サポートブック、コンピュータ入力練習カルテ例題集、電卓（携帯電話、スマートフォンの使用は禁止）、配布資料は必ず持参すること。 課題は期日までに必ず提出すること。やむを得ず期日までに提出できない場合は提出できる日を報告すること。 毎回の授業が大切なため、遅刻や欠席をせず医療機関に従事することを意識し、資格取得を目標に履修して欲しい。
アクティブ・ラーニング	
ＩＣＴの活用	OHC、プロジェクタを用い授業を展開する

講義科目名称：メディカルクラークＡ（2年生）　　授業コード：2622

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	国専：選択
担当教員			
山﨑美和			
Subject Code：E17C66			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	医療事務の仕事の中でも医療費計算業務は、医療機関の経営に係わる重要な業務です。演習問題やカルテ例題で医療費算定のルールを学び、正しい診療報酬明細書（レセプト）を作成する技術を身に付け、「医療秘書技能検定3級」「医事コンピュータ技能検定3級」取得を目指します。 (授業目標) 被保険者証及び診療録の見方、医療費算定の知識を理解し、医療事務に必要な基礎知識及び技術を身に付ける。 ○Ｄ：被保険者証及び診療録の見方、算定のルールを学び、基本的な診察料・医学管理料・投薬料・注射料・処置料の正確な医療費を計算する知識を身に付ける。 ◎Ｅ：医療費計算方法と共にレセプト記載方法を学び、基本的な診察料・医学管理料・投薬料・注射料・処置料の正確な診療報酬明細書記載に関する知識を身に付ける。
授業計画	1　ガイダンス（医療事務とは） 授業内容、授業の進め方、資格試験について、評価方法に関する説明 医療事務の仕事の内容について学ぶ 2　投薬①（薬剤料） 薬価基準に記載されている金額（円）を点数に換算する方法及びレセプト記載方法を学ぶ 3　投薬②（調剤料、処方料、調剤技術基本料） 薬剤を処方する際の技術料やレセプト記載方法を学ぶ 4　投薬③（処方せん料） 医師が交付する処方せんにかかる技術料やレセプト記載方法を学ぶ 5　注射①（皮内・皮下及び筋肉内注射、静脈内注射） 注射薬の容器の種類と薬剤料の算定方法、注入方法の種類及びレセプト記載方法を学ぶ 6　注射②（点滴注射、その他） 薬剤料の算定方法と注入方法の種類及びレセプト記載方法を学ぶ 7　初診料 初診料の算定方法（年齢、緊急受付時間等の加算等）及びレセプト記載方法を学ぶ 8　再診料 再診料の算定方法（年齢、緊急受付時間等の加算等）及びレセプト記載方法を学ぶ 9　医学管理等①（特定疾患療養管理料、治療管理料） 病気に対する医師の指導管理等及びレセプト記載方法を学ぶ 10　医学管理等②（その他医学管理等） 紹介状等の文書に係る費用及びレセプト記載方法を学ぶ 11　在宅医療①（在宅患者診療・指導料） 医師が患者の自宅等に赴いて診療を行った場合の費用及びレセプト記載方法を学ぶ 12　在宅医療②（在宅療養指導管理料） 自宅等で患者（家族）が行う注射や酸素療法等の費用及びレセプト記載方法を学ぶ 13　処置①（通則・一般処置） 処置料の種類と算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 14　処置②（その他の処置） 処置料の種類と算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 15　外来カルテ演習 レセプトを作成する
到達目標・基準	○Ｄ：初・再診、医学管理、投薬、注射、処置の各項目の基本的な計算や加算ができる。 ◎Ｅ：基本的な外来診療例（初・再診、医学管理等、投薬、注射、処置）のカルテから、診療報酬明細書を作成することができる。
事前・事後学習	事前学習：授業時に出された指示に従うこと。（30分程度） 事後学習：講義で学んだ内容（プリント、カルテ例題等）の確認。（60分程度） 授業時に出された演習等の課題を行うこと。（90分程度）
指導方法	・プロジェクタを使用して、主に配布プリント、テキストで講義を行う。 ・医療費計算を行うため、電卓の使い方も指導する。 ・授業では、主に医療費算定のルールと計算方法を解説するため、レセプトは課題として提出してもらう。 ＊課題のフィードバック方法：コメント記載のうえ返却及びコメントへの質疑応答
成績評価の方法・基準	Ｄ：定期試験・提出課題を評価する。 Ｅ：定期試験・提出課題を評価する。 定期試験60%、提出課題30%、授業態度・貢献度10%
テキスト	『診療点数早見表』（医学通信社・2019年出版）、『サポートブック』（ソラスト・2019年出版）、『コンピュータ入力練習カルテ例題集』（ケア＆コミュニケーション・2019年出版）

参考書	
履修上の注意	「医療秘書技能検定3級」「医事コンピュータ技能検定3級」取得を目標に行われるため、「メディカルクラークB（前期）」、「メディカルクラークC、D（後期）」も履修すること。 診療点数早見表、サポートブック、コンピュータ入力練習カルテ例題集、電卓（携帯電話、スマートフォンの使用は禁止）、配布資料は必ず持参すること。 課題は期日までに必ず提出すること。やむを得ず期日までに提出できない場合は提出できる日を報告すること。 毎回の授業が大切なため、遅刻や欠席をせず医療機関に従事することを意識し、資格取得を目標に履修して欲しい。
アクティブ・ラーニング	
ＩＣＴの活用	OHC、プロジェクタを用い授業を展開する

講義科目名称：メディカルクラークＢ　　授業コード：2631

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	国専：選択
担当教員			
山﨑美和			
Subject Code：E18C62			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	医療秘書に必要な基礎的知識及び技能として、医療機関の受付業務や電話応対などの実務、医療に関する各制度・法規の内容を理解し、医療機関の事業目的及び組織・運営について学ぶ。「医療秘書技能検定3級」「医事コンピュータ技能検定3級」取得を目指します。 (授業目標) 医療秘書、医療事務の業務や実務、医療機関の役割、医療に関する法規を理解する。 ◎Ｄ：医療保険制度、各種健康保険法、守秘義務、医療関連用語、医療機関の事業目的を理解する。 ○Ｅ：医療機関の受付や電話応対、患者や医療機関で働く人々との接し方、話し方を習得する。
授業計画	1　ガイダンス（医療事務と法規） 医療秘書技能検定、授業内容、授業の進め方、評価方法に関する説明 医療事務に必要な法律の種類について 2　病院・診療所・調剤薬局での事務の仕事、医療秘書の仕事① 病院・診療所・調剤薬局での事務の仕事 3　病院・診療所・調剤薬局での事務の仕事、医療秘書の仕事② 守秘義務、電話対応、患者への接し方等について 4　医療機関の組織・運営① 組織の構造（ライン・スタッフ組織）と病院管理 5　医療機関の組織・運営② 組織の構造（ライン・スタッフ組織）と病院管理 6　医療機関の概要・医療保険のしくみ① 医療機関と薬局、医療保障制度の体系、医療保険の種類 7　医療機関の概要・医療保険のしくみ② 医療給付の範囲と種類、高額療養費、保険外併用療養費 8　その他の関連制度①（公費負担医療） 国や自治体が公費で診療費を負担する制度について 9　その他の関連制度②（労災保険、介護保険） 仕事中のけがや、介護保険法について 10　診療報酬に関する法規①（診療報酬請求） 診療報酬請求のしくみについて 11　診療報酬に関する法規②（療養担当規則） 保険医療機関や保険医が守らなければならない規則について 12　医療関連法規①（医療法） 保険医療機関の施設等に関する法律について 13　医療関連法規②（医療法） 保険医療機関の施設等に関する法律について 14　医療関連法規②（医療従事者に関する法律） 医師、薬剤師、看護師等の資格や業務に関する法律について 15　医療関連法規③（医療従事者に関する法律） 検査技師、放射線技師等の資格や業務に関する法律について
到達目標・基準	◎Ｄ：医療保険のしくみ、各種健康保険の種類、保険給付の範囲と種類、医療関連用語を説明できる。 ○Ｅ：医療機関の受付業務、電話応対ができる。
事前・事後学習	事前学習：次回の講義内容確認のため、テキストの該当箇所を事前に読んでくる。（60分程度） 事後学習：授業で習ったことをテキストや配布資料で覚えるようにすること。また、検定過去問題は繰り返し解くこと。（120分程度）
指導方法	テキスト、配布資料を中心に講義を進めながら、医療秘書技能検定・医事コンピューター技能検定の過去の学科問題を解いていく。 接遇、各種保険制度についての課題を提出してもらい理解度を確認する。 ＊課題のフィードバック方法：コメント記載のうえ返却及びコメントへの質疑応答
成績評価の方法・基準	Ｄ：定期試験を評価する。 Ｅ：定期試験、提出課題を評価する。 定期試験60%、提出課題30%、授業態度10%
テキスト	「テキスト1医療保障制度」（ソラスト・2019年出版）
参考書	

履修上の注意	「医療秘書技能検定3級」「医事コンピュータ技能検定3級」取得を目標に行われるため、「メディカルクラークA（前期）」、「メディカルクラークC、D（後期）」も履修すること。 テキスト、配布資料は必ず持参すること。 課題は期日までに必ず提出すること。やむを得ず期日までに提出できない場合は提出できる日を報告すること。 毎回の授業が大切なため、遅刻や欠席をせず医療機関に従事することを意識して、資格取得を目標に履修して欲しい。
アクティブ・ラーニング	
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：メディカルクラークＢ（2年生）　　授業コード：2632

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	国専：選択
担当教員			
山﨑美和			
Subject Code：E17C67			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	医療秘書に必要な基礎的知識及び技能として、医療機関の受付業務や電話応対などの実務、医療に関する各制度・法規の内容を理解し、医療機関の事業目的及び組織・運営について学ぶ。「医療秘書技能検定3級」「医事コンピュータ技能検定3級」取得を目指します。 (授業目標) 医療秘書、医療事務の業務や実務、医療機関の役割、医療に関する法規を理解する。 ◎Ｄ：医療保険制度、各種健康保険法、守秘義務、医療関連用語、医療機関の事業目的を理解する。 ○Ｅ：医療機関の受付や電話応対、患者や医療機関で働く人々との接し方、話し方を習得する。
授業計画	1　ガイダンス（医療事務と法規） 医療秘書技能検定、授業内容、授業の進め方、評価方法に関する説明 医療事務に必要な法律の種類について 2　病院・診療所・調剤薬局での事務の仕事、医療秘書の仕事① 病院・診療所・調剤薬局での事務の仕事 3　病院・診療所・調剤薬局での事務の仕事、医療秘書の仕事② 守秘義務、電話対応、患者への接し方等について 4　医療機関の組織・運営① 組織の構造（ライン・スタッフ組織）と病院管理 5　医療機関の組織・運営② 組織の構造（ライン・スタッフ組織）と病院管理 6　医療機関の概要・医療保険のしくみ① 医療機関と薬局、医療保障制度の体系、医療保険の種類 7　医療機関の概要・医療保険のしくみ② 医療給付の範囲と種類、高額療養費、保険外併用療養費 8　その他の関連制度①（公費負担医療） 国や自治体が公費で診療費を負担する制度について 9　その他の関連制度②（労災保険、介護保険） 仕事中のけがや、介護保険法について 10　診療報酬に関する法規①（診療報酬請求） 診療報酬請求のしくみについて 11　診療報酬に関する法規②（療養担当規則） 保険医療機関や保険医が守らなければならない規則について 12　医療関連法規①（医療法） 保険医療機関の施設等に関する法律について 13　医療関連法規②（医療法） 保険医療機関の施設等に関する法律について 14　医療関連法規②（医療従事者に関する法律） 医師、薬剤師、看護師等の資格や業務に関する法律について 15　医療関連法規③（医療従事者に関する法律） 検査技師、放射線技師等の資格や業務に関する法律について
到達目標・基準	◎Ｄ：医療保険のしくみ、各種健康保険の種類、保険給付の範囲と種類、医療関連用語を説明できる。 ○Ｅ：医療機関の受付業務、電話応対ができる。
事前・事後学習	事前学習：次回の講義内容確認のため、テキストの該当箇所を事前に読んでくる。（60分程度） 事後学習：授業で習ったことをテキストや配布資料で覚えるようにすること。また、検定過去問題は繰り返し解くこと。（120分程度）
指導方法	テキスト、配布資料を中心に講義を進めながら、医療秘書技能検定・医事コンピューター技能検定の過去の学科問題を解いていく。 接遇、各種保険制度についての課題を提出してもらい理解度を確認する。 ＊課題のフィードバック方法：コメント記載のうえ返却及びコメントへの質疑応答
成績評価の方法・基準	Ｄ：定期試験を評価する。 Ｅ：定期試験、提出課題を評価する。 定期試験60%、提出課題30%、授業態度10%
テキスト	「テキスト1医療保障制度」（ソラスト・2019年出版）
参考書	

履修上の注意	「医療秘書技能検定3級」「医事コンピュータ技能検定3級」取得を目標に行われるため、「メディカルクラークA（前期）」、「メディカルクラークC、D（後期）」も履修すること。 テキスト、配布資料は必ず持参すること。 課題は期日までに必ず提出すること。やむを得ず期日までに提出できない場合は提出できる日を報告すること。 毎回の授業が大切なため、遅刻や欠席をせず医療機関に従事することを意識して、資格取得を目標に履修して欲しい。
アクティブ・ラーニング	
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：メディカルクラークＣ　　授業コード：2641

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	国専：選択
担当教員			
水澤伸夫			
Subject Code：E18C63			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	病院、診療所、介護、在宅支援施設等の医療・福祉系分野における仕事とその援助。医療・福祉系の職場のコーディネイトや総合事務職の役割を担える基本的医療専門知識を身につける事を目指す。 また、その為に専門職業人同士や、医療・福祉系施設の利用者とその家族など周囲の人々とのコミュニケーションをはかる為の知識と技術を習得する。 (授業目標) ○Ａ：身体構造と機能、疾患の係わりに関心を持ち、チーム医療に触れる医療人の基本が身につけられるようにする。 ◎Ｄ：医学用語を知り、専門書、レセプトの記述が理解できる。
授業計画	1　ガイダンス、医療系の学問の学習法、学習計画。 解剖・生理学概論、骨学、形態学についての概論。 基礎医学と臨床医学の結びつき。医療機関におけるメディカルスタッフの役割の説明。 医療秘書検定の傾向と対策について。 新しい知識の修得であり、事後学習を優先し、次回までに前回の内容の理解と暗記に努力する為の具体例。 2　筋・神経について。 学生が、基礎的人体構造と機能につて学ぶ為に、骨の名称と人体における臓器の位置関係を骨を基本として学習できるようにする。 骨の名称、その名称に由来する筋、血管、神経の名称について学べるようにする。　運動学、リハビリテーション学、整形外科学について。 3　病理学の基礎、用語と疾患の理解。 正常組織・器官と疾患の変化について。病理学用語の意味について。 正常と病的状態の細胞、組織の違い。病理診断の意義と病気の診断について理解する。 正常機能の理解のもとに疾患などの異常状態の把握、検査で用いられる医学英語の略語を知る。 病理学上用いられる専門用語とその使用法を理解する。 4　骨・筋・神経の関連のまとめと運動学について。 運動学、リハビリテーション学、整形外科学に関連する骨・筋・神経の働きと疾患について。 骨の名称と部分の名称。成長及び病的状態の骨疾患。 骨を動かす筋と関節の役割、筋の運動を支配する神経概論。 運動器疾患の医学用語を理解する。 5　体液・血液と免疫について。 人体機能維持に重要な体液の機能について学び、臨床検査の役割を理解する。 血液の正常と異常について、疾患との関わりを学ぶ。 体液・血液における検査数値の正常値幅と異常値の意味を理解する。 体液・血液、特に細胞成分や血漿成分と疾患との関わりを理解する。 6　血液疾患と検査について。 血液検査データの指標と意味。疾患との関係について、具体的に学ぶ。 血液の細胞成分の役割と、血漿成分、流出酵素の正常値と異常の意義。 血液検査数値の具体的役割と疾患における症状、経過に現れる意味について。 貧血、白血病等、代表的血液疾患の理解。 7　循環器と循環器疾患、検査、治療について。 循環器の構造と機能、心臓と出入りする血管。脳に行く血管、腹部を支配する血管の構造、機能、関連する疾患について学ぶ。 心臓の構造と機能、それに関わる検査項目の意味について理解する。 検査、特に心電図（EKG)と心筋細胞異常における異常波形を知る。 8　呼吸器と呼吸器疾患、検査、治療について。 呼吸器の構造と機能、鼻腔から肺胞までの気道について、構造と機能を学ぶ。 呼吸器検査の種類と治療について理解する。 呼吸器の疾患と病態生理の関連を考える。 主な呼吸器疾患、肺がんや小児の気管支喘息などの理解をする。 9　内分泌（ホルモン）と、内分泌疾患、検査、治療について。 内分泌器官の内分泌細胞の位置、分泌物質について学ぶ。ホルモンの名称と働きについて学ぶ。 内分泌腺の病理・疾患、内分泌物質の不足、過剰が引き起こす内分泌疾患について学ぶ。 特に日常多く見る、糖尿病、グレーブス病（バセドー病）、クッシング症候群などについて理解を深める。 ホルモン様物質、特殊な状況時に分泌するホルモン分泌器官を知る。 １０　腎・泌尿器と腎・泌尿器系疾患、検査、治療について。 血液の浄化に関わる腎の構造と機能について学ぶ。腎を構成する部分の名称、記憶すべき数値について。 腎の血液ろ過と再吸収の生理学。腎機能に関わる生理活性物質の役割。 小児の急性糸球体腎炎、成人の慢性糸球体腎炎について、尿路感染症、結石についてその発生を理解する。 人工腎臓と透析について、その適応、検査、透析器（ダイアライザー）の理論と構造を知る。 １１　消化器と消化器疾患、検査、治療について。

		消化器の構造の部位ごとの役割と、機能について学ぶ。 消化器とその構造と機能（含、肝臓・胆嚢・膵臓）消化管と肝臓や膵臓の機能と疾患の関連について学ぶ。 消化器の疾患と、生活習慣の関連を理解する。 主な消化器疾患について、食道、胃、大腸疾患についてと肝炎、膵疾患について学ぶ。
	１２	公衆衛生学の基礎、感染症、病原性微生物について。 疾患全体と公衆衛生の関わりについて学ぶ。高齢社会と疾患の関わり。地球温暖化と感染症の関わり。 細菌、ウイルス、各種寄生虫疾患の感染経路、治療について理解する。 医学の進歩によって生じる、疾患、医原病の公衆衛生との関わりを学ぶ。 各種消毒法、滅菌について疾患との関わりを知る。
	１３	小児の成長と発達、小児疾患につて。 小児の正常な成長発達と、小児に多い疾患、または小児疾患の特徴について。 小児の正常反射と異常反射を区別し、疾患と結びつけて理解出来るようにする。 小児と成人との血液成分、内臓機能の違いと免疫力について理解する。 小児感染症、特にウイルス感染における免疫反応を知る。
	１４	先天性疾患と外科系疾患について。 染色体の数、形の異常と疾患について学ぶ。染色体の中にある遺伝子の異常と疾患について理解する。 遺伝子と代謝疾患の関わりについて学ぶ。 胎児・胎芽病、染色体異常、遺伝子疾患の分類や定義について理解する。 先天性心疾患や先天性消化器疾患を理解する。小児外科概論について学ぶ。
	１５	救命救急と薬品について。 救命救急と検査、処置等について。 救命救急のA(Airway)気道確保、B(Breathing)人工呼吸、C(Circulation) 心マッサージの基本と、二次救命の流れを知る。 救急薬品について学ぶ。
到達目標・基準	○Ａ：人体の生命現象や構造と機能、各器官系の働きや、それらの持つ意味について医療福祉の概念が持てる。 ◎Ｄ：専門知識に基づく病態生理の説明や図示が出来る。	
事前・事後学習	事前学習は、授業時次回講義範囲のプリント等を渡すので、指示の箇所の暗記、自己学習による理解を行う。 不明な箇所がある場合は授業前後に個別な質疑応答で対応する。（90分） 事後学習は、授業内で暗記しきれない部分の自己学習。復習中心の反復練習をする事と、練習問題の見直しを行う。 特に授業内小テストは正解の根拠、誤答の場合はさらに間違えに至ったプロセスを振り返る事を行う。 暗記不足の項目は、何度も反復練習を行い、必要に応じ自己学習時間の配分を考え、結果を出すこととする。 新しい知識に関しては、特に事後学習を徹底する。（90分）	
指導方法	フィードバック方法として、講義に伴う復習の小テストを実施し、学習進度を検討する。確実な暗記を必要とする項目は目標達成まで反復する必要があるので、同様問題の反復練習を行うなど、シラバスの進行が変わる可能性がある。 小テスト返却の際に誤答に対するコメントを記載する。授業後において、個別のコメントに対する質疑応答に対応する。	
成績評価の方法・基準	Ａ：講義中のメモと復習・確認テストの結果。 Ｄ：講義と配布プリント、問題演習の結果、医療秘書技能検定試験3級の結果。 医療秘書技能検定試験3級の結果　40％ 授業内小テスト　20％ 定期試験　40％	
テキスト	『医療秘書技能検定試験問題集3級』　医療秘書教育全国協議会試験委員会　つちや書店　2019年度版 『医療事務スペシャリストになる本』水澤伸夫著　すばる舎	
参考書	医療秘書技能検定実問題集３級１　医療秘書教育全国協議会試験委員会編　つちや書店　2019年度版	
履修上の注意	自主的に授業に参加、復習をするという学習意欲が必要。 専門知識は自己流の暗記では無く、系統だった学習で知識を積み上げることが必要である。 医療系国家試験、民間の医療系資格試験の基礎的問題を解く理解度の学習成果を期待する。 この科目を履修する学生は、「メディカルクラークA」「メディカルクラークB」「メディカルクラークD」も履修する必要がある。	
アクティブ・ラーニング		
ＩＣＴの活用	必要に応じ、人体解剖学・生理学に関するDVDを用いて、視覚的な授業を展開する。	

講義科目名称：メディカルクラークＣ（2年生）　　授業コード：2642

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	国専：選択
担当教員			
水澤伸夫			
Subject Code：E17C68			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	病院、診療所、介護、在宅支援施設等の医療・福祉系分野における仕事とその援助。医療・福祉系の職場のコーディネイトや総合事務職の役割を担える基本的医療専門知識を身につける事を目指す。 また、その為に専門職業人同士や、医療・福祉系施設の利用者とその家族など周囲の人々とのコミュニケーションをはかる為の知識と技術を習得する。 (授業目標) ○Ａ：身体構造と機能、疾患の係わりに関心を持ち、チーム医療に触れる医療人の基本が身につけられるようにする。 ◎Ｄ：医学用語を知り、専門書、レセプトの記述が理解できる。
授業計画	1　ガイダンス、医療系の学問の学習法、学習計画。 解剖・生理学概論、骨学、形態学についての概論。 基礎医学と臨床医学の結びつき。医療機関におけるメディカルスタッフの役割の説明。 医療秘書検定の傾向と対策について。 新しい知識の修得であり、事後学習を優先し、次回までに前回の内容の理解と暗記に努力する為の具体例。 2　筋・神経について。 学生が、基礎的人体構造と機能について学ぶ為に、骨の名称と人体における臓器の位置関係を骨を基本として学習できるようにする。 骨の名称、その名称に由来する筋、血管、神経の名称について学べるようにする。　運動学、リハビリテーション学、整形外科学について。 3　病理学の基礎、用語と疾患の理解。 正常組織・器官と疾患の変化について。病理学用語の意味について。 正常と病的状態の細胞、組織の違い。病理診断の意義と病気の診断について理解する。 正常機能の理解のもとに疾患などの異常状態の把握、検査で用いられる医学英語の略語を知る。 病理学上用いられる専門用語とその使用法を理解する。 4　骨・筋・神経の関連のまとめと運動学について。 運動学、リハビリテーション学、整形外科学に関連する骨・筋・神経の働きと疾患について。 骨の名称と部分の名称。成長及び病的状態の骨疾患。 骨を動かす筋と関節の役割、筋の運動を支配する神経概論。 運動器疾患の医学用語を理解する。 5　体液・血液と免疫について。 人体機能維持に重要な体液の機能について学び、臨床検査の役割を理解する。 血液の正常と異常について、疾患との関わりを学ぶ。 体液・血液における検査数値の正常値幅と異常値の意味を理解する。 体液・血液、特に細胞成分や血漿成分と疾患との関わりを理解する。 6　血液疾患と検査について。 血液検査データの指標と意味。疾患との関係について、具体的に学ぶ。 血液の細胞成分の役割と、血漿成分、流出酵素の正常値と異常の意義。 血液検査数値の具体的役割と疾患における症状、経過に現れる意味について。 貧血、白血病等、代表的血液疾患の理解。 7　循環器と循環器疾患、検査、治療について。 循環器の構造と機能、心臓と出入りする血管。脳に行く血管、腹部を支配する血管の構造、機能、関連する疾患について学ぶ。 心臓の構造と機能、それに関わる検査項目の意味について理解する。 検査、特に心電図（EKG)と心筋細胞異常における異常波形を知る。 8　呼吸器と呼吸器疾患、検査、治療について。 呼吸器の構造と機能、鼻腔から肺胞までの気道について、構造と機能を学ぶ。 呼吸器検査の種類と治療について理解する。 呼吸器の疾患と病態生理の関連を考える。 主な呼吸器疾患、肺がんや小児の気管支喘息などの理解をする。 9　内分泌（ホルモン）と、内分泌疾患、検査、治療について。 内分泌器官の内分泌細胞の位置、分泌物質について学ぶ。ホルモンの名称と働きについて学ぶ。 内分泌腺の病理・疾患、内分泌物質の不足、過剰が引き起こす内分泌疾患について学ぶ。 特に日常多く見る、糖尿病、グレーブス病（バセドー病）、クッシング症候群などについて理解を深める。 ホルモン様物質、特殊な状況時に分泌するホルモン分泌器官を知る。 １０　腎・泌尿器と腎・泌尿器系疾患、検査、治療について。 血液の浄化に関わる腎の構造と機能について学ぶ。腎を構成する部分の名称、記憶すべき数値について。 腎の血液ろ過と再吸収の生理学。腎機能に関わる生理活性物質の役割。 小児の急性糸球体腎炎、成人の慢性糸球体腎炎について、尿路感染症、結石についてその発生を理解する。 人工腎臓と透析について、その適応、検査、透析器（ダイアライザー）の理論と構造を知る。 １１　消化器と消化器疾患、検査、治療について。

		消化器の構造の部位ごとの役割と、機能について学ぶ。 消化器とその構造と機能（含、肝臓・胆嚢・膵臓）消化管と肝臓や膵臓の機能と疾患の関連について学ぶ。 消化器の疾患と、生活習慣の関連を理解する。 主な消化器疾患について、食道、胃、大腸疾患についてと肝炎、膵疾患について学ぶ。
	１２	公衆衛生学の基礎、感染症、病原性微生物について。 疾患全体と公衆衛生の関わりについて学ぶ。高齢社会と疾患の関わり。地球温暖化と感染症の関わり。 細菌、ウイルス、各種寄生虫疾患の感染経路、治療について理解する。 医学の進歩によって生じる、疾患、医原病の公衆衛生との関わりを学ぶ。 各種消毒法、滅菌について疾患との関わりを知る。
	１３	小児の成長と発達、小児疾患について。 小児の正常な成長発達と、小児に多い疾患、または小児疾患の特徴について。 小児の正常反射と異常反射を区別し、疾患と結びつけて理解出来るようにする。 小児と成人との血液成分、内臓機能の違いと免疫力について理解する。 小児感染症、特にウイルス感染における免疫反応を知る。
	１４	先天性疾患と外科系疾患について。 染色体の数、形の異常と疾患について学ぶ。染色体の中にある遺伝子の異常と疾患について理解する。 遺伝子と代謝疾患の関わりについて学ぶ。 胎児・胎芽病、染色体異常、遺伝子疾患の分類や定義について理解する。 先天性心疾患や先天性消化器疾患を理解する。小児外科概論について学ぶ。
	１５	救命救急と薬品について。 救命救急と検査、処置等について。 救命救急のA(Airway)気道確保、B(Breathing)人工呼吸、C(Circulation) 心マッサージの基本と、二次救命の流れを知る。 救急薬品につて学ぶ。
到達目標・基準		○Ａ：人体の生命現象や構造と機能、各器官系の働きや、それらの持つ意味について医療福祉の概念が持てる。 ◎Ｄ：専門知識に基づく病態生理の説明や図示が出来る。
事前・事後学習		事前学習は、授業時次回講義範囲のプリント等を渡すので、指示の箇所の暗記、自己学習による理解を行う。（90分） 事後学習は、授業内で暗記しきれない部分の自己学習。復習中心の反復練習をする事と、練習問題の見直しを行う。（90分）
指導方法		フィードバック方法として、講義に伴う復習の小テストを実施し、学習進度を検討する。確実な暗記を必要とする項目は目標達成まで反復する必要があるので、同様問題の小テストを反復して行うなど、シラバスの進行が変わる可能性がある。 小テスト返却の際に対するコメントを記載する。授業後において、個別のコメントに対する質疑応答に対応する。
成績評価の方法・基準		Ａ：講義中のメモと復習・確認テストの結果。 Ｄ：講義と配布プリント、問題演習の結果、医療秘書技能検定試験3級の結果。 医療秘書技能検定試験3級の結果　40％ 授業内小テスト　20％ 定期試験　40％
テキスト		『医療秘書技能検定試験問題集3級』　医療秘書教育全国協議会試験委員会　つちや書店　2019年度版 『医療事務スペシャリストになる本』水澤伸夫著　すばる舎
参考書		医療秘書技能検定実問題集３級１　医療秘書教育全国協議会試験委員会編　つちや書店　2019年度版
履修上の注意		自主的に授業に参加、復習をするという学習意欲が必要。 専門知識は自己流の暗記では無く、系統だった学習で知識を積み上げることが必要である。 医療系国家試験、民間の医療系資格試験の基礎的問題を解く理解度の学習成果を期待する。 この科目を履修する学生は、「メディカルクラークA」「メディカルクラークB」「メディカルクラークD」も履修する必要がある。
アクティブ・ラーニング		
ＩＣＴの活用		必要に応じ、人体解剖学・生理学に関するDVDを用いて、視覚的な授業を展開する。

講義科目名称：メディカルクラークＤ　　授業コード：2651

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	国専：選択
担当教員			
山﨑美和			
Subject Code：E18C64			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	前期「メディカルクラークＡ」の授業に引き続き、演習問題やカルテ例題で医療費算定のルールを学び、正しい診療報酬明細書（レセプト）を作成する技術を身に付け、「医療秘書技能検定3級」「医事コンピュータ技能検定3級」取得を目指します。 (授業目標) 被保険者証及び診療録の見方、医療費算定の知識を理解し、医療事務に必要な基礎知識及び技術を身に付ける。 ○Ｄ：被保険者証及び診療録の見方、算定のルールを学び、メディカルクラークAで学んだ内容及び基本的な手術料・麻酔料・検査料・画像診断の正確な医療費を計算する知識を身に付ける。 ◎Ｅ：医療費計算方法と共にレセプト記載方法を学び、メディカルクラークAで学んだ内容及び基本的な手術料・麻酔料・検査料・画像診断の正確な診療報酬明細書記載に関する知識を身に付ける。
授業計画	1　手術① 手術料の種類と算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 2　手術・輸血② 手術料、輸血料の種類と算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 3　麻酔 麻酔料の種類と算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 4　検査①（検体検査：尿・糞便等、血液学的） 検体検査の種類と実施料、判断料、採取料の算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 5　検査②（検体検査：生化学的（Ⅰ）、（Ⅱ）） 検体検査の種類と実施料、判断料、採取料の算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 6　検査③（検体検査：免疫学的、微生物学的） 検体検査の種類と実施料、判断料、採取料の算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 7　検査④（生体検査：呼吸循環機能～耳鼻咽喉科） 生体検査の種類と実施料、判断料、低減検査の算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 8　検査⑤（生体検査：眼科～内視鏡） 生体検査の種類と実施料、判断料、低減検査の算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 9　病理診断 病理診断の種類と実施料、判断料、採取料の算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 10　画像診断①（エックス線診断料） エックス線撮影料と診断料、フィルム料の算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 11　画像診断②（エックス線診断料） エックス線撮影料と診断料、フィルム料の算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 12　画像診断③（コンピューター断層撮影診断料） コンピューター断層撮影料と診断料、フィルム料の算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 13　リハビリテーション・精神科専門療法 リハビリテーション、精神科専門療法の種類と算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 14　入院料（入院基本料・食事療養） 入院基本料と施設基準加算の種類、食事代の算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 15　外来カルテ演習 レセプトを作成する
到達目標・基準	○Ｄ：手術、麻酔、検査、画像診断の各項目の基本的な計算や加算ができる。 ◎Ｅ：基本的な外来診療例（初・再診、医学管理等、投薬、注射、処置、手術、麻酔、検査、画像診断）のカルテから、診療報酬明細書を作成することができる。
事前・事後学習	事前学習：授業時に出された指示に従うこと。（30分程度） 事後学習：講義で学んだ内容（プリント、カルテ例題等）の確認。（60分程度） 授業時に出された演習等の課題を行うこと。（90分程度）
指導方法	・プロジェクタを使用して、主に配布プリント、テキストで講義を行う。 ・医療費計算を行うため、電卓の使い方も指導する。 ・授業では、主に医療費算定のルールと計算方法を解説するため、レセプトは課題として提出してもらう。 ＊課題のフィードバック方法：コメント記載のうえ返却及びコメントへの質疑応答
成績評価の方法・基準	Ｄ：定期試験・提出課題を評価する。 Ｅ：定期試験・提出課題を評価する。 定期試験60%、提出課題30%、授業態度10%
テキスト	『診療点数早見表』（医学通信社・2019年出版）、『サポートブック』（ソラスト・2019年出版）、『コンピュータ入力練習カルテ例題集』（ケア＆コミュニケーション・2019年出版） （検定対策として『医療秘書技能検定実問題集3級②（つちや書店）』・2019年出版）

参考書	
履修上の注意	「医療秘書技能検定3級」「医事コンピュータ技能検定3級」取得を目標に行われるため、「メディカルクラークA」「メディカルクラークB」「メディカルクラークC」も履修すること。 診療点数早見表、サポートブック、コンピュータ入力練習カルテ例題集、電卓（携帯電話、スマートフォンの使用は禁止）、配布資料は必ず持参すること。 課題は期日までに必ず提出すること。やむを得ず期日までに提出できない場合は提出できる日を報告すること。 毎回の授業が大切なため、遅刻や欠席をせずに医療機関に従事することを意識し、資格取得を目標に履修して欲しい。
アクティブ・ラーニング	
ＩＣＴの活用	OHC、プロジェクタを用い授業を展開する

講義科目名称：メディカルクラークＤ（2年生）　　授業コード：2652

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	国専：選択
担当教員			
山﨑美和			
Subject Code：E17C69			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	前期「メディカルクラークＡ」の授業に引き続き、演習問題やカルテ例題で医療費算定のルールを学び、正しい診療報酬明細書（レセプト）を作成する技術を身に付け、「医療秘書技能検定3級」「医事コンピュータ技能検定3級」取得を目指します。 (授業目標) 被保険者証及び診療録の見方、医療費算定の知識を理解し、医療事務に必要な基礎知識及び技術を身に付ける。 ○Ｄ：被保険者証及び診療録の見方、算定のルールを学び、メディカルクラークAで学んだ内容及び基本的な手術料・麻酔料・検査料・画像診断の正確な医療費を計算する知識を身に付ける。 ◎Ｅ：医療費計算方法と共にレセプト記載方法を学び、メディカルクラークAで学んだ内容及び基本的な手術料・麻酔料・検査料・画像診断の正確な診療報酬明細書記載に関する知識を身に付ける。
授業計画	1　手術① 手術料の種類と算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 2　手術・輸血② 手術料、輸血料の種類と算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 3　麻酔 麻酔料の種類と算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 4　検査①（検体検査：尿・糞便等、血液学的） 検体検査の種類と実施料、判断料、採取料の算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 5　検査②（検体検査：生化学的（Ⅰ）、（Ⅱ）） 検体検査の種類と実施料、判断料、採取料の算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 6　検査③（検体検査：免疫学的、微生物学的） 検体検査の種類と実施料、判断料、採取料の算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 7　検査④（生体検査：呼吸循環機能～耳鼻咽喉科） 生体検査の種類と実施料、判断料、低減検査の算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 8　検査⑤（生体検査：眼科～内視鏡） 生体検査の種類と実施料、判断料、低減検査の算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 9　病理診断 病理診断の種類と実施料、判断料、採取料の算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 10　画像診断①（エックス線診断料） エックス線撮影料と診断料、フィルム料の算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 11　画像診断②（エックス線診断料） エックス線撮影料と診断料、フィルム料の算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 12　画像診断③（コンピューター断層撮影診断料） コンピューター断層撮影料と診断料、フィルム料の算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 13　リハビリテーション・精神科専門療法 リハビリテーション、精神科専門療法の種類と算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 14　入院料（入院基本料・食事療養） 入院基本料と施設基準加算の種類、食事代の算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 15　外来カルテ演習 レセプトを作成する
到達目標・基準	○Ｄ：手術、麻酔、検査、画像診断の各項目の基本的な計算や加算ができる。 ◎Ｅ：基本的な外来診療例（初・再診、医学管理等、投薬、注射、処置、手術、麻酔、検査、画像診断）のカルテから、診療報酬明細書を作成することができる。
事前・事後学習	事前学習：授業時に出された指示に従うこと。（30分程度） 事後学習：講義で学んだ内容（プリント、カルテ例題等）の確認。（60分程度） 授業時に出された演習等の課題を行うこと。（90分程度）
指導方法	・プロジェクタを使用して、主に配布プリント、テキストで講義を行う。 ・医療費計算を行うため、電卓の使い方も指導する。 ・授業では、主に医療費算定のルールと計算方法を解説するため、レセプトは課題として提出してもらう。 ＊課題のフィードバック方法：コメント記載のうえ返却及びコメントへの質疑応答
成績評価の方法・基準	Ｄ：定期試験・提出課題を評価する。 Ｅ：定期試験・提出課題を評価する。 定期試験60%、提出課題30%、授業態度10%
テキスト	『診療点数早見表』（医学通信社・2019年出版）、『サポートブック』（ソラスト・2019年出版）、『コンピュータ入力練習カルテ例題集』（ケア＆コミュニケーション・2019年出版） （検定対策として『医療秘書技能検定実問題集3級②（つちや書店）』・2019年出版）

参考書	
履修上の注意	「医療秘書技能検定3級」「医事コンピュータ技能検定3級」取得を目標に行われるため、「メディカルクラークA」「メディカルクラークB」「メディカルクラークC」も履修すること。 診療点数早見表、サポートブック、コンピュータ入力練習カルテ例題集、電卓（携帯電話、スマートフォンの使用は禁止）、配布資料は必ず持参すること。 課題は期日までに必ず提出すること。やむを得ず期日までに提出できない場合は提出できる日を報告すること。 毎回の授業が大切なため、遅刻や欠席をせずに医療機関に従事することを意識し、資格取得を目標に履修して欲しい。
アクティブ・ラーニング	
ＩＣＴの活用	OHC、プロジェクタを用い授業を展開する

講義科目名称：医療事務コンピュータ演習１　　授業コード：2661

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：選択
担当教員			
山﨑美和			
Subject Code：E18C65			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	医療機関のIT化により、電子カルテや医療費計算、診療報酬請求事務（レセプト）のコンピュータ化は全医療機関に普及し、レセプトオンライン請求が進められている。医療事務従事者にとってもコンピュータ技能は必須といえる。この講義では、医事コンピュータソフトを用いて、医療費の計算及び診療報酬明細書（レセプト）の作成を行う。「メディカルクラークA・B・C・D」で学習した内容が必要なため、既習内容の確認も繰り返し行う。 (授業目標) 診療録の見方、医療費算定の知識、コンピューター操作を理解し、医療事務に必要な基礎知識及び技術を身に付ける。 ○D：診療録の見方、算定のルールを学び、正確な医療費を計算する知識を身に付ける。 ◎E：医療費算定方法と共にレセプト記載方法を学び、医事コンピュータ操作の技術を身に付ける。
授業計画	1　オリエンテーション、新患登録（患者情報・病名入力）　(ICT:医事コンピュータ対応ソフト使用) 授業内容、授業の進め方、評価方法に関する説明 保険証やカルテから正しく患者情報と病名を入力する 2　外来カルテ入力演習（投薬・医学管理・注射・処置）　(ICT:医事コンピュータ対応ソフト使用) メディカルクラークA・B・C・Dで学んだ診療報酬算定をもとにカルテを読み取り、各診療行為ごとに医療費を算定（入力）する 3　外来カルテ入力演習（投薬・医学管理・注射・処置）(ICT:医事コンピュータ対応ソフト使用) メディカルクラークA・B・C・Dで学んだ診療報酬算定をもとにカルテを読み取り、各診療行為ごとに医療費を算定（入力）する 4　外来カルテ入力演習（注射・処置）(ICT:医事コンピュータ対応ソフト使用) メディカルクラークA・B・C・Dで学んだ診療報酬算定をもとにカルテを読み取り、各診療行為ごとに医療費を算定（入力）する 5　外来カルテ入力演習（注射・ 処置）(ICT:医事コンピュータ対応ソフト使用) メディカルクラークA・B・C・Dで学んだ診療報酬算定をもとにカルテを読み取り、各診療行為ごとに医療費を算定（入力）する 6　外来カルテ入力演習（～手術）(ICT:医事コンピュータ対応ソフト使用) メディカルクラークA・B・C・Dで学んだ診療報酬算定をもとにカルテを読み取り、手術を行った際に算定できないものを確認し、医療費を算定（入力）する 7　外来カルテ入力演習（～手術）(ICT:医事コンピュータ対応ソフト使用) メディカルクラークA・B・C・Dで学んだ診療報酬算定をもとにカルテを読み取り、手術を行った際に算定できないものを確認し、医療費を算定（入力）する 8　外来カルテ入力演習（～検査・病理診断）(ICT:医事コンピュータ対応ソフト使用) メディカルクラークA・B・C・Dで学んだ診療報酬算定をもとにカルテを読み取り、各診療行為ごとに医療費を算定（入力）する 9　外来カルテ入力演習（～検査 ・病理診断）(ICT:医事コンピュータ対応ソフト使用) メディカルクラークA・B・C・Dで学んだ診療報酬算定をもとにカルテを読み取り、各診療行為ごとに医療費を算定（入力）する 10　外来カルテ入力演習（～画像診断）(ICT:医事コンピュータ対応ソフト使用) メディカルクラークA・B・C・Dで学んだ診療報酬算定をもとにカルテを読み取り、各診療行為ごとに医療費を算定（入力）する 11　外来カルテ入力演習（～画像診断）(ICT:医事コンピュータ対応ソフト使用) メディカルクラークA・B・C・Dで学んだ診療報酬算定をもとにカルテを読み取り、各診療行為ごとに医療費を算定（入力）する 12　外来伝票入力演習（ICT:医事コンピュータ対応ソフト使用) カルテ形式と伝票形式の違いを理解し、各診療行為ごとに医療費を算定（入力）する 13　外来伝票入力演習（ICT:医事コンピュータ対応ソフト使用) カルテ形式と伝票形式の違いを理解し、各診療行為ごとに医療費を算定（入力）する 14　外来伝票入力演習（ICT:医事コンピュータ対応ソフト使用) カルテ形式と伝票形式の違いを理解し、各診療行為ごとに医療費を算定（入力）する 15　外来カルテ・伝票入力演習（ICT:医事コンピュータ対応ソフト使用) カルテ形式と伝票形式の違いを理解し、各診療行為ごとに医療費を算定（入力）する
到達目標・基準	○D：外来診療例カルテの各項目の基本的な計算や加算ができる。 ◎E：患者情報、傷病名の入力と基本的な外来診療例カルテ（初・再診料、医学管理等、投薬、注射、処置、手術・麻酔、検査・病理診断、画像診断）から、診療報酬明細書を作成することができる。
事前・事後学習	事前学習：次回入力するカルテの確認を行うこと。（60分程度） 事後学習：授業で入力したカルテの点数算定、明細書記載方法等の見直しを行うこと。（60分程度）
指導方法	カルテ例題集を中心に演習を進めながら、医事コンピュータによるレセプト作成の指導を行う。 授業内で作成したレセプトは課題として毎回提出してもらい理解度を確認する。

	＊課題のフィードバック方法：次回授業でコメント記載のうえ返却及びコメントへの質疑応答
成績評価の方法・基準	Ｄ：定期試験・提出課題を評価する。 Ｅ：定期試験・提出課題を評価する。 定期試験60％、課題30％、授業態度10％
テキスト	『コンピュータ入力練習カルテ例題集』（ケア&コミュニケーション・2019年出版）、『診療点数早見表』（医学通信社・2019年出版）、『サポートブック』（ソラスト・2019年出版）
参考書	
履修上の注意	コンピュータ入力練習カルテ例題集、診療点数早見表、サポートブック、配布資料は必ず持参すること。 データ保存のためUSBメモリを必ず持参すること。 毎回の授業が大切なため、遅刻や欠席をせず医療機関に従事することを意識し、資格取得を目標に履修して欲しい。
アクティブ・ラーニング	
ＩＣＴの活用	医事コンピュータソフト使用

講義科目名称：医療事務コンピュータ演習２　　授業コード：2671

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	国専：選択
担当教員			
山﨑美和			
Subject Code：E27C71			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	医事コンピュータ演習1に引き続き、医療費の計算及び診療報酬明細書（レセプト）を作成する。「メディカルクラークA・B・C・D」で学習した内容も必要なため、既習内容の確認も繰り返し行う。入力技術と共に「医事コンピュータ技能検定試験3級」の対策を行い、取得を目指します。 (授業目標) 診療録の見方、医療費算定の知識、コンピューター操作を理解し、医療事務及び医事コンピュータ技能検定試験3級に必要な知識と技術を身に付ける。 ○Ｄ：診療録及び伝票形式の見方、医療費算定のルールを学び、正確な診療報酬明細書を作成する知識を身に付ける。 ◎Ｅ：医療費算定方法と共にレセプト記載方法及びレセプトチェックを学び、医事コンピュータ操作の技術を身に付ける。
授業計画	1　オリエンテーション、1年次復習（ICT:医事コンピュータ対応ソフト使用） 医事コンピュータ技能検定、授業内容、授業の進め方、評価方法に関する説明 1年次に入力した問題の復習を行う 2　検定試験対策（実技）（ICT:医事コンピュータ対応ソフト使用） テキスト、過去の検定問題を用いて、検定対策を行う 3　検定試験対策（実技）（ICT:医事コンピュータ対応ソフト使用） テキスト、過去の検定問題を用いて、検定対策を行う 4　検定試験対策（実技）（ICT:医事コンピュータ対応ソフト使用） テキスト、過去の検定問題を用いて、検定対策を行う 5　検定試験対策（学科・実技総合）（ICT:医事コンピュータ対応ソフト使用） 過去の検定問題を用いて、検定対策を行う 6　検定試験対策（学科・実技総合）（ICT:医事コンピュータ対応ソフト使用） 過去の検定問題を用いて、検定対策を行う 7　検定試験対策（学科・実技総合）（ICT:医事コンピュータ対応ソフト使用） 過去の検定問題を用いて、検定対策を行う 8　検定試験対策（学科・実技総合）（ICT:医事コンピュータ対応ソフト使用） 過去の検定問題を用いて、検定対策を行う 9　検定試験対策（学科・実技総合）（ICT:医事コンピュータ対応ソフト使用） 過去の検定問題を用いて、検定対策を行う 10　入院カルテ入力演習（ICT:医事コンピュータ対応ソフト使用） 入院基本料、入院基本料等加算、入院時食事療養費の入力方法と医療費を算定（入力）する 11　入院カルテ入力演習（ICT:医事コンピュータ対応ソフト使用） 入院基本料、入院基本料等加算、入院時食事療養費の入力方法と医療費を算定（入力）する 12　入院伝票入力演習（ICT:医事コンピュータ対応ソフト使用） カルテ形式と伝票形式の違いを理解し、各診療行為ごとに医療費を算定（入力）する 13　外来・入院カルテ入力演習（ICT:医事コンピュータ対応ソフト使用） 外来と入院の医療費算定の違いを学ぶ 14　外来・入院カルテ入力演習（ICT:医事コンピュータ対応ソフト使用） 外来と入院の医療費算定の違いを学ぶ 15　外来・入院カルテ入力演習（ICT:医事コンピュータ対応ソフト使用） 外来と入院の医療費算定の違いを学ぶ
到達目標・基準	○Ｄ：外来・入院診療例カルテの各項目の基本的な計算や加算ができる。 ◎Ｅ：患者情報、傷病名の入力と基本的な外来・入院診療例カルテ（初・再診料、入院料、医学管理等、投薬、注射、処置、手術・麻酔、検査・病理診断、画像診断）から、診療報酬明細書を作成することができる。
事前・事後学習	事前学習：次回入力するカルテの確認を行うこと。（60分程度） 事後学習：授業で入力したカルテの点数、明細書記載方法等の見直しを行うこと。（60分程度）
指導方法	医事コンピュータ技能検定試験3級問題集・カルテ例題集を中心に演習を進めながら、医療事務コンピュータによるレセプト作成の指導、さらに検定試験学科問題の対策を行う。 授業内で作成したレセプトは課題として毎回提出してもらい理解度を確認する。 ＊課題のフィードバック方法：次回授業でコメント記載のうえ返却及びコメントへの質疑応答
成績評価の方法・基準	Ｄ：定期試験、提出課題を評価する。 Ｅ：定期試験、提出課題を評価する。 定期試験60%、提出課題30%、授業態度10%
テキスト	『コンピュータ入力練習カルテ例題集』（ケア&コミュニケーション・2018年出版）、『診療点数早見表』（医学通信社・2018年出版）、『サポートブック』（ソラスト・2018年出版）、『医事コンピュータ技能検定問題集3級②』（つちや書店・2019年出版）

参考書	
履修上の注意	コンピュータ入力練習カルテ例題集、医事コンピュータ技能検定問題集3級②、診療点数早見表、サポートブック、配布資料は必ず持参すること。 データ保存のためUSBメモリを必ず持参すること。 毎回の授業が大切なため、遅刻や欠席をせず医療機関に従事することを意識し、資格取得を目標に履修して欲しい。
アクティブ・ラーニング	
ＩＣＴの活用	医事コンピュータソフト使用

講義科目名称：Business Conversation：Hospital　　授業コード：2221

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	国専：選択必修
担当教員			
Peter Davies			
Subject Code：E23B23			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	This course will introduce students to vocabulary and language they may encounter in a medical setting and to help students feel competent in situations where they must listen and speak to foreign patients.Please read through this document to get more detailed information on the course. To attain an A grade student must continually show a high level of participation and use of language learnt. They must also attain a final test score in the top 10% of the class. (Goals) ◎D：Students will practice in using key expressions, asking and answering questions, reading comprehension, and listening for detail with hospital. ○E：Students will be required to speak, listen, and write in English in situations dealing with hospital.
授業計画	1 Introduction to the course and text. Classroom language, behaviour and expectations. Getting to know each other activities and name cards. 2 What`s the matter ? (Pair work and role play) Parts of the body 3 You need to go to Dermatology. (Pair work and role play) Departments 4 Let me direct you to Radiology. (Pair work and role play) Directions 5 Let`s check your height and weight. (Pair work and role play. Review test Units 1 to 5 peer marked in class) Measurements 6 I need to ask you some questions. (Pair work and role play) Illness and disease 7 Can you describe the pain ? (Pair work and role play) Pain and injuries 8 Rest your arm on the armrest. (Pair work and role play) Instructions 9 Please make a follow up appointment. (Pair work and role play) Time and schedules 10 Take this medicine after meals. (Pair work and role play. Review test Units 6 to 10. Peer marked in class) Medicine 11 Your operation will be this afternoon. (Pair work and role play) Operations 12 Visiting a hospital. (Pair work and role play) Initial questions, registration. 13 Are you feeling more comfortable now ? (Pair work and role play) Hospital rooms 14 This is an emergency. (Pair work and role play) Communication strategy. 15 Medical check-up. (Pair work Review test Units 11 to 15. Peer marked in class) Internal organs.
到達目標・基準	The student will have to participate in all activities to the best of their ability and achieve a final test score of 60% plus. ◎D：Students will learn the vocabulary they will be using at the hospital and grammar to communicate with each other in pairs. ○E：Students will be able to use key expressions, questions and vocabulary used in hospital.
事前・事後学習	Some exercises will be set for homework, including new medical vocabulary.(90 mins)
指導方法	The lessons will be taught in English only and students will role play in pairs. Each lesson covers a different topic and key vocabulary will be introduced. Review tests will be peer marked and returned to students. All students will receive continuous feed back about participation in class. Written tasks will be checked and graded by the teacher.
成績評価の方法・基準	◎D：Will be evaluated by the participation in the class. ○E：Will be evaluated by the given short test and writing task given during the class. Speaking, reading and listening skills demonstrated in each class 40% Small tests 20%

	Final Test　40%
テキスト	English for Nurses.　Margaret Yamanaka.　Asahi Press. 2005.
参考書	A dictionary and a notebook
履修上の注意	Students are expected to participate in all activities and to work in pair and role play.
アクティブ・ラーニング	Pair work, Role play, Peer editing.
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：インターンシップ１（国際コミュニケーション学 授業コード：2691

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	国専：選択
担当教員			
西岡健自			
Subject Code：1年生F29C68	Subject Code：2年生E18C72		

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	インターンシップ１は、事前、事後研修を含み、原則として実習期間が5日間以上(40時間相当)の実習・研修などの就業体験をするプログラムである。インターンシップ研修を通じ、主体性・チームワーク・責任感、コミュニケーション能力などの社会人として必要な能力を身に付けていくことを目的とする。プログラム参加希望者全員は必ず事前研修へ参加をし、研修先決定後に各企業でのインターンシップ研修を実施、研修終了後に事後研修を受講すること。研修先は、履修モデルとリンクした業界から選ぶことができる。また、自ら研修先を探すこともできる。 （授業目標） インターンシップ１は、自己の職業適性や将来設計について思考し、主体的な職業選択や高い職業意識を育成することを目的とするが、社会に出るにあたりＡ・Ｂの能力をさらに身に付けなければいけないという自覚を持ち、行動していく自主性を持つことを目標とする。 ◎Ａ：社会にて主体性・チームワーク・責任感を養うことができる。 ○Ｂ：スタッフ間、お客様、上下関係、他部署と連携の必要性を養うことができる。
授業計画	1　説明会（6月4日（火）　課外時間にて実施予定） インターンシップの意義と目的について、インターンシップの進め方、日程、研修先案内等の説明 2　事前研修（6月19日(水)および7月17日(水)　課外時間にて実施予定）（ゲスト講師） 個人情報保護、守秘義務、マナー、研修の受け方等を行うほか、研修先企業の探し方、案内を行う。 3　業界別事前研修　業界により内容が異なるため①・②・③のいずれかに出席する。（ゲスト講師） ①　ウエディング業界インターンシップ（課外時間にて実施予定） ②　ホテル業界インターンシップ（課外時間にて実施予定） ③　事務、サービス系（アパレルその他を含む）インターンシップ（課外時間にて実施予定） 4　インターンシップ選考 インターンシップにあたっては、あくまでも企業スケジュールに準じて実施されるものである。希望により研修先を選ぶことができるが、各企業の参加学生枠に制限がある。希望者多数の場合は、学内選考または企業内選考を実施し、選考から外れた場合は希望企業での研修が受けられない可能性がある。また、研修日程や実習内容は企業の意向に準ずるため、決定に時間を要する場合がある。 5　インターンシップ研修　（実習：受け入れ先企業内研修） 事前に企業ごとに各自、面接、日程調整を行い、実習を行う。 実習日は必ず日報を作成し、担当者より捺印またはサインをもらうこと。 最終日には、研修担当者より修了証明書を交付いただくこと。 勤務体系は実習先の規定に準ずる。基本的に夏期休暇中、原則として実習期間が5日間以上(40時間相当、事前学習、事後学習時間を含む）とする。 ・場所：研修先による。 ・報酬：基本的にはないが、研修先による。研修終了後アルバイト契約で継続することを推奨する。 実施を予定する夏期・春期休暇中は、企業スケジュールに準じて研修が実施されるものであり、私的な予定等による欠勤は原則認めない。 実習中は戸板生の代表として実習へ参加していることを忘れず、実習先に迷惑にならないように配慮すること。 6　事後研修　課外時間にて実施予定　（ゲスト講師） インターンシップ研修修了後、実施報告書の提出と振り返りを行い、その結果を学科ゼミナール、戸板ゼミナールで発表する。 7　担当教員との研修後面談 インターンシップ研修修了後、提出した実施報告書をもとに担当教員と実習の振り返り等を含めた面談を実施し、総合的な評価のもと単位認定の決定がなされる。
到達目標・基準	自分の資質、特性を理解し、自分に合った業界、職種を選び、将来を決めることのできる自主性を養えるようになるなど、社会に出るにあたりＡ・Ｂの能力をさらに身に付け、行動していくことを目標とする。 ◎Ａ：社会にて主体性・チームワーク・責任感の必要性を理解できる。 ○Ｂ：スタッフ間、お客様、上下関係、他部署と連携を理解する。
事前・事後学習	事前学習：希望する業界・職種に関して、あらかじめインターネット等で研究・情報収集をし、理解をしておくこと。また、インターンシップ研修を通じ、どのような学びや経験を得たいか等の目標を設定することが望ましい（60分）。 事後学習：自身の経験をポートフォリオ作成しまとめることで、就職活動で活かせるよう準備する。また、事後研修で振り返り・発表を行う中で、その他の学生の経験談から幅広い業界・職種の知見等の情報共有を図る（60分）。
指導方法	担当教員の他、業界に精通する専門家、キャリアセンターの協力により実施する。 フィードバックの方法：インターンシップ１の事後学習における振り返り、企業からの評価などに基づく教員との面談を行って、今後の就活についての理解を深める。
成績評価の方法・基準	事前、事後研修、実習を5日間以上(40時間相当)実施し、研修先の評価表（出勤状況、勤務態度含む）、日報、発表内容をもとに、実習後の担当教員との面談により総合的に評価する。 なお、実施しても資料の不備（研修先の印がない等）、期限後の提出者には単位不可となる場合がある。 また、以下項目を基準に評価する。 ◎Ａ：社会にて主体性・チームワーク・責任感の必要性を経験している。

	○Ｂ：スタッフ間、お客様、上下関係、他部署と連携に必要性があることを経験している。 具体的には、インターンシップ１の事前・事後研修の評価　25%、企業からの評価　50%、教員との面談　25%。
テキスト	なし
参考書	インターンシップ説明会にて配布
履修上の注意	インターンシップ１は、授業時間外に説明会、事前学習、実習、事後学習、発表を行う。夏期休暇中と春期休暇中に実施するが、春期については、一部の業界のみ実施する予定である。履修登録はインターンシップ研修終了後に登録する。 従って夏期インターンシップは、1年後期、春期インターンシップは2年前期に単位取得となる。 自ら探したインターンシップ先は、学校との覚書を締結した企業のみ、インターンシップの履修を認める。 インターンシップ１、２の説明会、事前・事後研修は、合同で開催する。１と２との違いは総研修日数(時間)の違いである。１は5日間以上(40時間相当)、２は6日間以上(45時間相当)、１，２ともインターンシップ終了後は、引き続きアルバイト契約にて実務経験を継続することを前提とする。 事前学習を欠席した場合、単位は認定不可。また、事前学習の補講は原則行わないものとする。
アクティブ・ラーニング	
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：インターンシップ２（国際コミュニケーション学 授業コード：2692

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	国専：選択
担当教員			
西岡健自			
Subject Code：1年生F29C69	Subject Code：2年生E18C73		

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	インターンシップ2は、事前、事後研修を含み、原則として実習期間が6日間以上(45時間相当)の実習・研修などの就業体験をするプログラムである。インターンシップ研修を通じ、主体性・チームワーク・責任感、コミュニケーション能力などの社会人として必要な能力を身に付けていくことを目的とする。プログラム参加希望者全員は必ず事前研修へ参加をし、研修先決定後に各企業でのインターンシップ研修を実施、研修終了後に事後研修を受講すること。研修先は、履修モデルとリンクした業界から選ぶことができる。また、自ら研修先を探すこともできる。 （授業目標） インターンシップ2は、自己の職業適性や将来設計について思考し、主体的な職業選択や高い職業意識を育成することを目的とするが、社会に出るにあたりＡ・Ｂの能力をさらに身に付けなければいけないという自覚を持ち、行動していく自主性を持つことを目標とする。 ◎Ａ：社会にて主体性・チームワーク・責任感を養うことができる。 ○Ｂ：スタッフ間、お客様、上下関係、他部署と連携の必要性を養うことができる。
授業計画	1　説明会（6月4日（火）　課外時間にて実施予定） インターンシップの意義と目的について、インターンシップの進め方、日程、研修先案内等の説明 2　事前研修（6月19日(水)および7月17日(水)　課外時間にて実施予定）（ゲスト講師） 個人情報保護、守秘義務、マナー、研修の受け方等を行うほか、研修先企業の探し方、案内を行う。 3　業界別事前研修　業界により内容が異なるため①・②・③のいずれかに出席する。（ゲスト講師） ①　ウエディング業界インターンシップ（課外時間にて実施予定） ②　ホテル業界インターンシップ（課外時間にて実施予定） ③　事務、サービス系（アパレルその他を含む）インターンシップ（課外時間にて実施予定） 4　インターンシップ選考 インターンシップにあたっては、あくまでも企業スケジュールに準じて実施されるものである。希望により研修先を選ぶことができるが、各企業の参加学生枠に制限がある。希望者多数の場合は、学内選考または企業内選考を実施し、選考から外れた場合は希望企業での研修が受けられない可能性がある。また、研修日程や実習内容は企業の意向に準ずるため、決定に時間を要する場合がある。 5　インターンシップ研修　（実習：受け入れ先企業内研修） 事前に企業ごとに各自、面接、日程調整を行い、実習を行う。 実習日は必ず日報を作成し、担当者より捺印またはサインをもらうこと。 最終日には、研修担当者より修了証明書を交付いただくこと。 勤務体系は実習先の規定に準ずる。基本的に夏期休暇中、原則として実習期間が6日間以上(45時間相当、事前研修、事後研修時間を含む）とする。 ・場所：研修先による。 ・報酬：基本的にはないが、研修先による。研修終了後アルバイト契約で継続することを推奨する。 実施を予定する夏期・春期休暇中は、企業スケジュールに準じて研修が実施されるものであり、私的な予定等による欠勤は原則認めない。 実習中は戸板生の代表として実習へ参加していることを忘れず、実習先に迷惑にならないように配慮すること。 6　事後学習（課外時間にて実施予定）（ゲスト講師） インターンシップ研修修了後、実施報告書の提出と振り返りを行い、その結果を学科ゼミナール、戸板ゼミナールで発表する。 7　担当教員との研修後面談 インターンシップ研修修了後、提出した実施報告書をもとに担当教員と実習の振り返り等を含めた面談を実施し、総合的な評価のもと単位認定の決定がなされる。
到達目標・基準	自分の資質、特性を理解し、自分に合った業界、職種を選び、将来を決めることのできる自主性を養えるようになるなど、社会に出るにあたりＡ・Ｂの能力をさらに身に付け、行動していくことを目標とする。 ◎Ａ：社会にて主体性・チームワーク・責任感の必要性を理解できる。 ○Ｂ：スタッフ間、お客様、上下関係、他部署と連携を理解する。
事前・事後学習	事前学習：希望する業界・職種に関して、あらかじめインターネット等で研究・情報収集をし、理解をしておくこと。またインターンシップ研修を通じ、どのような学びや経験を得たいか等の目標を設定することが望ましい（60分）。 事後学習：自身の経験をポートフォリオ作成しまとめることで、就職活動で活かせるよう準備する。また、事後研修で振り返り・発表を行う中で、その他の学生の経験談から幅広い業界・職種の知見等の情報共有を図る（60分）。
指導方法	担当教員の他、業界に精通する専門家、キャリアセンターの協力により実施する。 フィードバックの方法：インターンシップ2の事後学習における振り返り、企業からの評価などに基づく教員との面談を行って、今後の就活についての理解を深める。
成績評価の方法・基準	事前、事後研修、実習期間が6日間以上(45時間相当)実施し、研修先の評価表（出勤状況、勤務態度含む）、日報、発表内容をもとに、実習後の担当教員との面談により総合的に評価する。 なお、実施しても資料の不備（研修先の印がない等）、期限後の提出者には単位不可となる場合がある。 また、以下項目を基準に評価する。 ◎Ａ：社会にて主体性・チームワーク・責任感の必要性を経験している。

	○Ｂ：スタッフ間、お客様、上下関係、他部署と連携に必要性があることを経験している。 具体的には、インターンシップ２の事前・事後学習の評価　25%、企業からの評価　50%、教員との面談　25%。
テキスト	なし
参考書	インターンシップ説明会にて配布
履修上の注意	インターンシップ2は、授業時間外に説明会、事前研修、実習、事後研修、発表を行う。夏期休暇中と春期休暇中に実施するが、春期については、一部の業界のみ実施する予定である。履修登録はインターンシップ研修終了後に登録する。 従って夏期は、1年後期、春期は2年前期に単位取得となる。 自ら探したインターンシップ先は、学校との覚書を締結した企業のみ、インターンシップの履修を認める。 インターンシップ１、２の説明会、事前・事後研修は、合同で開催する。１と２との違いは総研修日数(時間)の違いである。１は5日間以上(40時間相当)、２は6日間以上(45時間相当)、１，２ともインターンシップ終了後は、引き続きアルバイト契約にて実務経験を継続することを前提とする。 事前学習を欠席した場合、単位は認定不可。また、事前学習の補講は原則行わないものとする。
アクティブ・ラーニング	
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：キャリアゼミ：エアラインゼミ　　授業コード：2700

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：必修
担当教員			
木内伸樹、佐藤美保			
Subject Code：E110A70			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	エアライン業界についての理解を深めるため、専任教員またはゲスト講師が、毎回の計画に則り、ゼミ形式あるいは講義形式で授業を進める。 （授業目標） C:グループディスカッションや自己分析、自己PRの積み重ねを経て、思考力や判断力を養う。 ◎D:エントリーシートの記入方法を学び、希望業界に関する知識や理解を深める。 ○E:各業界に沿った資格等の取得を目指す。
授業計画	1　オリエンテーション・自己紹介（木内） 授業概略説明、自己PRを踏まえて自己紹介を行う。 2　エアライン業界について（木内） エアライン業界の仕事内容について学ぶ。 その後、グループに分かれて、業界に関するディスカッションを行う。 3　エアライン業界内定者（2年生）による体験談（木内） エアライン業界内定者（2年生）による体験談を聞き、就職活動に備える。 4　エアライン業界研究１（ゲスト・スピーカー） 「エアライン業界に特化したSPI対策講座」 5　エアラインキャリア講座（キャリアセンター・木内） キャリアセンターによるエアライン業界講座。 6　エアライン業界研究２（ゲスト・スピーカー） 「業界分析、履歴書の書き方①」 7　エアライン業界研究3（木内） 「業界分析、履歴書の書き方②」 8　キャリア講座（キャリアセンター） 過去の傾向などを踏まえSPI試験対策を行う。 9　グループディスカッション１（ゲスト・スピーカー） グループ面接の役割分担等を学ぶ。 その後、グループに分かれて、業界に関するディスカッションを行う。 10　エアライン業界研究4（木内） ES作成、就職に役立つ時事問題対策 11　グループディスカッション2（ゲスト・スピーカー） グループ面接の役割分担等を学ぶ。 その後、グループに分かれて、業界に関するディスカッションを行う。 12　英語資格試験講座（佐藤） 過去の傾向などを踏まえTOEIC対策として全パートの問題演習を行う。 13　キャリア講座（キャリアセンター） SPI模擬試験の解説 14　メイクアップ講座（ゲスト・スピーカー） 就職のためのメイクアップ講座 15　グループディスカッション3（木内） ２グループに分かれ、グループ面接で役立つポイントを学び、その後、各グループごとに模擬面接を行う
到達目標・基準	C:グループディスカッションに役割があることを意識して参加することができる。 ◎D:就職活動に必要な知識の修得方法を身につける。 ○E:就職活動に必要な資格の対策を講じることができる。
事前・事後学習	事前学習：授業時に出された指示に従い行うこと。業界研究やエントリーシートの準備をすること。（約40分） 事後学習：授業内で学んだ知識をまとめ、今後の就職活動に役立てる準備をすること。（約40分）
指導方法	企業研究の方法について指導し、自分が希望する就職先について理解できるよう指導する。 また、グループディスカッションを通して、コミュニケーション力を高められるよう指導する。 フィードバックの方法: ①エントリーシート・履歴書にコメントをつけて返却、②コメントに関する質疑対応
成績評価の方法・基準	C:グループディスカッションでの行動を評価する。 ◎D:課題で評価する。 ○E:資格試験の結果や授業内の提出物で評価する。 平常点（授業への貢献度・積極性）40%

	課題　50% 資格取得　10%
テキスト	なし
参考書	授業内で指示する
履修上の注意	毎回必ず出席することが大切である。教室が変わることがあるので注意すること。 重要な情報・伝達事項があるので５Ｆの掲示板を常に確認すること。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッション
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：キャリアゼミ：ホテル・ツーリズムゼミ　　授業コード：2700

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：必修
担当教員			
森田千草			
Subject Code：E110A70			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ホテル・ツーリズム業界についての理解を深めるため、専任教員またはゲスト講師が、毎回の計画に沿ってゼミ形式あるいは講義形式で授業を進める。 （授業目標） C：グループディスカッションや自己分析、自己PRの積み重ねを経て、思考力や判断力を養う。 ◎D：エントリーシート(ES)の記入方法を学び、希望業界に関する知識や理解を深める。 ○E：各業界に沿った資格等の取得を目指す。
授業計画	1　オリエンテーション・自己紹介　（プレゼンテーション：1分間自己紹介） 授業概略説明、自己PRを踏まえて自己紹介を行う。 2　ホテル・ツーリズム業界研究1(ゲスト・スピーカー) ホテル・ツーリズム業界で働いている方の話を聞き、就職活動に備える。 3　ホテル・ツーリズム業界について　（グループワーク、プレゼンテーション：グループごとにまとめ全員発表） ホテル・ツーリズム業界の仕事内容について学ぶ。 4　ホテル見学1(ゲスト・スピーカー) 日系ホテル見学を通して業界研究を行う。 5　ホテル見学2(ゲスト・スピーカー) 外資系ホテル見学を通して業界研究を行う。 6　ホテル・ツーリズム業界研究2　（グループワーク、プレゼンテーション：グループごとにまとめ全員発表） ホテル見学の振り返りを行う。また、ホテル・観光業界研究の方法を学ぶ。 7　ホテル・ツーリズム業界志望学生のためのアクションプラン・ES指導1(ゲスト・スピーカー) ホテルを例として取り上げ、ホテルにおけるクオリフィケーションを考察し、実現のための具体的なアクションプランを作成する。 8　キャリア講座（キャリアセンター） 過去の傾向などを踏まえSPI試験対策として問題演習を行う。 9　ホテル・ツーリズム業界研究3　（グループワーク、プレゼンテーション：グループごとにまとめ全員発表） ホテル・ツーリズム業界の研究・分析を行う。 10　就職活動カウンセリング1 ホテル・ツーリズム業界就職のための履歴書、ES、自己PRの書き方を学ぶ。 11　就職活動カウンセリング2 ホテル・ツーリズム業界就職のための履歴書、ES、自己PRを作成する。 12　英語資格試験講座 過去の傾向などを踏まえTOEIC対策として全パートの問題演習を行う。 13　キャリア講座（キャリアセンター） SPI模擬試験の解説 14　ホテル・ツーリズム業界志望の学生のためのアクションプラン・ES指導2(ゲスト・スピーカー) ホテル・ツーリズム業界就職のための発表やディスカッションの方法を学び、ESを作成する。 15　就職活動カウンセリング3 ホテル・ツーリズム業界就職のための履歴書、ES、自己PRの作成・推敲を行う。
到達目標・基準	C：グループディスカッションに役割があることを意識して参加することができる。 ◎D：就職活動に必要な知識の修得方法を身につける。 ○E：就職活動に必要な資格の対策を講じることができる。
事前・事後学習	事前学習：授業時に出された指示に従い行うこと。業界研究やエントリーシートの準備をすること。（約40分） 事後学習：授業内で学んだ知識をまとめ、今後の就職活動に役立てる準備をすること。（約40分）
指導方法	企業研究の方法について指導し、自分が希望する就職先について理解できるよう指導する。 また、グループディスカッションを通して、コミュニケーション力を高められるよう指導する。 フィードバックの方法：①エントリーシート・履歴書にコメントをつけて返却、②コメントに関する質疑対応
成績評価の方法・基準	C：グループディスカッションでの行動を評価する。 ◎D：課題で評価する。 ○E：資格試験の結果や授業内の提出物で評価する。

	平常点（授業への貢献度・積極性）40％ 課題　50％ 資格取得　10％
テキスト	なし
参考書	授業内で指示する
履修上の注意	毎回必ず出席することが大切である。教室が変わることがあるので注意すること。 重要な情報・伝達事項があるので５Ｆの掲示板とメールを常に確認すること。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：キャリアゼミ：金融・広告・ICTゼミ　　授業コード：2700

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：必修
担当教員			
別宮玲			
Subject Code：E110A70			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	ICTを活用したオフィスワークを希望する学生のためのゼミである。目標とする進路としては金融業界やIT業界など様々な業界、企業が挙げられる。 進路目標を設定するための業界研究と併行して、エントリーシートや面接に必要な自分自身のエピソードを分析・整理する。またSPI対策も行う。 (授業目標) 　Ｃ：グループディスカッションや自己分析、自己PRの積み重ねを経て、思考力や判断力を養う。 ◎Ｄ：エントリーシートの記入方法を学び、希望業界に関する知識や理解を深める。 ○Ｅ：各業界に沿った資格等の取得を目指す。
授業計画	1　キックオフ ・ゼミの進め方と特徴の確認。 2　目標設定 ・現時点での自分の進路目標を整理する。 3　自己PR。エントリーシートとは ・エントリーシートとは何かを理解し、必要な自己PRについて学ぶ。 4　進路面談。就活ノート作成(クラウドサービス：自己分析ノートを記述) ・個別面談による進路相談を行う。また就活ノートを作成する。 5　自己分析と業界研究(クラウドサービス：自己分析ノートを記述) ・自分の特性と希望業界の確認と研究。 6　SPI対策（１） ・SPIおよびCAB対策の学習方法を学ぶ。 7　キャリア講座（キャリアセンター） ・金融・広告・IT業界の概要を学ぶ。 8　SPI対策（２） ・過去の傾向などを踏まえSPI試験対策として問題演習を行う。 9　進路面談。就活ノートレビュー(クラウドサービス：自己分析ノートへのフィードバック) ・就活ノートを参考に面談を受ける。 10　グループディスカッション（１）（グループワーク：グループディスカッション） ・就活で良く扱われるテーマを用いてグループディスカッションを行う。 11　内定者交流会(キャリアセンター) ・VTRや経験談から集団面接の実際を学ぶ。 ・内定者の体験談から個別面接での対応や、就活全体の心構えを学ぶ。 12　英語資格試験講座 ・過去の傾向などを踏まえTOEIC対策として全パートの問題演習を行う。 13　グループディスカッション（２）（グループワーク：グループディスカッション） ・就活で良く扱われるテーマを用いてグループディスカッションを行う。 14　進路面談（１）(クラウドサービス：自己分析ノートへのフィードバック) ・個別で進路面談を行う。 ・この回で面談を行わない学生はエントリーシート対策と業界研究を行う。 15　進路面談（２）(クラウドサービス：自己分析ノートへのフィードバック) ・個別で進路面談を行う。 ・この回で面談を行わない学生はエントリーシート対策と業界研究を行う。
到達目標・基準	Ｃ：グループディスカッションに役割があることを意識して参加することができる。 ◎Ｄ：就職活動に必要な知識の修得方法を身につける。 ○Ｅ：就職活動に必要な資格の対策を講じることができる。
事前・事後学習	事前学習：自分が希望する企業や職種、関連するニュースについて調べ、質問などあればまとめておく。（60分） 事後学習：就職活動に役立つ業界ニュースや自分の経験などを集めた就活ノートを毎授業後に更新する。（60分）
指導方法	企業研究の方法について指導し、自分が希望する就職先について理解できるよう指導する。 自己分析や業界研究についてはクラウド上の就活ノートとして保存し、教員も共有することで随時添削を行える環境を構築する。 また、グループディスカッションを通して、コミュニケーション力を高められるよう、指導する。 フィードバック方法：就活ノートはクラウド上でコメントする。グループディスカッションは授業内で全員にわかるようにアドバイスを行う。
成績評価の方法・基準	Ｃ：グループディスカッションでの行動を評価する。 Ｄ：課題で評価する。

	Ｅ：資格試験の結果や授業内の提出物で評価する。 平常点（授業への貢献度・積極性）40% 課題　50% 資格取得　10%
テキスト	授業内で指示する。購入の必要はない。
参考書	
履修上の注意	毎回必ず出席することが大切である。教室も変わる場合があるため注意すること。 重要な伝達や情報があるので、5Ｆの掲示板および学校からのメールを毎日よく見ること。 ITビジネスはパソコンだけを相手にすれば良い業種ではない。人とのコミュニケーションも非常に重視される。本ゼミにおいても積極的な発言を期待する。
アクティブ・ラーニング	グループワーク
ＩＣＴの活用	クラウドサービス，Netウィッチ

講義科目名称：キャリアゼミ　：ビジネス・レセプション・販売 授業コード：2700

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：必修
担当教員			
西岡健自			
Subject Code：E110A70			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	一般企業の受付・営業支援・事務・秘書・販売などを目指して社会に出るために必要となる基本的な知識を学習します。この知識には、社会や企業の仕組み、働き方のヒントが含まれます。また、企業研究、エントリーシートの書き方、面接の方法など、実践的な就職活動対策を行います。外部のリクルート関連会社、あるいは、戸板の学生を求人の対象とする企業の講演や会社訪問も適宜行うので、各自の就職活動の具体的な糸口を作ることができます。 (授業目標) C：グループディスカッションや自己分析、自己PRの積み重ねを経て、思考力や判断力を養う。 ◎D：エントリーシートの記入方法を学び、希望業界に関する知識や理解を深める。 ○E：各業界に沿った資格等の取得を目指す。
授業計画	1　オリエンテーション（西岡） キャリアセンターによる講義を含め就職活動についての方法と今後の進め方を考える。 2　企業研究の方法（キャリア教育専門講師）（西岡）（グループワーク） ２グループに分かれ、どのような業界があり、どのような働き方があるかを把握する。 3　学園祭への取り組みの検討（学生部） 戸板祭に関する説明を聞き、どのように参加するか検討する。 4　企業訪問（１）（キャリア教育専門講師）（西岡） リクルート企業を見学し、就職に関するチュートリアルを聴講。 半数は学校に残って、ビジネスマナーに関する講義を聴講。 5　企業訪問（２）（西岡） 前回の残留組はリクルート企業を見学し、就職に関するチュートリアルを聴講。 前回の訪問組は一般の大手企業を見学。 6　企業訪問（３）（キャリア教育専門講師）（西岡） 前回リクルート企業を見学したグループは、一般の大手企業を見学。 半数は学校に残って、ビジネスマナーに関する講義を聴講。 7　学園祭への取り組み振返り（学生部） 学園祭に関する取り組み結果報告と次年度の学園祭に向けた検討。 8　キャリア講座（キャリアセンター） SPI取り組みの予行演習。 9　就職活動実践講座（１）（キャリア教育専門講師）（西岡）（グループワーク） 2グループに分かれて、自分のアピールポイントを発見。 あわせて、インターンシップ面談（１）実施。 10　就職活動実践講座（２）（キャリア教育専門講師）（西岡）（グループワーク） 2グループに分かれて、エントリーシートの書き方を演習。 あわせて、インターンシップ面談（２）実施。 11　面接講座（キャリアセンター）（実習） 内定者の面接経験発表を中心に模擬面接を実施。 12　英語資格試験（西岡） TOEIC IP取り組みの予行演習。 13　業界別講座（キャリアセンター） 業界によって異なる就職活動の把握。 14　企業・業界説明会（キャリアセンター） 複数の企業の説明会を実施。企業説明会への参加方法を把握。 15　就職活動実践講座（３）（キャリア教育専門講師）（西岡）（グループワーク） ２グループに分かれて、面接方法の演習を実施。
到達目標・基準	C：グループディスカッションに役割があることを意識して参加することができる。 ◎D：就職活動に必要な知識の修得方法を身につける。 ○E：就職活動に必要な資格の対策を講じることができる。
事前・事後学習	事前学習：企業や職種などについて何を知っているか、何を知る必要があるかを整理し、授業中の質疑応答やグループワークに積極的に参加できるよう準備する（60分程度）。 事後学習：授業で理解できなかった部分を整理して、次回の授業で質問できるよう整理する（60分程度）。 授業で提示されたキャリアセンターや外部のリクルート関連会社による支援を積極的に活用して、就職に必要な情報を集める（60分程度）。
指導方法	キャリアセンターと連携した、キャリア教育専門講師による授業のほか、一般企業、あるいは、外部リクルート関連企業への訪問などを状況に応じて実施します。また、学生の積極的な参加を必要とする、授業中の質疑応答や、対話・討議・課題発表の機会を多く設けます。
成績評価の方法・基準	C：グループディスカッションでの行動を評価する。 D：課題で評価する。 E：資格試験の結果や授業内の提出物で評価する。

	平常点（授業への貢献度・積極性）40% 課題　50% 資格取得　10%
テキスト	授業の要点を資料として配布します。
参考書	授業中に適宜指示します。
履修上の注意	基本的な知識は相互に関連していますので、毎回必ず出席してください。教室変更などの重要な連絡は、5Fの掲示板や教員からのメールで知らせます。掲示板やメールは毎日一度は見るようにしてください。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、実習
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：キャリアゼミ：医療事務・医療秘書ゼミ　　授業コード：2700

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：必修
担当教員			
高橋大樹			
Subject Code：E110A70			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	病院、クリニック、薬局等で働きたい学生に向けて、グループディスカッションなどを通して医療関連業界のための知識や技術を身につける授業である。専任教員またはゲスト講師がゼミ形式で授業を進める。医療関連検定試験の知識を確実にするために、資格試験対策を実施し、合格を目指す。 (授業目標) C：グループディスカッションや自己分析、自己PRの積み重ねを経て、思考力や判断力を養う。 ◎D：エントリーシートの記入方法を学び、希望業界に関する知識や理解を深める。 ○E：医療業界に沿った資格等の取得を目指す。
授業計画	1　オリエンテーション（高橋大） 15回の授業についての説明、自己紹介等 2　資格試験取得についての聞き取り 2年間での資格取得についての説明を行う 3　医療秘書検定対策講座①（医療関連授業担当教員） 11月に実施される医療秘書技能検定のための対策講座 4　医療秘書検定対策講座②（医療関連授業担当教員） 11月に実施される医療秘書技能検定のための対策講座 5　医療秘書検定対策講座③（医療関連授業担当教員） 11月に実施される医療秘書技能検定のための対策講座 6　医療秘書検定対策講座④（医療関連授業担当教員） 11月に実施される医療秘書技能検定のための対策講座 7　進路に関する面談①（高橋大） 進路希望を確認し、資格試験についての聞き取りを行う 8　キャリア講座①（キャリアセンター） 過去の傾向などを踏まえSPI試験対策として問題を行う 9　医療業界内定者経験談（ゲストスピーカー） 医療業界に内定したゲストスピーカーから話を聞き、就職活動の参考にする 10　キャリア講座②（キャリアセンター） 医療業界の就職状況を聞き、活動にあたり必要な条件を確認する 11　就職内定者経験談（キャリアセンター） 医療業界だけではなく内定者から話を聞き、就職活動の参考にする 12　英語資格試験講座（高橋大） 過去の傾向などを踏まえTOEIC対策として全パートの問題演習を行う 13　時事問題①（高橋大）（グループディスカッション：時事問題についてを行う） ある特定の時事問題について、グループで検討し、発表する 14　時事問題②（高橋大）（グループディスカッション：時事問題について意見交換を行う） ある特定の時事問題について、グループで検討し、発表する 15　進路に関する面談②（高橋大） 進路に関する面談を行い、今後の活動方針を決定する
到達目標・基準	C：グループディスカッションに役割があることを意識して参加することができる。 ◎D：就職活動に必要な医療知識の修得方法を身につける。 ○E：就職活動に必要な医療資格の対策を講じることができる。
事前・事後学習	事前学習：前半においては検定対策のための準備を行い、その後は業界研究やエントリーシートの準備などを行う。（60分） 事後学習：エントリーシートの仕上げおよび業界研究の発表の準備を行う。（45分）
指導方法	グループワークを通じて、他者の考えを理解したうえで、自らの主張を行えるように指導する。フィードバックの方法：授業内で指示した課題やコメントシートに教員コメントを記載の上、返却する。
成績評価の方法・基準	C：授業への貢献度で評価する。 ◎D：課題または資格試験の結果で評価する。 ○E：授業内の提出物で評価する。 授業への貢献度　30% 提出物　30% 課題　30% 資格取得　10%

テキスト	適宜プリント配布。
参考書	授業内で指示する。
履修上の注意	試験対策に伴い、教室が変更になる場合があるので注意すること。医療関連授業とリンクしているので、双方の授業に出席し、資格取得を目指してほしい。
アクティブ・ラーニング	グループディスカッション
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：キャリアゼミ：編入学・留学ゼミ　　授業コード：2700

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：必修
担当教員			
Ivan Botev			
Subject Code：E110A70			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	大学への編入学及び留学を志す学生のためのゼミです。多様な学生を受け入れますが、そこに一貫する「論理性」と「文章力」を養成するための学習活動を行います。毎回の計画に従って、ゼミ形式あるいは講義形式で、基礎的な英語力、文章力、および想像力を養うための学習活動を行います。 (授業目標) 　C：グループディスカッションや自己分析、自己PRの積み重ねを経て、思考力や判断力を養う。 ◎D：エントリーシートの記入方法を学び、希望業界に関する知識や理解を深める。 ○E：各業界に沿った資格等の取得を目指す。
授業計画	1　オリエンテーション 英語力確認テスト 学習計画書の作成 2　進学・留学準備カウンセリング 編入・留学先の学校研究① 各自の研究している編入先・留学先についてのグループディスカッション 3　進学・留学準備カウンセリング 編入・留学先の学校研究② 4　進学・留学準備カウンセリング 編入・留学先の学校研究③ 各自の研究している編入先・留学先についてのグループディスカッション 5　進学・留学準備カウンセリング 編入・留学先の学校研究④ 6　英語／小論文 編入・留学先の学校研究⑤ 各自の研究している編入先・留学先についてのグループディスカッション 7　英語／小論文 SPI模擬試験（英語）直前対策 小論文問題の特徴と基本的な解法を学ぶ 8　キャリア講座 過去の傾向などを踏まえSPI試験対策として問題を行う 9　英語／小論文 英会話表現①（基本表現） 小論文の展開方法①（Yes/Noを論じる） 10　英語／小論文 英会話表現②（空港・機内） 小論文の展開方法②（問題提起をする） 11　英語／小論文 英会話表現③（交通機関） 小論文の展開方法③（意見を提示する） 12　英語資格試験講座 過去の傾向などを踏まえTOEIC対策として全パートの問題演習を行う 13　キャリア講座（キャリアセンター） SPI模擬試験の解説 14　英語／小論文 英会話表現④（ホテル） 小論文の展開方法④（アイデアの広げ方） 15　英語／小論文 英語習熟度確認 小論文の展開方法⑤（一貫性のある論理的文章）
到達目標・基準	C：グループディスカッションに役割があることを意識して参加することができる。 ◎D：就職活動に必要な知識の修得方法を身につける。 ○E：就職活動に必要な資格の対策を講じることができる。
事前・事後学習	事前学習：学校研究を進める。（約60分） 事後学習：評論を読み直す。授業時に出された指示に従い行う。（約50分）
指導方法	編入及び留学に必要な英語力、文章表現力及び論理的思考力を養うような授業を展開します。 フィードバックの仕方：各自から提出された小論文および課題を添削し、コメントと共に返却します。
成績評価の方法・基準	C：グループディスカッションでの行動を評価する。 D：課題で評価する。 E：資格試験の結果や授業内の提出物で評価する。

	平常点（授業への貢献度・積極性）40% 課題　50% 資格取得　10%
テキスト	なし
参考書	授業時に紹介します。
履修上の注意	毎回必ず出席することが大前提です。教室変更や課題指示の伝達のため、5Ｆ掲示板を注視しておくこと。 シラバスの順番が入れ替わったり、内容によっては、9・10時限まで延長して行うこともある。
アクティブ・ラーニング	グループワーク・グループディスカッション等。
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：ホテル・エアラインゼミ　　授業コード：2711

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	国専：選択
担当教員			
木内伸樹、佐藤美保、森田千草			
Subject Code：E29C75			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	一年後期に引き続き、ホテル業界・エアライン業界についての知識を深めると同時に、自己PR力を養うため、専任教員またはゲスト講師が、毎回の計画に則り、ゼミ形式あるいは講義形式で授業を進める。 （授業目標） C:グループディスカッションや自己分析、自己PRの積み重ねを経て、思考力や判断力を養う。 ◎D:就職活動に必要な書類の記入方法を学び、希望業界に関する知識や理解をさらに深める。 ○E:各業界に沿った資格等の取得を目指す。
授業計画	1　オリエンテーション・現状報告（森田・木内）　（プレゼンテーション） ２グループに分かれて、就活状況の報告をする。 2　グループワーク演習（ゲスト・スピーカー）、ホテル・ツーリズム業界研究と応募書類の作成1（ゲスト・スピーカー） グループディスカッション ホテル・ツーリズム業界研究を行い、応募書類の作成方法を学ぶ。 3　エントリー用紙指導（ゲスト・スピーカー）、ホテル・ツーリズム業界へのエントリー用紙作成指導(森田) 履歴書、ES、自己PRの書き方 ホテル・ツーリズム業界就職のためのエントリーシートの作成方法を学ぶ。 4　エントリー用紙指導（ゲスト・スピーカー）、ホテル業界志望者のグループ面接・グループディスカッション対策1(ゲストスピーカー)　(グループワーク) 履歴書、ES、自己PRの書き方 ホテル・ツーリズム業界就職のためのグループ面接・グループディスカッションの方法を学ぶ。 5　エントリー用紙指導（木内）、ホテル業界志望者のグループ面接・グループディスカッション対策2(ゲストスピーカー)　(グループワーク) エアライン業界分析、履歴書、ES、自己PRの書き方 ホテル・ツーリズム業界就職のためのグループ面接・グループディスカッションの方法を学ぶ。 6　面接指導、エントリー指導（ゲスト・スピーカー）、ホテル・ツーリズム業界志望者のための自己分析・自己PR指導(森田) ＣＡ・ＧＳによる個別指導 ホテル・ツーリズム業界就職のための自己分析と自己PRの書き方を学ぶ。 7　面接指導（木内）、ホテル業界研究と応募書類の作成2（ゲスト・スピーカー） グループディスカッション ホテル・ツーリズム業界研究と応募書類の作成方法を学ぶ。 8　ES指導（ゲスト・スピーカー）、ホテル・ツーリズム業界スタディ・就職カウンセリング1(森田) 志望動機の書き方指導 ホテル・ツーリズム業界研究と就職のための個別指導を行う。 9　エアライン業界スタディ、就職活動カウンセリング(木内)、ホテル・ツーリズム業界志望者のための面接指導(ゲストスピーカー) 業界研究・個別指導 ホテル・ツーリズム業界就職に向けてグループ面接・グループディスカッション・個別面接対策を行う。 10　面接指導（佐藤）、　ホテル・ツーリズム業界スタディ・就職カウンセリング２(森田) エアライン業界就職のためのグループ面接を行う。 ホテル・ツーリズム業界研究と就職のための個別指導を行う。 11　ＥＳ・業界研究（森田・木内） ２グループに分かれて、ＥＳ・業界研究、個別指導を行う。 12　ＥＳ・面接・ＧＤ（ゲスト・スピーカー）、ホテル・ツーリズム業界スタディ・就職カウンセリング3(森田) 各学生の状況に応じて、ES、面接対策、GDに分かれて授業を行う。 ホテル・ツーリズム業界研究と就職のための個別指導を行う。 13　ＥＳ・業界研究（森田・木内） ２グループに分かれて、ＥＳ・業界研究、個別指導を行う。 14　プレゼンテーション準備（森田・木内） ２グループに分かれて、情報収集を行う。 15　プレゼンテーション（森田・木内）　(プレゼンテーション) ２グループに分かれて、一人5分程度のプレゼンを行う。
到達目標・基準	C:グループディスカッションでの全体像を把握しつつ、自分の役割を意識して参加することができる。 ◎D:希望業界の企業研究の方法を身につける。 ○E:希望業界で必要な資格の対策を講じることができる。

事前・事後学習	事前学習として業界研究やエントリーシートの準備をする。（40分） 事後学習として、宿題として出された調査やプレゼンテーションの準備をする。（45分）
指導方法	企業研究の方法について指導し、自分が希望する就職先について理解できるよう指導する。 また、グループディスカッションを通して、コミュニケーション力を高められるよう指導する。 フィードバックの方法: ①エントリーシート・履歴書にコメントをつけて返却、②コメントに関する質疑対応
成績評価の方法・基準	Ｃ:グループディスカッションでの役割を理解し、その場に応じて行動しているかどうかを評価する。 ◎Ｄ:業界研究ノートで評価する。 ○Ｅ:TOEICの点数（伸び率含む）で評価する。 授業への貢献度: 30% 課題・資格取得: 40% プレゼンテーション: 30%
テキスト	なし
参考書	授業内で指示する。
履修上の注意	毎回必ず出席することが大切である。教室が変わることがあるので注意すること。 重要な伝達や情報があるので、5Ｆの掲示板を毎日よく見ること。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：グローバルビジネス・秘書ゼミ　　授業コード：2731

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	国専：選択
担当教員			
西岡健自			
Subject Code：E29C76			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	銀行・信用金庫などの金融業のほか一般企業の営業支援・事務・秘書・販売などを目指す就職活動に必須の、履歴書・エントリーシートの作成法、自分のアピールポイントの掘り起し方、面接の対処法、業界・企業の調査法、などを学習します。また、それらの方法を実践した結果をグループで討議し、コミュニケーション能力など就職活動に必要な能力を養成します。 (授業目標) ○C：自分のアピールポイントの発見や企業研究などをとおして、自分の将来の展望について納得のゆく結論を出すことができます。 ◎E：就職活動に必要な書類などをわかりやすく整理して作成することができ、面接にも冷静に対処できます。
授業計画	1　オリエンテーション：西岡、キャリアセンター（ICT環境導入、アンケート調査） 授業の進め方に関するオリエンテーションと今後の就職活動の注意点など、および、グループ分けアンケート 2　就活スキルアップ1：キャリア教育専門講師、西岡（グループワーク） エントリーシートの書き方１：自分のアピールポイントの見つけ方と表現方法 3　就活スキルアップ2：キャリア教育専門講師、西岡（グループワーク） エントリーシートの書き方２：効果的なエントリーシートの書き方 4　就活スキルアップ3：キャリア教育専門講師、西岡（グループワーク） 面接練習１：面接の注意点と練習 5　就活スキルアップ4：キャリア教育専門講師、西岡（グループワーク） 面接練習２：本番に向けた面接練習 6　就活スキルアップ5：キャリア教育専門講師、西岡（グループワーク） SPIテスト対策 7　企業研究と個別面談1：西岡 企業研究の方法説明と実践、並行して、適宜担当教員による個別面談、インターンシップ面談を実施 8　企業研究と個別面談2：西岡 企業研究の実践、並行して、適宜担当教員による個別面談、インターンシップ面談を実施 9　企業説明会：参加企業人事担当者、キャリアセンター、キャリア教育専門講師、西岡 企業の人事担当者のを招いて教室で企業説明会を体験、その前後にキャリア教育専門講師により企業説明聴講と聴講後の心構えを説明 １０　仕事に就いて1：キャリア教育専門講師、西岡（グループワーク） 自分の就きたい仕事を見つける方法について １１　仕事に就いて2：キャリア教育専門講師、西岡（グループワーク） 女性のキャリアプラン １２　仕事に就いて3：キャリア教育専門講師、西岡（グループワーク） 仕事の優先順位の決め方について １３　仕事に就いて4：キャリア教育専門講師、西岡（グループワーク） 調査・分析の方法（KJ法） １４　仕事に就いて5：キャリア教育専門講師、西岡（グループワーク） 会社に入ってから役に立つ社会人の心構え １５　夏休み以降の就職活動について：キャリアセンター、西岡（アンケート調査） 夏休み中の就職活動の注意事項と対策について、および、振り返りアンケート
到達目標・基準	○C：自分のアピールポイントの発見や企業研究などをとおして、自分が納得できる将来を考える方法や判断の仕方を理解できます。 ◎E：就職活動に必要な書類などを作成する方法を理解でき、面接の要領も理解できます。
事前・事後学習	事前学習：次回の授業で取り上げる、就職活動の取り組み方について何を知っているか、何を知る必要があるか整理し、授業中の質疑応答やグループワークに積極的に参加できるよう準備（60分程度）。 事後学習：授業中の課題に応じて、企業研究や履歴書・エントリーシートの作成などを行う（60分程度）。 授業で提示された外部のリクルート関連会社の支援を積極的に活用して、就職活動に取り組む（60分程度）。
指導方法	キャリアセンターやキャリア教育専門講師による授業などを状況に応じて実施します。また、就職に関する個別面談、質疑応答、グループ討議の機会を多く設けますので、積極的に参加してください。 フィードバックの方法：個別面談により、就活への理解を深めます。
成績評価の方法・基準	○C：企業研究や自己分析などによる、自分の将来展望への取り組みを評価。 ◎E：履歴書・エントリーシートなどの課題への取り組み、および、学習内容の就職活動への反映を評価。 平常点（授業への貢献度・積極性）：30%　プレゼンテーション:30%　課題：40%

テキスト	授業の要点を資料として配布します。
参考書	授業中に指示します。
履修上の注意	基本的な知識は相互に関連していますので、毎回必ず出席してください。教室変更などの重要な連絡は、5Fの掲示板や教員からのメールで知らせます。掲示板やメールは毎日一度は見るようにしてください。
アクティブ・ラーニング	グループワーク
ＩＣＴの活用	WebClass

講義科目名称：医療事務・医療秘書ゼミ　　授業コード：2751

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	国専：選択
担当教員			
高橋大樹			
Subject Code：E29C77			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	一年後期に引き続き、病院、クリニック、薬局等で働きたい学生に向けて、グループワークや資格試験対策を通して就職活動のための知識や技術を身につける授業である。専任教員またはゲスト講師が毎回の計画に則り、ゼミ形式で授業を進める。 (授業目標) 　A：グループワークや個人での調査を通じて、医療人となるための責任感を持つことができる。 ◎D：資格試験対策やグループワークを通じて、医療の現場に適した知識を身につけることができる。 ○E：資格試験対策やグループワークを通じて、医療の現場で必要な技能を身につけることができる。
授業計画	1　オリエンテーション（高橋大） 就職活動の現状報告をする 2　就職活動カウンセリング１・スピーチ練習①（高橋大） 今後の就職活動についてのカウンセリングを行う。またスピーチ練習を行う。 3　就職活動カウンセリング２・スピーチ練習②（高橋大） 今後の就職活動についてのカウンセリングを行う。またスピーチ練習を行う。 4　エントリーシート指導・時事問題演習①（高橋大）（グループディスカッション：時事問題について） エントリーシートの添削を行い、時事問題についてグループディスカッションを行う 5　エントリーシート指導・時事問題演習②（高橋大）（グループディスカッション：時事問題について） エントリーシートの添削を行い、時事問題についてグループディスカッションを行う 6　医事コンピュータ技能検定試験対策講座①（ICT授業担当教員） 医事コンピュータ技能検定試験のためのPC知識を身につける 7　医事コンピュータ技能検定試験対策講座②（ICT授業担当教員） 医事コンピュータ技能検定試験のためのPC知識を身につける 8　医事コンピュータ技能検定試験対策講座③（医療関連授業担当教員） 医事コンピュータ技能検定試験のためのPC知識を身につける 9　医事コンピュータ技能検定試験対策講座④（医療関連授業担当教員） 医事コンピュータ技能検定試験のためのPC知識を身につける 10　医事コンピュータ技能検定試験対策講座⑤（医療関連授業担当教員） 医事コンピュータ技能検定試験のためのPC知識を身につける 11　時事問題演習③（高橋大）（グループディスカッション：時事問題について） 時事問題についてグループディスカッションを行う。 12　時事問題演習④・スピーチ練習③（高橋大）（グループディスカッション：時事問題について） 時事問題についてグループディスカッションを行う。またスピーチ練習も実施する。 13　時事問題演習⑤・スピーチ練習④（高橋大）（グループディスカッション：時事問題について） 時事問題についてグループディスカッションを行う。またスピーチ練習も実施する。 14　進路面談①（高橋大） 進路に関する面談を行い、状況を確認したり今後の活動方針を決定する 15　進路面談②（高橋大） 進路に関する面談を行い、状況を確認したり今後の活動方針を決定する
到達目標・基準	A：社会人になるための責任感を実感し、社会に出る準備を主体的に行うことができる。 ◎D：資格試験対策を通じ、医療の現場で使用される用語や指示（とくに医事コンピュータに関するもの）について説明することができる。 ○E：資格試験対策を通じ、医療の現場で使用される技能（とくに医事コンピュータに関するもの）を説明することができる。
事前・事後学習	事前学習：授業前半においては検定対策のための準備を行い、その後は業界研究やエントリーシートの準備などを行う。（45分） 事後学習：エントリーシートの仕上げおよび業界研究の発表の準備を行う。（45分）
指導方法	グループワークなどの他者と連携することを通じて、他者の考えを理解し、さらに自らの主張を展開できるような指導を行う。フィードバックの方法：授業内で提出したコメントシートに教員コメントを記載の上、返却する。
成績評価の方法・基準	A：グループワークや協働作業の中で主体的に行動できているかを評価する。 ◎D：資格試験の合否または授業中の提出物に書かれた文章で評価する。 ○E：資格試験の合否で評価する。

	授業への貢献度・積極性３０％ 授業中の課題・提出物３０％ 最終課題４０％
テキスト	プリント適宜配布（医療関連授業で使用したテキストを使用することもある）
参考書	授業内で指示する
履修上の注意	ゼミで使用する教室が変わることがある。医療関連授業とリンクしているので、双方の出席によってより知識が確実なものとなることを忘れないこと。
アクティブ・ラーニング	グループディスカッション
ＩＣＴの活用	

講義科目名称：ＩＴ・ウェブクリエイターゼミ　　授業コード：2771

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	国専：選択
担当教員			
別宮玲			
Subject Code：E29C78			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	ウェブデザイナーなどIT業界での勤務あるいはITを活用した一般企業での勤務を希望する学生のためのゼミである。 一年後期に引き続き、希望進路に向けた準備を行う。自己分析結果を基にした書類の作成、進路面談などのカウンセリングを実施する。 (授業目標) ◎Ａ：希望進路に向けての就活を実施あるいは終了することができる。
授業計画	1　キックオフ ・ゼミの進め方と特徴の確認。 2　進路面談、就職活動カウンセリング（1）(クラウドサービス：エントリーシート、履歴書の記述とレビュー) ・個別で進路面談を行う。 ・事前に学生各自がクラウドサービス上に登録したエントリーシートと履歴書のレビューを行う。 ・この回で面談を行わない学生は情報教室でPCによる企業研究を進める。 3　進路面談、就職活動カウンセリング（2）(クラウドサービス：エントリーシート、履歴書の記述とレビュー) ・個別で進路面談を行う。 ・事前に学生各自がクラウドサービス上に登録したエントリーシートと履歴書のレビューを行う。 ・この回で面談を行わない学生は情報教室でPCによる企業研究を進める。 4　提出書類対策（1）(クラウドサービス：エントリーシート、履歴書の記述とレビュー) ・エントリーシートや履歴書を実際の希望業界や企業に併せて作成する。企業研究と併せてクラウド上に情報をまとめ、随時レビューを行う。 5　提出書類対策（2）(クラウドサービス：エントリーシート、履歴書の記述とレビュー) ・エントリーシートや履歴書を実際の希望業界や企業に併せて作成する。企業研究と併せてクラウド上に情報をまとめ、随時レビューを行う。 6　提出書類対策（3）(クラウドサービス：エントリーシート、履歴書の記述とレビュー) ・エントリーシートや履歴書を実際の希望業界や企業に併せて作成する。企業研究と併せてクラウド上に情報をまとめ、随時レビューを行う。 7　提出書類対策（4）(クラウドサービス：エントリーシート、履歴書の記述とレビュー) ・エントリーシートや履歴書を実際の希望業界や企業に併せて作成する。企業研究と併せてクラウド上に情報をまとめ、随時レビューを行う。 8　進路面談、就職活動カウンセリング（3）(クラウドサービス：エントリーシート、履歴書のレビュー) ・個別で進路面談を行う。 ・エントリーシートと履歴書のレビューを行う。 ・この回で面談を行わない学生は企業研究を進める。 9　進路面談、就職活動カウンセリング（4）(クラウドサービス：エントリーシート、履歴書のレビュー) ・個別で進路面談を行う。 ・エントリーシートと履歴書のレビューを行う。 ・この回で面談を行わない学生は企業研究を進める。 10　グループディスカッション（1）（グループワーク：グループディスカッション） ・就活で良く扱われるテーマを用いてグループディスカッションを行う。 11　グループディスカッション（2）（グループワーク：グループディスカッション） ・就活で良く扱われるテーマを用いてグループディスカッションを行う。 12　進路面談、就職活動カウンセリング（5）(クラウドサービス：エントリーシート、履歴書のレビュー) ・個別で進路面談を行う。 ・エントリーシートと履歴書のレビューを行う。 ・この回で面談を行わない学生は企業研究を進める。 13　進路面談、就職活動カウンセリング（6）(クラウドサービス：エントリーシート、履歴書のレビュー) ・個別で進路面談を行う。 ・エントリーシートと履歴書のレビューを行う。 ・この回で面談を行わない学生は企業研究を進める。 14　進路面談、就職活動カウンセリング（7）(クラウドサービス：エントリーシート、履歴書のレビュー) ・個別で進路面談を行う。 ・エントリーシートと履歴書のレビューを行う。

	・この回で面談を行わない学生は企業研究を進める。 15　進路面談、就職活動カウンセリング（８）（クラウドサービス：エントリーシート、履歴書のレビュー） ・個別で進路面談を行う。 ・エントリーシートと履歴書のレビューを行う。 ・この回で面談を行わない学生は企業研究を進める。
到達目標・基準	◎Ａ：希望進路に向けて、いつまでになにを準備すべきか計画し実行できる。
事前・事後学習	事前学習：自分が希望する企業や職種、関連するニュースについて調べ、質問などあればまとめておく。まとめた内容はクラウド上に保存し、いつでもスマートフォンやPCで参照できるようにする。（60分） 事後学習：就職活動に役立つ業界ニュースや自分の経験などを集めた就活ノートを毎授業後に更新する。（60分）
指導方法	企業研究の方法について指導し、自分が希望する就職先について理解できるよう指導する。 自己分析や業界研究についてはクラウド上の就活ノートとして保存し、教員も共有することで随時添削を行える環境を構築する。 また、グループディスカッションを通して、コミュニケーション力を高められるよう、指導する。 フィードバック方法：就活ノートはクラウド上でコメントする。また面談の際もクラウド上の就活ノートを使用し、随時アドバイスを行う。
成績評価の方法・基準	Ａ：個別面談、就活ノート、グループディスカッションで評価する 平常点（授業への貢献度・積極性）30％ 課題（就活ノート、グループディスカッション）30％ 最終課題（面談、就活ノート）40％
テキスト	授業内で指示する。購入の必要はない。
参考書	
履修上の注意	毎回必ず出席することが大切である。教室も変わることがあるので注意すること。 重要な伝達や情報があるので、5Ｆの掲示板および学校からのメールを毎日よく見ること。 ITビジネスはパソコンだけを相手にすれば良い業種ではない。 人とのコミュニケーションも非常に重視される。 本ゼミにおいても積極的な発言を期待する。
アクティブ・ラーニング	グループワーク
ＩＣＴの活用	クラウドサービス，Netウィッチ

講義科目名称：編入学・留学ゼミ　　授業コード：2791

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	国専：選択
担当教員			
Ivan Botev			
Subject Code：E29C79			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	大学への編入学及び留学を志す学生のためのゼミです。留学を希望する学生は、基礎的な英語力や留学に必要なノウハウを身に着け、留学を希望する国の文化や習慣について学びます。編入学を希望する学生は、編入学入試に必要な小論文や面接の練習の他に過去問題の研究を行います。留学や編入学をするのに必要な試験の対策は授業以外でも進めることが必要です。授業においてより具体的な学習計画を立て、実践することを目指します。また、このゼミを履修する学生は、留学先や編入学における専攻が異なることが予測されるため、面談を定期的に行い、一人一人に合わせた学習計画を立てます。 (授業目標) 　B：他者理解を深め、多様な考え方を柔軟に受け止め、自らの意見を他者に伝えることができる。 ◎C：知識や情報を多角的に収集・分析・整理し、目標にむかって計画を立てることができる。 　D：異文化理解を深め、様々な思想や文化的差異を説明することができる。 ○E：自らの主張を論理的に伝えることができる。
授業計画	1　オリエンテーション 英語力確認 学習計画書の作成 2　進学・留学準備カウンセリング 編入・留学についての個別面談 英会話表現①（食事①） 希望編入学先大学の過去問の小論文実践演習 3　進学・留学準備カウンセリング 編入・留学についての個別面談 英会話表現②（買い物） 希望編入学先大学の過去問の小論文実践演習 4　英語／小論文 英会話表現③（娯楽） 希望編入学先大学の過去問の小論文実践演習 5　英語／小論文 英会話表現④（観光・ツアー） 希望編入学先大学の過去問の小論文実践演習 6　英語／小論文 英会話表現⑤（トラブル対策） 希望編入学先大学の過去問の試験問題対策 7　英語／小論文 TOEFL対策① 希望編入学先大学の過去問の試験問題対策 8　英語／小論文 TOEFL対策(Reading)①（アカデミックな長文読解問題） 希望編入学先大学の過去問の試験問題対策 9　英語／小論文 TOEFL対策(Reading)②（アカデミックな長文読解問題） 希望編入学先大学の過去問の試験問題対策 10　英語／小論文 TOEFL対策(Reading)③（アカデミックな長文読解問題） 希望編入学先大学の過去問の小論文実践演習 11　英語／小論文 TOEFL対策(Reading)④（アカデミックな長文読解問題） 希望編入学先大学の過去問の小論文実践演習 12　英語／小論文 TOEFL対策(Listening)⑤（講義形式の問題） 希望編入学先大学の過去問の小論文実践演習 13　英語／小論文 TOEFL対策(Listening)⑥（講義形式の問題） 希望編入学先大学の過去問の小論文実践演習 14　英語／小論文 TOEFL対策(Listening)⑦（会話形式の問題） 希望編入学先大学の面接対策 15　英語／小論文 TOEFL対策(Listening)⑧（会話形式の問題） 希望編入学先大学の面接対策
到達目標・基準	B：文章を客観的に読み、それに対する自分の意見を主張することができる。 ◎C：目標を達成するために、必要な情報を収集し分析し、計画を立てることができる。 　D：異文化について、自分の興味のある話題について説明することができる。 ○E：自らの主張の概要を伝えることができる。
事前・事後学習	事前学習：学校研究を進める。（約60分）

	事後学習：評論を読み直す。授業時に出された指示に従い行う。（約60分）
指導方法	編入及び留学に必要な英語力、文章表現力及び論理的思考力を養うための授業を展開します。 フィードバックの仕方：各自から提出された小論文および課題を添削し、コメントと共に返却します。
成績評価の方法・基準	Ｂ：英語学習、評論文読解の積極性で評価する。 Ｃ：学校研究および個別面談で評価する。 Ｄ：評論文読解および個別面談で評価する。 Ｅ：レポート、小論文作成、面接の準備で評価する。 授業への貢献度・積極性 30% レポート・小論文・課題 70%
テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布します。 辞書を持参してください。
参考書	授業時に指示します。
履修上の注意	毎回必ず出席することが前提です。教室変更や課題指示の伝達のため、5Ｆ掲示板を注視しておくこと。 必要に応じてシラバスの順番が入れ替わることもありますが、事前にお知らせいたします。
アクティブ・ラーニング	
ＩＣＴの活用	